

## 実践日本語表現法 a

外山敦子

## 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 導入 (講義の進め方など)
2. 話し言葉と書き言葉 (1) (話し言葉と書き言葉の違い)
3. 話し言葉と書き言葉 (2) (書き言葉としてふさわしい表現)
4. 書き言葉の技能 基礎 (1) (文の骨組みを抜き出す)
5. 書き言葉の技能 基礎 (2) (文の骨組みを整える)
6. 書き言葉の技能 基礎 (3) (呼应関係を確かめる)
7. 書き言葉の技能 基礎 (4) (接続助詞「が」の使い方)
8. 書き言葉の技能 基礎 (5) (句読点の使い方)
9. 書き言葉の技能 基礎 (6) (修飾語と被修飾語)
10. 書き言葉の技能 基礎 (7) (修飾語の語順)
11. 書き言葉の技能 応用 (1) (論の要旨をとらえる)
12. 書き言葉の技能 応用 (2) (文章を要約する)

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題提出、学期末試験などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 実践日本語表現法 b

外山敦子

## 【授業の概要】

実践日本語表現法 a での学習内容に引き続き、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 書き言葉の技能 発展 (1) (レポートの書き方1)
2. 書き言葉の技能 発展 (2) (レポートの書き方2)
3. 書き言葉の技能 発展 (3) (論証の仕方)
4. 話し言葉の技能 基礎 (1) (敬語の基礎)
5. 話し言葉の技能 基礎 (2) (敬語の種類と使い方)
6. 話し言葉の技能 基礎 (3) (間違いやすい敬語表現)
7. 話し言葉の技能 応用 (1) (相手を考えて話す)
8. 話し言葉の技能 応用 (2) (電話で話す)
9. 総合応用 (1) (手紙文とその実例)
10. 総合応用 (2) (メモの作り方)
11. 総合応用 (3) (ビジネス文書とその実例1)
12. 総合応用 (4) (ビジネス文書とその実例2)

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題提出、学期末試験などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国文学概論 a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

古代から現代までの国文学を概観する。古代においては口頭での表現がきわめて重要で、物語や和歌などすべて耳で聞くことによって享受されてきたものである。現代においても、演説によって人々の心を動かすことができ、その例をいくつもあげることができる。技術の進歩によって音声映像の資料を保存できるようになった。これらを通して考えてみたい。後期は和歌と連歌に焦点をあわせて講ずる。

## 【授業の目標】

音声による表現ということを入り口として、外国にも視野を広げたい。

## 【授業計画】

映像資料の活用を試みたい。

## 【評価方法】

試験による。

## 【テキスト】

前期 種々用意する。  
後期 近代秀歌 武蔵野書院刊  
筑波問答 和泉書院刊  
両著とも影印本につき、そのむね承知しておくこと。

## 国文学史 (1) a・b

日比野浩信

## 【授業の概要】

a 日本の古典文学を概観する。上代から中古・中世そして近世に区分し、それぞれの時代において重要視されるべき著名な作品・作家を中心に、その背景となった文化についても考えたい。ただし、時間数の都合で、中古・中世を中心に上げることとなる。

b 主だった日本の古典文学作品について、その研究史・享受史を概観する。

## 【授業の目標】

a 単なる作品解説や作品の列挙ではなく、文学史的観点を導入することに主眼を置き、各自が自らの選んだ作品を文学史的に位置付けることを主たる目的とする。  
b 各自が自ら選出した作品の研究史・享受史を把握することを目的とする。

## 【授業計画】

- 1 上代の文学
  - 2 中古の文学
  - 3 中世の文学
- 以下、時間に応じて略述する。
- 4 近世の文学
- 1 和歌の研究と享受  
万葉集  
古今和歌集  
歌学
  - 2 物語の研究と享受  
伊勢物語  
源氏物語
  - 3 その他

## 【評価方法】

授業への参加状況・態度による平常点および、学期末の試験、もしくはレポートによって評価する。試験かレポートかは、受講人数や授業進度などを考慮して決定する。

講義中は厳しい態度で臨む。私語・居眠り・飲食・他事を当然のように考えている者は、かなり窮屈な思いをすることになる。

## 【テキスト】

日本古典文学史 (乾安代他著 双文社出版)

## 【参考文献・資料】

平安文学研究ハンドブック (田中登・山本登朗編 和泉書院)

## 国文学史 (2) a

小倉 斉

## 【授業の概要】

〈近代文学の諸相〉：日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

## 【授業の目標】

日本近代文学の諸相について理解を深めるとともに、日本文学における「近代」の実態について把握する。

## 【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと：三遊亭圓朝『怪談牡丹燈籠』
- 2 〈模写〉の意味①：坪内逍遙『小説神髓』
- 3 〈模写〉の意味②：坪内逍遙『当世書生気質』・二葉亭四迷『浮雲』
- 4 〈わたくし〉の発見：森鷗外『舞姫』
- 5 〈自然〉の発見と人間の内面：島崎藤村『破戒』
- 6 〈新しい女〉と戯画化された主人公：田山花袋『蒲団』
- 7 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉：夏目漱石『それから』
- 8 一つの〈語りの場〉をめぐる三つの物語：  
谷崎潤一郎『痴情』・森鷗外『百物語』・芥川龍之介『ひよつこ』

## 【評価方法】

授業への出席・参加状況（授業後提出の質問・感想カードの内容）、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

## 【テキスト】

- 怪談牡丹燈籠（三遊亭圓朝 岩波文庫）  
舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）  
破戒（島崎藤村 新潮文庫）  
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）  
それから（夏目漱石 岩波文庫）  
近代文学年表（年表の会 双文社出版）

## 【参考文献・資料】

- 明治文学史（亀井秀雄 岩波書店）  
言語にとって美とはなにかⅠ・Ⅱ（吉本隆明 角川文庫）

## 国語概説 a・b（音声言語及び文章表現を含む）

増井典夫

## 【授業の概要】

前期中心テーマ-日本語の音声・音韻・アクセント  
後期の中心テーマ-方言と共通語

<前期>

日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中での日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

<後期>

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

## 【授業の目標】

日本語について、客観的に分析できるだけの知識を獲得し、また分析できる目を持つようにする。

## 【授業計画】

講義を行なっていく。

## 【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

## 【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国文学史 (2) b

細谷 博

## 【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。

大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつつ考える文学史をめざす。

## 【授業の目標】

近代・現代文学の作家・作品についての理解を深め、作品を読む力とともに比較し評価する力を養う。自由に自分の意見を述べ、他者の意見も受けとめて発展させることをめざす。

## 【授業計画】

- 1) 概論、導入
- 2) 志賀直哉 <自由に意見を出し合う>
- 3) 芥川龍之介 <自由に意見を出し合う>
- 4) 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 5) 関東大震災、同人誌、円本ブーム、芥川の死、
- 6) 横光利一・川端康成
- 7) 菊池寛・葉山善樹・梶井基次郎
- 8) 堀辰雄・中野重治
- 9) 太宰治 <ビデオ鑑賞><自由に意見を出し合う>
- 10) 井伏鱒二 <自由に意見を出し合う>
- 11) 大岡昇平・中原中也
- 12) 三島由紀夫・安部公房
- 13) 大江健三郎・中上健次・村上龍・村上春樹
- 14) よしもとばな、詩 <自由に意見を出し合う>
- 15) 単位認定試験（対象を自由に選んで論述する試験）

## 【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

## 【テキスト】

- 小僧の神様・城の崎にて（志賀直哉著 新潮文庫）  
河童・或阿呆の一生（芥川龍之介著 新潮文庫）  
他にプリント配布

## 【参考文献・資料】

授業時に指示

## 国文学講義 (1) 上代 a

中野謙一

## 【授業の概要】

〈古事記〉

『古事記』の概説および中巻の講読。登場人物の系譜における位置と説話中に描かれた人物像との関係に注意しながら、『古事記』独自の論理に貫かれた歴史叙述を読み解いていく。

## 【授業の目標】

『古事記』や『日本書紀』という文献にふれ、さまざまな角度からの考察を通じて日本の古代に対する理解を深める。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 『古事記』の背景
- 第3回 上代文献の概観
- 第4回 「序」を読む
- 第5回 上巻の概観
- 第6回 記紀間の比較
- 第7回 記紀系譜の形成
- 第8回 中巻・下巻の様式
- 第9回 中巻論への招待
- 第10回 垂仁記を読む
- 第11回 景行記を読む
- 第12回 下巻への展望
- 第13回 (予備日)
- 第14回 学期末試験
- 第15回 (解答と解説)

## 【評価方法】

出席状況および授業への貢献度（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

## 【テキスト】

古事記（倉野憲司校注 ワイド版岩波文庫） ※通常版も可。

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 国文学講義（1）上代 b

中野謙一

## 【授業の概要】

〈萬葉集〉  
『萬葉集』の概説。高校の教科書にみられるような、一首あるいは数首の「秀歌」を選んで鑑賞するというかたちではなく、『萬葉集』全体をとらえたうえで、個々の歌の表現をどこまで読み解くことができるのか考えていく。

## 【授業の目標】

『萬葉集』の基礎知識を習得するとともに、そこから引き出されるさまざまな情報をもとに上代の言語表現について探究する。

## 【授業計画】

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                |
| 第2回  | 古典としての『萬葉集』—江戸文学のなかの萬葉歌— |
| 第3回  | 『萬葉集』の表記法                |
| 第4回  | 上代特殊仮名遣について              |
| 第5回  | 記紀から『萬葉集』へ（前）            |
| 第6回  | 記紀から『萬葉集』へ（後）            |
| 第7回  | 『萬葉集』巻一・巻二（前）            |
| 第8回  | 『萬葉集』巻一・巻二（後）            |
| 第9回  | 「人麻呂歌集」の諸問題              |
| 第10回 | 『萬葉集』と大伴家持（前）            |
| 第11回 | 『萬葉集』と大伴家持（後）            |
| 第12回 | 『萬葉集』から『古今和歌集』へ          |
| 第13回 | （予備日）                    |
| 第14回 | 学期末試験                    |
| 第15回 | （解答と解説）                  |

## 【評価方法】

出席状況および授業への貢献度（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

## 【テキスト】

萬葉集（鶴久・森山隆編 おうふう）  
※上記のほか、全歌の原文を取めた本であれば可とする。

## 【参考文献・資料】

万葉歌を解説する（佐佐木隆 NHKブックス）  
その他、授業中に紹介する。

## 国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特権を生かしてほしい。変体仮名の入門を4、5月中に集中しておこなうので、後期からの受講は困難であろう。

散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

## 【授業の目標】

日本の古典的文章の読解力をつけること。つまり初めて見た文章を辞書をもたずに読解できるようにすること。

## 【授業計画】

一方的に教授することをさげ、学生にしばしば読ませることにしている。

## 【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

## 【テキスト】

御所本うち拾遺物語<下>（笠間書院）  
御所本百人一首抄（笠間書院）  
仮名変体集（新典社）

## 国文学講義（2）中古 a・b

久保朝孝

## 【授業の概要】

前期 a は、物語文学の一方の始発とされる『伊勢物語』を講読する。  
後期 b は、『王朝女流日記』諸作品を講読しながら、その特質について考察する。

## 【授業の目標】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法とを身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について実践的に理解する。

## 【授業計画】

- |               |           |               |
|---------------|-----------|---------------|
| ＜前期＞ a：伊勢物語   |           |               |
| 1             | 導入        | 8 伊勢物語各章段の精読  |
| 2             | 伊勢物語初段の考察 | 13 伊勢物語各章段の精読 |
| 7             | 伊勢物語初段の考察 | 14 予備         |
| ＜後期＞ b：王朝女流日記 |           |               |
| 1             | 導入        | 7、8 和泉式部日記    |
| 2、3           | 土佐日記      | 9、10、11 紫式部日記 |
| 4、5           | 蜻蛉日記      | 12、13 更級日記    |
| 6             | 枕草子       | 14 予備         |

## 【評価方法】

出席状況、課題小テスト、期末レポート及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

## 【テキスト】

前期 a：伊勢物語（校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税別）  
後期 b：王朝女流日記を学ぶ人のために（久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込）

## 【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

## 国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。

同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「娼姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

＜前期＞

西鶴の『好色五人女』巻一「娼姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「娼姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

＜後期＞

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る暦屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

## 【授業の目標】

近世文学解説のための知識や方法を学び鑑賞の能力を高める。

## 【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

## 【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

## 【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石梯三 和泉書院 1,545円）

## 国文学講義 (5) 近・現代 a・b

小倉 斉

## 【授業の概要】

〈小説を楽しく読む方法〉: 「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、日本の近・現代を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての小説を楽しく読む方法を追究する。

## 【授業の目標】

日本の近・現代を代表する小説の方法意識について理解を深めるとともに、小説の読み方の基礎を学ぶ。

## 【授業計画】

〈前期〉

- 1 「青春」のほろにがさ: 夏目漱石『三四郎』
- 2 「物語」の範囲内と範囲外: 森鷗外『雁』
- 3 「小説の小説」という形式: 永井荷風『濃東綺譚』
- 4 「物語」の越境: 谷崎潤一郎『吉野葛』
- 5 小説の「時空間」: 堀辰雄『風立ちぬ』

〈後期〉

- 1 「戦争」という現実と「私」: 太宰治『女生徒』
- 2 「リアリティ (現実性)」との遊戯: 筒井康隆『虚人たち』
- 3 90年代小説の新しさ: 川上弘美『センセイの鞆』
- 4 凝縮された「近代日本」の百年: 中島京子『FUTON』
- 5 「物語」による「記憶」の想起: 蓮見圭一『水曜の朝、午前三時』

## 【評価方法】

授業への出席・参加状況 (授業後提出の感想・質問カードの内容)、学期末の試験 (自筆ノート持ち込み可・論述問題中心) によって評価する。

## 【テキスト】

- 〈前期〉: 三四郎 (夏目漱石 新潮文庫)、雁 (森鷗外 新潮文庫)、濃東綺譚 (永井荷風 岩波文庫)、吉野葛・盲目物語 (谷崎潤一郎 新潮文庫)、風立ちぬ・美しい村 (堀辰雄 新潮文庫)
- 〈後期〉: 女生徒 (太宰治 角川文庫)、虚人たち (筒井康隆 新潮文庫)、センセイの鞆 (川上弘美 新潮文庫)、FUTON (中島京子 講談社文庫)、水曜の朝、午前三時 (蓮見圭一 新潮文庫)

## 【参考文献・資料】

初心者のための「文学」(大塚英志 角川書店)  
小説の技法-視点・物語・文体 (レオン・サマーリアン 旺社)

## 国語学講義 a

村井宏榮

## 【授業の概要】

言語は情報伝達の道具として中心的な位置を占めている。本講義では日本語を対象として様々な面から共時的論的、通時的論的に観察し、考えていく。

## 【授業の目標】

有史以来、日本語は1500年以上の歴史を文字に刻んできた。漢字・漢文を大陸から採り入れたことによって極度に複雑な書記様式を発達させていきつつ、文字・音韻・文法・語彙等各方面に亘って変遷を遂げてきている。本講義では日本語史の基礎を学ぶとともに、ことばの歴史を考える上での基本的な概念・方法を理解することを目標とする。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション/日本語の概要と起源
- 第2回 日本最古の文字
- 第3回 漢字との出会い
- 第4回 万葉仮名の表音性
- 第5回 二つの仮名の誕生
- 第6回 漢字のアレンジ 一国字一
- 第7回 三つの手習い歌
- 第8回 古代インド文字と五十音図
- 第9回 仮名文と漢文訓読文
- 第10回 仮名交じり文、現る
- 第11回 古代語から近代語へ①
- 第12回 古代語から近代語へ②
- 第13回 歌学と日本語研究  
…等。

## 【評価方法】

平常点・学期末試験による。

## 【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

山口秋徳他『日本語の歴史』(東京大学出版会、1997)  
山口仲美『日本語の歴史』(岩波新書、2006)

## 国語学講義 b

増井典夫

## 【授業の概要】

近現代の日本語を対象として、主に「語彙」の面に注目して考えていく。まず「和語」「漢語」「外来語」という枠組みから「語彙」を考え、それぞれの特徴をとらえ、考察していく。

## 【授業の目標】

近現代日本語の特徴を理解し、分析できるだけの知識を獲得することを目指す。

## 【授業計画】

講義を行なう。

## 【評価方法】

記述式テスト (定期試験)。

## 【テキスト】

概説現代日本のことば (佐藤武義編 朝倉書店)

## 【参考文献・資料】

国語概説 (佐伯・山内編 和泉書院)

## 中国文学講義 (1) a・b

寺尾 剛

## 【授業の概要】

〈先秦漢魏晋南北朝の文学〉  
唐に至るまでの中国の文学の歴史を各時代の代表作を挙げながら概説していく。

〈前期〉

- ・中国文化の特色・中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

〈後期〉

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学・曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

## 【授業の目標】

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎 (文法や文化的背景等) を身につける。(詳細は授業にて解説する)

## 【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読する。  
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである (自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬~3月上旬)。

## 【評価方法】

出席、平常点 (20%) と試験 (80%)。

## 【テキスト】

中国詩文 (中国詩文研究会編 1,700円)  
及びプリント

## 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 中国文学講義 (2)

寺尾 剛

## 【授業の概要】

＜唐代の文学＞  
唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。  
・唐代文学史  
・『長恨歌』  
・『杜子春伝』  
・その他

## 【授業の目標】

唐王朝の歴史的背景を踏まえつつ、この時代の詩や小説を理解する。(詳しくは授業にて解説する。)

## 【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。  
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである(自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬)。

## 【評価方法】

出席、平常点(20%)及び試験(80%)。

## 【テキスト】

中国詩文(中国詩文研究会編)  
及びプリント

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国文学演習 I (1) a・b

中野謙一

## 【授業の概要】

『古事記』下巻)  
主に学生の発表により、『古事記』下巻を冒頭から読み進めていく。本文および訓の検討、語釈、『日本書紀』との比較、個々の記述と『古事記』全体との関係の考察などが中心になる。担当範囲は受講生の人数等によって決める。

## 【授業の目標】

『古事記』下巻の内容は皇位継承の歴史であるが、その叙述はどのような論理によって貫かれているのか。また文章の面では、どのように漢字を使った表現がなされているのか、といったことが当面の考察の対象となる。さらに、さまざまな角度から『古事記』の書かれた時代に迫りたい。

## 【授業計画】

〈前期〉a  
第1回～第2回 『古事記』の概説・発表例  
第3回～第14回 学生の発表とそれに関する討議  
〈後期〉b  
第1回～第13回 学生の発表とそれに関する討議  
第14回 総括  
なお、夏季休暇中にゼミ旅行を行う(奈良方面、詳細未定)。

## 【評価方法】

出席状況および授業中の発表・発言(50%)、発表後のレポート(50%)によって評価する。

## 【テキスト】

〈前期・後期〉  
・古事記(倉野憲司校注 ワイド版岩波文庫) ※通常版も可。  
・授業中に配布するプリント

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 国文学演習 I (2) a・b

久保朝孝

## 【授業の概要】

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。  
演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。  
なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行(約33,000円)を行う。

## 【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。  
特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」(解釈)を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

## 【授業計画】

一、複数のグループを編成する。  
二、準備学習。  
三、担当範囲を決定する。  
毎回2～3首。  
四、研究報告→質疑→回答→討論→助言(毎回の授業)  
五、学修の成果をレポートにまとめる(期末)。

## 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表(半期に3回程度)、授業中の発言(質問・批判等)、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

## 【テキスト】

紫式部日記 紫式部集(新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円 税別)

## 国文学演習 I (3) a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。

## 〈前期〉

今年は千載集をとりあげる。新しい歌風を示すこの集はいろいろな意味で興味深い。古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感ぜられることが多い。  
そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

## 〈後期〉

前期の教材を継続する予定である。

## 【授業の目標】

古典的な和歌の読解力をつけること。すなわち、初めて見る和歌を辞書をたよりに読解できるようにすること。

## 【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

## 【評価方法】

レポートを課する。

## 【テキスト】

新日本古典文学大系 千載和歌集(岩波書店 3,600円)

## 国文学演習 I (4) a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

近松門左衛門の『世話浄瑠璃』の典型的な作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。

金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま（義理と人情）がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網鳥』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

## ＜前期＞

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、『世話浄瑠璃』の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文楽の上演をビデオで鑑賞する。

『冥途の飛脚』（影印本）を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

## ＜後期＞

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、＜人物論＞・＜悲劇論＞・＜義理と人情＞の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

なお、2月か3月に京都のゼミ旅行を行う。

## 【授業の目標】

近世文学解説のための知識や方法を自らの調査・研究・発表によって学ぶとともに鑑賞の能力をより高める。

## 【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

## 【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

## 【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚（岩波文庫）

## 国文学演習 I (6) a・b

都築久義

## 【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

## ＜前期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

## ＜後期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

## 【授業の目標】

近代文学と作家への関心を高め、卒業論文の執筆の動機づけと意欲を持たせる。

## 【授業計画】

グループ（4～5人）を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

## 【評価方法】

平素の学習態度および出席状況。

## 【テキスト】

なし。

## 国文学演習 I (5) a・b

小倉 斉

## 【授業の概要】

〈近・現代小説の方法—いかに読み、いかに論ずるか〉：日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得する。テキストについて読み、話し合い、調べ、分析してきたことをレジュメにより報告する。自分の〈読み〉と〈考え〉とを大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

## 【授業の目標】

テキストの丹念な調査や読解、演習授業における活発な討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得するとともに、情報発信力やプレゼンテーション能力を高める。

## 【授業計画】

## 〈前期〉

- 1 〈読む〉という行為および〈読み〉の実例：『追憶』（2回）
- 2 『フランケンシュタイン』（メアリ・シェリー）（3回）
- 3 『当世書生気質』（坪内逍遙）（4回）
- 4 『明暗』（夏目漱石）（4回）
- 5 『痴人の愛』（谷崎潤一郎）（2回）

## 〈後期〉

- 1 『野火』（大岡昇平）（3回）
- 2 『枯木灘』（中上健次）（3回）
- 3 『敵』（筒井康隆）（3回）
- 4 『取り替え子』（大江健三郎）（3回）
- 5 『ノヴァーリスの引用』（奥泉光）（3回）

## 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから総合的に評価する。

## 【テキスト】

〈前期〉：フランケンシュタイン（メアリ・シェリー 創元推理文庫）、批評理論入門（廣野由美子 中公新書）、当世書生気質（坪内逍遙 岩波文庫）、明暗（夏目漱石 新潮文庫）、痴人の愛（谷崎潤一郎 新潮文庫）

〈後期〉：野火（大岡昇平 新潮文庫）、枯木灘（中上健次 河出文庫）、敵（筒井康隆 新潮文庫）、取り替え子（大江健三郎 講談社文庫）、ノヴァーリスの引用（奥泉光 集英社文庫）

## 【参考文献・資料】

小説の技法—視点・物語・文体（レオン・サーメリアン 旺史社）  
小説の技巧（デイヴィッド・ロッジ 白水社）

## 国文学演習 I (7) a・b

酒井晶代

## 【授業の概要】

＜日本児童文学の近代＞

皆さんが子どもの頃に親しんだ「児童文学」は、どのような起源を持つのだろうか。本演習では、テキストの読解を中心として、明治期から昭和戦前期までの児童文学とその変容を考察する。児童文学は近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら推移してきた。教育史や文学史を中心に、広く社会史・文化史の視座からテキストを精読する試みを通して、児童文学の特質を探り、さらにはジャンルの捉え直しができるかと考えている。

## 【授業の目標】

文献調査やテキスト読解を通して、明治から昭和戦前期までの児童文学史を把握すると同時に、個々の作品に表れた＜子ども—大人＞の関係を理解・考察する。

## 【授業計画】

最初の数回は通史を読む。その後、時代順に作品を読み進めていく。いずれも、グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

## ＜前期＞

- 第1～4回 日本児童文学史概観（明治～大正前期）
- 第5～13回 『日本児童文学名作集（上）』の作品精読

## ＜後期＞

- 第1～4回 日本児童文学史概観（大正後期～昭和戦前期）
- 第5～12回 『日本児童文学名作集（下）』の作品精読
- 第13回 全体のまとめ

## 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

## 【テキスト】

日本児童文学名作集〈上・下〉（桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫）  
はじめて学ぶ日本児童文学史（鳥越信編 ミネルヴァ書房）

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 国語学演習 I a・b

増井典夫

## 【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。  
日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

## 【授業の目標】

自分なりの研究の目標を見つけ、進められるようにする。

## 【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。  
その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

## 【評価方法】

レポート等によって評価する。  
なお、毎時点呼によって欠席を調査する。

## 【テキスト】

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）  
展望現代の方言（真田信治編 白帝社）

## 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 中国文学演習 I a・b

寺尾剛

## 【授業の概要】

<『三国志』の世界>  
中国は歴史を重視するというお国柄もあって、文学と歴史とは不可分の関係にある。本年度は中国の後漢から三国の時代にかけての、いわゆる『三国志』の時代に焦点を当てて研究を進めることにしたい。  
基本的には正史『三国志』と小説『三国志演義』との比較研究に重点を置く。

## 【授業の目標】

資料調査能力、資料読解能力の育成を最大の目標とする。

## 【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。  
本年は劉備・諸葛亮を研究対象とする予定。  
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

## 【評価方法】

少なくとも前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。レポート（40%）、発表（40%）、出席（20%）を目安として欲しい。

## 【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき（中国詩文研究会 750円）
- ・『正史三国志』第5巻（ちくま文庫 1500円）
- ・『詩歌三国志』（松浦友久著、新潮選書 1260円）

## 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 国文学演習 II（1） a・b

中野謙一

## 【授業の概要】

<前期>  
『萬葉集』のうち、古撰とされる巻一・巻二の歌に関する考察を行う。各自一首ずつを選んで、本文・訓およびその他の問題点について検討する。  
<後期>  
広く上代の文献に関する任意の課題について発表し、全員で討議する。

## 【授業の目標】

『萬葉集』の基本的な研究方法を習得するとともに、上代文学に対する視野を広げ、卒業論文の作成に活かしていく。

## 【授業計画】

<前期> a  
第1回～第2回 『萬葉集』の概説・発表例  
第3回～第14回 学生の発表とそれに関する討議  
<後期> b  
第1回～第14回 学生の発表とそれに関する討議  
なお、夏季休暇中にゼミ旅行を行う（奈良方面、詳細未定）。

## 【評価方法】

出席状況および授業中の発表・発言（50%）、発表後のレポート（50%）によって評価する。

## 【テキスト】

<前期>  
萬葉集（鶴久・森山隆編 おうふう）  
※上記のほか、全歌の原文を取めた本であれば可とする。  
<後期>  
なし

## 【参考文献・資料】

万葉歌を解説する（佐佐木隆 NHKブックス）  
その他、授業中に紹介する。

## 国文学演習 II（2） a・b

久保朝孝

## 【授業の概要】

『紫式部日記』を輪読する。  
『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える彰子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。  
作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察する。  
なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（約33,000円）を、また、必要に応じて卒業論文指導を含めたゼミ合宿を行う。

## 【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

## 【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、準備学習。
- 三、担当範囲を決定する（毎回2頁前後）。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

## 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に3回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

## 【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円 税別）

## 国文学演習 II (3) a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

『とはずがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。  
 本年は巻二から読む。

## &lt;前期&gt;

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

## &lt;後期&gt;

前期から継続する。

## 【授業の目標】

古写本によって昔の人々が読んだそのままの形で、文章を解読できるようにすること。

## 【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

## 【評価方法】

レポートを課する。

## 【テキスト】

とはずがたり 二 (笠間書院)

## 国文学演習 II (4) a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を解読し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」(『近世文学研究事典』)といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

## &lt;前期&gt;

各短編を受講者が分担して、本文の解読、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

## &lt;後期&gt;

前期に引き続いて作品の研究をする。

それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。

また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

なお、9月に淑友館でゼミ合宿を行う。

## 【授業の目標】

演習Iを基本とし、卒業論文への橋渡しをして行く。

## 【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

## 【評価方法】

レポートによる。

## 【テキスト】

未定。

## 国文学演習 II (5) a・b

小倉 斉

## 【授業の概要】

〈小説の方法—テキストをどう読み、どう論ずるか—〉  
 日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得する。

## 【授業の目標】

テキストの精読や丹念な調査、演習における活発な討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法・文学研究の方法を実践的に習得し、卒業論文作成に活かす。

## 【授業計画】

## &lt;前期&gt;

- 1 『彼岸過迄』(夏目漱石)
- 2 『寂分寥分』(大庭みな子)
- 3 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(村上春樹)
- 4 『眠れる美女』(川端康成)
- 5 『雪国』(川端康成)

## &lt;後期&gt;

- 1 『卍』(谷崎潤一郎)
- 2 『河童・或阿呆の一生』(芥川龍之介)
- 3 『女生徒』(太宰治)
- 4 『虞美人草』(夏目漱石)

## 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから総合的に評価する。

## 【テキスト】

- <前期>: 彼岸過迄 (夏目漱石 新潮文庫)、寂分寥分 (大庭みな子 講談社文芸文庫)、世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド (村上春樹 新潮文庫)、眠れる美女 (川端康成 新潮文庫)、雪国 (川端康成 新潮文庫)
- <後期>: 卍 (谷崎潤一郎 新潮文庫)、河童・或阿呆の一生 (芥川龍之介 新潮文庫)、女生徒 (太宰治 角川文庫)、虞美人草 (夏目漱石 新潮文庫)

## 【参考文献・資料】

- 批評理論入門 (廣野由美子 中公新書)  
 小説の技巧 (デイヴィッド・ロッジ 白水社)  
 小説の技法—視点・物語・文体 (レオン・サーメリアン 旺史社)

## 国文学演習 II (6) a・b

都築久義

## 【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。  
 卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

## 【授業の目標】

卒業論文が立派に書けるように、調査方法、テーマの設定などを学ぶ。

## 【授業計画】

個人発表。発表内容を中心討論する。

## 【評価方法】

平素の学習態度および出席状況。

## 【テキスト】

特になし。



## 国文学演習 II (7) a・b

酒井晶代

## 【授業の概要】

＜賢治・南吉を読み解く＞  
近代日本児童文学が生み出した作家のなかで、今なお読み継がれ、新たな読者を獲得している書き手の代表格に宮沢賢治と新美南吉がいる。「赤い鳥」の影響下で童話を書いた二人にはいくつかの共通点がある反面、相違点もまた数多い。さらに「なぜ読み継がれてきたか」という点に着目すると、賢治・南吉作品の普及史は、戦後の児童文学を考える大きな手がかりの一つにもなるだろう。テキストを丁寧に読むことから出発し、作品の成立事情や受容史、研究史へと視野を広げながら、二人の書き手を通して児童文学をめぐる諸問題を考えていきたい。

## 【授業の目標】

先行研究を踏まえながら、自分なりの視点や方法で賢治・南吉の作品を分析・考察する。

## 【授業計画】

「時代」「受容」「教育」「メディア」など、作品ごとにいくつかのキーワードを念頭に置きながらテキストを読み進めていく。グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

＜前期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3～13回 『童話集 風の又三郎』の作品精読

＜後期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3～12回 『新美南吉童話集』の作品精読
- 第13回 全体のまとめ

## 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

## 【テキスト】

- 童話集 風の又三郎（谷川徹三編 岩波文庫）
- 新美南吉童話集（千葉俊二編 岩波文庫）

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 国文学演習 II (8) a・b

永井聖剛

## 【授業の概要】

「国文学演習 I」における成果をふまえ、受講者各自が研究テーマを定め、その完成に向けて幅広い教養と知識を身につけると同時に、文学批評・研究の基本的なスキルや方法を学ぶ。

## 【授業の目標】

卒業論文を書くために必要な文学批評・研究のスキルや方法の習得。社会人として必要な教養や知識、文章能力の習得。

## 【授業計画】

中・長編小説の精読。卒業論文執筆に平行して読むのにふさわしいテキストを選別する。何を読むのかは、受講者の志向性に応じて決めたい。受講者は明確な目的意識と問題意識をもってゼミに臨むこと。

受講者は担当教員のアドバイスを得ながら、文献に目を通し、レジュメを作成し発表。参加者全員での討議を経たのち、成果をその都度文章化することが望ましい（添削指導する）。

## 【評価方法】

授業（出席・発言など）50%。発表・レポート50%。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国語学演習 II a・b

増井典夫

## 【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。  
現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら、新しい日本語研究の可能性を考えていく。

## 【授業の目標】

卒業論文につながる研究を求めていく。

## 【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。  
その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

## 【評価方法】

- レポート等によって評価する。
- なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

## 【テキスト】

- 変わる方言 動く標準語（井上史雄 ちくま新書）
- 応用社会言語学を学ぶ人のために（ロング・中井他編 世界思想社）

## 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 中国文学演習 II a・b

寺尾剛

## 【授業の概要】

＜中国古典文学研究法＞  
中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説・『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

＜前期＞

- ・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

＜後期＞

- ・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

## 【授業の目標】

資料調査能力・資料読解能力・論文作成能力の向上を目指す。

## 【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。  
学外教育活動として、9月に淑友館（あるいは他の宿泊施設）にて2泊3日のゼミ合宿を行う（全員参加。費用は2万円前後）。また、中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

## 【評価方法】

出席（20%）、レポート（40%）及び発表（40%）の内容で決める。

## 【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき増補版（中国詩文研究会 750円）

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国文学特殊講義 古典基礎

久保朝孝

## 【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、毎回一回完結の方式で、具体例に即しながら分かりやすくていねいに解説する。

## 【授業の目標】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について理解し、知識を身につける。

## 【授業計画】

1. 導入
2. 古典と暦
3. 古典と宗教
4. 古典と自然
5. 古典と生活空間
6. 古典と文法
7. 古典と国語学
8. 古典と書誌学
9. 古典と文献学
10. 古典と文献資料（1）歴史関係
11. 古典と文献資料（2）辞書事典
12. 古典と文献資料（3）研究書等
13. 古典文学の研究テーマ
14. 予備

## 【評価方法】

出席状況、課題小テスト、期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

## 【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（學燈社 1,370円 税込）

## 【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

## 国文学特殊講義 古典文法基礎

伊藤紫野富

## 【授業の概要】

古文解釈に必要な文法を基礎から学ぶ。用言の活用、助詞、助動詞、敬語法などを、講義を中心に、問題演習を交えながら行う。

## 【授業の目標】

正しい古典解釈の為に、文法の仕組みを正しく理解することを目標とする。

## 【授業計画】

- 第1回 授業内容の説明・文法概略
- 第2回 用言（動詞、形容詞、形容動詞）
- 第3回 助詞（係助詞、接続助詞）
- 第4回 助詞（格助詞、副助詞、終助詞）
- 第5回 問題演習
- 第6回 助動詞（る、らる、す、さす、しむ）
- 第7回 助動詞（き、けり、つ、ぬ、たり、り）
- 第8回 助動詞（ず、じ、む、むず、らむ、けむ）
- 第9回 助動詞（べし、まじ、なり、めり、まし）
- 第10回 問題演習
- 第11回 敬語法
- 第12回 総合問題演習
- 第13回 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

古典文法質問箱（大野晋著 角川ソフィア文庫）  
新古典文法（監修 小町谷照彦 東京書籍）

## 国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾剛

## 【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要なの？」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの？」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒否症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

## 【授業の目標】

基礎的な漢文読解能力を養う。特に翻訳法、訓読法の習熟を目指す。

## 【授業計画】

漢文法（特に助詞・助動詞・前置詞・接続詞・代名詞）を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

## 【評価方法】

出席、平常点（20%）及び試験（80%）。

## 【テキスト】

社会人のための漢詩漢文小百科（大修館書店 1,000円）

## 【参考文献・資料】

授業中、随時紹介してゆく。

## 国文学特殊講義 作品講読（古典）a・b

外山敦子

## 【授業の概要】

『源氏物語』の「夕顔」巻を読み進めながら、作中世界を理解するための有職故実、研究の現在及び作品読解の方法について、具体的に分かりやすく講義する。

## 【授業の目標】

- ・「夕顔」巻にかかわる現在までの研究状況を批判的に摂取する。
- ・平安貴族を支える社会制度や生活慣習に関する知見を蓄える。

## 【授業計画】

基本的にテキストにそって作品を講読しながら、各場面で重要と思われる次のことについて適宜説明する。

1. 病と信仰
2. 平安貴族の恋
3. 引歌表現
4. 雨夜の品定め
5. 乳母
6. 従者と女房
7. 童
8. 植物
9. 動物
10. 月
11. 史実と物語
12. 説話・伝承
13. もののけ
14. 平安貴族の死
15. 平安貴族の葬送

## 【評価方法】

出席状況、期末試験（前期）または小テスト1回と期末レポート（後期）、学外における自主学習の成果を総合して評価する。

## 【テキスト】

校注源氏物語 夕顔（中野幸一編 武蔵野書院）

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国文学特殊講義 作品講読 (近・現代) a・b

佐々木亜紀子

## 【授業の概要】

夏目漱石の小説を精読し、方法意識の検討を通して、言語芸術の分析方法を習得する。前期には〈後期三部作〉といわれる小説群の第一作『彼岸過迄』を、後期には第二作『行人』を取り上げる。新聞小説として発表された初出のカタチを意識しつつ、1912年および1913年の風俗や社会、世界思潮との関わりを軸に読むことを目指す。

## 【授業の目標】

夏目漱石の『彼岸過迄』と『行人』とを、研究史をふまえたうえで適切な分析方法によって論ずる力を育成する。

## 【授業計画】

- a (前期) 『彼岸過迄』
- 第1・2講 夏目漱石の生涯と『彼岸過迄』の時代について
  - 第3・4講 「風呂の後」精読
  - 第5・6講 「停留所」精読
  - 第7・8講 「報告」精読
  - 第9・10講 「雨の降る日」精読
  - 第11・12講 「須永の話」精読
  - 第13・14講 「松本の話」「結末」精読
  - 第15講 単位認定試験
- b (後期) 『行人』
- 第1・2講 夏目漱石の小説と『行人』の時代について
  - 第3～5講 「友達」精読
  - 第6～8講 「兄」精読
  - 第9～11講 「帰ってから」精読
  - 第12～14講 「塵勞」精読
  - 第15講 単位認定試験

## 【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容、単位認定試験によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

- 彼岸過迄 (夏目漱石 新潮文庫)  
行人 (夏目漱石 新潮文庫)

## 【参考文献・資料】

漱石 響き合うことば (佐々木亜紀子著 双文社出版)

## 国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

## 【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帯木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帯木』(大島本)をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。

前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。

後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

## 【授業の目標】

『源氏物語』を読むための、文法・語法をふまえた歴史社会的な習俗における基礎知識を習得するとともに、平安朝物語についての解釈の方法を身につける。

文学作品の読解においては、たんに部分的な解釈をするのではなく、それが作品全体においてどのような位置にあり、どのような意義を持つのかについて考える。

## 【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。

受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 長雨はれなきころ。
- 2) 光源氏のもの恋文。
- 3) 三つの品の女性論。
- 4) 中の品の女性。
- 5) 意外性の魅力。
- 6) 主婦としての条件。
- 7) 芸道の比喩。
- 8) 左馬頭の体験談。
- 9) 常夏の女の物語。
- 10) 博士の娘の笑い話。
- 11) 葵上と光源氏。
- 12) 方違えと空蝉。

以下、物語の展開にそって読解と解説を進める。

## 【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

## 【テキスト】

帯木 (大島本) (高橋亨編 おうふう 971円)

## 【参考文献・資料】

源氏物語の詩学 (名古屋大学出版会、8,400円)

## 国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

## 【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。

本年度は『うつほ物語 (一)』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

## 【授業の目標】

古文読解のための基礎知識と文法的な語法について習得する。使用テキストは本文校訂が底本に基づいた最低限のものであるため、文脈から考えて「かな」に漢字をあてるなど、読解の基礎作業の習得が必要となる。

たんにこれまでに習得した学校文法の知識によるのではなく、テキスト文法というべきものによって解釈し、平安朝物語を読むための有職故実を含めた学力を養成することが目的である。

## 【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 物語の発端の表現構造。
- 2) 遣唐使と平安朝の世界観。
- 3) 平安朝における学問と漢詩文。
- 4) 俊蔭の異界への旅。
- 5) 阿修羅と六道輪廻。
- 6) 平安朝における琴の伝授。
- 7) 恋物語の発端。
- 8) 王朝物語と和歌。
- 9) 孝子譚の反映。
- 10) 貴族社会の物語と「北の方」
- 11) 恋愛と結婚。
- 12) 年中行事と和歌。

物語テキストの読解に沿って、以上のような話題を適時に織り込んでいく。

## 【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

## 【テキスト】

うつほ物語 (一) (野口元大・明治書院 2,400円)

## 【参考文献・資料】

源氏物語の詩学 (高橋亨・名古屋大学出版会 8,400円)

## 国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

## 【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目途とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

## 【授業の目標】

日本文学の基礎知識としての仏教文化を明らかにする。インドから中国へ、中国から日本への伝播の中での変容を確認し、日本化した仏教の諸相を明らかにする。実際に寺院建築や、仏教行事を見学することを課題とし、自分の目で歴史と現代の仏教の実態とを学ぶことを目標とする。

## 【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。

後期は、具体的に建築、荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り(灌仏会)や盆(盂蘭盆会)、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

## 【評価方法】

前期(寺院建築)、後期(仏教行事)ともレポート。

## 【テキスト】

講義時に指示。

## 【参考文献・資料】

守屋正彦『すぐわかる日本の仏教美術』東京美術

## 国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

## 【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができる如く、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

## 【授業の目標】

具体的な作品を通して、日本化した仏教思想の影響下に成立した文学の諸相を分析し、解明する。また、古典を影印で読むことによって筆で書かれた文字に習熟すること、古文の解説を逐語訳ではなく意味をきちんと取った日本語にすることを目的とする。

## 【授業計画】

講義は影印本『釈迦の本地』（三弥井書店）で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有戦故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。前後期とも影印で読むため、崩し字の苦手な人は「くずし字字典」などを用意すること。

前期

第1講は仏教文学概論と「釈迦の本地」について

第2講以下通読

後期

第1講以下通読

読み終えたら、諸本の比較や釈迦信仰について考える。

## 【評価方法】

前期後期ともレポート提出による。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

## 【テキスト】

石川透編『釈迦の本地』（室町物語影印叢刊17）三弥井書店

## 【参考文献・資料】

室町時代物語大成、中世小説の研究（市古貞次 1955）

## 国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

## 【授業の概要】

近現代詩のレトリック・表現論

1. 子どもの詩、少年詩、近現代の詩をとりあげ、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック（言語技術）の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～90年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
2. 文化研究・批評（カルチャラル・スタディーズ）の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

## 【授業の目標】

日本近現代詩を読む魅力と楽しさ、詩的言語やレトリックにこめられた詩人のメッセージ、優れたコミュニケーション技術、その歴史的文化的意味について理解し、現代に生きる「ことばの力」について考察する。

## 【授業計画】

1. 子どもの詩、谷川俊太郎、中原中也、吉野弘、茨木のり子などを中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
2. 前後期とも、配付プリントやテキストによる講義を行う。
3. 前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、子どもの詩、少年詩、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界（コスモロジー）・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎や中原中也その他の詩をとりあげ、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、文化的歴史的な状況の中でより深く考察する。

## 【評価方法】

出席・授業中の提出物 25%  
意見と討議、質疑応答 25%  
期末レポート 50%

## 【テキスト】

これが私の優しさです 谷川俊太郎詩集（集英社文庫）  
汚れつつまつた悲しみに 中原中也詩集（集英社文庫）  
配付プリント

## 【参考文献・資料】

にんげんびかびか 子どもの詩（川崎洋編 中央公論社）  
対談 現代詩入門（大岡信 谷川俊太郎 思潮社）  
戦後代表詩選 正統（鮎川信夫 他編 思潮社）

## 国文学特殊講義 和歌文学 a・b

日比野浩信

## 【授業の概要】

日本古典文学の中核たる和歌を、主要な歌学書の講読を通じて、概観する。  
a  
中世の歌学者・顕昭の歌語注釈書『袖中抄』を、藤原定家が抄出した『顕秘抄』を講読する。中世の歌語注釈を通じて、施注の対象となっている『古今和歌集』をはじめ平安時代の和歌を読む。  
影印本を用いることで、写本解説の一助とする。

b

和歌を書くために発達したともされる仮名の文献として、影印資料を教材とする。  
鎌倉期書写の古筆切を中心に用いて、平安・鎌倉時代の和歌を講読する。

## 【授業の目標】

後代の日本の美的感覚の根本たる和歌を通じて、古典作品の読解力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

基本的には講義を行う。ただし、受講人数などによっては、文献学的研究方法を少々体験してもらう。  
参加は気楽に、取り組みは真摯に行ってもらう。

## 【評価方法】

学期末の試験、あるいはレポートをもって評価する。

## 【テキスト】

- a 志香須賀文庫蔵本 顕秘抄（和泉書院）
- b 平成新修古筆資料集 第三集（思文閣出版）

a・bとも、写本解説がはじめての受講者は  
仮名変体集（新典社）  
を購入しておくこと。

## 国文学特殊講義 現代短歌 a・b

加藤孝男

## 【授業の概要】

俵万智さんの『サラダ記念日』が社会現象となったのは、80年代の半ばのことです。それ以降、短歌は、カタカナ書きの「タンカ」として、若い人の間でも注目を集めています。  
この講義では、はじめて短歌をつくる人のために、初歩の段階からすすめていきます。創作する楽しさを味わってみてください。

## 【授業の目標】

創作するよろこびを味わい、感性を豊かにします。

## 【授業計画】

- a. 春学期 表現する愉しさを知る

- 第1構 短歌とタンカとの違い
- 2～4 現代短歌の魅力（俵万智、穂村弘、佐藤真由美など）
- 5～9 携帯電話をつかったタンカのつくりかた
- 10～12 短歌の技術、いろいろ
- 13～14 新人賞に応募しよう

- b. 秋学期 短歌表現の魅力

- 第1講 短歌は一行の詩である
- 2～4 現代歌人の魅力（村木道彦、河野裕子、塚本邦雄など）
- 5～9 表現の技術をつかう
- 10～12 歌合、歌会を愉しむ
- 13～14 まとめ

## 【評価方法】

作品によって評価します。出席・平常点も重視。

## 【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

## 【参考文献・資料】

佐藤真由美「恋する歌音（カノン） ころろに効く恋愛短歌50」（集英社文庫）  
高野公彦編「現代の短歌」（講談社学術文庫）

## 国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

## 【授業の概要】

“実践的”現代・文学批評理論

ー〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門ー

近代・現代の短編小説、児童文学、ファンタジーなどの読解と批評を通して、文学批評理論について検討し、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて講義してゆく。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

## 【授業の目標】

文学作品は評論や論文とは異なる形式と方法による、人間と時代についての〈発見と認識〉であり、優れた描写と語りによる〈コミュニケーション技術〉のモデルである。作品に即して読み解き批評する方法を通して、現代・文学批評理論のポイントと今後の課題について理解する。

## 【授業計画】

1. 講義では、江國香織、山田詠美、重松清、村上春樹、辻仁成、梨木香歩などの現代小説の短編の他、童話やファンタジー、アニメーションなどを例にとりあげる。
2. 毎回トピック形式でテーマを設定し作品に即して考察していく。例、「主題は1つか―批評的に読み解く技術」「意識の深層をどう描くか―恐怖とは」「絵本、童話の方法と子ども」「恋愛という〈狂気〉と〈無垢〉」「家族の〈絆〉をとりもどすとは」「19世紀文学と20世紀文学をわけるとは」「心理描写と20世紀文学の方法」等。

## 【評価方法】

出席・授業中の提出物	25%
意見と討議、質疑応答	25%
期末レポート	50%

## 【テキスト】

西の魔女が死んだ (梨木香歩著 新潮文庫)  
きよしこ (重松清著 新潮文庫)  
配付プリント

## 【参考文献・資料】

現代文学理論 (土田知則著 新曜社)  
ブロークンガール (金原由佳著 フィルムアート社)  
なぜ僕らの心は壊れてしまうのか (和田秀樹著 集英社文庫)

## 国文学特殊講義 現代小説 a・b

永井聖剛

## 【授業の概要】

〈現代小説の方法と課題―作品をどう読むか―〉

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化しているかについて追求する。

## 【授業の目標】

現代小説にあらわれた現代性および問題意識を、類同的なモチーフを持つ過去の文学作品との比較において測定すること。小説の多様な読みを生み出す分析方法の習得。

## 【授業計画】

ある現代小説にあらわれた主題・方法を、時代を遡りつつ、それと類同的なモチーフを持つ過去の文学作品と比較しながら考察する。

- 1 ガイダンス
- 2 『蒲団』(田山花袋)を読む 作品からテキストへ／語り・人称・視点／それはだれの欲望か／〈書くこと〉の所有権をめぐる
- 3 『FUTON』(中島京子)を読む 蒲団の打ち直し方／パロディという方法
- 4 『アフターダーク』(村上春樹)を読む 都市・記号／一望監視装置／読書行為・消費／堀辰雄「水族館」
- 5 近代の都市空間を読む 谷崎潤一郎「人面疽」／江戸川乱歩「人間椅子」／「屋根裏の散歩者」
- 6 まとめ

## 【評価方法】

出席と期末レポートで総合的に判断する。

## 【テキスト】

FUTON (中島京子 講談社文庫)  
アフターダーク (村上春樹 講談社文庫)

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

## 【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

&lt;前期&gt;

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

&lt;後期&gt;

郷土を描いた作品(近代、古典)を10作品くらいとりあげる。

## 【授業の目標】

愛知・岐阜・三重の東海三県出身の作家や作品を学び、郷土と郷土の文学への関心を高める。

## 【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変わる。

## 【評価方法】

テストで評価する。

## 【テキスト】

プリントを配付。

## 国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

## 【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

## 【授業の目標】

1. 児童文学の定義、形態、特質等を研究し、自己の児童文学観を確立する。
2. 日本の児童文学史を把握し、将来を展望、新しい児童文学を創造する態度と方法を自己のものとする。

## 【授業計画】

〈前期 a〉	〈後期 b〉
1. 児童文学とは何か	1. 昭和前期の児童文学
2. 呼称、定義、特質、研究	2. プロレタリア児童文学
3. 明治期の児童文学	3. 通俗の児童文学
4. 三輪弘忠	4. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
5. 巖谷小波	5. 宮澤賢治
6. 翻訳児童文学	6. 新美南吉
7. 大正期の児童文学	7. 戦時下の児童文学
8. 小川未明	8. 昭和後期の児童文学
9. 鈴木三重吉	9. 芸術的児童雑誌
10. 童謡、少年詩	10. いぬいとみこ、神沢利子
11. 文壇作家の児童文学	11. 松谷みよ子、中川李枝子
12. 千葉省三、浜田廣介	12. 平成期の児童文学
13. 少女小説、金子みすゞ	13. 新しい児童文学の創造
14. 児童文学研究史	14. 創作童話の方法
15. 試験	15. 試験

## 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

新日本児童文学論(堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 国文学特殊講義 日本演劇史

林 和利

## 【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

## 【授業の目標】

日本の演劇・芸能の通史について理解するとともに、主要ジャンルについての知識と演技の実態を習得する。

## 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説
3. 演劇の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽について
6. 舞楽について
7. 散楽について
8. 田楽について
9. 猿楽について
10. 能について
11. 狂言について
12. 歌舞伎について
13. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。  
学外の舞台芸術を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象とする。

## 【テキスト】

日本文化論序説 (林和利 青山社)

## 【参考文献・資料】

演劇百科大事典 (平凡社)  
日本演劇全史 (河竹繁俊 岩波書店)

## 国文学特殊講義 日本映画史

小倉 史

## 【授業の概要】

〈プログラムビジュアルで読み解く日本映画史〉  
日本映画の歴史を紐解くと、2度の全盛期（1920年代後半から1930年代と、1950年代から1960年代）がある。この時期に、日本映画史を彩る名作が生まれるとともに、それぞれの撮影所から特色あるプログラムビジュアル（＝娯楽・商業映画）が量産された。  
本講義では、2度目の黄金期1950年代から1960年代にスポットを当て、作品の背景・受容について概観する。また、毎回授業内でエポック・メイキングとなる映画作品の一部を実際に鑑賞する予定である。

## 【授業の目標】

大作・名作とされる作品のみならず、それらを繋ぐプログラムビジュアルにも目を配ることで、日本の大衆文化を幅広く見渡すことのできる批評的視野を身につける。

## 【授業計画】

1. イントロダクション
2. 日本映画草創期を概観する
3. 五社協定という制約／日本映画と国際的評価
4. 黒澤明・怪獣・「社長」シリーズ
5. 溝口健二・「母もの」・時代劇
6. 小津安二郎・「人情もの」・メロドラマ
7. 「太陽族」映画～新しい日本人たち～
8. 時代劇から任侠映画へ
9. 映画産業の衰退と新しい風を吹き込む監督たち
10. その後の展開～現在の日本映画を考える～

## 【評価方法】

学期末にレポート課す。出席状況と毎回授業後に提出してもらうコメントの内容も平常点として加味する。

## 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

「日本映画史100年」(四方田犬彦著、集英社新書)

## 国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

## 【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしぼり、その技芸の本質について詳しく講じる。それと並行して、能の作品を読解しつつ、ビデオで鑑賞する。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

## 【授業の目標】

能と狂言の技芸の本質と舞台の鑑賞について知識と理解を深める。

## 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本芸能演劇史概説
3. 能・狂言入門・能ビデオ鑑賞1
4. 名人の芸 (男女の演技の両立)・能ビデオ鑑賞2
5. 〃 (見分ける目)・能ビデオ鑑賞3
6. 〃 (レバートリー)・能ビデオ鑑賞4
7. 〃 (引き際)・能ビデオ鑑賞5
8. 〃 (スキのない演技)・能ビデオ鑑賞6
9. 〃 (名人の本義)・能ビデオ鑑賞7
10. 〃 (狂言の名人)・能ビデオ鑑賞8
11. 狂言の世界
12. 足拍子の効果
13. 名古屋の能楽  
毎回、能の作品を少しずつ読解・鑑賞する。また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

## 【テキスト】

日本文化論序説 (林和利著 青山社)

## 【参考文献・資料】

世阿弥 禪竹 (岩波書店)  
岩波講座 能・狂言 (岩波書店)

## 国文学特殊講義 俳文学 a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

松尾芭蕉の『奥の細道』を解説・鑑賞し、その特質について多様な視点から考察する。『奥の細道』は、高等学校の「国語総合」のすべての教科書に採録されており、近年、鉛筆でなぞることもさかんに行われている。まさに国民的な古典文学である。しかし、特定の部分が取り上げられることが多いので、この講義では、できるだけ全巻を通して扱い、ひとつの文学作品として鑑賞・研究してみたい。

## 【授業の目標】

『奥の細道』の文学的達成を、受講者が探求し、自ら実感するとともに、高校生に教えるための学習の機会とする。

## 【授業計画】

最初に、「国語総合」の採録の実態を確認する。つぎに『奥の細道』の基礎的知識を学び、ビデオと音読によって全巻を通読する。

前期は、教科書採録部分を扱い、後期は、全巻を見通して重要箇所を取り上げて、講義・輪読形式で授業を進めてゆく。

できたらゆかりの地である、伊賀上野、大垣を訪ねてみたい。

## 【評価方法】

授業への出席・参加の状況、授業での発言・発表を考慮しつつ学期末のレポートによる。

## 【テキスト】

『校注 おくの細道』笠間書院

## 【参考文献・資料】

『奥の細道』角川文庫。その他、適宜、指示する。

## 国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

森本俊之

## 【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

## 【授業の目標】

人間の認知機構に即した意味解釈理論と言語運用に関するメカニズムに関する知見の習得と理解、および、われわれが日常行う言語的コミュニケーションのありようを考究することを目的とする。

## 【授業計画】

認知科学の基礎理論の概観からはじめ、ついで、それがわれわれの日常的な言語行動にどのように当てはまるかを事例をもって検証する。

## 【評価方法】

レポート（適宜課す予定）により評価

## 【テキスト】

プリントを配布する

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 文章表現 a・b

梅田卓夫

## 【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項について学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

## 【授業の目標】

- ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
- 創造的な文章を目ざして、いくつかの作品（作文）を試みる。
- 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
- 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
- その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
- さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

## 【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすすめる。

## 【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

## 【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫 997円）  
 高校生のための文章読本（梅田卓夫他編 筑摩書房 922円）

## 書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

## 【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

- 中国書道史（古典と臨書 書法と創作）
- ◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質
- ◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴
- ◇隋～唐時代・二大書師について
- ◇宋～現代まで
- ・多様化した書道・かな・ペン習字
- ・書道展の鑑賞

<後期>

- 日本書道史（臨書と創作 書法と創作）
- ◇奈良朝以前・かな・用筆法
- ◇奈良時代～平安時代
- ・遣唐使と三筆
- ・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）
- ◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法
- ・禅林風と和様体 近代詩文の作品
- ・空海の書法と人
- ・寛永、幕末の三筆

## 【授業の目標】

書道史、書法を学習し、書技術の向上と、書の創作意欲を高める。

## 【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度  
 必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

## 【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論のテスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

## 【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 株式会社BMC）

## 言語学 a・b

中尾比早子

## 【授業の概要】

言語はコミュニケーションの中心的な道具である。言語は個人と個人との関係にとどまらず、社会問題や政策にまで深くかかわりをもっている。授業では発音、形（文字）、意味の関係をそれぞれの観点からみていくつもりである。例えば、意味論ではことばの意味を考えると、辞書ではわからない情報があることを確認し、意味について考える方法を学ぶ。日本語を対象として提示していく。まず、言語を意識し、観察することから始めたい。

## 【授業の目標】

言語学にはどのような分野があるか、言語の一般的特性とは何かなど、言語学の基礎を身につけることを目標とする。  
日頃から気になることば、表現に耳を傾け、言語現象を分析してみてほしい。

## 【授業計画】

以下の内容を予定している。

1. 言語とは：言語とは何かについて考える
2. 音韻論：文字と音の関係について考える
3. 形態論：言語の単位とは何かについて考える
4. 統語論：文の成り立ち、仕組みについて考える
5. 意味論：言語の意味とは何かについて考える
6. 語用論：文の意味、言外の意味とは何かについて考える
7. 社会言語学：言語と社会文化の関係における言語運用的側面について考える

## 【評価方法】

出席状況、前期テスト、後期レポートによって評価する

## 【テキスト】

プリントを配布する

## 【参考文献・資料】

はじめての人の言語学（上山あゆみ著 くろしお出版）  
入門語用論研究－理論と応用－（小泉保編 研究社）  
その他、授業の中で適宜紹介する

## 外国語としての日本語 I・II

石橋千鶴子

## 【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

## 【授業の目標】

外国語としての日本語の文法基礎知識を得て理解を深め、それを英語で伝えられるようになることが期待される。

## 【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を学ぶ。

## 【評価方法】

出席、期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

## 【テキスト】

未定。

## 論文

中野謙一 久保朝孝 岩下紀之 阿部一彦 小倉 斉  
都築久義 酒井晶代 永井聖剛 増井典夫 寺尾 剛

## 【授業の概要】

卒業論文（8単位）の作成について指導する。

## 【授業の目標】

国文学科における4年間の学修の成果として、各自が自由に設定した課題又はテーマに基づき、400字詰め原稿用紙50枚相当以上の卒業論文を執筆する。

## 【授業計画】

各担当教員が提示する。

## 【評価方法】

提出された卒業論文の学術的及び教育的価値による。

## 【テキスト】

『卒業論文ハンドブック＜近現代文学編＞』（山本洋 白地社）等、授業時に各担当教員が指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に各担当教員が指示する。



## 実践日本語表現法 a

人見恭司

## 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 導入 (講義の進め方など)
2. 話し言葉と書き言葉(1) (話し言葉と書き言葉の違い)
3. 話し言葉と書き言葉(2) (書き言葉としてふさわしい表現、小テスト1)
4. 書き言葉の技能 基礎(1) (文の骨組みを抜き出す、小テスト2)
5. 書き言葉の技能 基礎(2) (文の骨組みを整える、小テスト3)
6. 書き言葉の技能 基礎(3) (呼応関係を確かめる、小テスト4)
7. 書き言葉の技能 基礎(4) (接続助詞「が」の使い方、小テスト5)
8. 書き言葉の技能 基礎(5) (句読点の使い方、小テスト6)
9. 書き言葉の技能 基礎(6) (修飾語と被修飾語、小テスト7)
10. 書き言葉の技能 基礎(7) (修飾語の語順、小テスト8)
11. 書き言葉の技能 応用(1) (論の要旨をとらえる)
12. 書き言葉の技能 応用(2) (文章を要約する)

## 【評価方法】

学期末試験 (40%)、小テスト (32%)、レポート (8%)、出席点 (20%) により総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 実践日本語表現法 b

人見恭司

## 【授業の概要】

実践日本語表現法 a での学習内容に引き続き、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 書き言葉の技能 発展(1) (レポートの書き方1)
2. 書き言葉の技能 発展(2) (レポートの書き方2)
3. 書き言葉の技能 発展(3) (論証の仕方、小テスト9)
4. 話し言葉の技能 基礎(1) (敬語の基礎、小テスト10)
5. 話し言葉の技能 基礎(2) (敬語の種類と使い方、小テスト11)
6. 話し言葉の技能 基礎(3) (間違いやすい敬語表現、小テスト12)
7. 話し言葉の技能 応用(1) (相手を考えて話す、小テスト13)
8. 話し言葉の技能 応用(2) (電話で話す、小テスト14)
9. 総合応用(1) (手紙文とその実例、小テスト15)
10. 総合応用(2) (メモの作り方、小テスト16)
11. 総合応用(3) (ビジネス文書とその実例1)
12. 総合応用(4) (ビジネス文書とその実例2)

## 【評価方法】

学期末試験 (40%)、小テスト (32%)、レポート (8%)、出席点 (20%) により総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

SUTHONS, Philip BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert MCGOLDRICK, Gemma

## 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

## 【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. CHAMBERS, Timothy GREENE, Scott R.

## 【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

## 【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A. HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R. CHAMBERS, Timothy

### 【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員或使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

BROWNING, Jeremy S. SUTHONS, Philip EDMONDS, Robert HARRIS, Richard S. MCGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員或使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

SUTHONS, Philip MC GOLDRICK, Gemma EDMONDS, Robert HARRIS, Richard S. LACEY, Charles F.

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員或使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

LEWIS, Paul HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R. PUDWILL, Larry A. CHAMBERS, Timothy

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

25% Attendance  
25% Homework  
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. CHAMBERS, Timothy GREENE, Scott R. LEWIS, Paul

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

25% Attendance  
25% Homework  
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert MCGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## Introduction to British History

EASLEY, Keith

### 【Course description】

This course deals with British History from its beginnings to the Twentieth Century, concentrating on events, people and places. The links between past and present will be stressed, and the main aim is to increase students' cultural understanding of the UK while developing language skills.

If it is necessary to limit class size, there may be a written test in the first lesson.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

### 【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

Topics to be considered may include:

The Romans and their mark on Britain  
British races: Anglo-Saxons, Celts and others  
Feudal society  
Christianity  
Elizabeth I: war, trade, exploration and culture  
The unification of the UK  
Democracy and expansion in the Eighteenth Century  
Britain, Europe and North America from the Eighteenth Century  
The Industrial Revolution  
The development and decline of the British Empire  
Victorian Britain  
Britain in the Twentieth Century

Each topic will take between one and two weeks, with time given for review and consolidation.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

### 【Textbooks】

*An Illustrated History of Britain*, (David McDowall Longman)

## Introduction to American History

DOIRON, Heather

### 【Course description】

The following course will be based on personalities and events that have had an impact on American History. The class will be primarily a discussion, which will involve student presentation and participation.

### 【Course objectives】

To introduce students to America History topics.

### 【Course schedule】

Week 1 : Paul Revere

Week 2 : Slavery

Week 3 : Abraham Lincoln

Week 4 : The Civil War

Week 5 : New Orleans

Week 6 : World War 1

Week 7 : Louis Armstrong

Week 8 : The Kennedys

Week 9 - 12 : Student presentations

### 【Assessment】

10% attendance  
40% participating  
50% presentation

specific details will be announced at first meeting.

## Introduction to Australian History

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

Australian poems, songs, movies, documentaries, and magazine articles are just some of the resources that will be used to introduce the students to Australia's colourful and controversial history. Students will be exposed to famous people and incidents that have helped shape Australia.

### 【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the people and events which have affected Australia's history.

### 【Course schedule】

Section 1 : The Early Years: "I am Australian" / Banjo Paterson - The Man from Snowy River/ Waltzing Matilda etc..

Section 2 : Shameful Times : Nuclear tests/ The Stolen Generation/ White Australia Policy/ Unbelievable events etc..

Section 3 : Influential people - Aboriginal artists/Famous actors/ Politicians/Women in Public life, and how they have affected Australia.

### 【Assessment】

Students will be required to write a number of reports about their reactions to the materials/issues discussed in class.  
50% reports/ 50% Classwork

## Current UK

EASLEY, Keith

### 【Course description】

この授業ではイギリスの現状を考察し、英語の聴解力を養成しながら、イギリスと世界でのイギリスの位置づけへの理解を深めることを目的とする。特にリーズ大学で行われる研修へとつながる内容を含み、政治・経済・社会・文化について幅広く考察する。

This course examines the UK today and aims to deepen students' understanding of Britain and its place in the world while developing language skills. A range of political, social, economic and cultural issues will be considered.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

### 【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

Topics to be considered may include:

Identities and multinationalism  
Britain and Europe; Britain and the USA  
Democracy  
The making of money  
Devolution: countries and regions in the UK  
Men and women: changes and continuities  
Families  
Class  
Crime and the law  
Fashion

Each topic will take between one and two weeks, with time given for review and consolidation.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

### 【Textbooks】

There is no class textbook.

## Current USA

DOIRON, Heather

### 【Course description】

This course will examine people and events that have helped to shape American society. Topics will range from artistic interpretation to feminism. This is primarily a discussion course. Students will be expected to do presentations and participate in class discussions.

### 【Course objectives】

To introduce students to issues that are relevant to present day U.S.A.

### 【Course schedule】

Week 1 : Who are Americans?

Week 2 : America's Music : Jazz

Week 3 : Civil Rights : Malcolm X, Louis Armstrong, Causis Clay

Week 4 : Feminism : Georgia O'keefe, Mae West, Gloria Steinberg and Madonna

Week 5 : America and the Movie Industry

Week 6 : Vietnam War

Week 7 : American Internationalization

Week 8 : Micheal Moore and 9/11

Week 9 - 12 : Student Presentations

### 【Assessment】

10% attendance  
40% participation  
50% presentation

specific details to be announced at first meeting

## Current Australia

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

Australian pop music, contemporary dramas, gossip magazines, and TV news programs/documentaries will be used to introduce the students to life Down Under. Emphasis will be placed on trying to understand Aussie language and culture so that the students will feel more affinity with Australia and its people.

### 【Course objectives】

This course will encourage the students to become more familiar with modern-day Australia.

### 【Course schedule】

Section 1 : Facts and Figures - We will look at a variety of Australian facts and figures which demonstrate some unique characteristics of Australia and its people eg. Pop'n density/concentration; percentage of single mothers; the divorce rate; cost of tertiary education, etc..

Section 2 : What's happening? - popular songs, dramas, and magazine articles will provide the students with an opportunity to delve into the psyche of young Australian people.

Section 3 : What's in the news? - TV news programs/documentaries and newspaper articles will allow the students to become familiar with high profile people and events in contemporary Australia.

### 【Assessment】

Classwork 70% / Attendance 30%

## Vocabulary I

SUTHONS, Philip

### 【Course description】

This is a computer-based course which will use "Powerwords", a computer software package that allows the students to work at improving their knowledge of vocabulary, at a level and pace appropriate for them. Students will have to complete 2 or 3 units per class, and they will also be encouraged to use the system in their free time. In addition, this course will explore vocabulary, and other aspects of language and culture, through analysis of songs, magazine and newspaper articles etc.

Special emphasis will be placed on understanding slang and idiomatic expressions in both informal and formal (business) situations. The students will be encouraged to appreciate the importance of idiomatic expressions in communicating with native English speakers.

### 【Course objectives】

The purpose of this course is to focus on essential vocabulary for communication and TOEIC tests.

Vocabulary can be difficult and boring, therefore we will use a variety of classroom activities including: regular lessons, games, stories, conversation and computer lessons.

By studying vocabulary, students can improve their understanding of both English and English grammar, communicate better and, hopefully, get higher scores on tests.

### 【Course schedule】

Every week we will complete 1-3 chapters in the textbook, read part of a story and play computer games.

### 【Assessment】

The final score will be based on 50% classroom participation (including quizzes), 25% computer lessons and a final test worth 25%.

Since there will be little homework, classroom attendance will be strictly required.

### 【Textbooks】

*Basic Vocabulary in Use* by Michael McCarthy and Felicity O' Dell, Cambridge University Press.

## Vocabulary II

SUTHONS, Philip

### 【Course description】

This course will encourage the students to continue developing their vocabulary knowledge with the "Powerwords" computer system. This computer system allows the students to choose a level and speed which is appropriate for them, so it is regarded as a very satisfying and rewarding way to work on vocabulary development. They will also engage in a variety of activities designed to stimulate their interest in learning new words and expressions. Activities may include such things as the analysis of pop music lyrics, articles about famous people, etc.

Throughout the course particular emphasis will be placed on the importance of phrasal and idiomatic expressions, in both business conversation and general conversation settings.

### 【Course objectives】

The purpose of this course is to focus on essential vocabulary for communication and TOEIC tests.

Vocabulary can be difficult and boring, therefore we will use a variety of classroom activities including: regular lessons, games, stories, conversation and computer lessons.

By studying vocabulary, students can improve their understanding of both English and English grammar, communicate better and, hopefully, get higher scores on tests.

### 【Course schedule】

Every week we will complete 1-3 chapters in the textbook, read part of a story and play computer games.

### 【Assessment】

The final score will be based on 50% classroom participation (including quizzes), 25% computer lessons and a final test worth 25%.

Since there will be little homework, classroom attendance will be strictly required.

### 【Textbooks】

*Basic Vocabulary in Use* by Michael McCarthy and Felicity O' Dell, Cambridge University Press.

## English Collaboration

ARNOLD, Brent C.

### 【Course description】

This is an introductory course for college English education. The aim of this course is to motivate students to learn to use English as a life-skill tool. This will be done through the use of various indoor and outdoors activities. This course will motivate students to learn English through action and need, with minimal use of literary English. This means that students learn English, not by writing or speaking English intentionally, but by participating in various activities. Students are expected to enrich their vocabulary through repetition of use and to become familiar with idiomatic and onomatopoeic expressions.

### 【Course objectives】

The main objective of this course is to show students how to function in a completely English environment. Interacting in English (speaking, listening and thinking) without the use of Japanese.

### 【Course schedule】

In most cases classes will begin with oral explanation followed by the activity. Classes will vary from using the Internet to craft activities, group projects and sports on the field.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and participation. (Attendance 25%; Participation 75%)

### 【Textbooks】

None

### 【Reference】

None

## 英語音声学 I

中郷 慶

### 【授業の概要】

英語の発音の特徴を、日本語と比べながら明らかにする。言語音の分類、母音と子音の体系など、英語音声の基礎的事項を学ぶ。また、英語らしいリズムとイントネーションについても、その理論を学ぶとともに、実践練習を行い定着を図る。

### 【授業の目標】

英語のリズムとイントネーションの仕組みを、日本語との対比で理解し、英文をより英語らしく読めるようになること。

### 【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴の全体像を明らかにするように、次のような内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーション
2. リズムの担い手と強勢パターン
3. 語強勢と文強勢
4. イントネーションと意味
5. 発音の仕組み
6. 音韻論と音声学

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきてはいても、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたこともないと思われる。英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声を基礎から勉強しておくことは不可欠なことであろう。この授業はヒアリング力の向上にも役立つであろう。

### 【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

こうすれば英語が開ける： *Ways to be better listeners*（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 英語音声学 II

中郷 慶

## 【授業の概要】

「英語音声学I」に引き続き、英語（および日本語）の音声の特徴の全体像を、さらに明らかにすることを目標とする。特に、日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音の発音方法を学び、より英語らしく読み、話す実践的練習を、歌・映画・小説の朗読などを題材に行う。「英語音声学I」を履修済みであることが望ましい。

## 【授業の目標】

日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音について学び、英語の音節構造・頭韻・脚韻などの理解を深めること。

## 【授業計画】

以下の内容で、講義と実践的練習を行う。

1. シャドウイングとディクテーション
2. 日本人英語学習者が不得手な子音の発音と聞き取り
3. 日本人英語学習者が不得手な母音の発音と聞き取り
4. 英語の音変化（同化・脱落・連結・縮約など）
5. 英語の音節構造
6. 音節とモーラ

## 【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

## 【テキスト】

こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## Writing I (Diary &amp; Daily Life)

MOLOTSI, Prisca

## 【Course description】

In this course, students will be given the chance to explore the process of expository writing. In addition to learning how to various aspects of the writing process, students will also learn to generate topics from daily life; topics ranging from personal to historical, cultural, political and socio-economical ones. I Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. A written group project will also be assigned at the beginning of the semester. This will be collected at the end of the semester. Time to work on the project will be allotted in each class.

## 【Course objectives】

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

## 【Course schedule】

- Week 1: Topic Sentences
- Week 2: Supporting sentences
- Week 3: Concluding sentences
- Week 4: Paragraph writing
- Week 5: Definition paragraphs
- Week 6: Introductory paragraphs
- Week 7: Concluding paragraphs
- Week 8: Comparison and contrast paragraphs
- Week 9: Project review
- Week 10: Persuasive paragraphs 1
- Week 11: Persuasive paragraphs 2
- Week 12: Cause and effect paragraphs
- Week 13: Review

## 【Assessment】

Grades will be given based on attendance, homework, tests, the journal and the group project.

## 【Textbooks】

Will be determined after the class commences

## Writing I (Diary &amp; Daily Life)

TOFF, Mika

## 【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

## 【Course objectives】

Students will learn to observe their daily lives carefully and to describe their thoughts creatively.

## 【Course schedule】

Time will be spent on discussions and exchange of ideas. We will also look at a variety of published diaries and online journals.

## 【Assessment】

Assessment will be based on class work and writing assignments.

## 【Textbooks】

No textbook required.

## Writing I (Diary &amp; Daily Life)

LEWIS, Paul

## 【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

## 【Course objectives】

- By the end of this course, students should be able to:
- understand the benefits and styles of regular diary keeping
  - be able to use note form for written English
  - be able to use various forms of prewriting for planning and discussion
  - be able to discuss their diaries freely in groups and pairs in English

## 【Course schedule】

- Lessons 1 Note taking styles
- Lessons 2-12 Discussions of topics raised in students' real diaries and imaginary diaries

## 【Assessment】

Assessment will be based upon class participation, attendance and the diaries.

## 【Textbooks】

No textbooks will be used, but instead students will use handouts.

## 【Reference】

None

## Writing I (Diary & Daily Life)

CURRAN, Beverley

### 【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### 【Course objectives】

The goal of the course is to teach students how to express their own life experiences as a written narrative in English, and, in the process, learn to think critically, consider the world around them with curiosity, and exchange ideas with each other in English.

### 【Course schedule】

- 1 Introduction
- 2 - 3 Life Writing: Writing in the First Person
- 4 - 5 Diary Forms: Written and Electronic
- 6 - 8 Temporal Organization: Time expressions
- 9 - 11 Famous Diaries
- 12 - 14 Diary Development
- 15 Conclusion

### 【Assessment】

Assessment will be based on effort, class participation, written work, and attendance.

### 【Textbooks】

No text is required

## Writing I (Diary & Daily Life)

DOIRON, Heather

### 【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

### 【Course objectives】

To teach students the purpose and importance of keeping a diary.

### 【Course schedule】

The course is designed to help students express themselves in writing. Video, music, and readings will be used to encourage written expression. Assignments and homework will be based on class activities. Some group work will be required.

Students will be introduced to keeping a diary of daily events. Through reading other diaries, and listening to transcripts students will be exposed to a methods of recording personal thoughts and events.

- Week 1 : Examples of famous diaries and methods of record keeping.
- Week 2 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 3 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 4 : Interviews using the past tense
- Week 5 : Interviews using the past tense
- Week 6 : review
- Week 7 : Interviews using the future tense
- Week 8 : Interviews using the future tense
- Week 9 : Recording the News
- Week 10 : Note taking
- Week 11 : Note taking
- Week 12 : Review

### 【Assessment】

60% Assignments  
40% final project.

Specific details will be announced at first meeting

## Writing II (Paragraph Writing)

MOLOTSI, Prisca

### 【Course description】

In this course, students will be given the chance to further develop the skills they learnt in Writing I. Emphasis on paragraph writing and essay writing skills will be made. Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. The Internet, videos and newspapers/magazines will be used to generate writing topics and activities.

### 【Course objectives】

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

### 【Course schedule】

- Week 1 : Review of basic paragraphs 1
- Week 2 : Review of basic paragraphs 2
- Week 3 : Writing and Essay outline
- Week 4 : Paragraphs describing a sequence of events (chronological order)
- Week 5 : Short essay using chronological time order
- Week 6 : Example paragraphs 1
- Week 7 : Example paragraphs 2
- Week 8 : Descriptive paragraphs
- Week 9 : Narrative paragraphs
- Week 10 : Persuasive paragraphs 1
- Week 11 : Persuasive paragraphs 2
- Week 12 : Paragraphs using similes and metaphors
- Week 13 : Review

### 【Assessment】

Grades will be given based on attendance, homework, tests, and the journal.

### 【Textbooks】

Will be determined after the class commences

## Writing II (Paragraph Writing)

TOFF, Mika

### 【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

Students will learn to write effective introductions and conclusions, and to support their ideas with persuasive reasons and vivid examples.

### 【Course schedule】

Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the content of essays written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the essays.

### 【Textbooks】

No textbook required.

## Writing II (Paragraph Writing)

LEWIS, Paul

### 【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

By the end of this course, students should be able to do the following:

- gather ideas for essay or paragraph writing
- arrange ideas into a coherent form
- write multiple drafts of a paragraph or essay, adding corrections in subsequent drafts
- use the computer for basic writing and error checking
- peer-check their partner's writing

### 【Course schedule】

- Week 1: Sentences
- Week 2: Topic sentences
- Week 3: Brainstorming
- Week 4: Describing
- Week 5: Peer feedback
- Week 6: Giving opinions
- Week 7: Cause/effect
- Week 8: Modals
- Week 9: Narratives
- Week 10: Comparisons
- Week 11: Introductions
- Week 12: Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on class attendance, participation and student portfolios.

### 【Textbooks】

To be announced in the first class

### 【Reference】

None

## Writing II (Paragraph Writing)

CURRAN, Beverley

### 【Course description】

In this course students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

The goal of the course is to teach students to write organized and interesting paragraphs on a variety of topics. Through practice, the students will develop their writing ability and their confidence in express themselves in written English.

### 【Course schedule】

- 1 Introduction
- 2 Parts of a Paragraph
- 3 - 6 Paragraph Practice
- 7 - 8 Writing an Introductory Paragraph
- 9 - 10 Ending a Paragraph
- 11 - 14 Paragraph Practice
- 15 Reflection

### 【Assessment】

Assessment will be based on effort, class participation, written work, and attendance.

### 【Textbooks】

No text is required

## Writing II (Paragraph Writing)

DOIRON, Heather

### 【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

### 【Course objectives】

To teach students the dynamics-involved in paragraph writing.

### 【Course schedule】

The course is designed to help students learn the art of writing in paragraphs. Through reading, writing, listening and speaking students will be exposed to the rules of making a proper paragraph.

- Week 1 : What is a paragraph?
- Week 2 : What is the subject of your paragraph?
- Week 3 : Listening to a paragraph
- Week 4 : Writing a paragraph
- Week 5 : Group work
- Week 6 : Review
- Week 7 : Making paragraphs connect
- Week 8 : Making paragraphs connect
- Week 9 : Group work
- Week 10 : Class assignment
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

### 【Assessment】

- 60% assignments
- 40% group work

Specific details to be announced at first meeting

## Reading I (Literature)

森本素世子

### 【授業の概要】

20世紀の代表的な短編小説を読む。短編小説とは、それぞれの作家とその背景を知ることやストーリーの面白さに加え、ポーが定義したように、「全体としての構想に合わない語が一語たりともあってはならない」作品群であり、それらを逃すことなく、いかに深く楽しく読んでいけるかを学んでいきたい。

### 【授業の目標】

読解力を身に付けることが主な目標であるが、併せて、各作家の作品から英語文学の幅広さと可能性を考えてみたい。

### 【授業計画】

- (前期) Roald Dahl "The Hitch-hiker"
- R.K.Narayan "An Astrologer's Day"
- (後期) R.K.Narayan "An Astrologer's Day"
- Elizabeth Taylor "The Fly-paper"

### 【評価方法】

定期試験の成績、出席・予習状況、授業への参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

*An Invitation to English Short Stories* (真田時蔵 注解 成美堂)



## Reading I (Literature)

小久保潤子

## 【授業の概要】

アメリカの短編小説を数編採り上げて精読する。多様な文化的・社会的背景を持った人々の集合体であるアメリカという国の特徴は、その小説世界にも反映されている。とりわけ短編小説は、アメリカの特性が凝縮されたエッセンスといえる。ストーリーを楽しみながら、それぞれの作家・作品及びその文化的背景を学んでいきたい。

## 【授業の目標】

アメリカの短編小説の特徴を知り、作家・作品や時代背景等への理解を深めることを目標とする。そのためには、テキストを丁寧に読むことで読解力を身につけることが必要となる。テキスト分析を通じて文学作品読解の可能性を探り、様々なテーマへと視野を広げることを目指したい。

## 【授業計画】

次の作品を読む予定。

- (前期) 1. Truman Capote "Miriam"  
2. Ernest Hemmingway, "Hills Like a White Elephant"  
他

- (後期) 1. Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"  
2. F. Scott Fitzgerald "The Ice Palace"  
他

作家や作品の描かれた時代背景について調べ、それが作品にどのように反映されているのかを考察する時間も設ける。

## 【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

・ *American Eves in Short Stories* (田中啓介/出井ヤスコ編注) 英宝社  
・ 授業中に配布するプリント

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## Reading II (Linguistics)

田中智之

## 【授業の概要】

英文テキストを読みながら、英語の成り立ちや多様性について学ぶ。

## 【授業の目標】

文法や構文を意識しながら英文を精読することを通じて、英文読解力を高めると同時に、英語学・言語学の専門分野への導入となる知識を身につける。

## 【授業計画】

- (1) 古英語と中英語
- (2) 近代英語とアメリカ英語の誕生
- (3) 現代英語の多様性
- (4) ヨーロッパにおける英語事情
- (5) アジアにおける英語事情
- (6) イギリス英語とアメリカ英語の違い

## 【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業時に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## English Grammar I

金子輝美

## 【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。多くの英文に触れ、(理論)と(実践)の両面から、英語表現そのものの理解し、味読できるようにする。次の事項を中心に講義を進める。

1. 現在、過去時制
2. 進行形
3. 完了形
4. 助動詞

## 【授業の目標】

英文法の学習を通して、個別言語としての英語の特質を認識し、実際に英語を読んだり書いたりする際に、英文法の知識を活かせるようにします。

英文法の知識がないと、正しい英文を書くことはできませんし、文構造を正しく把握しないと、長い文を読むことはできません。英文法の知識がある程度習得したら、実際に英語を書いたり読んだりして、英語表現の特徴に慣れることが必要です。英語表現そのものに目を向け、相当量の英文に触れることによって、英語らしい自然な表現がどのようなものかを実感できるようにしたいと思います。

## 【授業計画】

例文を理解し、練習問題を解いてみることを希望します。授業では、難解な部分を解説し、学生に頻繁に質問することによって理解度を確かめます。文法のための文法学習ではなく、最終的には、オールラウンドな英語力の涵養を目標とします。多くの英文例に触れるために、補助教材としてプリントを配布します。使用テキストには、コーパスに基づいて得られた生きた英語表現の用例が満載されています。また、懇切丁寧な解説が与えられています。前期は、言語の根幹をなすと思われる「時(time)と時制(tense)」、「相(aspect)」、「法(mood)」を中心に学習します。文脈を伴う用例の中で文法を学ぶことを心がけ、単なる暗記ではなく、「なぜそのような表現になるのか」を考えるようにしたいと思います。「使える英文法」の立場から、英作文に多くの時間を割きます。

## 【評価方法】

出席状況、課題、小テスト、定期試験前の予備テスト、定期試験の結果などを総合的に判断して評価します。各試験では、実力養成の立場から、学習事項に関連した応用問題が出されることがあります。

## 【テキスト】

「コーパス英文法」(樫野健次・内木場務 共著、開拓社)  
(A Corpus-Based Grammar of English)  
随時プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

使用テキストの著者による書物の中で、比較的読みやすく参考になるとと思われるものを紹介しておきます。テキストと同じ例文がいくつか使われており、それらには和訳が添えられています。

「テンスとアスペクトの語法」(樫野健次著、開拓社)  
現在時制、過去時制、未来時の表現、進行形、完了形などの文法事項が収められています。使用テキストの前半部と内容が一致しています。

「<こどわり>の英語語法研究」(内木場務著、開拓社)  
第1部「総論」、第2部「アスペクト、ムード、テンスの語法」で構成されています。進行形や仮定法について詳しい解説と考察が見られます。やや専門的な部分もありますが、例文は興味深く感じられます。

## English Grammar II

金子輝美

## 【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、(理論)と(実践)の両面から、英語表現そのものの理解し、味読できるようにする。また身近なことを平易な英語で表現する練習をする。

5. 仮定法
6. 関係詞
7. 不定詞と動名詞
8. 能動態と受動態

## 【授業の目標】

英文法の学習を通して、個別言語としての英語の特質を明らかにし、英語を書いたり読んだりする際に英文法の知識を最大限に活用できるようにします。教材は当該教科書だけでなく、小説、評論、英字新聞、雑誌、映画シナリオ、NHKラジオ・テレビ講座テキストなどに広く求めたいと思います。

## 【授業計画】

家庭で例文を暗記し、練習問題を解いてみることを希望します。授業では、難解な部分を解説し、頻繁に質問することによって理解度を確かめます。基本的事項から大学生として学ぶべき事項まで、幅広い領域にわたって説明を加えます。仮定法と助動詞に関しては、小説や英字新聞などの一部を読解することによって、それらがどのような場面でのように使われるのかを学びます。

## 【評価方法】

出席状況を重視します。課題、小テスト、定期試験前の予備テスト、定期試験を実施します。各試験では、学習事項に関連した応用問題が出されることがあります。

## 【テキスト】

「コーパス英文法」(樫野健次・内木場務 共著、開拓社)  
随時プリントを配布します。

## 【参考文献・資料】

本学図書館は英語関係の蔵書は豊富です。授業の中で随時紹介します。

## 英米思想

SELAND, John

### 【授業の概要】

文学や言語を学び理解するには、それらの基盤をなすものについての知識が必要不可欠である。

欧米のアイデンティティーを性格づける中心的要素はキリスト教である。この授業では、英米におけるキリスト教的人間観や価値観を論考する。なお、授業の進め方については、極めて基本的な内容にとどめること、および、関心や理解を深めるために、具体的な例証を取り上げ解説することに留意する。

### 【授業の目標】

- ・キリスト教に関して知っておきたい常識を得ること。
- ・キリスト教に基づく人間観や価値観を考察すること。
- ・キリスト教が欧米の文化や人々の生き方に及ぼした影響を考察すること。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで授業を行う。

- ・聖書
- ・キリスト教
- ・人間の尊厳
- ・キリスト教と欧米文化
- ・事例研究

T.モア、Fr. ダミアン、マザー・テレサ、他

そのほか、授業毎に約10分間、「聖書と英語表現」として事例を取り上げる。

### 【評価方法】

小テスト、最終レポート

### 【テキスト】

プリントを配付する。その他、授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜配付又は指示する。

## Speaking I

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

This course aims to make the students more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation in English. It will emphasize the vocabulary and other communication skills needed in normal everyday-life situations. The resources and teaching techniques employed will focus on situations relevant to Japanese students, for example: meeting foreigners in social settings; dealing with foreign customers; getting along with a host family during a home stay etc..

Cultural differences, relevant to each topic, will be introduced and discussed.

### 【Course objectives】

To provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

### 【Course schedule】

Students will talk about a wide variety of things including: their family; interests; part-time jobs etc.. They will be required to make recordings of their information / opinions as part of the on-going assessment.

Students will also be required to keep a "New Vocabulary" notebook.

### 【Assessment】

Active participation in all class activities will constitute the majority of marks awarded for this course. However, additional points will be awarded for the vocabulary lists.

Classwork 70% Vocabulary Notebook 30%

## Speaking II

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

This course aims to develop students' speaking proficiency, with particular emphasis placed on public speaking. The natural progression of speaking to a partner, then to small groups, and finally to larger groups will be the basis on which the class will be structured. Students will be encouraged to choose topics which will allow them to make such a transition relatively easily. Explaining about features of Japan and Japanese culture (in English) will be a key part of the practice sessions, and will provide the students with opportunities to appreciate the fundamentals of speaking in public.

### 【Course objectives】

This course will provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

### 【Course schedule】

The class time will be divided into three parts :

- Part A: vocabulary work
- Part B: discussion time
- Part C: student presentations

### 【Assessment】

Classwork (preparation and participation) 40%  
Presentations 30%  
Vocabulary 30%

## Basic English Studies

平林美都子 太田直子 大野光子 樗木勇作 久野幸子 小久保潤子  
山田幹郎 若山真幸 COLEBORNE, Bryan E.

### 【授業の概要】

英語圏の文学や文化そして英語を言語の習得や言語的な側面から幅広く理解するために、文学、演劇、言語研究の各領域からオムニバス方式で学ぶ。(若山真幸) 世界に様々な言語と現代英語の特徴を考察する。(樗木勇作) 洋楽から英語の発音や日本語との違いを訓練する。(太田直子) アメリカ小説のアメリカ人像や文化を解説する。(大野光子) ケルト文化のアイランド国家が英国植民地から脱却の経験を解説する。

(山田幹郎) シェイクスピア劇の読解からイギリス演劇への興味を喚起する。

(平林美都子) メルヘンのジェンダー構造を読み解き、隠されたジェンダーのメッセージを探る。

(久野幸子) 英文学作品と書かれた時代の社会、政治、経済、思想、言葉との関係性を考察する。

(未定)

### 【授業の目標】

英語圏世界に多様な言語・文化が存在することを学ぶ。

### 【授業計画】

第一回の授業時に、詳しいスケジュールについて説明をする。

- ・「世界の言語と英語」(若山)
- ・「洋楽で学ぶ英語音声学」(樗木)
- ・「アメリカ小説の中にもみる American Dream」(太田)
- ・「アイランド文学の伝統と文化」(大野)
- ・「シェイクスピアとイギリス演劇」(山田)
- ・「グリム童話におけるジェンダー表象」(平林)
- ・「文学(表現)とその外部」(久野)
- ・(未定)
- ・(未定)

### 【評価方法】

第一回の授業時に説明する。

### 【テキスト】

授業内で適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## フランス語 I

清水ベアトリックス

## 【授業の概要】

フランス語をゼロから学ぶと共に、フランスの風俗、文化、習慣も味わうことのできる授業です。担当教員は受講生がフランス語の授業を通じての対仏理解を深めるための手助けをする。

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）を使用して、受講生は、日常生活に必要なフランス語を身に付けることができます。

## 【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、3カ国語の相違点と類似点を学び、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

## 【授業計画】

- 1)Unit 1 - パリの人々
- 2)Unit 1 - 動詞の活用について
- 3)Unit 2 - ホテルの部屋
- 4)Unit 2 - 名詞と形容詞について
- 5)Unit 3 - ヴォージュ広場
- 6)Unit 3 - 疑問文について - 小テスト
- 7)Unit 4 - ジュリアンと彼の写真
- 8)Unit 4 - 形容詞の位置 - 否定文について
- 9)Unit 5 - 蚤の市で - 小テスト
- 10)Unit 5 - 冠詞のまとめ
- 11)Unit 6 - ロダン美術館
- 12)Unit 6 - 指示形容詞 - 所有形容詞について - 小テスト
- 13)まとめ
- 14)まとめ
- 15)試験

## 【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（3回）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

## 【テキスト】

Elle est gourmande - 彼女は食いしん坊  
(藤田 裕二 ・ 朝日出版社)

## ロシア語 I

水野晶子

## 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理など様々なロシア文化やロシアと英国との文化的関わりについても紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

## 【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話ができるようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

## 【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めます。授業は英語の知識もロシア語学習にフル活用できるように展開していきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他では中々学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かときっと出会えること請け合いです！授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. 曜日表現
10. いろいろな行為をロシア語にしてみよう
11. ～がほしい/～がしたい
12. 映画鑑賞
13. 気持ちをロシア語で伝えよう
14. 総復習
15. 試験

## 【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

## 【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

## フランス語 II

清水ベアトリックス

## 【授業の概要】

前期のフランス語Iに引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をしたりことにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

## 【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、3カ国語の相違点と類似点を学び、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

## 【授業計画】

- 1)前期の復習
- 2)Unit 7 - 牛肉の赤ワイン煮
- 3)Unit 7 - 中性代名詞について
- 4)Unit 8 - サッカー
- 5)Unit 8 - 疑問形容詞 - 命令形 - 小テスト
- 6)Unit 9 - ボン・マルシェで
- 7)Unit 9 - 比較級 - 最上級
- 8)Unit 10 - クレールの両親の家で - 小テスト
- 9)Unit 10 - 代名動詞について
- 10)Unit 11 - ルーアンの街
- 11)Unit 11 - 複合過去について - 小テスト
- 12)Unit 12 - 空港にて
- 13)Unit 12 - 未来形
- 14)まとめ
- 15)試験

## 【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（3回）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

## 【テキスト】

Elle est gourmande - 彼女は食いしん坊  
(藤田 裕二 ・ 朝日出版社)

## ロシア語 II

水野晶子

## 【授業の概要】

ロシア語IIに引き続き、ロシア語の基礎及び、ロシア語の初歩的な運用能力をステップアップさせていきます。ロシア語IIでは、ロシア語の仕組み(文法)についての知識をより深めていきますが、各回で取り上げる学習項目に関連させる形でロシアの文化についても適宜触れ、ロシアについての理解も深めていきます。

## 【授業の目標】

ロシア語の基本的な仕組み(文法)をロシア語 I から更に一歩進んだ形で理解すること、自分で簡単な文が作れるようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

## 【授業計画】

ロシア語 I と同様、毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めます。授業は英語の知識もロシア語学習にフル活用できるように展開していきます。

ロシア語 II では次の文法事項を毎回一つずつ取り上げます。

- ・動詞の現在変化
- ・動詞の過去形
- ・sja動詞の現在変化と過去形
- ・名詞の前置格
- ・名詞の対格
- ・名詞の生格
- ・u + 生格
- ・名詞の造格
- ・動詞の体（完了体・完了体）

## 【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

## 【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

## Writing III (E-mail and Business letters)

CURRAN, Beverley

### 【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### 【Course objectives】

The broad objectives of this course are to give students practice and develop their confidence in expressing themselves effectively in written English. More specifically, the goal is to prepare students to communicate in clear and concise English when writing e-mail and other business correspondence.

### 【Course schedule】

The course will begin with a survey of some of the computer skills required in business writing, including using the keyboard and word processing. In the first two-three weeks of the course, the emphasis will be on composing short, focused and effective e-mail. We will learn expressions commonly used in a variety of e-mail messages, and also the varying registers that are appropriate for business. In the following weeks, there will be practice attaching files to e-mail; sending photographs; as well as learning to organize your email effectively.

### 【Assessment】

Evaluation is based on effort, participation, and the quality of production. Students are responsible for timely submission of all assignments.

### 【Textbooks】

No text is required.

### 【Reference】

TBA

## Writing III (E-mail and Business letters)

ABE, David

### 【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### 【Course objectives】

- To understand the purpose of the internet
- To understand the difference between spoken and written discourse.
- To understand the way in which knowledge of generic structure of different text types improve writing.

### 【Course schedule】

- The course will begin with:
- Explain how communicating with others can be a productive learning experience for students.
  - List several forms of communication possible on the Web.
  - Identify the most common use of the Internet.
  - Register for a free e-mail account on the Web.
  - Generate, send, retrieve, save, and organize electronic messages.
  - Send electronic messages to several persons simultaneously.
  - Send and receive electronic messages that include attachments.
  - Create folders to store electronic messages.
  - Employ proper etiquette in all forms of communication.
  - Establish access to experts available on the Web to serve as primary sources in the classroom.
  - Describe how to manage collaborative student projects that involve other classrooms around the world.
  - Describe how chat sessions can be used by students for productive learning experiences.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the following:  
 Attendance 20%  
 Homework and assignments 20%  
 Midterm and final tests 60%  
 More detailed information will be given in the first class.  
 Turn off all mobile phones.

### 【Textbooks】

TBA

## Writing III (E-mail and Business letters)

DOIRON, Heather

### 【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

### 【Course objectives】

To teach students to write e-mail and business letters in English.

### 【Course schedule】

The following course is designed to explore the process of writing different business letters. Several course assignments must be submitted by email.

- Week 1 : Types of business letters
- Week 2 : Writing an order letter
- Week 3 : Writing an inquiry letter
- Week 4 : Writing a complaint letter
- Week 5 : Class assignment
- Week 6 : Review
- Week 7 : Writing a response letter
- Week 8 : Writing an acknowledgment letter
- Week 9 : Writing an adjustment letter
- Week 10 : Writing a resume cover letter
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

### 【Assessment】

70% Assignments and class work  
 30% Homework

Specific details to be announced at first meeting

## Writing IV (Research Papers)

CURRAN, Beverley

### 【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### 【Course objectives】

The goal of this course is to guide each student through the preparation of a research paper in English, from the selection of a research topic through to the final edit and timely submission of the paper. The emphasis is on students viewing the process of preparing a research paper in three stages -- research (content), writing (expression) and editing (accuracy) -- that each require attention.

### 【Course schedule】

1. Introduction to writing a research paper
2. Choosing a suitable topic
3. Outlining a research plan; gathering materials
4. Introduction: essay's mission statement and map
5. Using Quotations and avoiding plagiarism
6. Footnotes and Endnotes
7. Print and Electronic References
8. Conclusion
9. Revising
10. Editing
11. Abstract
12. Oral presentation

### 【Assessment】

Evaluation is based on effort and time management, as well as the quality of the research paper.

### 【Textbooks】

No text is required.

### 【Reference】

TBA

## Writing IV (Research Papers)

DOIRON, Heather

### 【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### 【Course objectives】

To teach students the necessary skills required to write a research paper.

### 【Course schedule】

This course is designed to help students present results of the investigation on a selected topic. Students will have the opportunity to gather, interpret, and document information. Emphasis will also be on organizing and communicating ideas in a proper and legit format.

Week 1 : Choosing a topic  
 Week 2 : Taking notes  
 Week 3 : Using Outlines  
 Week 4 : Paper format  
 Week 5 : Citing Sources  
 Week 6 : Citing Sources  
 Week 7 : Work cited page  
 Week 8 : Principles of Composition  
 Week 9 : Works cited  
 Week 10 : Class assignment  
 Week 11 : Class assignment  
 Week 12 : Final project Due

### 【Assessment】

50% homework and assignments  
 40% final project  
 10% attitude

Specific details to be announced at first meeting

### 【Textbooks】

*Writing Research Papers* (Matthew A Taylor and David E Kluge,6th Edition)

080101002\_0500 掲載順 :0500

MASTER ▲

## Writing IV (Research Papers)

ABE, David

### 【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

### 【Course objectives】

To learn to write a research paper in both MLA and APA standard form.  
 To conduct academic research skills, through accessing online search engines.  
 To develop reference skills.

### 【Course schedule】

The research paper, students must do the following:

- Conduct library research and demonstrate proficiency in the use of research technology, including on-line catalog, CD Rom, and other available computerized assists.
- Demonstrate proficiency in using standardized indices and reference works, books, periodicals, various electronic source material, and other appropriate resource.
- Utilize the following research components: bibliography cards, note cards, outlines, and drafts.
- Demonstrate skills in using the MLA and APA style of documentation along with an awareness of the existence of other documentation styles.
- Receive instruction through class discussion of plagiarism and its consequences. The research paper, students must do the following:
  - Conduct library research and demonstrate proficiency in the use of research technology, including on-line catalog, CD Rom, and other available computerized assists.
  - Demonstrate proficiency in using standardized indices and reference works, books, periodicals, various electronic source material, and other appropriate resource.
  - Utilize the following research components: bibliography cards, note cards, outlines, and drafts.
  - Demonstrate skills in using the MLA and APA style of documentation along with an awareness of the existence of other documentation styles.
  - Receive instruction through class discussion of plagiarism and its consequences.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the following:  
 Attendance 20%  
 Homework and assignments 20%  
 Midterm and final tests 60%  
 More detailed information will be given in the first class.

### 【Textbooks】

TBA

080101002\_0510 掲載順 :0510

MASTER ★

## Presentation I

WRINGER, Paul

### 【Course description】

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### 【Course objectives】

- To provide students with an opportunity to express their ideas and opinions about a variety of current everyday issues.
- To develop presentation preparation skills, understand the importance of delivery, and to become familiar with a variety of visual aids (including Powerpoint) .

### 【Course schedule】

Topics for discussion will be organized into five categories or themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society. Each category has topics that explore important values in our lives and will give the students an opportunity to exchange and express their own values, ideas and opinions in pairs, small groups and eventually in a Presentation format.

A substantial part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software. The goals of this introduction are as follows:

- Introduction to presentation software
- Basic design skills in presentation
- Integration of text, graphics and images
- Basic drawing skills
- Saving presentations

- Week 1 - 5: oral communication activities
- Week 6 - 10: oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week 11 - 15: Development and practice of simple PowerPoint presentation

### 【Assessment】

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- \* ATTENDANCE
- \* CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- \* HOMEWORK
- \* PRESENTATION

### 【Textbooks】

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

## Presentation I

ABE, David

### 【Course description】

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### 【Course objectives】

To develop a strategy for organizing and presenting.

To understand some of the factors to consider in determining the difficulty of speaking.

### 【Course schedule】

This Course will attempt cover two presentations and a final major project.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the following:  
 Attendance 20%  
 Class participation 20%  
 Assignments 60%  
 More detailed information will be given in the first class.

## Presentation I

DAVIES, Alun

### [Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

### [Course objectives]

1. Students will practise selecting and narrowing down suitable topics for communication and for later presentations.
2. Students will develop basic research skills connected to their topic of communication.
3. Students will develop and practise basic organizational skills for presentations.
4. Students will learn to use effectively Powerpoint presentation software.

### [Course schedule]

Part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software.

- Week 1 – 5 : oral communication activities
- Week 6 – 10 : oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week 11 – 15 : Development and practice of simple PowerPoint presentation

### [Assessment]

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- \* CLASS PARTICIPATION
- \* HOMEWORK
- \* PRESENTATIONS

### [Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

## Reading III (Newspaper)

DYCUS, David C.

### [Course description]

The purpose of this course is to improve students' ability to read and comprehend the types of texts commonly found in newspapers, with a focus on straight news articles, special columns, and editorials. There will be a focus on developing knowledge of grammatical patterns and organizational patterns commonly associated with newspaper texts, and there will be an emphasis on topic-specific as well as general vocabulary development. In addition to serving as reading and study material, newspaper texts will also provide topics for discussion and other learning activities.

### [Course objectives]

1. To improve students' ability to recognize common aspects of newspaper article organization and presentation of information.
2. To improve students' knowledge of vocabulary and grammatical patterns common to newspaper articles in general as well as specific content areas.
3. To improve students' ability to "read between the lines" and grasp a writer's intent.

### [Course schedule]

The course will combine a textbook of pre-selected newspaper articles and exercises with current newspaper texts selected weekly from major newspapers with comprehension questions and various exercises added. The combination of texts will provide reading and discussion material, and will also be the basis for regular vocabulary quizzes. Topics will depend on the news events of the day, selected either according to student interests or teaching needs.

### [Assessment]

Assessment will be ongoing. 40% of the grade will be based on attendance and active participation in class activities, and 60% will be based on an ongoing series of vocabulary/structure quizzes related to the weekly reading material and from review quizzes.

### [Textbooks]

To be announced

## Presentation II

ARNOLD, Brent C.

### [Course description]

This course will further enhance the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to refine and improve their presentation skills and strategies (in particular, their prowess with PowerPoint), whilst also demonstrating an improvement in their ability to prepare and deliver an effective presentation. Constructive advice and feedback from other participants will be encouraged.

### [Course objectives]

The main objective for this course is to familiarise students with the capabilities of PowerPoint presentation software. To appreciate and use the software to facilitate more visual and verbal contact with listeners in an English environment.

### [Course schedule]

Students will first be familiarised with teaching aids and how to use them. Short presentations will be given using teaching aids such as Video and OHC (Over Head Camera) . Main area of study will be the use of Microsoft PowerPoint and using it as a tool for presentations.

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, research and presentations.

### [Textbooks]

No text, as necessary, however memory in the form of MO, DS or USB memory stick (min 128meg)

## Reading III (Newspaper)

DOIRON, Heather

### [Course description]

This course will concentrate on developing reading skills, expanding vocabulary, and increasing understanding of newspaper articles written in English. Focus will be on topical as well as practical applications of both common occurring terms and trends.

### [Course objectives]

To encourage students to be more familiar with the contents and topics covered in English newspapers.

### [Course schedule]

Topics that will be considered include:

- World news
- Health and related vocabulary
- Headlines, reading and understanding
- Sports, entertainment news
- Business articles and vocabulary

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various reading and vocabulary quizzes throughout the course.

### [Textbooks]

None

## Reading III (Newspaper)

MOLOTSI, Prisca

### 【Course description】

This course will focus on developing knowledge of common grammatical patterns and organizational patterns commonly associated with newspaper texts, and there will be an emphasis on topic-specific as well as general vocabulary development. In addition to serving as reading and study material, newspaper texts will also provide topics for discussion and other learning activities.

### 【Course objectives】

The purpose of this course is to improve students' ability to read and comprehend the types of texts commonly found in newspapers, with a focus on straight news articles, special columns, and editorials.

### 【Course schedule】

The course will combine a textbook of pre-selected newspaper articles and exercises with current newspaper texts selected weekly from major newspapers with comprehension questions and various exercises added. The combination of texts will provide reading and discussion material, and will also be the basis for regular vocabulary quizzes. Topics will depend on the news events of the day, selected either according to student interests or teaching needs.

### 【Assessment】

Assessment will be ongoing. One-third of the grade will be based on attendance and active participation in class activities, one-third will be based on vocabulary/structure quizzes related to the weekly reading material, and one-third will come from tests.

### 【Textbooks】

To be announced

## Reading IV (Internet)

ABE, David

### 【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as academic research on the web. The aim of this course will be to ensure that students are able to implement internet as tool for research in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Reading CNN global news, and exploring informative web site.

### 【Course objectives】

To conduct academic research skills, through accessing online search engines.

### 【Course schedule】

The first half of the course will focus on academic research methods. The second half of the course will implement these research methods into two research projects.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the following:

attendance 20%  
class participation 20%  
assignments 60%

More detailed information will be given in the first class.

### 【Textbooks】

TBA

## Reading IV (Internet)

WRINGER, Paul

### 【Course description】

This course is aimed at lower to upper intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be not only a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase student's vocabulary while helping them to cope with new words.

### 【Course objectives】

- To give students opportunities to read aloud and in private to get the gist of the reading material and to practice establishing meaning through contextual clues.
- To help students develop reading skills they will use throughout their reading careers-skills such as scanning, summarizing, identifying the main idea, and recognizing connectors and other devices.

### 【Course schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

- PEOPLE
- RELATIONSHIPS
- THE WORKPLACE
- FAMILY
- SOCIETY

### 【Assessment】

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Attendance  
Class participation  
Homework and assignments  
End of semester report

### 【Textbooks】

To be decided during the first week of classes

## Reading IV (Internet)

DAVIES, Alun

### 【Course description】

An integrated approach to English with focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

### 【Course objectives】

1. Students will, under guidance, select suitable Internet materials for classroom communication.
2. Students will develop some appreciation of the structure of English writing and develop techniques for effective reading.
3. Students will learn how to develop and channel reading material into discussion work.
4. Students will develop some understanding of types of vocabulary, particularly lexical chunks.

### 【Course schedule】

A variety of topics will be covered over a two to three week period.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Class participation  
Homework and assignments

### 【Textbooks】

To be decided during the first week of classes

## Academic Writing I

太田直子 樗木勇作 平林美都子 小久保潤子 若山真幸

### 【授業の概要】

この授業では、英文学科の必修科目である「卒業論文」作成に向けて、レポートや論文執筆のための基本的知識を体得した上で、実際にレポート執筆や論文作成の演習を行い添削指導を受け、同時にインターネットによる文献探索方法を含めた、研究手段・方法の基礎を固めることを目的とする。

### 【授業の目標】

「読む」とはどういうことか、レポート・論文とは何かを具体的に理解し、テキストの要約の作り方や批判的読解の方法について学んだことを実践できるようにする。また、レポート・論文の作成方法・構成・問題設定方法・注や参考文献の書き方についても学んだことを実践できるようにすることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1 「読む」とはどういうことか
- 2 学術的な読書をする
- 3 要約をする
- 4 テキスト分析の具体例
- 5 レポート・論文とは何か
- 6 レポート・論文を書く準備
- 7 レポート・論文をまとめる
- 8 注、引用・参考文献の書きかた
- 9 ディベートとは何か
- 10 ディベートの仕方
- 11 ディベートをする
- 12 プレゼンテーションとは何か
- 13 文献探索方法実習

\* 授業計画の順番は授業担当者や実習の都合により前後することがある。

### 【評価方法】

出席・授業態度・授業内演習の態度・課題などを総合的に判断して評価する

### 【テキスト】

「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 (松本茂/河野哲也 玉川大学出版部 2007)

### 【参考文献・資料】

レポート・論文の書き方入門 (河野哲也 慶應義塾大学出版会)

080101002\_0620 掲載順:0620

MASTER ★

## Academic Writing II

DOIRON, Heather

### 【Course description】

This course will concentrate on developing writing skills aimed at non-personal and academic writing. Additionally, writing will be taught as process with emphasis on creating a body of writing, developing, structuring, and editing. It will also include modules on time management for writing assignments.

### 【Course objectives】

To encourage students to develop both practical and proper English writing skills.

### 【Course schedule】

Topics that will be considered include:

- Idea creation
- Developing topics
- Focusing topics
- Understanding the writing process
- Outlining
- Peer review
- Supplying supporting details
- Brainstorming
- Developing language skills through writing

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various writing exercises and vocabulary quizzes throughout the course.

### 【Textbooks】

*Great Gatsby* (F. Scott Fitzgerald)

## Academic Writing II

DYCUS, David C.

### 【Course description】

In this course students will work on producing texts with the style and logical organization associated with academic writing. Participants in this class will compare and contrast short academic texts with other types of texts as a way of seeing the differences in styles. These texts will also provide topics for the students to discuss and write about. Students will also study the common generic structure and organizational patterns of academic essays and reports. Summarizing skills and the proper use of citations, quotations, and paraphrases will also be addressed. Students will be expected to demonstrate mastery of these various points in academic essays and reports of their own on both assigned and self-selected topics.

### 【Course objectives】

To improve students' ability to produce texts that meet commonly accepted standards for logical organization and clarity in texts in the academic genre.

### 【Course schedule】

The extent and rate of information covered in the course will depend in part on the ability of the students. The following are examples of what will definitely be covered in the course.

1. Differences and similarities between academic writing and other types of writing.
2. The generic structure of academic English essays and reports and related grammatical aspects and vocabulary.
3. Common text types in academic writing, especially comparison-contrast, cause-effect, analysis, and definition.
4. Useful strategies for writing introductions and conclusions in academic style.
5. Logical development and presentation of ones arguments.
6. Summarizing and paraphrasing other people's arguments, ideas, and research.

### 【Assessment】

Assessment will be ongoing. One third of the grade will be based on attendance and active participation in class, one third will be based on short homework assignments and quizzes, and one third will be based on a final research paper in which students will demonstrate how well they have mastered the skills taught in the course.

### 【Textbooks】

To be announced

080101002\_0630 掲載順:0630

MASTER ★

## Academic Writing II

MOLOTSI, Prisca

### 【Course description】

In this course students will work on producing texts with the style and logical organization associated with academic writing. Participants in this class will compare and contrast short academic texts with other types of texts as a way of seeing the differences in styles. These texts will also provide topics for the students to discuss and write about. Students will also study the common generic structure and organizational patterns of academic essays and reports. Summarizing skills and the proper use of citations, quotations, and paraphrases will also be addressed. Students will be expected to demonstrate mastery of these various points in academic essays and reports of their own on both assigned and self-selected topics.

### 【Course objectives】

The goal of Academic Writing II is to enable students to read and respond to academic texts written in English. Students are asked to read, evaluate, and respond to various texts. Throughout the semester, students should become familiar with the wide range of rhetorical options available—narration, classification, and argument. Students are also expected to learn how to argue a point of view in their papers, while taking into consideration the views of others. In doing this, students will need to know how to use the conventions of quotation, citation, and paraphrasing.

### 【Course schedule】

The extent and rate of information covered in the course will depend in part on the ability of the students. The following are examples of what will definitely be covered in the course.

1. Differences and similarities between academic writing and other types of writing.
2. The generic structure of academic English essays and reports and related grammatical aspects and vocabulary.
3. Common text types in academic writing, especially comparison-contrast, cause-effect, analysis, and definition.
4. Useful strategies for writing introductions and conclusions in academic style.
5. Logical development and presentation of ones arguments, as well as producing effective counter arguments.
6. Summarizing and paraphrasing other people's arguments, ideas, and research.

### 【Assessment】

Assessment will be ongoing. One third of the grade will be based on attendance and active participation in class, one third will be based on short homework assignments and quizzes, and one third will be based on longer pieces of writing such as student essays and reports.

### 【Textbooks】

To be announced



## British Culture

EASLEY, Keith

### 【Course description】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座  
イギリスの文化全般について、特にリーズ大学で行われる研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week.

Many of the following subject areas will be considered :

Britain's Contribution to World Culture  
Money and Work  
Language & History  
Education  
Food & Drink  
Traditions, Manners, and Attitudes  
Art, Film and Music  
Britain's Class System.  
Britain & Japan  
Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised. Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. Class size may be limited and there may be a test in the first lesson.

### 【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

### 【Course schedule】

The course will be taught entirely in English. Each week there will be a lecture on one of the topics.

### 【Assessment】

Assessment will be by class participation, a test at the end of the semester, and homework essays.

### 【Textbooks】

None

## Irish Culture

CULLEN, Brian

### 【Course description】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

### 【Course objectives】

This course will increase students' understanding of Irish culture.

### 【Course schedule】

Method: Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

### 【Assessment】

Assessment: Grades will be based on participation, homework and a test.

### 【Textbooks】

Land of Song and Story : An Introduction to Ireland (book & CD)

## American Culture

DYCUS, David C.

### 【Course description】

This course will be a general introduction to the culture, customs, common practices, and common values of the people of the United States of America, and the historical background behind them. The goal of the course is to familiarize class participants with what are commonly termed "mainstream" values and practices (essentially those of the dominant white middle-class) as well as those of the major minority groups which form an increasingly large percentage of the population of the country. A solid understanding of any culture requires a general understanding of major social institutions such as religion, education, and the family, so these topics will also be covered.

### 【Course objectives】

The objective of this course is to provide students with a wide ranging introduction to the general aspects of American culture through the general framework of the values approach to cultural analysis.

### 【Course schedule】

The list below presents the topics which will be discussed in the class but not necessarily the order in which they will be presented.

1. Common American values and attitudes and how they shape the American world view
2. Living history: an overview of certain major events and figures in American history up the present and which influence modern American culture.
3. Religion and its place in modern American culture
4. Immigration in the past and ethnic relations today
5. The American Indians, past and present
6. The influence of "the West" on American thought
7. Marriage and family relations
8. Schooling
9. Holidays and ceremonial events
10. Communication preferences and style

### 【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation (25%), 2) quizzes (25%), and a final test or presentation (to be determined by the instructor depending on class size and ability level) (50%).

### 【Textbooks】

To be announced

## 比較文化

松本青也

### 【授業の概要】

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響を受けています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

### 【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識して異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

### 【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日英語の衝突と CTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化
15. まとめ

### 【評価方法】

毎回の感想、最終レポート、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

## 英語学概論

樗木勇作

## 【授業の概要】

英語学の全体像、研究領域の概要、研究課題などについて論じる。英語研究の現状をなるべく平明に紹介し、英語研究への動機を与え基盤を築くことを目標とする。また英語学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

## 【授業の目標】

言語学における英語研究という立場から、英語を対象とする言語研究の分野や英語学で扱う事象を幅広く理解することを目標とする。

## 【授業計画】

- 説明 → 練習問題 → 解説
1. 英語学とは 世界の中の英語
  2. 統語論 (1) 文の組み立て
  3. 統語論 (2) 文法の操作
  4. 形態論
  5. 音韻論
  6. 意味論
  7. 語用論
  8. 英語史
  9. 文体論・コミュニケーション
  10. 人間・文化・社会

## 【評価方法】

1. 小テスト・試験 (50%)
  2. 出席 (30%)
  3. 授業への積極的参加 (20%)
- 授業への積極的参加とは、問題演習に取り組む姿勢、説明を聞く態度などを含む。  
教科書と辞書は必ず各自で所有し、授業に持参すること。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

未定

## 英米文学概論

久野幸子

## 【授業の概要】

英米の文学作品を分析するためには、文学技法の基礎を学習することが不可欠である。英米文学に対応鑑賞する基本的な態度と知識を論じていく。詩歌、劇作、小説の性質、諸要素が、実際の作品の中でどのように表現されているのかを分析、研究する。また文学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

## 【授業の目標】

- (1) 英米文学を読む、あるいは映像化された作品 (映画やアニメなど) を観る楽しさを実感する。
- (2) 作品 (の抜粋) を読みながら、文学技法の基礎を学ぶ。
- (3) 文学研究とは何かということを文学の論文を読んで考える。

## 【授業計画】

7、8世紀ごろに始まったとされるイギリス文学の流れにほぼ従って、『ベオウルフ』から20世紀までの英文学について考察する。その過程で、(1) 叙事詩について (2) チョーサーと物語文学 (3) シェークスピアとその時代 (4) ジャーナリズムの誕生 (5) 小説の世紀 (6) 現代社会とユートピア文学などについて詳しく考察する。

## 【評価方法】

平常点 (出席、受講態度など) と小テスト、期末テストで総合的に評価する。

## 【テキスト】

イギリス文学史 (川崎寿彦 成美堂)

## 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 英米文学概論

山田幹郎

## 【授業の概要】

英米の文学作品を分析するためには、文学技法の基礎を学習することが不可欠である。英米文学に対応鑑賞する基本的な態度と知識を論じていく。詩歌、劇作、小説の性質、諸要素が、実際の作品の中でどのように表現されているのかを分析、研究する。また文学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

## 【授業の目標】

英文学の基礎的な知識を修得すること。

## 【授業計画】

テキストに即し原則として1週に1章ずつ探索し、必須の事項についてまとめ報告してもらう。

## 【評価方法】

レポート、小テスト、発表、出席による総合評価

## 【テキスト】

イギリス文学史 (川崎寿彦 成美堂)

## 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## Practicum in English Linguistics I

樗木勇作

## 【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

英語音声学を英語形態論と統合的に扱い、英語の音声のルールや単語の成り立ちについて基礎的理解を得ることを目標とする。

## 【授業計画】

1. Spelling and Sounds in English
2. Phonemes
3. The Consonants of English
4. The Vowels of English
5. Phonemes and allophones
6. The Systematicity of Phonology
7. Environment and Contrast
8. Phonological rules
9. Vowel Nasalization in English
10. Vowel Lengthening in English
11. Aspiration in English
12. Flapping in American English
13. English Phonotactics
14. Syllable Stress in English

## 【評価方法】

未定 (最初の授業等で説明する)

## 【テキスト】

未定 (最初の授業等で説明する)

## 【参考文献・資料】

未定 (最初の授業等で説明する)

## Practicum in English Linguistics I

若山真幸

## 【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

- 音声学や音韻論の内容をベースに、それらが他の英語学分野とどのように関連するか学習する
- 日英語で使用される音声を学び、日本語との違いを理解する
- 音やリズムのしくみを知り、実際の英語運用能力向上につなげる

## 【授業計画】

- Sounds and Symbols
- Vowels and Consonants
- Syllable Structure
- Phonotactics & phonological rules
- Some phonological differences between American and British English
- Intonation patterns
- Rhythm and Assimilation

これらのテーマに関する文献や資料、あるいは音楽CDを使って講義を進める。

## 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

## 【テキスト】

適時、プリントを配布する

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する

## Practicum in English Linguistics II

樗木勇作

## 【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

英語形態論・統語論を中心に音声学や音韻論とも統合的に扱うことで、英語の単語構造や文構造について基礎的理解を得ることを目標とする。

## 【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わさってどのように「文」になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、身近な日本語の例と比較しながら、語形成や文形成をどのように処理しているか一緒に見つけていきたい。

- ことばを構成する要素にはどんなものがあるか？
- 単語の構成－形態素
- 様々な語形成
- 語形成に関する様々な制約
- 文の形成
- 文の基本語順とは？
- 英語と日本語の基本語順の違い？
- 文の曖昧性はどのように生じるのか？
- 基本語順とは違う語順の文－疑問文や受動文
- その他様々な構文を考察する

## 【評価方法】

授業への積極的参加・演習態度 (40%) + レポート (30%) + 出席 (30%)

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Practicum in English Linguistics II

若山真幸

## 【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

- 音から語、語から句、句から文へのつながりについて学習する
- 音韻論・形態論・統語論がいかに密接に結びついているか学習する
- 日英語の違い等を知る

## 【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わさって、どのように文になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、身近な日本語の例と比較しながら、我々言語話者が語・文形成をどのように処理しているか一緒に見つけていきたい。

- ことばを構成する要素にはどんなものがあるか？
- 単語の構成－形態素
- 様々な語形成
- 語形成に関する様々な制約
- 文の形成
- 文の基本語順とは？
- 英語と日本語の基本語順の違い？
- 文の曖昧性はどのように生じるのか？
- その他様々な構文を考察する

## 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

## 【テキスト】

適時プリントを配付する

## 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Practicum in English Linguistics III

樗木勇作

## 【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

英語意味論・語用論を中心に、音声学・形態論・統語論とも統合して、言語の意味の仕組みやコンテキスト・話し手・聞き手のダイナミズムで決定される語用論の中心概念について基礎的理解を得ることを目標とする。意味論・語用論にとどまらず、イギリス英語とアメリカ英語の違い等にも一定の理解を得ることを目指す。

## 【授業計画】

1. Compositional and Noncompositional meaning
2. Ambiguous words
3. Ambiguous sentences
4. Homophony and polysemy
5. Evaluative and Emotive meaning
6. Idioms and Pronouns
7. Identifying the Message
8. Communication Breakdown
9. Literal/Nonliteral Use
10. Indirectness
11. Performative Verbs versus Perlocutionary Verbs
12. Pronoun/Antecedent Agreement: English

## 【評価方法】

未定 (最初の授業等で説明する)

## 【テキスト】

未定 (最初の授業等で説明する)

## 【参考文献・資料】

未定 (最初の授業等で説明する)

## Practicum in English Linguistics III

若山真幸

## 【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。  
意味論・語用論の内容をもとに、発話した文を日常生活でどうやって運用しているかに焦点をあてる

- ・言葉や文が持つ意味とは？
- ・コロケーションなどの語と語の意味的な結びつき
- ・皮肉や比喩を言語学的に分析する
- ・発話行為、情報構造（語順の絡みで統語論と重なる）などを学習する

## 【授業計画】

意味論に関して

- ・ Homophony and polysemy（同音異義と多義）
- ・ Lexical Ambiguity vs Structural ambiguity（あいまい性）
- ・ Metaphor（比喩）
- ・ Collocation and grammaticality（コロケーション）

語用論に関して

- ・ Information Structures（情報構造）
- ・ politeness（丁寧表現）

## 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

## 【テキスト】

授業用資料を配布する

## 【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

## The Best British/American series

太田直子

## 【授業の概要】

最新の雑誌や、現在活躍する作家のエッセーや短編などをはじめとして、様々なジャンルについて書かれたものを読む。今のアメリカ文学はどんな作品が読まれているのかを知ると共に、政治経済等の関わりをも考察しながら現在のアメリカを読む。

## 【授業の目標】

「アメリカを知る」を目標に、今のアメリカを出版物を通してみる。  
また、過去に行われた大統領をはじめとしたアメリカを代表する人々のスピーチを文字で読むことで、アメリカ流の主張、思想を知ることにも試みる。翻訳することが目標ではない。

## 【授業計画】

The Best American Seriesの中から、短編小説、エッセーを読むことはもちろん、最新の雑誌、そしてスピーチ集から、アメリカらしい文章をよむ。輪読で与えられた教材を読み、さらにそれについてディスカッションする。

## 【評価方法】

学期末レポート50%、授業内での発表・発言50%

## 【テキスト】

プリントを配布

## 【参考文献・資料】

授業中に説明する

## Introduction to English Reading I (novel)

久野幸子

## 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

## 【授業の目標】

- (1) まず、英文を正確に読みとる力を養成する。
- (2) 作品が書かれた時代について学ぶ。
- (3) 作品の叙述技法などについて学ぶ。

## 【授業計画】

18,19世紀のイギリス作家の短篇や小説（抜粋）を素材に、作品の特質とそれらを生み出した社会との関係を考察する。

## 【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末テストで総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## Introduction to English Reading I (novel)

小久保潤子

## 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。文化的背景を考慮しながら作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

## 【授業の目標】

アメリカを代表する作家Nathaniel Hawthorneがギリシャ神話を語りなおした*A Wonder-Book for Girls and Boys*を採り上げて精読し、確実な読解力を身につけることを目標とする。整った文体を楽しみながら、視野を広げ、作家・作品への理解を深めてもらいたい。

## 【授業計画】

*A Wonder-Book for Girls and Boys*

- ・ Preface
- ・ Tanglewood Porch: Introductory to "The Gorgon's Head"
- ・ "The Gorgon's Head"
- ・ Shadow Brook: Introductory to "The Golden Touch"
- ・ "The Golden Touch"
- 他

各授業には和訳する作業が含まれる。加えて、担当者を決め、担当箇所の内容に関して発表してもらい、その後クラス全体でディスカッションしながら進めていく。

## 【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業中に配布するプリント  
他、授業中に指示

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## Introduction to English Reading I (novel)

太田直子

## 【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

## 【授業の目標】

Pulitzer賞を受章したアメリカの作家の短編小説を取り上げる。作品の書かれた時代背景、作者の意図を読み取ることができるよう、単語の一つ一つにも注意を払って読み、訳せるようになることを目標とする。アメリカの独特の文化を、文学作品を通して理解し、実感してほしい。

## 【授業計画】

次の作品を読む

John Steinbeck "Breakfast"

William Saroyan "The First Day of School"

Ernest Hemingway "Indian Camp"

作家、時代背景については解説をし、授業では、指名された学生が音読し訳す作業を行う。

## 【評価方法】

学期末のテスト+提出物  
出席による加点はないが、授業を1/3の以上欠席した場合は、履修意欲がないと見なし、その事実を評価の対象とする。  
詳しくは授業内で説明する。

## 【テキスト】

「Famous Short Stories -Pulitzer Prizewinning Writers-」(Asahi Press)

## 【参考文献・資料】

授業の際に説明する

## Introduction to English Reading II (poetry &amp; drama)

山田幹郎

## 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

## 【授業の目標】

英詩の読解力を涵養すること。

## 【授業計画】

イギリスの珠玉の詩編の形式と内容を具体的に丹念に分析・解釈し、翻訳していく。

## 【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、出席回数によります。

## 【テキスト】

英詩鑑賞入門 (新井明 研究社出版)

## 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## Introduction to English Reading II (poetry &amp; drama)

三原 穂

## 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

## 【授業の目標】

英米の詩を、その内容を十分に理解したうえで、日本語に正確にかつうまく訳す方法を考える。このように、翻訳の基礎力を養うと同時に、英詩における音読の重要性を認識したい。

## 【授業計画】

予習と演習の二本立てで授業を進める。予習では、ロマン派詩人やT. S. Eliotなどの作品を解釈してきてもらい、演習では、バラッド詩を授業内で翻訳する訓練を行う。さらに、三週間に一回の割合で発表の機会をつくり、一人一回発表を行ってもらう。

## 【評価方法】

出席状況(20%)、授業態度(10%)、発表への取り組み具合(30%)、発言などによる授業への貢献度(10%)、レポート(30%)など、総合的に評価したい。

## 【テキスト】

ハンドアウトを配布する。

## 【参考文献・資料】

随時紹介したい。

## Introduction to English Reading II (poetry &amp; drama)

山田久美子

## 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。劇は本来上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

## 【授業の目標】

詩の形式を理解し、朗読することを意識しながら翻訳する。  
また、演劇を深く理解し、登場人物の気持ちを分析しながら翻訳する。

## 【授業計画】

1. いくつかの英米の詩を読み、解釈をしながら、翻訳の訓練をしていく。また、詩の朗読のテープなどの鑑賞も行う。
2. 演劇とはどういうものかという基礎的なことを学び、作品を読みながら、舞台上演を意識した日本語にしていく。

## 【評価方法】

出席や受講態度などの平常点、レポート、定期試験などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

Old Possum's Book of Practical Cats (T.S. Eliot著 古川弘之編注 音羽書房鶴見書店)

## 【参考文献・資料】

講義時に指示する。

## English Reading I (novel)

久野幸子

## 【授業の概要】

翻訳基礎（小説）で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

## 【授業の目標】

作品を精読し、内容の深い理解を試みるが、その際、下記の3項目をとくに考慮の対象とする。

- (1) その作品と作者の作品世界全体との関係
- (2) その作品とそれが書かれた時代との関係
- (3) その作品と現代社会との関係

## 【授業計画】

18, 19世紀イギリス作家の中篇及び長篇小説を素材に、それぞれの作品を精読し、内容の深い理解を目指す。扱う作家としては、今年度はジェイン・オースティン、シャーロット・ブロンテ、ジョージ・エリオットなどを考えている。

## 【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末テストで総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## English Reading I (novel)

太田直子

## 【授業の概要】

翻訳基礎（小説）で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

## 【授業の目標】

前期に開講された、「Introduction to English Reading I (novel)」に引き続き、Pulitzerを受章した作家の短編小説を取り上げる。書かれた時代背景、作者の意図を読み取ることができるよう、単語の一つ一つにも注意を払って読み、訳せるようになることを目標とする。

アメリカの独特の文化を、文学作品を通して理解し、実感してほしい。

## 【授業計画】

次の作品を読む。

Bernard Malamud, "A Summer's Reading"  
Tennessee Williams, "Mama's Old Stucco House"  
Pearl Buck, "The Kiss"

作家や作品の描かれた時代背景について調べ、それが作品にどのように反映されているのかを考察する時間ももうける。

## 【評価方法】

学期末テストと提出物、発表による評価

## 【テキスト】

[Famous Short Stories-Pulitzer Prizewinning Writers-] (asahi press)  
1,200

## 【参考文献・資料】

授業内で説明する

## English Reading I (novel)

小久保潤子

## 【授業の概要】

翻訳基礎（小説）で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

## 【授業の目標】

前期に引き続き、Nathaniel Hawthorneによるギリシャ神話A Wonder-Book for Girls and Boysを採り上げて精読し、さらなる読解力を養っていききたい。また、テキスト分析を通じて作品や作家への理解を深め、読みの可能性を探りながら、心理や文化に関する様々なテーマへと視野を広げることも目標とする。余裕があれば、他の短篇も採り上げる。

## 【授業計画】

A Wonder-Book for Girls and Boys  
・ Tanglewood Play-Room: Introductory to "The Paradise of Children"  
・ "The Paradise of Children"  
・ Tanglewood Play-Room: After the Story  
・ Tanglewood Fireside: Introductory to "The Three Golden Apples"  
・ "The Three Golden Apples"  
・ Tanglewood Fireside: After the Story

他

各授業ごとに、担当者を決め、担当箇所の翻訳、内容に関して発表してもらいながら進めていく。その後クラス全体でディスカッションしながらより掘り下げた考察を行いたい。

## 【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業中に配布するプリント  
他、授業中に指示

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## English Reading II (poetry &amp; drama)

山田幹郎

## 【授業の概要】

翻訳基礎（詩・演劇）で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じることを試みる。

## 【授業の目標】

シェイクスピア喜劇の読解力を涵養すること。

## 【授業計画】

シェイクスピアの代表的な喜劇1編の主な箇所を精読し、翻訳する。

## 【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、翻訳による総合評価によります。

## 【テキスト】

As You Like It (柴田稔彦 編注 大修館)

## 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## English Reading II (poetry &amp; drama)

山田久美子

## 【授業の概要】

翻訳基礎(詩・演劇)で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じるを試みる。

## 【授業の目標】

詩と演劇を解釈しながら、翻訳することを目標とする。特に、詩の翻訳は、朗読することを意識しながら、美しい日本語で表現する。演劇は、登場人物の性格や気持ちを理解し、演じることを意識しながら、翻訳する。

## 【授業計画】

アイルランドの詩2編とイギリス演劇 (Arnold Wesker, *The Kitchen*)を取り上げ、文化的背景、作家などについて学びながら、翻訳をする。

1. 詩については、朗読し、日本語として自然であるかどうかを確認する。
2. 演劇が総合芸術であることを意識し、演劇の台詞を日本語にする。  
英語と日本語の両方で、リーディングをしたり演じたりする。  
また、映像などで作品についての理解を深める。

## 【評価方法】

出席や受講態度などの平常点、レポート、定期試験などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

講義時に指示する。

## English Reading II (poetry &amp; drama)

三原 穂

## 【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

## 【授業の目標】

前期で養った翻訳の基礎力をもとに、難しい英詩の解釈に挑戦する。できれば、邦訳されていない作品を翻訳することを目指したい。

## 【授業計画】

授業内で、前期で扱ったものよりも難しい英詩を日本語に訳す訓練を行う。さらに、三週間に一回の割合で発表する機会をつくり、各自が翻訳する予定の詩作品について一人一回報告を行ってもらおう。この報告をしたうえで、最後に翻訳をレポートとして提出する。

## 【評価方法】

出席状況(20%)、授業態度(10%)、発表への取り組み具合(30%)、発言などによる授業への貢献度(10%)、最後に提出されるレポート(30%)など、総合的に評価する。

## 【テキスト】

ハンドアウトを配布する。

## 【参考文献・資料】

随時紹介したい。

## 社会言語学 I

DONAHUE, Ray T.

## 【Course description】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

## 【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

## 【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Course Introduction
- 2 Sociolinguistics as a Field of Study
- 3 Concepts of Society and Culture
- 4 Language, Society, and Identity (1)
- 5
- 6 Language, Society, and Identity (2)
- 7
- 8 Language, Society, and Ethnicity
- 9
- 10 Language, Society, and Gender
- 11
- 12 Language, Society, and Culture
- 13
- 14 Cross-Cultural Applications

## 【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

## 【Textbooks】

To be announced in class.

## 社会言語学 II

DONAHUE, Ray T.

## 【Course description】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of 社会言語学 I. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

## 【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

## 【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Introduction
- 2 Communication and Culture
- 3
- 4 Cultural Factors in Communication
- 5
- 6 Culture and Beauty
- 7
- 8 Culture and Perception
- 9
- 10 Discourse Analysis
- 11 Contrastive Rhetoric
- 12
- 13 Applications of Discourse Analysis
- 14

## 【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

## 【Textbooks】

To be announced in class.

## History of British &amp; American Literature I・II

久野幸子

## 【授業の概要】

8世紀から19世紀までのイギリス文学の概略を学ぶ。どのような時代背景のなかでどのようなジャンルのどのような作品が生まれるのかを追求し、さらに文学そのものの大きな流れを読み取る。

## 【授業の目標】

イギリス文学の歴史を、イギリス、ヨーロッパあるいは世界の歴史との関連のなかで、考察する。かつては大英帝国として、世界に君臨した英国だが、現在はヨーロッパの主要国のひとつでしかない。しかし、英語が世界語となりつつある現在、イギリス文学の歴史を学ぶ意義は大きいと思われる。小説だけでなく、詩や戯曲も時間の許す限り、扱いたい。

## 【授業計画】

前期:

8世紀ごろから17世紀まで

後期:

18世紀から現代まで

## 【評価方法】

小テストと学期末テスト（またはレポート）

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

取り上げる時代や作家によって異なるので、授業中に説明する

## History of British &amp; American Literature I・II

太田直子

## 【授業の概要】

20世紀までのアメリカ文学の概略を学習する。イギリス、フランスの植民地から、現代のアメリカ合衆国に発展した新しい国の軌跡を追い、その政治、文化社会からどのように文学作品が生まれてきたのかを理解する。

## 【授業の目標】

アメリカという国が、どのような過程で今の大国になってきたのか、そして、その中で文学がどんな役割を果たしてきたのかなども理解できるよう、アメリカの歴史とともに、文学の歴史を理解する。

国土が広く、人種のるつぼとされるアメリカの文学は、様々な形があり味わい深いものである。

アメリカ文学の魅力を発見して、一冊でも多くの作品をよむ機会になることを願う。

## 【授業計画】

前期:

植民地時代からロマン主義時代（～1865）

後期:

リアリズム時代の文学から現在まで

## 【評価方法】

学期末テスト（またはレポート）

## 【テキスト】

「要説 アメリカ文学史」（佐藤順夫著 英宝社）2,205円

## 【参考文献・資料】

取り上げる時代や作家によって異なるので、授業中に説明する

## 映像メディア英語 I

若山真幸

## 【授業の概要】

本授業では、音声・映像メディアを通して、「実際の英語」に触れる機会を増やして英語のリスニング力や活きた表現を習得する。

## 【授業の目標】

- 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考え、グループごとのプレゼンテーションを行う。

## 【授業計画】

- ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけだす
- メディア教材などの収集の方法・実演

## 【評価方法】

出席状況、レポート等の課題、プレゼンテーションなどで評価する

## 【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

## 【参考文献・資料】

何かあれば授業中に随時紹介する

## 映像メディア英語 II

若山真幸

## 【授業の概要】

- 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高める。
- 映像メディアの中から、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、英語学の新たな知識を習得する。
- 自分たちで「マテリアル」を収集・作成したりして、最終的には一つの作品としてプレゼンテーションする能力を磨く。

## 【授業の目標】

- 英語力の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考え、グループごとのプレゼンテーションを行う。

## 【授業計画】

- ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけだす
- コンピュータを使ったビデオ・音楽メディア作成

## 【評価方法】

出席状況、レポート等の課題、プレゼンテーションなどで評価する

## 【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

## 【参考文献・資料】

何かあれば授業中に随時紹介する



## 映画で読むイギリス文化 I

EASLEY, Keith

## 【Course description】

British Culture in Films

This course uses films to consider aspects of British culture and to deepen students' understanding of the UK. Since it is partly literature-related, it also aims to explore the links between film and literature, and to encourage students to develop their interest in reading British literature.

## 【Course objectives】

1. To provide cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

## 【Course schedule】

There will be four blocks or sections, each centred on the showing of at least parts of a particular film. Key themes will be discussed at the beginning and end of each section, along with explanation and classwork on the cultural aspects of the films. There will be regular reviews for revision purposes and to bring out cultural links between the sections.

## 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and a final examination.

## 【Textbooks】

No textbook.

The film/video list will be announced at the beginning of the course.

## 映画で読むイギリス文化 II

EASLEY, Keith

## 【Course description】

British Culture in Films

This course uses films to consider aspects of British culture and to deepen students' understanding of the UK. Since it is partly literature-related, it also aims to explore the links between film and literature, and to encourage students to develop their interest in reading British literature.

## 【Course objectives】

1. To provide cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

## 【Course schedule】

There will be four blocks or sections, each centred on the showing of at least parts of a particular film. Key themes will be discussed at the beginning and end of each section, along with explanation and classwork on the cultural aspects of the films. There will be regular reviews for revision purposes and to bring out cultural links between the sections.

## 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework, and a final examination.

## 【Textbooks】

No textbook.

The film/video list will be announced at the beginning of the course.

## 映画で読むアメリカ文化 I

中村栄造

## 【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画をおもに鑑賞し、歴史的、文化的意義を考察する。

## 【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

## 【授業計画】

1. 『クルーシブル』、『緋文字』に見るピューリタン文化の陥穽
2. 『モヒカン族の最後』とアメリカン・ヒーローの生成
3. 『リップ・ヴァン・ウインクル』、『スリーピー・ホロウの伝説』とフランクリン的価値
4. 『ウォルデン』と超越主義
5. ポーの作品とアメリカ・ロマン主義のダークサイド
6. 『白鯨』と近代文明の限界

## 【評価方法】

レポート

## 【テキスト】

プリント教材配布

## 【参考文献・資料】

巽孝之、『アメリカ文学史 ― 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会)

## 映画で読むアメリカ文化 II

中村栄造

## 【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画等を鑑賞し、その歴史的、文化的意義を考察する。前期の授業内容を受けてさらに発展的な知識獲得を目指す。

## 【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

## 【授業計画】

1. 『ハックルベリー・フィンの冒険』にみる「アメリカ社会の成長」の辛辣な寓話
2. 『華麗なるギャッツビー』とアメリカの夢と挫折
3. 『怒りの葡萄』とプロレタリアートの悲劇
4. 『老人と海』にみる男のロマン(とその虚構性)について
5. 『ブライト・ライツ、ビッグ・シティ』にみる<ダメ男>の現実
6. ジェンダーの視点から見る『エイリアン』

## 【評価方法】

レポート

## 【テキスト】

プリント配布

## 【参考文献・資料】

巽孝之、『アメリカ文学史 ― 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会)

## Advanced Literature I (British)

CURRAN, Beverley

## 【Course description】

19、20世紀のイギリス文学を研究する。イギリス文学の伝統と新しい文学がどのように融合していったのか、19、20世紀の作品を通して探っていく。

## 【Course objectives】

This goal of this course is to watch or read together and talk about contemporary literature and film in Britain, and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English

## 【Course schedule】

1. Introduction
- 2 - 4. *Bridget Jones's Diary*
- 5 - 7. Donald Cammell: *Performance*
- 8 - 9. Poetry as Performance: Linton Kwesi Johnson
- 10 - 11. Irvine Welsh: *Trainspotting*
- 12 - 13. Dance Performance: *Billy Elliott*

## 【Assessment】

Assessment will be based on effort, willingness to discuss ideas and express them in written assignments, and attendance.

## 【Textbooks】

no text

## 【Reference】

TBA

## Advanced Literature II (American)

CURRAN, Beverley

## 【Course description】

20世紀アメリカ文学を研究する。文化・文学の後進国であったアメリカが、どのような作家と作品によって世界に認められる文学を作り上げていったのか、その歴史を追いながらアメリカ20世紀文学の特徴を考察する。

## 【Course objectives】

This goal of this course is to read together and talk about contemporary literature in the United States and Canada and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English.

## 【Course schedule】

1. Introduction: African-American Writing
- 2 - 3. James Baldwin
- 4 - 6. Toni Morrison
- 6 - 7. August Wilson
8. Introduction: African-Canadian Writing
9. Rinaldo Wilcott
- 10 - 11. Djanet Sears: *Harlem Duet*
- 12 - 13. George Elliot Clarke: *Whydah Falls*
14. Music
15. Closure

## 【Assessment】

Evaluation will be based on extent of engagement and effort made in class discussion and written assignments.

## 【Textbooks】

No textbook.

## English Linguistics I

中野弘三

## 【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。集められたデータをもとに、整合性のある理論構築へ向けて探求する手法を学ぶ。

## 【授業の目標】

英語意味論をテーマとして、英語表現の意味分析法の理解を目指す。意味論の基本問題（意味の本質、意味の種類、意味と指示など）を解説したのち、このクラスでは英語の動詞の意味分析の仕方を考察する。

## 【授業計画】

- 1) 言語の意味の本質
- 2) 意味の種類
- 3) 意味と指示(1)
- 4) 意味と指示(2)
- 5) 動詞の種類
- 6) 動詞の種類と完了形(1)
- 7) 動詞の種類と完了形(2)
- 8) 動詞の種類と進行形(1)
- 9) 動詞の種類と進行形(2)
- 10) 動詞と項構造 (argument structure) (1)
- 11) 動詞と項構造 (argument structure) (2)
- 12) 項の意味役割(1)
- 13) 項の意味役割(2)
- 14) 動詞の意味と統語構造
- 15) 期末試験

## 【評価方法】

主として期末試験により評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用する。

## 【参考文献・資料】

*Meaning and the English Verb*(2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)  
*The English Verb* (2nd Edition) (1987) (F.R.Palmer Longman)  
 語の意味と意味役割(2001) (米山三明・加賀信宏著 研究社)

## English Linguistics II

中野弘三

## 【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。理論構築のみではなく、コーパス等を駆使し英語のデータをなるべく多く集め、丁寧に分析していく手法を学ぶ。

## 【授業の目標】

English Linguistics Iに続いて、英語意味論をテーマとして、英語表現の意味分析法の理解を目指す。このクラスでは文の意味の分析方法を紹介し、文の意味分析の有用性や問題点を知ってもらう。

## 【授業計画】

- 1) 発話の場における文の意味の概観
- 2) 命題態度
- 3) 命題の種類
- 4) 命題の種類と補文の関係(1)
- 5) 命題の種類と補文の関係(2)
- 6) 発話行為(1)
- 7) 発話行為(2)
- 8) 文の発話の意味構造(1)
- 9) 文の発話の意味構造(2)
- 10) 法性
- 11) 法助動詞の意味(1)
- 12) 法助動詞の意味(2)
- 13) 接続詞の分析(1)
- 14) 接続詞の分析(2)
- 15) 期末試験

## 【評価方法】

主として期末試験により評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用する。

## 【参考文献・資料】

*Meaning and the English Verb*(2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)  
*Modality and the English Modals*(2nd Edition) (1990) (F.R. Palmer Longman)

## British &amp; American Literature I

小久保潤子

## 【授業の概要】

作家・作品に関して解説した文章を手がかりに、映画化された、いわゆる「古典」とされているアメリカ文学作品を採り上げ、視覚的側面からも文化的背景への理解を深めていく。

## 【授業の目標】

時代背景を考慮しながら、英米の文学作品についての幅広い知識を得ることを目標とする。また、原作と映画を比較することで、映画化される際に行われた変更の意味を考え、英語圏の文化への理解を深めたい。

## 【授業計画】

- ・ Introduction
- ・ Nathaniel Hawthorne: *The Scarlet Letter*
- ・ Herman Melville: *Moby Dick*
- 他

翻訳でよいので、事前に作品世界に触れておくこと。必要箇所では原文を検討する。

加えて、各授業ごとに担当者を決めて、作家・作品について調べ、発表してもらう予定である。その後、クラス全体でディスカッションの上、作品について考えてみたい。

## 【評価方法】

授業態度、出席、参加、口頭発表、レポート、学期末テスト等から総合的に評価する。

## 【テキスト】

*The American Novel: An Introduction through Video* (Christopher Tate, Akio Gotoh) 開文社  
他、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## British &amp; American Literature II

小久保潤子

## 【授業の概要】

前期に引き続き、映画化されたアメリカ文学作品を採り上げる。作家・作品に関して解説した文章を参照しながら、テキスト表象と映画表象の比較対照を試みたい。文字テキストを視覚的側面からも考えることで、作品世界の文化的背景についての理解を深めていく。余裕があればイギリスの作品も採り上げ比較を試みたい。

## 【授業の目標】

時代背景を考慮しながら、英米の文学作品についての幅広い知識を得ることを目標とする。また、原作と映画を比較することで、映画化される際に行われた変更の意味を考え、英語圏の文化への理解を深めたい。テキスト表象と映画表象の差異を検討することで、批評眼を養うことも目標とする。

## 【授業計画】

- ・ Louisa May Alcott: *Little Women*
- ・ Edith Wharton: *The Age of Innocence*
- 他

翻訳でよいので、事前に作品世界に触れておくこと。必要箇所では原文を検討する。

加えて、各授業ごとに担当者を決めて、作家・作品について調べ、発表してもらう予定である。その後、クラス全体でディスカッションの上、作品について考えてみたい。

## 【評価方法】

授業態度、出席、参加、口頭発表、レポート、学期末テスト等から総合的に評価する。

## 【テキスト】

*The American Novel: An Introduction through Video* (Christopher Tate, Akio Gotoh) 開文社  
他、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## Interlingual Communication I

WOODMAN, Jo-Anne

## 【Course description】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing them with some opportunities to compare and contrast their own environment with that of people in other countries.

Students will have to talk about (and explain) aspects of Japanese culture and lifestyle in English, so the participants will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture and cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

## 【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners see Japanese culture.

## 【Course schedule】

Each lesson will be divided into three sections:  
Section 1: What's in the news? Discussion  
Section 2: Cultural conundrums - Discussion  
Section 3: Show and Tell - Student presentations

## 【Assessment】

Presentations 40%  
Participation 35%  
Attendance 25%

## Interlingual Communication I

HARRIS, Richard S.

## 【Course description】

This course aims to engage students in discussions about contemporary Japanese culture, it provides opportunities for comparisons and contrast Japanese lifestyles with that of people in other countries. In English. Participants will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture and cross cultural differences. Students who have already traveled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

## 【Course objectives】

Students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners view Japanese culture.

## 【Course schedule】

Each lesson will be divided into three sections:  
Section 1: What's in the news? Discussion  
Section 2: Cultural conundrums - Discussion  
Section 3: Show and Tell - Student presentations

## 【Assessment】

Presentations 40%  
Participation 35%  
Attendance 25%

## Interlingual Communication II

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course description】

Interlingual Communication I should be regarded as a kind of prerequisite for this course because the students will build on the ideas and theories developed in the earlier course. Furthermore, students will endeavor to discover the key to "good" communication by analyzing problems in cross-cultural communication. Areas of study will include such things as: misunderstandings caused by Japanese English words and expressions; misinterpretation of gestures; and other cultural conundrums.

### 【Course objectives】

The students will be encouraged to develop mutual empathy with foreigners, so as to facilitate better interaction.

### 【Course schedule】

Each lesson will be divided into three parts:  
Part A: Student presentations  
Part B: Cultural conundrums - discussion  
Part C: Issues in contemporary Japan - student opinions (recorded on IC recorders)

### 【Assessment】

Presentations 40%  
Participation 35%  
Attendance 25%

## Interlingual Communication II

HARRIS, Richard S.

### 【Course description】

Inter-lingual Communication I is a recommended prerequisite for this course because the students will build on the ideas and theories developed in the earlier course. Furthermore, students will expand key skills for "Better English Communications" by analyzing difficulties of cross-cultural communication. Areas of study will include such things as: misunderstandings caused by Japanese English words and expressions; misinterpretation of gestures; and other cultural conundrums.

### 【Course objectives】

The students will be encouraged to develop mutual empathy with foreigners, so as to facilitate better interaction.

### 【Course schedule】

Each lesson will be divided into three parts:  
Part A: Student presentations  
Part B: Cultural conundrums - discussion  
Part C: Issues in contemporary Japan - student opinions (recorded on IC recorders)

### 【Assessment】

Presentations 40%  
Participation 35%  
Attendance 25%

## Creative Writing I

EASLEY, Keith

### 【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

### 【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination.

### 【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

### 【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

### 【Textbooks】

NONE.

## Creative Writing I

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

### 【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination and a developed critical awareness of their techniques of composition.

### 【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

### 【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

### 【Textbooks】

NONE.

### 【Reference】

To be decided.

## Creative Writing II

EASLEY, Keith

## 【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

## 【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination.

## 【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

## 【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

## 【Textbooks】

NONE.

## Creative Writing II

COLEBORNE, Bryan Edward

## 【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

## 【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination and a developed critical awareness of their techniques of composition.

## 【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

## 【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

## 【Textbooks】

NONE.

## 【Reference】

To be decided.

## 日英対照言語学 I

大室剛志

## 【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は表層上の違いの奥に潜む、自然言語としての共通点を学び、両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

## 【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

## 【授業計画】

1. 形態論とレキシコン
2. 形態論とレキシコン
3. 形態論とレキシコン
4. 統語論 生成文法
5. 統語論 生成文法
6. 統語論 生成文法
7. 統語論 機能主義
8. 統語論 機能主義
9. 統語論 機能主義
10. 意味論
11. 意味論
12. 意味論
13. 総括

## 【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

日英語対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

## 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

## 日英対照言語学 II

大室剛志

## 【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は自然言語としての共通点をもとに、相違点はどこから生ずるのか、一定の説得力のある説明原理からのアプローチを行う。両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

## 【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

## 【授業計画】

1. 音声学
2. 音声学
3. 音声学
4. 音韻論
5. 音韻論
6. 音韻論
7. 語用論
8. 語用論
9. 語用論
10. 英語史
11. 英語史
12. 日本語史
13. 総括

## 【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

## 【テキスト】

日英語対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

## 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

## 比較文学 I

森本素世子

### 【授業の概要】

比較文学はヨーロッパで19世紀に、日本では20世紀になって登場した比較的新しい学問分野である。しかしながら、その進歩はめざましく、今日では、文学のみならず、より広く文化をも含めた興味深い比較研究がなされるようになってきている。本講では、比較文学を通して、異文化あるいは何人かの作家の特徴を浮き彫りにすると同時に、そこから逆に日本および日本人の特徴をも探っていく。

### 【授業の目標】

実際に何本かの作品を読み、その内容を把握したうえで、各自の視点から比較考察ができるようにする。

### 【授業計画】

1 週目 イントロダクション (授業の進め方など)  
以降、前期は 比較文学の歴史と方法、翻訳から見る比較文化、「日本人論」に関する文献を通して見えてくる世界を読み解く。

### 【評価方法】

定期試験、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 比較文学 II

森本素世子

### 【授業の概要】

比較文学はヨーロッパで19世紀に、日本では20世紀になって登場した比較的新しい学問分野である。しかしながら、その進歩はめざましく、今日では、文学のみならず、広く文化をも含めた興味深い比較研究がなされるようになってきている。本講では、比較文学を通して、異文化あるいは何人かの作家の特徴を浮き彫りにすると同時に、そこから逆に日本および日本人の特徴をも探してみる。

### 【授業の目標】

実際に何本かの作品を読み、その内容を把握し味わうこと、そして各自の視点から比較考察ができるようにする。

### 【授業計画】

1 週目 比較文学 I に関するまとめと説明およびイントロダクション  
以降、ラフカディオ・ハーン、R. タゴール、R. K. ナラヤンなど、実際に短編やエッセイを読む。また、映像や音楽の歌詞なども含めて文化比較の方法を探る。

### 【評価方法】

定期試験、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 専門演習 I

太田直子

### 【授業の概要】

アメリカを代表する作家の作品を数多く読む。作品の分析だけでなく、作品の描かれた時代背景、そして作家研究をすることにより、さらに深い理解を試みる。

### 【授業の目標】

数多くの作品を読むことで、アメリカ文学の流れを理解することはもちろん、時代や土地によって異なるアメリカ小説の魅了感じてほしい。  
作品は何を訴え、そして、何を表していたのか。作品を通して、アメリカの姿、人間の本性を読み取ることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) Introduction
- 2) Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown"
- 3) Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County"
- 4) Henry James, "The Real Thing"
- 5) Stephen Crane, "The Upturned Face"
- 6) Theodore Dreiser, "The Lost Phoebe"
- 7) Sherwood Anderson, "The Egg"
- 8) Katherine Anne Porter, "Flowering Judas"

### 【評価方法】

発表とレポート

### 【テキスト】

「Anthology of American Short Stories」(Naoko Ueno, 南雲堂, 1,942円)

### 【参考文献・資料】

授業内で説明する

## 専門演習 I

樗木勇作

### 【授業の概要】

現代英語学  
英語を言語学的な点から研究できるようになるための入門コース。まずは学校で習ってきた英文法を復習し、言語学の見方とらえ直すことで英文読解力の向上に結びつける。同時に英語の音声におけるルールを復習し、英語音声学や音韻論の視点で見つめる方法を学びながらリスニング力の向上に結びつける。子供の言語データベースに触れ、英語を母語とする子供の言語発達に関して、具体的なデータをもとに概観する。

### 【授業の目標】

- 1) 学校英文法を復習しながら正確な英文読解力の向上を目指す。さらには英文の構造について、言語学の視点からの考察ができるようになることを目標とする。
- 2) 英語の音声におけるルールを復習しながら正確なリスニング力の養成を目指す。さらには、英音法 (英語の音声におけるルール) を音声学・音韻論等の言語学の視点からの考察へ結びつけることができるようになることを目指す。
- 3) 子供の言語獲得を対象としたデータベースの基本概念を理解し、簡単な検索における操作方法を身につける。

### 【授業計画】

1. 文の基本要素と品詞：英語のリズム
2. 5文型：英語のリズムと強形・弱形
3. 時制：英語のイントネーション
4. 完了形：英語の子音
5. 法助動詞：英語の母音
6. to不定詞：英語の音連結
7. 分詞：英語の音の同化と脱落
8. 関係詞：地名・数字・アナウンスの聞き取り
9. that節・whether節・wh節とその聞き取り
10. to不定詞の名詞用法とその聞き取り
11. 動名詞とその聞き取り
12. 従属節とその聞き取り
13. 仮定法とその聞き取り
14. CHILDES (子供の言語データベース) 入門1
15. CHILDES (子供の言語データベース) 入門2

\*CHILDES入門は毎回の授業でも適宜取り扱う。

### 【評価方法】

実習態度・授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

### 【テキスト】

中郷 慶 他 (2008) 『読める英文法・聞ける英音法』 英宝社

### 【参考文献・資料】

授業にて明示する。

## 専門演習 I

久野幸子

### 【授業の概要】

- (1) イギリス文学作品から数編を選び、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、経済的視点から考察する。
- (2) イギリス文化とイギリス文学との関係を考察する。童話、児童文学、探偵小説など、さまざまなジャンルの作品についても考察する。
- (3) イギリス文学は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する。

### 【授業の目標】

- (1)イギリス文化についての基礎知識の修得(1)
  - (2)イギリス文学についての基礎知識の修得(1)
  - (3)各ジャンルについての基礎知識の修得
- 上記3項目について、視聴覚教材も用いて、随時、実践してもらう予定だが、とにかくどのようなジャンルの作品であれ、原作を読む楽しさを実感してもらいたいと願っている。

### 【授業計画】

<イギリス文学と社会(1)>をテーマに、イギリス文学から作品を選ぶ。作品としては、古典といわれているものだけでなく、探偵小説やファンタジー小説など一般に親しまれている作品も加え、イギリス文学により多く親しんでもらう予定である。

### 【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度、教室での発言など)と筆記テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## 専門演習 I

五島幸一

### 【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

### 【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

### 【授業計画】

最初は、コミュニケーションの基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。例えば、広告やニュース報道などマスメディアを通じたコミュニケーションのあり方から謝り方や弁解の仕方まで、様々な領域でどのような文化の違いがあるかを調べていく。

### 【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。  
授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

### 【テキスト】

異文化コミュニケーション(古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書)

### 【参考文献・資料】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

## 専門演習 I

小泉直

### 【授業の概要】

日本人が共通して間違える文法のポイントと同意語を学習する。  
更に、日本人が苦手とする文法事項の1つである時制と相を、中学・高校時代における文法とは全く異なった観点から学習し、その本質を理解する。

### 【授業の目標】

英文法および英語の語彙についての知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の文法事項

- 1 現在時制と過去時制
- 2 進行相
- 3 完了相
- 4 未来時を表す表現

### 【評価方法】

平常点(出席状況や授業での発表)とレポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

1回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 I

丹羽都美

### 【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄などを理解することによって英語の理解を深め、実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。その基礎編となる。

### 【授業の目標】

英語の構造に関する知識を深めると共に、実際の場面で英語が使用される場合何が起きているのかなどを考えながら、実用の場面でその知識が活かされるようにするための基礎の確認及び自分の研究内容の精選をする。

### 【授業計画】

第1回 Introduction 自己紹介とともに研究対象にしたい事柄について考えていることを簡単に紹介しあう この内容に基づいて次回からの基礎的な資料検討などの内容を決めていく

第2回～第8回 興味のある研究対象の内容について、統語論・語用論を中心とした英語の様々な資料などに基づき考察する。

第9回～第14回 各自の研究を口頭で発表する。これをもとに論文の基礎を積み上げていくことになる。

第15回 まとめ

### 【評価方法】

出席 30% 研究発表・レポート 50% 討論・質疑応答 20%

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで(戸田山 和久著 日本放送出版協会)

## 専門演習 I

平林美都子

### 【授業の概要】

英語文学におけるジェンダー表象

英語圏の文学作品や映画を丁寧に読み、その中のジェンダー表象を分析していく。

### 【授業の目標】

ジェンダーと表象文化について理解する。19世紀英国でどのようにジェンダーが形成されたのかを理解する。

### 【授業計画】

テーマ：19世紀の女性の表象

1. イントロダクション
2. おとぎ話におけるジェンダー表象
3. 児童文学におけるジェンダー表象
4. 19世紀英国における女性観
5. Mary Wollstonecraft, *A Vindication of the Rights of Woman*
6. Florence Nightingale, *Cassandra*
7. John Ruskin, "Of Queen's Gardens"
7. John Keats, "La Belle Dame sans Merci"
8. Alfred Tennyson, "Mariana" "The Lady of Shalott"
9. Robert Browning, "My Last Duchess" "Porphyria's Lover"
10. Christina Rossetti, *Goblin Market*

### 【評価方法】

出席状況と授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業内に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業内に指示する。

## 専門演習 I

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章
  - ことばのしくみ（語・意味・統語の関係）
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・プレゼンテーション
  - 各自、テーマを見つけ、調査研究成果を発表する
- ・他
  - コンピューター等を使って、学習した内容が日常生活でどのように使われているかを見つける
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 I

山田幹郎

### 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究 I

英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

### 【授業の目標】

英国初期演劇の解読力を涵養すること。

### 【授業計画】

大学才人たちの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

### 【テキスト】

プリントによります。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示します。

## 専門演習 I

若山真幸

## 専門演習 I

SELAND, John

### 【Course description】

American Literature: O Pioneers! by Willa Cather

When she was a young girl, Willa Cather met many of the immigrants who came from Europe and settled in Nebraska. Later, having become a skillful writer, she decided to publish this novel so that everyone would be able to learn more about the heroism of these people who struggled to survive in the harsh prairie land. We would like to learn more about the problems that the pioneers experienced, and how they overcame them as we read this particular novel.

### 【Course objectives】

To learn about the values that sustained the pioneers and enabled them to deal with hardships, and to relate this to American history and society.

### 【Course schedule】

In each class we will read several chapters of the novel and students will write a short report about the chapters.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the grades for the weekly reports, class attendance, and the final report.

### 【Textbooks】

O Pioneers! Penguin



## 専門演習 I

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will also direct attention to the use of the English language in Ireland and invite students to deepen their understanding of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to develop their own interests and to explore the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to develop their understanding of Irish writing and culture and to make a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will offer a broad introduction to the course, concentrating on short, accessible forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying longer works, in extract and as a whole.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

Brian Cullen, *Land of Song and Story: An Introduction to Ireland* (Nagoya: Perceptia Press, 2005)

### 【Reference】

To be advised.

## 専門演習 II

太田直子

### 【授業の概要】

20世紀を代表するアメリカの作家の作品を数多く読む。作品の分析だけでなく、作品の描かれた時代背景、そして作家研究をすることにより、さらに深い理解を試みる。

### 【授業の目標】

数多くの作品を読むことで、アメリカ文学の流れを理解することはもちろん、時代や土地によって異なるアメリカ小説の魅了感じてほしい。作品は何を訴え、そして、何を表していたのか。作品を通して、アメリカの姿、人間の本性を読み取ることを目標とする。

### 【授業計画】

グループの発表形式をとる。

取り扱う作家・作品：

William Faulkner, "A Rose for Emily"

Ernest Hemingway, "The Killers"

Robert Penn Warren, "A Christian Education"

Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow"

John Updike, "The Alligators"

### 【評価方法】

発表・レポート

### 【テキスト】

「Anthology of American Short Stories」(Naozo Ueno, 南雲堂, 1,942円)

### 【参考文献・資料】

授業内で説明する

## 専門演習 II

樗木勇作

### 【授業の概要】

現代英語学II

前期の現代英語学Iで得た知見をもとに、最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

### 【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

### 【テキスト】

*Linguistics An Introduction to Language and communication* FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

### 【参考文献・資料】

授業にて明示する。

## 専門演習 II

久野幸子

### 【授業の概要】

イギリス小説から古典といわれる作品を選び、それを精読することに加え、受講者各自に「専門演習 I」で学んだ作品の中から作品を選んでもらい、それについて発表する機会を用意する。その際、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、文化的視点から考察する。英文学作品は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する。

### 【授業の目標】

- (1) イギリス文学についての基礎知識の修得 (2)
  - (2) イギリス文化についての基礎知識の修得 (2)
  - (3) 小説というジャンルについての考察
- 上記3項目についても随時、実践してもらおう予定である。

### 【授業計画】

<イギリス文学と社会 (2)>をテーマに、19世紀から現代までのイギリス小説から作品を選ぶ。今期は原作を読むことに加え、文献リサーチ法も学び、どのようにして研究レポートにまとめるのかも各自体験してもらおう。個別発表やクラス討議などの場をできるだけ多く用意する予定である。

### 【評価方法】

平常点 (出席、受講・発表態度など) と期末の小テスト、レポートで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

## 専門演習 II

小泉 直

### 【授業の概要】

専門演習 I に引き続き、日本人が共通して間違える文法のポイントと同意語を学習する。

英語と日本語の談話分析を扱った豊富な資料に当たりながら、「英語らしさ」「日本語らしさ」について考察する。

### 【授業の目標】

英語的発想と日本語的発想の相違についての学習と英語の語彙に関する知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の言語現象

- 1 省略
- 2 状況志向と人間志向
- 3 存在表現と所有表現
- 4 他動性
- 5 主語の有無

### 【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）とレポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 II

丹羽都美

### 【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄などを理解することによってさら英語を理解しその実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。

自分の選んだ研究内容についてさらなる考察を行い、また、研究発表を通じて互いにアドバイスを与えながら研究を進めていく。

### 【授業の目標】

英語の構造・意味・語用論の中から自分の研究内容をさらに深めていく。

### 【授業計画】

第1回～第5回 前期に提出されたレポート等をもとに、研究内容に関する資料を基にさらなる考察・解説等を加える。

第6回～第15回 自分の研究内容を口頭で発表する。研究発表・講評を中心に展開するが、必要に応じて研究内容に応じた講義を行う。

### 【評価方法】

出席 30% 研究発表・レポート 50% 討論・質疑応答 20%

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで（戸田山 和久著 日本放送出版協会）

## 専門演習 II

五島幸一

### 【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

### 【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

### 【授業計画】

最初は、コミュニケーションの基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。例えば、広告やニュース報道などマスメディアを通じたコミュニケーションのあり方から謝り方や弁解の仕方まで、様々な領域でどのような文化の違いがあるかを調べていく。

### 【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

### 【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書）

### 【参考文献・資料】

「異文化を読む」（岡部朗一 南雲堂）

## 専門演習 II

平林美都子

### 【授業の概要】

英語文学におけるジェンダー表象

専門演習 I に続いて、英語圏の文学作品や映画を丁寧に読み、その中のジェンダー表象を分析していく。

### 【授業の目標】

なるべく多くの文学作品を読み、そこに描かれる男女のジェンダー表象を理解し、分析する力をつける。内容把握には翻訳が中心となるが、部分的に英語の原文を読む。

### 【授業計画】

テーマ：20世紀英語圏文学作品における女性の表象

1. ドリス・レスリング「19号室」
2. シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』
3. ジーン・リース『広い藻の海』
4. アンジェラ・カーター『魔法の玩具店』
5. アリス・ウォーカー『カラー・パープル』
6. マーガレット・アトウッド『食べられる女』
7. ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
8. マイケル・カニングス『めぐりあう時間たち』
9. 短編小説  
"The Girls in their Summer Dress"  
"Little Woman"  
"The Story of an Hour"  
"Bliss"

### 【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

ジェイン・エア（C.ブロンテ著、新潮文庫）  
カラー・パープル（アリス・ウォーカー著、集英社文庫）  
ダロウェイ夫人（ヴァージニア・ウルフ著、角川文庫）

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 専門演習 II

山田幹郎

### 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究 I  
専門演習 I の継続。英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

### 【授業の目標】

英国初期演劇の読解力を涵養すること。

### 【授業計画】

大学才人たちの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

### 【テキスト】

プリントによります。

### 【参考文献・資料】

随時紹介します。

## 専門演習 II

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章
  - ことばのしくみ（語・意味・統語の関係）
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・プレゼンテーション
  - 各自、テーマを見つけ、調査研究成果を発表する
- ・他
  - コンピューター等を使って、学習した内容が日常生活でどのように使われているか見つける
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 II

SELAND, John

### 【Course description】

American Literature: My Antonia, by Willa Cather

We will continue to study Willa Cather's works, this time reading My Antonia. Here Cather expands on her earlier themes, giving further insights about the life of the pioneers, and how they contributed to the development of American society. We will also study such themes as the relation between city and farm life; the close connection between man and the soil; and genre issues, for instance, the role of women in society.

### 【Course objectives】

Besides learning about the content of the novel, we hope to relate it to larger concerns that affected American society, such as the pioneers' love for the land, the enthusiasm with which the early Americans developed their homesteads, and how later generations responded to other kinds of challenges.

### 【Course schedule】

We will read and discuss several chapters of My Antonia each week. The discussion will focus on the content of these chapters (that is, what is important) and the short reports that students write.

### 【Assessment】

Assessment will be based on the grades for the weekly reports, class attendance, and the final report.

### 【Textbooks】

My Antonia, Penguin

## 専門演習 II

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will also direct attention to the use of the English language in Ireland and invite students to deepen their understanding of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to develop their own interests and to explore the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to develop their understanding of Irish writing and culture and to make a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will offer a broad introduction to the course, concentrating on short, accessible forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying longer works, in extract and as a whole.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

Brian Cullen, Land of Song and Story: An Introduction to Ireland (Nagoya: Perceptia Press, 2005)

### 【Reference】

To be advised.

## 外国語としての日本語 I・II

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

### 【授業の目標】

外国語としての日本語の文法基礎知識を得て理解を深め、それを英語で伝えられるようになることが期待される。

### 【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を学ぶ。

### 【評価方法】

出席、期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

## Advanced English I

DYCUS, David C.

### 【Course description】

The objective of this course is to engage the students in intermediate level discussions / activities which will provide them with opportunities to use the English which they have previously learnt, whilst also providing ample opportunity for them to further develop and improve their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

### 【Course objectives】

The course will have multiple but complimentary objectives. The first will be to engage students in discussions of general-interest topics presented in the textbook and current events presented in newspaper articles. The second will be to provide opportunities for students to expand their knowledge of phrasal verbs and idiomatic expressions commonly encountered in everyday English conversation and writing.

### 【Course schedule】

Each lesson will involve discussion based on topic/problem-based reading materials as well as vocabulary/structure mastery activities and exercises.

### 【Assessment】

The course will be team taught. Final assessment measures will be finalized announced after consultations between both instructors are completed.

### 【Textbooks】

Let's Talk (Leo Jones, Cambridge University Press)

## Advanced English I

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

The objective of this course is to engage the students in intermediate level discussions / activities which will provide them with opportunities to use the English which they have previously learnt, whilst also providing ample opportunity for them to further develop and improve their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

### 【Course objectives】

To support students to develop an understanding of some key features of contemporary English, especially in the use of vocabulary in social contexts.

### 【Course schedule】

In the first semester the class will consolidate what has been learnt in the areas of vocabulary, syntax, grammar and meaning with a view to exploring the relationship between language and social context in contemporary situations.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of demonstrating growing understanding of the contemporary use of the English language.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## Advanced English II

DYCUS, David C.

### 【Course description】

The objective of this course is to have the students engage in intermediate-level discussions / activities (such as debates), which will provide them with opportunities to use their existing knowledge of English, whilst also providing opportunities to further develop and hone their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

### 【Course objectives】

The course will continue with the objectives of the first semester: to engage students in discussions of general-interest topics from the textbook (Units 16-30) or from newspaper articles, and to expand students' knowledge of common phrasal verbs and idiomatic expressions.

### 【Course schedule】

Each lesson will involve discussion based on topic/problem-based reading materials as well as vocabulary/structure mastery activities and exercises.

### 【Assessment】

The class is for motivated students. Therefore, active participation in class is the single most important aspect regarding grading. Therefore, 60% of the grade will be based on attendance/participation. 40% will come from regular quizzes of advanced vocabulary, structure, and idiomatic phrases that will be studied in class.

### 【Textbooks】

Let's Talk (Leo Jones, Cambridge University Press)

## Advanced English II

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

The objective of this course is to have the students engage in intermediate-level discussions / activities (such as debates), which will provide them with opportunities to use their existing knowledge of English, whilst also providing opportunities to further develop and hone their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

### 【Course objectives】

To support students to develop an understanding of some key features of contemporary English, especially in the use of vocabulary in social contexts.

### 【Course schedule】

In the second semester the class will consolidate what has been learnt in exploring the relationship between language and social context in contemporary situations. Attention will then be paid to some of the intensive debates of the day, such as the nature of 'nicespeak', politically correct language and the removal of gender bias from usage.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of demonstrating growing understanding of the contemporary use of the English language.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## Correcting Research Papers II

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

### 【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

### 【Course schedule】

In the second semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised, based on the progress that has been made to date. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## Correcting Research Papers I

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

### 【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

### 【Course schedule】

In the first semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

### 【Textbooks】

To be decided.

### 【Reference】

To be decided.

## 専門演習 III

太田直子

### 【授業の概要】

J.D. Salinger のNine Storiesを読む。  
短編を通して、Salingerの描いた世界を考察する。

### 【授業の目標】

丁寧に読み続けるとがまず第一の目標である。  
J.D. Salingerの作品は、登場人物の心理的な描写をよみとることが非常に困難であるが、描かれた世界を丁寧に分析しよみとっていく。批評を読むことで理解を深めることができるので、批評を読むことはもちろん、作品についての批評を図書館でみつける作業を取得することも大切である。

### 【授業計画】

J.D. Salingerとそして彼の活躍した時代について調べる。  
各々の作品について精読するとともに、作品の特徴、批評を取り上げる。  
9作品の内、4作品は学生のグループ発表とする。

### 【評価方法】

レポート・発表

### 【テキスト】

Nine Stories (J.D. Salinger, Mass Market Paperback)

### 【参考文献・資料】

授業中に説明する

## 専門演習 III

樗木勇作

### 【授業の概要】

#### 現代英語学III

現代英語学I, IIで得た知見をもとに、英語を言語学的な視点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やインターネットの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見い出すこと、英語力を向上させることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

### 【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

### 【テキスト】

*Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION* (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$ 35.00 (paper))

### 【参考文献・資料】

授業にて明示する。

## 専門演習 III

久野幸子

### 【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、文化、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視聴覚教材も多用する予定である。

### 【授業の目標】

精読した小説について、どのような分析をおこなえば、さらに深い理解が得られるのか、小説研究法を各自に体験してもらうことを目指す。

### 【授業計画】

講義と受講生の個別あるいはグループプレゼンテーションを交互に行なう予定である。

### 【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末の筆記試験で総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 専門演習 III

小泉 直

### 【授業の概要】

英文で書かれた文法書を、特に日本人が苦手とする文法事項を中心に精読し、英文法に関する知識を深めることを目指す。

使用する文法書は最近の文法研究の成果を取り入れているだけでなく、旧来の規範的な立場を排し、徹底的な事実中心主義の立場から解説しているの、新しい文法観の形成にも役立つものと思われる。

### 【授業の目標】

英文法に関する知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取上げる予定の文法事項

- 1 冠詞 (articles)
- 2 時制と相 (tense and aspect)
- 3 法助動詞 (modals)
- 4 条件文 (conditionals)

### 【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 III

SELAND, John

### 【Course description】

English Literature: A Handful of Dust, by Evelyn Waugh

The novel, *A Handful of Dust*, published in 1934, gives a good picture of English society at the time between World War I and World War II. It finds its source in the author's own life, although Waugh also goes beyond this to depict a society that he both loved and scorned.

### 【Course objectives】

Besides learning about some of Waugh's basic ideas, we hope to come to an understanding of English society in the 1930s, what, precisely, Waugh was criticizing, and why he was so critical.

### 【Course schedule】

Each week we will read and discuss several chapters of the novel. Students will write a short report about the chapters, which we will use as a basis for discussion.

### 【Assessment】

Grades will be given according to the ability of the students to write good weekly reports, a good final essay, and class attendance.

### 【Textbooks】

*A Handful of Dust*, Penguin

## 専門演習 III

丹羽都美

### 【授業の概要】

専門演習I・IIで研究した内容をさらに探求していく。各自の研究対象についての調査・研究を進める中で自分の研究内容についての知識を深めるとともに、英語だけでなく日本語やその他の言語のもつ様々な側面について眺めながら言語というものについての理解を深めていく。

### 【授業の目標】

英語の構造・意味等の側面から、これまでより一歩踏み込んだ分析をすることにより、英語という言語自体だけでなく、英語と関連のある社会・文化などについての理解も深めていく。それと同時に自分たちの言語・社会・文化というものに対して新たな理解ができるようになる。この過程から、言語は意思疎通の「道具」であると同時にそれ以上の大きな影響力を持つものとして、言語を使いこなせるよう自分自身を豊かにしていくこと。

### 【授業計画】

第1回～第5回 専門演習I・IIでの研究をもとに、さらなる考察・解説等を加える。

第6回～第15回 各自の研究内容を口頭で発表していく。研究発表・講評を中心に展開するが、必要に応じて研究内容に応じた講義を行う。

### 【評価方法】

出席 30% 研究発表・レポート等 50% 討論・質疑応答 20%

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで（戸田山 和久著 日本放送出版協会）

## 専門演習 III

平林美都子

### 【授業の概要】

英語文学におけるジェンダーと文学批評  
英語圏文学作品を原文で丁寧に読み、その中のジェンダー表象を分析していく。

### 【授業の目標】

英語圏文学作品の原文を読む力を身につける。作品の作られた歴史的・文化的状況を理解し、階級や人種や性別による力関係を読み解く力を学ぶ。

### 【授業計画】

今回はElizabeth Gaskellの*Ruth*を取り上げる。  
随時、批評を読む。

### 【評価方法】

平常点とレポートの総合評価。

### 【テキスト】

*Ruth*(Elizabeth Gaskell, Oxford)

### 【参考文献・資料】

授業内に指示する。

## 専門演習 III

山田幹郎

### 【授業の概要】

シェイクスピアの作品研究を進める。

### 【授業の目標】

シェイクスピアの基礎的な読解力と分析解釈能力を涵養する。

### 【授業計画】

*Romeo and Juliet*を精読する。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

### 【テキスト】

*Romeo and Juliet* (岩崎宗治編注 大修館書店)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 専門演習 III

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な英語運用能力を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章
- ことばのしくみ（語・意味・統語の関係）
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・プレゼンテーション
  - 各自、テーマを見つけ、調査研究成果を発表する
- ・他
  - コンピューター等を使い、学習した内容が、日常生活どのように使われているか
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 III

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

This seminar will continue to introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will deepen an understanding of the use of the English language in Ireland and invite students to develop their knowledge of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to extend their own interests and to examine the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to continue in their understanding of Irish writing and culture and to develop a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will consolidate what has already been learned of Irish culture and commence the study of extended forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying complete works of significant writers.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

Brian Cullen, Land of Song and Story: An Introduction to Ireland (Nayoya: Perceptia Press, 2005)

### 【Reference】

An Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed, eds. Seán Ó Tuama and Thomas Kinsella (Portlaoise: Dolmen Press, 1985)

The Field Day Anthology of Irish Writing, Vols I-III, eds. Seamus Deane and others (Derry: Field Day Publications, with Faber and Faber, London and W.W. Norton, New York, 1991)

The Field Day Anthology of Irish Writing, Vols. IV-V, eds. Angela Bourke and others (Cork: Cork University Press, in association with Field Day, 2002)

The Oxford Book of Ireland, ed. Patricia Craig (Oxford: Oxford University Press, 1998)

## 専門演習 IV

太田直子

### 【授業の概要】

Eudora WeltyのThe Robber Bridegroom を読む

### 【授業の目標】

おとぎ話のようなこの作品を、文学作品としていかに解釈していくのか、丁寧に読み進めながら、Weltyの描く独特のコミカルな世界を紐解いていく。アメリカ南部の伝説、ヒーロー像もあわせて考察する。

### 【授業計画】

The Robber Bridegroomを輪読する。

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

The Robber Bridegroom (Eudora Welty, Virago Modern Classics)

### 【参考文献・資料】

授業内で説明する

## 専門演習 IV

榎木勇作

### 【授業の概要】

現代英語学IV

現代英語学I-IIIで得た知見をもとに、英語を言語学的な点から研究している論文・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やインターネットの英語音声ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

### 【授業の目標】

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見つけ出すこと、英語力を向上させることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

### 【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

### 【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$ 35.00 (paper))

### 【参考文献・資料】

授業にて明示する。

## 専門演習 IV

久野幸子

### 【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、文化、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視覚教材も多用する予定である。

### 【授業の目標】

英文学について、イギリス小説についての幅広い知識の修得に努めるとともに、自ら選んだ小説について、資料を集め、さまざまな視点から考察、検討した内容を自らの言葉で表現する方法を学ぶ。

### 【授業計画】

「専門演習 III」に引き続いて、各自のテーマにそって、調査検討・考察したものをまとめて、プレゼンテーションしてもらおう。最後にプレゼンテーションしたものをもとに、全員に執筆してもらい、「2008年ゼミレポート」(仮題)を編集・出版する。

### 【評価方法】

平常点 (出席、受講・発表態度など) と小テスト、レポートで総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。



## 専門演習 IV

小泉 直

### 【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、英文で書かれた文法書を、日本人が苦手とする文法事項を中心に精読し、英文法に関する知識を深めることを目指す。

### 【授業の目標】

英文法に関する知識の補強

### 【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取上げる予定の文法事項

- 1 前置詞と不変化詞 (prepositions and particles)
- 2 間接目的語 (indirect objects)
- 3 不定詞と動名詞 (infinitives and gerunds)
- 4 直接話法と間接話法 (direct and indirect speech)

### 【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 専門演習 IV

SELAND, John

### 【Course description】

English Literature: Brighton Rock, by Graham Greene

In this semester we will read the novel, Brighton Rock. Here we find Greene putting the detective novel to good use: there is a crime, and one of the characters tries to find out who did it. However, Greene goes further: he uses this as a kind of background to show how the characters themselves are also being pursued by something that is quite beyond their comprehension.

### 【Course objectives】

Besides learning about some of the basic themes of Greene as well as his style of writing, we hope to deepen our understanding of the social situation in England at the time he published the novel (1938), that is, immediately prior to World War II.

### 【Course schedule】

We will analyze and discuss several chapters of the novel each week. Students will write short reports which we will use as a basis for our discussions.

### 【Assessment】

Grades will depend on the quality of the weekly assignments, a good final essay, and class attendance.

### 【Textbooks】

Brighton Rock, Penguin

## 専門演習 IV

丹羽都美

### 【授業の概要】

専門演習I~IIIでの研究の集大成として、2年間通して研究した内容についての完成期となる。

### 【授業の目標】

これまで様々な資料などをもとに考察を深めてきた言語についての研究についてのまとめを行うとともに、言語についてのさらなる知識を深める。

### 【授業計画】

第1回~第5回 前期に提出されたレポート等をもとに、研究内容に関するさらなる考察・解説等を加える。

第6回~第15回 論文完成のための研究発表・講評を中心に展開するが、必要に応じて研究内容に応じた講義を行う。

### 【評価方法】

出席 30% 研究発表・レポート等 50% 討論・質疑応答 20%

### 【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

### 【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで（戸田山 和久著 日本放送出版協会）

## 専門演習 IV

平林美都子

### 【授業の概要】

英語文学におけるジェンダーと文学批評  
英語の短編小説を読み、ジェンダー表象を分析する。

### 【授業の目標】

英語文学を原文で読む力を身につける。また短編小説という形式の特徴を学び、そこから、男性、女性のジェンダー表象を分析する力をつける。

### 【授業計画】

今回は、Alice Munroの*Open Secrets*を取り上げる。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

*Open Secrets*(Alice Munro,Vintage)

### 【参考文献・資料】

授業内に指示する。

## 専門演習 IV

山田幹郎

### 【授業の概要】

シェイクスピアの作品研究を前期に引き続いて進める。

### 【授業の目標】

シェイクスピアの分析解釈能力をさらに涵養する。

### 【授業計画】

*Romeo and Juliet* (岩崎宗治編注 大修館書店) の批評史を概観しながら作品批評のあり方を探求する。

### 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

### 【テキスト】

*Romeo and Juliet* (岩崎宗治編注 大修館書店) 及びプリント。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 専門演習 IV

若山真幸

### 【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

### 【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な英語運用能力を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

### 【授業計画】

- ・序章
  - ことばのしくみ (語・意味・統語の関係)
- ・文献講読
  - 以降、トピックに関する文献を講読する
- ・プレゼンテーション
  - 各自、テーマを見つけ、調査研究成果を発表する
- ・他
  - コンピューター等を使い、学習した内容が、日常生活どのように使われているか
  - 英語の辞書を活用した短い作文・会話の練習なども行う
  - 文献資料の収集方法、発表の仕方などにも触れる

### 【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

### 【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 専門演習 IV

COLEBORNE, Bryan Edward

### 【Course description】

This seminar will continue to introduce students to selected works of Irish writing, in English and in English translation, in the broad context of Irish history. It will deepen an understanding of the use of the English language in Ireland and invite students to develop their knowledge of Irish culture through an experience of other art forms. Students will be encouraged to extend their own interests and to examine the nature of the Irish mind and experience.

### 【Course objectives】

To assist students to continue in their understanding of Irish writing and culture and to develop a critical analysis of their responses.

### 【Course schedule】

In the first semester we will consolidate what has already been learned of Irish culture and commence the study of extended forms. In the second semester we will aim at building on this foundation by studying complete works of significant writers.

### 【Assessment】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor exercises, oral reports and presentations used to evaluate students' progress.

### 【Textbooks】

Brian Cullen, *Land of Song and Story: An Introduction to Ireland* (Nayoya: Perceptia Press, 2005)

### 【Reference】

An *Duanaire 1600-1900: Poems of the Dispossessed*, eds. Seán Ó Tuama and Thomas Kinsella (Portlaoise: Dolmen Press, 1985)

The *Field Day Anthology of Irish Writing*, Vols I-III, eds. Seamus Deane and others (Derry: Field Day Publications, with Faber and Faber, London and W.W. Norton, New York, 1991)

The *Field Day Anthology of Irish Writing*, Vols. IV-V, eds. Angela Bourke and others (Cork: Cork University Press, in association with Field Day, 2002)

The *Oxford Book of Ireland*, ed. Patricia Craig (Oxford: Oxford University Press, 1998)

## 卒業論文

太田直子 樗木勇作 久野幸子 小泉直 SELAND, John 丹羽都美  
平林美都子 山田幹郎 若山真幸 COLEBORNE, Bryan Edward

### 【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「卒業論文」担当教員(専門演習担当教員)の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、卒業論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

### 【授業の目標】

授業にて明示する

### 【授業計画】

「卒業論文」担当者の指示に従い、「卒業論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなくてはならない。

5月14日(水)	午後4時	提出締切
	論文骨子(2~3ページ)	
7月9日(水)	午後4時	提出締切
	論文梗概(5~6ページ)	
10月8日(水)	午後4時	提出締切
	論文初稿(約30ページ)	
12月12日(金)	午後4時	*提出締切
	論文提出	

\*12月12日(金)の提出については、11月中旬に掲示で確認すること

### 【評価方法】

「卒業論文」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に注目し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。  
論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとよい。

英文科学生必携ハンドブック(研究社)  
MLA新英語論文の手引(北星堂)  
卒論を書こう(棚木伸明 三修社)

## 海外セミナー I

小久保潤子 ARNOLD, Brent C. WOODMAN, Jo-Anne

### 【授業の概要】

Students will be in an English Emersion course with University of Canberra (=UC). Students will study Australian English and culture in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. UC will organise home-stay for the entire period in Canberra.

\*一般的な英語集中コースに加えて、オーストラリアの文化・歴史・書籍・テレビ番組・映画・言語等に触れる授業も予定している。この研修参加には、英文学科の「Current Australia」、「Introduction to Australian History」を単位取得済みか受講中であることが条件となる。

### 【授業の目標】

授業にて明示する。

### 【授業計画】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 3 day excursion to Sydney, including sight seeing and 2 day stopover in Cairns where students will be able to touch Australian animals including a Koala and be able to snorkel on the Great Barrier Reef.

### 【評価方法】

Assessment will be based on UC's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【テキスト】

No text, as necessary worksheets will be given.

You will need a passport!

### 【参考文献・資料】

事前研修・説明会等で明示する。

## 海外セミナー II

大野光子 EASLEY, Keith

### 【授業の概要】

<イギリス文化・英語短期研修>

本学休暇期間中に、イギリスの交流提携大学において、4～5週にわたり英語及び英国の歴史・文化・文学の総合指導を受ける。本学における事前研修の後、現地では他国からの留学生とともに、英語能力別の少人数クラスで学習。修了者には、2単位が認定される。2008年度の予定は未定。

4週間の英語・英国文化研修。

午前および午後：主に教室内学習 午後および週末：周辺旧跡名勝施設等見学

現地では、ホームステイ

### 【授業の目標】

- \* to improve your general understanding and use of English for work, pleasure or study
- \* as a way of improving your English level in order to prepare for further study
- \* for the culturally different experience of living in England and being part of a British University

### 【授業計画】

具体的内容は、英文学科ホームページにリンクした提携大学の本学学生用特別指導プログラムを参照のこと。全ての指導は現地教員により英語で行われ、原則として本学教員は事前指導と送迎のみ行い、現地滞在はしない。

### 【評価方法】

現地教員の評価により、本学が単位を認定する。

### 【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「British Culture」、「Irish Culture」または「Introduction to British History」「Current UK」を受講し、単位を取得することが条件。

## 長期海外セミナー I～VI

大野光子 MCGOLDRICK, Gemma  
EASLEY, Keith 小久保潤子

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の長期海外履修制度に認定されたプログラムとして、海外提携校の一つである英国リーズ大学 (University of Leeds) で本学英文学科のカリキュラムに対応した科目を履修する。具体的には、以下の対応関係がある。

長期海外セミナー I : Academic Writing II

長期海外セミナー II : Reading IV (Internet)

長期海外セミナー III : 映画で読むイギリス文化 II

長期海外セミナー IV : 専門演習 II

長期海外セミナー V : Interlingual Communication II

長期海外セミナー VI : Creative Writing II

\*この長期研修に参加するには、本学英文学科の「British Culture」と「Current UK」の2科目を履修して単位を取得済みであるか履修中で単位取得見込みであることが条件となる。

\*愛知淑徳大学の長期海外履修制度に認定されたプログラムであるため、この長期研修に参加するには、一定基準のGPAのレベルを満たす必要がある。

### 【授業の目標】

- 1) 交換留学に次ぐ語学スキルのレベルをさらに向上させ、交換留学の基準に到達することを目標とする。
- 2) 英国文化をはじめ、英国の政治・経済・法律・社会について世界の中での位置づけを意識した上で理解を深める。
- 3) Academic Reading, Academic Writingなどを通じクリティカルな思考を身につけ、英語での大学教育を受講するための基本スキルを充実させる。

### 【授業計画】

リーズ滞在中の12週間は、ホームステイで、現地の人々の生活を体験する。語学授業(会話・リスニング・読解)を中心に行い、イギリス文化についても授業や体験を通して学ぶ。

具体的には、海外提携校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期海外セミナーを行う。

- 1) 研修参加者の決定
- 2) 研修事前指導
- 3) 研修指導
- 4) 研修事後指導
- 5) 研修報告書の提出
- 6) 研修成果報告会の参加

### 【評価方法】

研修報告書+研修成果報告会=(20%)  
研修事前指導+研修指導+研修事後指導=(40%)  
研修実施校からのフィードバック=(40%)

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 実践日本語表現法 a

人見恭司

## 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 導入（講義の進め方など）
2. 話し言葉と書き言葉(1)（話し言葉と書き言葉の違い）
3. 話し言葉と書き言葉(2)（書き言葉としてふさわしい表現、小テスト1）
4. 書き言葉の技能 基礎(1)（文の骨組みを抜き出す、小テスト2）
5. 書き言葉の技能 基礎(2)（文の骨組みを整える、小テスト3）
6. 書き言葉の技能 基礎(3)（呼应関係を確かめる、小テスト4）
7. 書き言葉の技能 基礎(4)（接続助詞「が」の使い方、小テスト5）
8. 書き言葉の技能 基礎(5)（句読点の使い方、小テスト6）
9. 書き言葉の技能 基礎(6)（修飾語と被修飾語、小テスト7）
10. 書き言葉の技能 基礎(7)（修飾語の語順、小テスト8）
11. 書き言葉の技能 応用(1)（論の要旨をとらえる）
12. 書き言葉の技能 応用(2)（文章を要約する）

## 【評価方法】

学期末試験（40%）、小テスト（32%）、レポート（8%）、出席点（20%）により総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店）

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 実践日本語表現法 b

人見恭司

## 【授業の概要】

実践日本語表現法 a での学習内容に引き続き、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

## 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 書き言葉の技能 発展(1)（レポートの書き方1）
2. 書き言葉の技能 発展(2)（レポートの書き方2）
3. 書き言葉の技能 発展(3)（論証の仕方、小テスト9）
4. 話し言葉の技能 基礎(1)（敬語の基礎、小テスト10）
5. 話し言葉の技能 基礎(2)（敬語の種類と使い方、小テスト11）
6. 話し言葉の技能 基礎(3)（間違いやすい敬語表現、小テスト12）
7. 話し言葉の技能 応用(1)（相手を考えて話す、小テスト13）
8. 話し言葉の技能 応用(2)（電話で話す、小テスト14）
9. 総合応用(1)（手紙文とその実例、小テスト15）
10. 総合応用(2)（メモの作り方、小テスト16）
11. 総合応用(3)（ビジネス文書とその実例1）
12. 総合応用(4)（ビジネス文書とその実例2）

## 【評価方法】

学期末試験（40%）、小テスト（32%）、レポート（8%）、出席点（20%）により総合的に評価する。

## 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会編 三弥井書店）

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 図書館情報学概論 I

村主朋英

## 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方や分野の特徴について概説する。

## 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

## 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
情報概念の歴史/定義の多様性と現象の多面性  
構造的な理解：認知とこころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

## 【評価方法】

- 定期試験
- 注1)「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。
- 注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

## 【参考文献・資料】

図書館・情報学概論 第2版（勁草書房）  
情報学の理論と実際（勁草書房）  
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）  
※その他、授業で紹介する。

## 図書館情報学概論 II

村主朋英

## 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

## 【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引き続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

## 【授業計画】

1. 情報の流過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 社会における情報流通と図書館・情報サービス  
図書館の館種ごとの特質/情報システムとしての図書館  
/図書館ネットワーク/競合する情報サービス
3. 図書館員と情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

## 【評価方法】

- 定期試験と夏休みレポート
- 注1)「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。
- 注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

## 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）  
図書館ハンドブック 第6版（日本図書館協会）

## 卒業論文ゼミ I

伊藤真理

## 【授業の概要】

卒業論文執筆に向けて研究準備を行う。図書館を中心とした社会情報サービス機関での情報サービスを中心として、各自の興味のあるテーマについて関連文献の収集、分析を行い、卒業論文テーマの決定および研究方法を検討する。

## 【授業の目標】

自分のテーマに沿った適切な学術論文を検索・収集し、各論文の研究目的、対象範囲、調査結果、考察について批判的に読み取ることができるようになる。

研究論文の内容を把握し、それをレジュメにまとめて発表し、また他者の発表について、自分の意見を論理的に述べるができるようになる。

## 【授業計画】

はじめに、学術文献収集について演習をまじえながら概説する。次に、調査・研究の進め方について説明し、研究論文の読み方について学ぶ。

各履修者は研究計画を立て、各自の関心テーマに基づいて、4年次での卒業論文作成作業に必要な文献収集を行う。

文献リストに基づいて、研究論文を読み、レジュメを作成して授業内で報告する。各自の報告を履修者全員で討議、検討することにより、研究テーマ、調査方法決定の準備段階とする。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

その都度指定する。

## 卒業論文ゼミ I

岡澤和世

## 【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

1. 情報学の起源
  - 1) 図書館学の歴史と教育
  - 2) Meadowsの考え
  - 3) Sheraの考え
2. 情報学の研究範囲
  - 1) 情報学の基準
  - 2) B. C. Vickeryの範囲
  - 3) 情報学の主要論文
3. 情報学の基礎
  - 1) B. C. Brookes
  - 2) 社会と情報
  - 3) 情報の研究-F. Machlupら
4. 課題と展望

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

## 【評価方法】

レポート 卒業論文

## 【テキスト】

- |          |   |
|----------|---|
| 情報学講義ノート | 1 |
| 情報学講義ノート | 2 |

## 卒業論文ゼミ I

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

## 【授業の目標】

図書館情報学において、どのような問題が存在しているかを文献講読から理解すること。

## 【授業計画】

3年後期から開始されるゼミでは、3年次中に研究テーマを決定する。この間は、関連文献を探査し、主要な文献のレビューを行ない、その内容をレジュメとともに口頭で発表する。4年次（卒業論文ゼミII・III）からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。既往研究も参考にしながら、調査方法を検討した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

## 【評価方法】

研究への取り組みとゼミでの発表内容から評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 卒業論文ゼミ I

西荒井学

## 【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

## 【授業の目標】

受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。特に、事前の情報収集と卒論テーマの決定が重要な4年次への足掛かりとなる。

## 【授業計画】

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

受講者各自が、指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。また、4年次での卒論中間発表は、図書館情報学特殊演習ゼミ学生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場にて行う場合がある。

## 【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミ I

三和義秀

## 【授業の概要】

「Web 2.0」という次世代のインターネット・サービスが展開され、「ウィキペディア」、「ブログ(weblog)」、「RSSフィード」などの技術によって、インターネット上での協同作業や知識の共有が活発化している。図書館においても、自分だけの勉強部屋のようなWeb上の個人化された図書館としての「MyLibrary」や知識を共有する場としての「Library2.0」という新しい仕組みも誕生している。本講義では、Web 2.0の社会で活用される技術について学ぶ。また人間の感性の特性や感性情報検索システムの仕組みについても理解する。

## 【授業の目標】

「XML」「ウィキペディア」「ブログ(weblog)」「RSSフィード」などWeb 2.0社会を支える技術の仕組みについて理解し、XMLによるプログラミングの基礎スキルを身に付ける。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) Web社会の新しい技術：XML, ウィキペディア, ブログ(weblog), RSSの仕組み
- (4回) XML文書の作成
- (5回) XSLTによるスタイルシートの作成
- (6回から7回) 人間の感性の特性
- (8回から10回) 感性情報検索システムの仕組みと事例, 評価
- (11回から14回) XMLによる検索システム(課題)の作成
- (15回) まとめ

## 【評価方法】

- 1) Web2.0の社会の技術をテーマとするレポート(評価割合:50%)
- 2) XMLプログラミングの課題(評価割合:50%)

## 【テキスト】

梅田望夫. 「ウェブ進化論」. ちくま新書

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 卒業論文ゼミ I

山崎茂明

## 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

## 【評価方法】

卒業論文、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 卒業論文ゼミ I

村主朋英

## 【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。  
各自のテーマに関する基礎的な調査を通じて各自の問題意識を醸成する。

## 【授業の目標】

基礎的な調査を通じて各自の知識と問題意識とを深める。

## 【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

## 【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終レポート

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

## 卒業論文ゼミ II

伊藤真理

## 【授業の概要】

3年次に設定した各自のテーマに従って、学術論文を作成するための指導を行う。履修者全員による発表・討議を通して研究を進め、卒業論文をまとめていく。

## 【授業の目標】

調査などを実施し、データを分析・評価することができる。自分の意見や主張を論理的にまとめることができる。

## 【授業計画】

3年次から継続している先行研究のレビューのまとめと批判的考察を行う。

図書館情報学分野でのさまざまな調査方法について概説する。調査方法を把握した上で、各自のテーマに適切な調査などについて履修者全員で討議、検討する。

卒業論文の執筆に必要な論文作成方法について概説する。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

その都度紹介する。

## 卒業論文ゼミ II

岡澤和世

## 【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人工工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

## ＜前期＞

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

## ＜後期＞

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人工工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

## 【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

## 【テキスト】

情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世 敬文堂）  
 インフォ・リッチ：インフォ・ブア（Trevor Haywood 岡澤和世 敬文堂 1997）

## 卒業論文ゼミ II

西荒井学

## 【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミIIにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

## 【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論研究・作成作業を行う。

## 【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定（4月）
- 2) 卒論（章）の構成（5月上旬）
- 3) 文献リスト作成（5月下旬）
- 4) 卒論（節）の構成（6月）
- 5) 1節分の論文執筆仮提出（7月下旬）
- 6) 中間発表（8月下旬～9月上旬）
- 7) 卒論仮提出（11月中旬）
- 8) 卒論本提出（12月中旬）

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に特殊演習ゼミ学生との合同合宿（2泊3日）にて行う場合もあるので、注意すること。

## 【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミ II

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

## 【授業の目標】

研究目的に基づく調査の計画と実施。

## 【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

## 【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 卒業論文ゼミ II

林 博司

## 【授業の概要】

卒業論文ゼミIIの期間に各自が設定した研究テーマに基づき卒業論文を完成させる。そのために各自で文献の収集、データの整理、問題点の把握、論旨の展開を行う。このゼミでは、こうした作業の進行状況を随時報告し、他の構成員らから建設的な批判を受け、論文をより深いものとするを目的とする。

## 【授業の目標】

論文を書くために必要な実験、データ集めなどを行う。

## 【授業計画】

11月中旬までにドラフトが完成するよう、各学生に応じた方法で弾力的に指導する。

## 【評価方法】

各学生の積極性を重視し、楽しく学ぶ人を評価する。

## 【テキスト】

特に定めない。必要に応じて配布資料を教員が用意する。

## 卒業論文ゼミ II

三和義秀

## 【授業の概要】

3年前期で履修する「卒業論文Ⅰ」で学習した知識や技術を基盤とした各自の卒業研究の最終テーマを決定する。先行研究の紹介、その内容理解、及びシステム構築に必要なプログラミング技術の習得を行う。また学術論文の書き方についても学習する。

## 【授業の目標】

卒業研究のテーマを決定し、先行研究に関する情報検索、及び検索結果についての内理解を完了する。

## 【授業計画】

- 1回から3回  
各自の研究テーマに関連する先行研究文献の検索
- 4回から5回  
研究のためのビブリオグラフィの作成、先行研究の理解
- 6回から10回  
プログラミング学習
- 11回から15回  
研究テーマに関するプレゼンテーション

## 【評価方法】

卒業研究に関する中間発表（リポート）、及び試作システムにて評価する。

## 【テキスト】

授業中に指示する

## 卒業論文ゼミ II

村主朋英

## 【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。  
まず、図書館情報学の特徴および動向について整理・再確認する。つぎに、他分野を含む各自のテーマの関連主題領域を同定する。その上で、先行研究を網羅的に調査・分析し、テーマを明確化する。そして、研究方法を策定し、実質的な研究を開始する。

## 【授業の目標】

図書館情報学および各自のテーマの関連主題領域について、理解を深める。そして、研究動向を踏まえて各自のテーマを明確化し、研究方法について吟味する。

## 【授業計画】

1. 図書館情報学の特徴および動向
2. 関連主題領域の同定
3. 先行研究の分析、研究動向の把握
4. 問題設定
5. 研究方法の決定
6. プレゼンテーション（中間発表会）

## 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

## 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミ II

山崎茂明

## 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしぼり切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

## 【評価方法】

卒業論文、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 卒業論文ゼミ III

伊藤真理

## 【授業の概要】

履修者各自で設定したテーマに従って、卒業論文を作成するための指導を行う。履修者はこれまでの発表・討議を通して進めてきた研究を論文としてまとめる。

## 【授業の目標】

収集および分析したさまざまな文献やデータを用いて、論理的で明解な記述ができ、客観性と独自性を持った論文の作成ができる。  
論文作成とともに効果的なプレゼンテーションができる。

## 【授業計画】

卒業論文の文章表現法、執筆規程、引用などについて授業を行い、個別指導を中心として、論文作成を進める。最終的な成果となる卒業論文発表会でのプレゼンテーションの準備を行う。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。



## 卒業論文ゼミ III

岡澤和世

## 【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

## &lt;前期&gt;

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

## &lt;後期&gt;

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

## 【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

## 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世 敬文堂）

インフォ・リッチ：インフォ・ブア（Trevor Haywood 岡澤和世 敬文堂 1997）

## 卒業論文ゼミ III

西荒井学

## 【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミIIにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

## 【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論研究・作成作業を行う。

## 【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定（4月）
- 2) 卒論（章）の構成（5月上旬）
- 3) 文献リスト作成（5月下旬）
- 4) 卒論（節）の構成（6月）
- 5) 1節分の論文執筆仮提出（7月下旬）
- 6) 中間発表（8月下旬～9月上旬）
- 7) 卒論仮提出（11月中旬）
- 8) 卒論本提出（12月中旬）

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に特殊演習ゼミ学生との合同合宿（2泊3日）にて行う場合もあるので、注意すること。

## 【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 卒業論文ゼミ III

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

## 【授業の目標】

調査結果の分析・考察を通して、卒業論文を完成させ、卒業論文発表会で研究内容を発表すること。

## 【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

## 【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 卒業論文ゼミ III

林 博司

## 【授業の概要】

卒業論文ゼミIの期間に各自が設定した研究テーマに基づき卒業論文を完成させる。そのために各自で文献の収集、データの整理、問題点の把握、論旨の展開を行う。このゼミでは、こうした作業の進行状況を随時報告し、他の構成員らから建設的な批判を受け、論文をより深いものとするを目的とする。

## 【授業の目標】

卒業論文を書き上げる。

## 【授業計画】

11月中旬までにドラフトが完成するよう、各学生に応じた方法で弾力的に指導する。

## 【評価方法】

各学生の積極性を重視し、楽しく学ぶ人を評価する。

## 【テキスト】

特に定めない。必要に応じて配布資料を教員が用意する。

## 卒業論文ゼミ III

三和義秀

## 【授業の概要】

卒業研究に必要なシステム構築のためのプログラミング、及び卒業論文の執筆を行う。

## 【授業の目標】

卒業研究のための制作システム構築、及び論文執筆を完了する。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) 各自の研究テーマに即したシステム構築の個別指導
- (4回から5回) 卒業論文の構成内容に関する個別指導
- (6回から7回) 制作システムのプレゼンテーション (中間発表)
- (8回から9回) 制作システムの評価
- (10回から13回) 卒業論文の個別執筆指導
- (14回) 制作システムのプレゼンテーション (最終発表)
- (15回) まとめ

## 【評価方法】

卒業論文、及び制作システムにて評価する。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

## 卒業論文ゼミ III

村主朋英

## 【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。  
研究計画を実施に移す。そこで得られた成果を分析・考察する。最後に、研究全体の過程を整理し、卒業論文を企画・執筆する。

## 【授業の目標】

計画的に作業を進め、得られた成果を厳正に分析・考察する。そして、成果を過不足なく表現した論文を構築する。

## 【授業計画】

1. 研究計画の実施
2. 研究成果の分析・考察
3. 論文の企画・執筆

## 【評価方法】

平常点 (出欠、課題の提出状況)。

## 【テキスト】

使用せず。

## 卒業論文ゼミ III

山崎茂明

## 【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしぼり切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

## 【評価方法】

卒業論文、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 図書館情報学特殊演習 I

伊藤真理

## 【授業の概要】

インターネットが普及している今日の情報環境において、情報の組織化(メタデータ)とその利用の意義について理解を深めることを目的とする。人文社会科学分野の電子情報資源を対象として、メタデータ作成およびその提供や利用について検討する。

## 【授業の目標】

メタデータについてのさまざまな用語を理解し、ダブリン・コアフォーマットを用いてメタデータの作成ができる。

## 【授業計画】

3年次では、電子情報資源の組織化に関する基礎的な知識の習得を中心とする。前半はメタデータの種類や特徴、電子情報資源を対象とした様々な記述フォーマットについての基礎知識を学び、後半はメタデータやメタデータを利用したシステムなどの事例に関する文献を読み、理解を深める。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 図書館情報学特殊演習 I

岡澤和世

## 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮できるよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 社会変化
20. 情報社会の展開過程と現状

## 【評価方法】

小論文と出席日数。

## 【テキスト】

情報学講義ノート〈1〉(岡澤和世 敬文堂)  
インフォ・リッチ：インフォ・プア (Trevor Haywood 岡澤和世 敬文堂 1997)

## 図書館情報学特殊演習 I

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査と評価を行なう

## 【授業の目標】

図書館や博物館の動向を文献講読から理解すること。

## 【授業計画】

3年次の半期間は、ガイド作成のための基礎知識をゼミ生全員で共有するために、文献の探索、講読、口頭発表を繰り返す。それと同時に、ガイドの構成や内容についてコンセンサスを得るために話し合いを定期的に行なう。ゼミの最終週には、次年度に向けての計画について報告会を開く。

## 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと発表内容から評価する

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習 I

西荒井学

## 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、その内容を実演形式で学習していく。

## 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な開発ツール、すなわちプログラム言語やアプリケーション・ソフトウェアに関する、より高度な知識の習得と基本設計までを実技を通して理解していく。

## 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。また、4年次での卒業制作に関する中間発表は、卒業論文ゼミ生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場で行う場合がある。

## 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 I

三和義秀

## 【授業の概要】

「Web 2.0」という次世代のインターネット・サービスが展開され、「ウィキペディア」、「ブログ(weblog)」、「RSSフィード」などの技術によって、インターネット上での協同作業や知識の共有が活発化している。図書館においても、自分だけの勉強部屋のようなWeb上の個人化された図書館としての「MyLibrary」や知識を共有する場としての「Library2.0」という新しい枠組みも誕生している。本講義では、Web 2.0の社会で活用される最新技術について学び、XMLによるプログラミングを実習形式で行う。

## 【授業の目標】

「XML」「ウィキペディア」「ブログ(weblog)」「RSSフィード」などWeb 2.0社会を支える技術の仕組みについて理解し、XMLによるプログラミングの基礎スキルを身に付ける。また、人間の感性の特性と感性情報検索システムの仕組みについて理解する。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) Web社会の代表的な技術：XML、ウィキペディア、ブログ(weblog)、RSSの仕組み
- (4回から5回) 人間の感性
- (6回から7回) 感性情報検索システムの仕組み
- (8回から10回) 感性情報検索システムの実例と評価
- (11回から12回) XML文書の作成、XSLTによるスタイルシートの作成
- (13回から14回) XMLによる検索システム（課題）の作成
- (15回) まとめ

## 【評価方法】

- 評価項目
- 1) 「Web2.0の社会における技術」をテーマとするレポート（評価割合：50%）
  - 2) XMLプログラミングの課題（評価割合：50%）

## 【テキスト】

梅田望夫。「ウェブ進化論」。ちくま新書

## 図書館情報学特殊演習 I

村主朋英

## 【授業の概要】

村主特演ゼミでは、歴史情報を用いた演習を行なう。個別テーマごとに、種々の情報源を活用した歴史の探求を行なう。

各自の研究テーマは、情報に関わる事項にとどまらず、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わる任意の事象の中から、各自の意思にもとづいて決める。

3年次においては、辞典・事典等のレファレンスブックの調査を通じ、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

## 【授業の目標】

各自の研究テーマについて、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育む。

## 【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

## 【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終報告書。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

## 図書館情報学特殊演習 I

山崎茂明

## 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学III(科学コミュニケーション)と情報メディア論V(科学技術情報)を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取りあげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ(文献レビュー)、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション(PowerPoint実習を含む)など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

## 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

## 図書館情報学特殊演習 II

伊藤真理

## 【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化(メタデータ)に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自(個人又はグループ)で任意のテーマを選び、メタデータの効果的な提供サービスの方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

既存のメタデータプロジェクトやシステムについて理解し、それらのシステムにおけるメタデータの活用について把握し、批判的に考察ができるようになる。また、履修者自身でテーマ設定を行い、研究方法を検討する能力を養う。

## 【授業計画】

メタデータの利用・提供についてさまざまな事例を収集し、比較検討を行う。その考察を基にして、各自のプロジェクトのテーマの選定や研究方法を決定する。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず。適宜指定する。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 図書館情報学特殊演習 II

岡澤和世

## 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力(リテラシー)を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

- オリエンテーション：情報環境
1. 情報環境とニューメディア
  2. 情報メディア
  3. 情報アクセス
  4. 情報不均衡
  5. 情報と知識を結ぶ鎖
  6. 記憶と情報
  7. ニューラル・ネットワーク
  8. 言語と会話
  9. 書物の歴史
  10. 女性と情報
  11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
  12. 情報の質
  13. 情報過多
  14. 情報と文化の関係
  15. 情報と漫画
  16. 情報と広告
  17. 情報とテレビ
  18. 情報の一極集中化
  19. 情報倫理
  20. 情報社会の展開過程と現状

## 【評価方法】

出席とレポート。

## 【テキスト】

情報学講義ノート〈2〉(岡澤和世 敬文堂)  
インフォ・リッチ：インフォ・プア (Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

## 図書館情報学特殊演習 II

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう
- (7) 作成したガイドを公表し、第三者による評価を行なう

## 【授業の目標】

研究テーマを決定し、関連する文献の収集や取材活動を行い、テーマに関する情報を収集し、理解し、文章化すること。

## 【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、ガイドの構成・内容についての話し合いを継続する。ガイド作成後は、第三者によるガイド評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

## 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みとガイドの内容から評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習 II

西荒井学

## 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

## 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

## 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

## 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 II

林 博司

## 【授業の概要】

3年後期に引き続き、生命科学を中心とした、自然科学情報のデータベース作成を目指す。階層構造の構成から、データのコンポーネントまで全員で検討し、わかりやすく、楽しく、役に立つデータベースの構築を成し遂げる。

## 【授業の目標】

制作のためのデータを収集する。

## 【授業計画】

目的を達成するために必要な指導を構成員のニーズに合わせて弾力的に展開する。

## 【評価方法】

各学生の作業への関わり方を総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要に応じて手交する。

## 図書館情報学特殊演習 II

三和義秀

## 【授業の概要】

各自の研究テーマに関する先行研究を検索・収集し、それらの内容を理解しながら、システム構築のためのプログラミングの基礎スキルを習得する。

## 【授業の目標】

卒業研究に用いるプログラム言語を決定し、その言語によるプログラミング技術を習得する。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) 各自の研究テーマに関連する先行研究文献の検索・収集方法の指導
- (4回から5回) システム設計の方法
- (6回から8回) JSPによるプログラミングの基礎
- (9回から10回) JSPによるWebアプリケーションの作成
- (11回から13回) 研究計画、研究方法の策定とプレゼンテーション
- (14回) 研究方法の評価
- (15回) まとめ

## 【評価方法】

レポートにて評価する。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

## 図書館情報学特殊演習 II

村主朋英

## 【授業の概要】

3年次に引続き、歴史情報に関わる演習（卒業研究）を進める。  
まず、各自のテーマに関する年表の作成に取り組む。多数の項目を設定し、広範囲の事象を有機的に組み合わせた年表をつくることを目指す。つぎに、それまでの調査を通じて生じた疑問点・関心事項について検討し、それをもとにテーマを明確化する。

## 【授業の目標】

質が高く、有意義な年表をつくる。また、テーマに関わる問題状況の掘り下げを通じて問題意識を深め、テーマを明確化する。

## 【授業計画】

1. 年表の計画
2. 年表のためのデータ収集
3. 年表の編集・調整
4. 問題の分析と仮説の設定
5. プレゼンテーション（テーマ概要発表）

## 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）

## 【テキスト】

使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 II

山崎茂明

## 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌をより深く理解するために、学生を読者対象にした総合誌「LaIS」の記事を企画し、調査、記事執筆、原稿審査、レイアウト、編集、製作などを実践的に学ぶ。個人やグループで特定テーマを企画し、最終的には、ゼミ学生誌「LaIS」としてまとめることを目標にしています。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としての。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

## 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 図書館情報学特殊演習 III

伊藤真理

## 【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化（メタデータ）に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自（個人又はグループ）で任意のテーマを選び、メタデータの効果的な利用や提供方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

各自で決定したテーマの研究目的を達成するための方法を実践できる能力を養う。意見や主張を論理的にまとめ、プレゼンテーションで発表することができる。

## 【授業計画】

特殊演習IIで決定したテーマや研究方法に基づいて、電子情報資源を対象としてメタデータを利用したレファレンスツールの作成を行う。卒業論文発表会での発表のためのプレゼンテーションの準備を行う。

## 【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

## 【テキスト】

使用せず。適宜指定する。

## 図書館情報学特殊演習 III

岡澤和世

## 【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。  
今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

- オリエンテーション：情報環境
1. 情報環境とニューメディア
  2. 情報メディア
  3. 情報アクセス
  4. 情報不均衡
  5. 情報と知識を結ぶ鎖
  6. 記憶と情報
  7. ニューラル・ネットワーク
  8. 言語と会話
  9. 書物の歴史
  10. 女性と情報
  11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
  12. 情報の質
  13. 情報過多
  14. 情報と文化の関係
  15. 情報と漫画
  16. 情報と広告
  17. 情報とテレビ
  18. 情報の一極集中化
  19. 情報倫理
  20. 情報社会の展開過程と現状

## 【評価方法】

出席とレポート。

## 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世 敬文堂）  
インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

## 図書館情報学特殊演習 III

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査と評価を行なう
- (7) 作成したガイドを公表し、第三者による評価を行なう

## 【授業の目標】

研究テーマに関する情報をWebサイトや冊子体の資料としてまとめ、他者からの評価を得て完成させ、発表会で活動報告と製作した資料を公開すること。

## 【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、ガイドの構成・内容についての話し合いを継続する。ガイド作成後は、第三者によるガイド評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

## 【評価方法】

ゼミ活動への取り組みとガイドの内容から評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 図書館情報学特殊演習 III

西荒井学

## 【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

## 【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

## 【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

## 【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 III

林 博司

## 【授業の概要】

3年後期に引き続き、生命科学を中心とした、自然科学情報のデータベース作成を目指す。階層構造の構成から、データのコンポーネントまで全員で検討し、わかりやすく、楽しく、役に立つデータベースの構築を成し遂げる。

## 【授業の目標】

作品の完成を目指す。

## 【授業計画】

目的を達成するために必要な指導を構成員のニーズに合わせて弾力的に展開する。

## 【評価方法】

各学生の作業への関わり方を総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要に応じて手交する。

## 図書館情報学特殊演習 III

三和義秀

## 【授業の概要】

図書館情報学特殊演習 I、II で策定した研究計画、習得した知識、技術、及び収集した参考文献を基にして各自の研究テーマに即したシステムの設計、及びプログラミングを行う。

## 【授業の目標】

卒業研究の制作システムと卒業レポートを完成する。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から5回) 各自の研究テーマ、方法に即した個別指導
- (6回から8回) 研究の進捗状況（中間報告）、プレゼンテーション
- (9回から10回) 試作システムの評価
- (11回から13回) 制作システムの修正と卒業レポートの執筆指導
- (14回から15回) 卒業研究の発表会

## 【評価方法】

卒業レポート、及び制作システムにて評価する。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

## 図書館情報学特殊演習 III

村主朋英

## 【授業の概要】

IおよびIIに引き続き、歴史情報に関わる演習（卒業研究）を進める。IIにおいて明確化したテーマについて、情報源を探索し、得られる情報の分析を通じて課題の解決を進める。そして、研究の成果をまとめ、中間発表会と最終レポートの二つの形で表現する。

## 【授業の目標】

各自のテーマに関する研究を深め、成果をまとめて発表する。また、それら一連の作業を通じ、歴史情報を用いた問題解決について学ぶ。

## 【授業計画】

1. 情報源の網羅的探索
2. 情報源から得られる情報の分析・総合
3. 問題の解決
4. プレゼンテーション（中間発表、最終報告書）

## 【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

## 【テキスト】

使用せず。

## 図書館情報学特殊演習 III

山崎茂明

## 【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌をより深く理解するために、学生を読者対象にした総合誌「LaIS」の記事を企画し、調査、記事執筆、原稿審査、レイアウト、編集、製作などを実践的に学ぶ。個人やグループで特定テーマを企画し、最終的には、ゼミ学生誌「LaIS」としてまとめることを目標にしています。

## 【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

## 【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としての。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

## 【評価方法】

総合研究報告、レポート。

## 【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## プラクティカルイングリッシュ

伊藤真理

## 【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を対象とする。

## 【授業の目標】

海外の情報機関や情報専門家を訪問、またインターネットを通して必要な情報や知識を獲得するために必要とされる、広い視点での働くための基礎能力を修得する。

## 【授業計画】

辞書を引く、人と会う（名刺を読む）、図書館訪問（手紙、電子メール）、公共図書館、米国議会図書館、図書館の組織とサービス、求職情報からみた図書館、特定図書館の活動、書評を読む、など。履修者は、必ず英和辞典を持参すること。授業時間内の英訳や自宅での課題など予定している。

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験。

## 【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## プロフェッショナルリーディング

村主朋英

## 【授業の概要】

専門的な外国語文献の効率的・効率的な読解・利用のための技能を養う科目である。主に、英米の情報学・図書館学のレファレンスブック・専門書・学術論文を題材とする。

専門的な文献ほど形式が整っており、また和文よりも英文の方が一般に明瞭な文章が多い。また、専門用語を覚えれば覚えるほど、それに比例して専門的な文献は読みやすくなる。この授業では、演習を通じ、そうした点を応用した読解技法を追求する。

演習を中心に進める。（翻訳・要約などの作業課題を課する）

## 【授業の目標】

コツさえわかれば専門的な外国語文献は大変に読みやすいメディアです。そのことを体感し、読み解くことの楽しさを覚えてほしい。

なお、演習を中心とし、平常点を重視するので、がんばってください。

## 【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方  
文章の構造的/効率的な読解のテクニック/専門用語を憶えることの意義
2. 演習（1）：短文全訳で腕試し
3. 演習（2）：文脈のわかっている英文の読解
4. 演習（3）：長文の斜め読み
5. 演習（4）：異なる専門分野の英文
6. レジュメの作り方  
レジュメの要件/レジュメ作成演習

## 【評価方法】

以下の三つを組み合わせる。

- （1）平常点（出欠および宿題の提出状況）
- （2）試験（情報関連の専門用語、短文読解）
- （3）レポート（外国語論文を読んでレジュメを作成）

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善）

そのほか、各自英和辞典を持参すること。



## 情報学 I (生命情報増幅)

林 博司

### 【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。原始生命以来存在する先天的な遺伝情報系について学ぶ。

- 1: 地球の誕生と生命の起源
- 2: 遺伝子とは何か
- 3: 核酸の構造と遺伝暗号
- 4: 遺伝情報の伝達と発現
- 5: タンパク質の構造と機能
- 6: 情報発現の制御機構
- 7: 遺伝子像の変遷
- 8: 遺伝子による生命現象の支配
- 9: 遺伝情報系と言語情報系

### 【授業の目標】

遺伝情報系のもつ情報システムとしての特異性を理解する。

### 【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

### 【評価方法】

中間テスト(30%)、レポート(30%)、最終テストの成績(40%)で評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業で指示する

## 情報学 II (生命情報増幅)

林 博司

### 【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。ここでは後天的な情報システムである脳神経系の情報処理について学ぶ。

- 1: 脳科学の歴史
- 2: 脳の構造と機能
- 3: 神経細胞の成り立ちと神経回路
- 4: 脳の可塑性
- 5: 記憶のメカニズム
- 6: 意識・感情についての理解
- 7: 感覚系の進化
- 8: 情報とは何か

### 【授業の目標】

脳神経系の作動機構を理解し、コンピュータによる情報処理との異同を理解する。

### 【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

### 【評価方法】

中間テスト(50%)最終テスト(50%)の成績で評価する。

### 【参考文献・資料】

情報生物学入門(鈴木英雄他著 培風館 2,427円)

## 情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(Vickery著 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典(丸善)

### 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)

## 情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業の目標】

(情報学IIIと同様です。情報学IIIの該当項目を参照してください)

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代(1)学術情報流通システムの成立
2. 〃 (2)知の環境化(百科事典、国立図書館、公共図書館)
3. 書誌、ドキュメンテーション、情報検索

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(Vickery著 勁草書房)  
図書館情報学用語辞典(丸善)

### 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)

## 情報学 V (科学コミュニケーション)

山崎茂明

### 【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、そこで発生するコミュニケーションの実態を、情報メディアと研究者に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。とくに、科学研究の不正行為に焦点をあて、科学コミュニケーションの生態と機能を明らかにし、全体像への理解を試みる。

1. 科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-21世紀の科学研究
4. 科学は信頼されているか
5. 科学研究の不正行為
6. 不正行為の生態
7. 日本における事例
8. 海外での事例
9. 主要国における対応
10. レフェリーシステムと不正行為
11. 学術論文の撤回と不正行為
12. 雑誌編集者の役割
13. 信頼できる科学コミュニケーションの確立

### 【授業の目標】

科学コミュニケーションの世界を実態として理解し、批判的にアプローチできる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

### 【テキスト】

科学者の不正行為 (山崎茂明 丸善)

### 【参考文献・資料】

背信の科学者たち (Broad, W.他 化学同人)  
ORI研究倫理入門 (Steneck, N. 丸善)  
アメリカの研究費とNIH (白楽ロックビル 共立出版)

## 情報処理概説 I

### 【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。特に、コンピュータ技術は日進月歩の勢いで変化してきているが、その原理・原則には不変、かつ共通している部分が少ない。本授業では、情報のコンピュータ内部表現、コンピュータの基本機能など、ハードウェアならびにソフトウェアにおいて普遍的なコンピュータ技術基盤に焦点を絞って学習していく。

### 【授業の目標】

キーボード操作をはじめ日本語文書作成など、最も基礎的な操作技術習得を図ると共に、コンピュータ操作技術のみならず情報技術に関連する基礎的な知識を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1) コンピュータの歴史的発展過程
  - 2) 情報の表現と情報単位
  - 3) コンピュータの仕組み
  - 4) キー・タイピング練習：実習
  - 5) 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
  - 6) 基本ソフトウェアの操作：実習
  - 7) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト実習
  - 8) ネットワークの利用 (電子メール、WWW)：実習
  - 9) 情報処理方式とシステム形態
  - 10) 計測・制御システムの機能と特徴
  - 11) 情報構造 (ファイルとデータベース)
  - 12) 情報処理技術の応用分野と今後の情報処理
- 講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

コンピュータ入門II 2007年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## 情報処理概説 II

### 【授業の概要】

情報処理技術におけるソフトウェアの意義、ならびに有用性について、基礎的なプログラミング実習を通して、必要な基礎知識を習得していく。また、パッケージ系ソフトウェアとユーザー・ジョブ・プログラムの本質的な相違点を理解すると共に、ソフトウェア開発の本質的意義、および基本的な技法について学習していく。

なお、プログラミング実習については、VB (Visual Basic) を使用することから、VBの特徴、機能等についても併せて触れていく。

### 【授業の目標】

ソフトウェアの発展経緯や各種ソフトウェアの違いを正しく理解すると共に、ソフトウェアの応用方法を習得する。また、プログラミングの基礎技術を習得する。

### 【授業計画】

- 1) 開発系ソフトウェアの種類と歴史
  - 2) パッケージ系ソフトとユーザー・ソフト
  - 3) 表計算ソフトウェア：実習
  - 4) プレゼンテーション・ソフト：実習
  - 5) 情報処理ステップとプログラム開発基礎手順 (問題解析、開発)
  - 6) VB (Visual Basic) の特徴と機能
  - 7) プログラミングの前に、VBの起動、操作：実習
  - 8) 演算処理、プロジェクトの保存/呼び出し：実習
  - 9) 判断分岐、繰り返し処理：実習
  - 10) 関数の利用、配列：実習
  - 11) モジュールの追加、変数の共有：実習
  - 12) VBアプリケーション開発練習：実習
- 講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

コンピュータ入門I 2007年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## ネットワークリテラシ

### 【授業の概要】

情報社会を形成する重要な社会技術のひとつであるネットワーク技術について、その機能の有用性と脆弱性を主に実習を積み重ねながら習得していく。特に、現在の重要な情報基盤であるインターネット環境に焦点を当て、情報の受発信に係る操作・作成技法を学習する。操作技法については、電子メールおよびWWW (World Wide Web) での応用操作技術、ならびに作成方法については、WWW上でのホームページを効果的に作成・運用していく技術、CGIプログラミングを通してのネットワーク構築、およびセキュリティ技術を本授業の中心課題とする。

なお、授業内容に準じて、ネットワーク技術利用の意義、作成する情報コンテンツに対する配慮や心構え、および情報倫理、セキュリティの問題についても触れていく。

### 【授業の目標】

コンピュータネットワークの意義、機能、及び技術動向を理解し、ユビキタス社会で活用できるネットワーク・リテラシーを身につける。

### 【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
  2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
  3. LANの種類と仕組み
  4. サーバの種類と仕組み
  5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
  6. ネットワークの実践、基本コマンド
  7. セキュリティと情報倫理
  8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
  9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
  10. フレームとテーブルの作成
  11. XMLの仕組み
  12. XML文書とスタイルシートの作成
  13. ホームページ課題制作
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」を併せて履修することが望ましい。後期の「ユーザ部門管理者コース」「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

### 【評価方法】

出席状況 (割合：20%)、課題提出 (割合：30%)、学期末試験 (割合：50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 (第2版) (共立出版)

## プログラミング論

### 【授業の概要】

適切な情報処理を実現するにあたって、ユーザー・ジョブ・プログラムの開発は、必要不可欠な場合が多い。このようなことから、本授業では、プログラミングの必要性、意義を理解すると共に、原則的なプログラム開発手順ならびにアルゴリズムを中心とするプログラム開発に必要な基礎知識を習得する。

なお、具体的なプログラム開発手順およびアルゴリズムを正しく理解していくために、本授業では、UNIX/Cを用いる際のプログラミングにおける問題点や考え方を例示していく。よって、プログラミングの問題点と共に、UNIXについても併せて触れていくこととする。

### 【授業の目標】

アルゴリズムの発想力、及びプログラミングの基礎スキルを身につける。

### 【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造 (If, Select Case文)
9. 繰り返し構造 (For~Next文)
10. 繰り返し構造 (Do While~Loop, Do Until~Loop文)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。  
授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。なお、「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

### 【評価方法】

出席状況 (割合 : 20%)、課題提出 (割合 : 30%)、学期末試験 (割合 : 50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学 共立出版)

080101503\_0640 掲載順 :0640

MASTER ★

## プログラム設計応用 I (C)

三和義秀 小林久恵

### 【授業の概要】

構造化プログラミングの技法とUNIX/Cによるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

### 【授業の目標】

C言語の文法、プログラム構造を理解し、アルゴリズムをC言語でプログラム化するスキルを身につける。またC言語プログラミング能力認定試験 (3級/2級) の合格を目指す。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション, C言語の基礎 (変数とデータ型, 演算子) の復習
- (2回) C言語の基礎 (制御構造: if-else.or.while.do-while, 配列) の復習
- (3回) アドレスとポインタの仕組み
- (4回) ポインタと文字列操作, ポインタと配列操作
- (5回) 関数の設計
- (6回) 文字列処理 (関数とポインタ)
- (7回) 記憶クラス, 文字列関数
- (8回) 構造体の仕組み
- (9回) 構造体とポインタ
- (10回) ファイル処理 (ファイルへの書き込みと読み込み)
- (11回) 演習問題
- (12回) C言語プログラミング能力認定試験対策
- (13回) C言語プログラミング能力認定試験対策
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

定期試験 (50%)、プログラミングの課題1回 (30%) 及び出席回数 (20%) の割合で評価する。

### 【テキスト】

三和義秀他, 例題で学ぶC言語プログラミングのテクニック, 共立出版

## プログラミング実習

三和義秀

### 【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するために必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

### 【授業の目標】

アルゴリズムの発想力とC言語, Javaプログラミングの基礎スキルを身につける。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション, プログラミングとは
- (2回) 変数, データ型, 配列の仕組み
- (3回) アルゴリズムとフローチャート
- (4回) UNIXの基本操作
- (5回) C言語プログラミングの基礎 (変数, データ型, 演算子, 関数)
- (6回) プログラム制御 (順次, 分岐: if-else)
- (7回) プログラム制御 (繰り返し構造: for, while, do-while)
- (8回) 配列 (一次元配列と二次元配列), 配列とfor文
- (9回) Javaプログラミングの基礎 (変数, データ型, 演算子, クラス)
- (10回) プログラム制御 (順次, 分岐: if-else)
- (11回) プログラム制御 (繰り返し構造: for, while, do-while)
- (12回) 配列 (一次元配列と二次元配列), 配列とfor文
- (13回) 演習問題
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

定期試験 (50%)、プログラミングの課題1回 (30%) 及び出席回数 (20%) の割合で評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

### 【参考文献・資料】

三和義秀他, C言語プログラミングのテクニック, 共立出版

080101503\_0650 掲載順 :0650

MASTER ★

## プログラム設計応用 II (COBOL)

西荒井学

### 【授業の概要】

近年、アプリケーション・ソフトウェアの中でも多様なパッケージ・ソフトウェアが提供されることが多くなってきている。しかしながら、提供されるパッケージ・ソフトウェアだけで、すべてを充足することは困難を極める場合が少なくない。本授業では、事務処理用言語であるCOBOLを使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していくことにより、プログラミングの本質を理解していく。

プログラミングは、単なる机上の問題ではなく、実際にコンピュータ実習を重ねていくことにより、理解を一層深めていくことができる。よって、授業内では出来る限りCOBOLプログラムを数多く作成していくことにより、プログラミングの本質的な問題点を理解していくと共に、COBOLというプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。なお、COBOLプログラミングの実習については、情報処理における基本的な処理プロセスを題材にした実習問題を解決していく。

### 【授業の目標】

COBOLというプログラム言語が持つ特徴とプログラム作成上の基本的なアルゴリズムを理解する。数多くのコンピュータ実習を体験することにより、プログラミング能力を養う。

### 【授業計画】

- 1) プログラミングの必然性と基本手順
  - 2) COBOLの基本構造と特徴 (予約語, 利用者定義語, コーディング書式)
  - 3) 識別部の役割とコーディング
  - 4) 環境部の役割とコーディング
  - 5) データ部の役割とコーディング
  - 6) 手続き部の役割とコーディング
  - 7) プログラミング実習 (実習問題A~H)
- 全授業回数の内、前半は講義中心、後半は実習形式で行なう。

### 【評価方法】

出席状況、提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

## プログラム設計応用 III (Java)

三和義秀 小林久恵

### 【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

### 【授業の目標】

オブジェクト指向プログラミングの利点を理解し、Javaを用いてアルゴリズムをプログラム化するスキルを身につける。またJava能力認定試験(3級/2級)の合格を目指す。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、オブジェクト指向のパラダイムとは
- (2回) オブジェクト指向プログラミング、Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- (3回) Javaの変数のデータ型(基本型と参照型)
- (4回) Javaのプログラム構造
- (5回) クラスの設計
- (6回) コンストラクタ
- (7回) オーバロード
- (8回) クラス変数とクラスメソッド
- (9回) クラスの継承
- (10回) オーバライド
- (11回) アクセス制御
- (12回) ファイル処理
- (13回) Javaプログラミング能力認定試験への対策
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

定期試験(50%)、プログラミングの課題1回(30%)及び出席回数(20%)の割合で評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業時に指示する

## データ管理論 I (表計算と統計)

三和義秀

### 【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフトExcelを使って学ぶ。

### 【授業の目標】

統計用語の意味とその仕組みを理解しながら、統計処理におけるExcelの活用方法を身につける。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- (2回) Excelによるデータ入力、表・グラフの作成
- (3回) Excelの関数
- (4回) 統計量の求め方(平均値、中央値、範囲、四分位範囲、尖度と歪度)
- (5回) 統計量の求め方(分散、標準偏差、偏差値の求め方と意味)
- (6回) Excelによる度数分布表、ヒストグラム、ドットプロット、クロス集計表の作成
- (7回) Excelによる平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の求め方
- (8回) 確率分布、正規分布
- (9回) 2項分布と標準正規分布
- (10回) 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- (11回) 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- (12回) 検定の仕組み(帰無仮説と対立仮説、検定統計量)
- (13回) 検定の方法(Excelによる仮説の検定)
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

定期試験(70%)、出席回数(30%)の割合で評価する。

### 【テキスト】

三和義秀. 第2版Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック”. 共立出版

## データ管理論 II (DB構築)

原 伸之

### 【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。また、昨日常常生活にまで入り込んできた「インターネット」も、広い意味での「データベース」応用である。授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論
  - …データベースとは
  - データベースの理解
  - カード型データベースと関係データベースのちがいがい
  - 関係データベースの特徴
2. 関係データベース・ソフトウェア「ACCESS」
  - データベースの定義
  - データベースの構築
  - データベースの利用
3. 関係データベースの構築(Accessを使用して)
  - …事例を作成・体験
  - 基本的なデータベース
  - Wordで作成した文書のデータベース化
  - インターネットから取り込んだ画像のデータベース化
  - 関数を使用したデータベース
4. 構築したデータベースの事例発表
  - …習得したデータベースの構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。
5. マクロとVBAマクロ入門
  - …AccessのマクロとVBAの初歩的な使い方
  - マクロの作成とコマンドボタンへの貼り付け
  - VBAマクロを使った日記帳

### 【授業の目標】

「データベース」の理解と独自でAccessによる「データベース」の構築

### 【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。

### 【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 情報システム設計基礎 I

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システムの設計・開発に必要なシステムの概念、システム設計の基本的枠組や基本的な設計手順、ならびに設計技法について学習していく。通常の住宅建設においても、施主の要望を十分に充足することができるように、種々の建築設計が行われ、各設計書に基づき実際に施工・工事がなされていく。このことは、システム構築においても、建築設計とは設計内容等の差異はあれ、決して例外ではない。本授業では、システムの具体的な設計内容に重要な影響を及ぼすシステム分析、要求定義ならびに基本設計に焦点を絞り、システム設計の考え方や設計技法について理解していく。

なお、コンピュータ技術の急速な進展に伴い、システムは巨大化、高度化してきた。この結果、システム技術においても専門化、多様化してきており、システム設計自体にも変化が見え隠れしてきている。このようなことから、授業内容に準じて、システム設計に関わる技術背景や技術変遷等についても、その都度解説していく。

### 【授業の目標】

システムの定義や概念を正しく理解し、システム構築に必要なシステム技術に関する基本的な知識を習得する。また、システム設計・開発作業の前半部分となるシステム分析から基本設計までの基礎的な知識を習得する。

### 【授業計画】

- 1) システムの定義と概念
  - 2) システム設計手順の全体像
  - 3) SEの基本的要件
  - 4) ソフトウェア開発の現状と問題
  - 5) コンピュータ技術と通信技術の進展
  - 6) システム分析の意義と内容
  - 7) 環境調査から機能分析まで
  - 8) 基本設計の内容と重要性
- 毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

図解システム設計の基礎(加藤英雄 共立出版)

## 情報システム設計基礎 II

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システム設計は、究極的にはプログラム開発に至るまでの一連の情報システム構築手順において、重要な要素を担っている。システム設計の良し悪しが、情報システムの有効性、効率性、ならびに運用性の良否に帰結する。本授業では、情報システム設計手順における概要設計および詳細設計に焦点を絞り、具体的なシステム設計内容ならびに設計技法について学習していく。

なお、具体的な概要設計および詳細設計における考え方、方法を学習していくと共に、情報システム設計の成果であるソフトウェア・ドキュメントの意義や作成方法、および各システム設計段階における問題点についても解説していく。簡単な事例システムを取り上げ、実習形式を中心にして具体的に学習する。

### 【授業の目標】

システム設計・開発作業の概要設計ならびに詳細設計に関する基礎的な知識を習得する。なお、簡単なシステム設計作業を実習形式で行うことにより、システム設計に関する知識・技術を具体的に応用していく能力を養う。

### 【授業計画】

- 1) 情報システム設計の意義と役割
  - 2) コード設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 3) 出力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 4) 入力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 5) ファイル設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 6) プロセス設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 7) 信頼性設計の意義と設計内容 (実習を含む)
  - 8) システムの評価、システム監査
- 毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

### 【テキスト】

図解システム設計の基礎 (加藤英雄 共立出版)

## 情報システム論 II (情報ネットワーク)

三和義秀

### 【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネジメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。また、「根拠に基づく医療EBM」の活動の発展とともに必要とされつつある新しい情報サービス、新しい情報専門職についても議論する。

### 【授業の目標】

学術研究分野における情報サービス、情報ネットワークの特性を学び、XMLの基礎を理解する。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、図書館を取り巻く環境、ハイパーテキスト
- (2回) インターネット環境、図書館機能の再考、図書館機能の再構築
- (3回) 今後の図書館サービス (Web2.0, 集合知の利用, Library2.0)
- (4回) 主題言語、件名目録、主要な件名標目表、シソーラス
- (5回) 意味ネットワークとその応用、オントロジー
- (6回) 情報へのアクセス技術、索引法、各種索引法
- (7回) 言語処理とアクセス技術、検索エンジンの技法、セマンティックウェブ
- (8回) メタデータとXML文書
- (9回) XML/XSLプログラミング
- (10回) 米国のデジタル図書館
- (11回) 米国の図書館を中心としたデジタル情報資源サービス・ネットワーク
- (12回) デジタル図書館の設計
- (13回) 今後の図書館 (システム)
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

定期試験 (50%)、XMLプログラミングの課題1回 (30%)、出席回数 (20%) の割合で評価する。

### 【テキスト】

長田秀一、知識組織化論、サンウェイ出版

### 【参考文献・資料】

梅田望夫、ウェブ進化論：本当の大変化はこれから始まる。ちくま新書

## 情報システム論 I (情報システム開発)

西荒井学

### 【授業の概要】

情報システム開発の骨格ならびに開発工程における技法や問題点について、実際にシステム開発手順を実習形式にて学習していくことにより習得していく。特に、情報ファイルの設計ならびに管理の問題、中でも電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて解説していく。また、最近の電子情報の多くが、文字情報からイメージ情報にまで拡大してきている現状を踏まえ、今後の電子情報ファイルが抱える課題や将来像についても触れていく。

なお、システム開発実習については、簡単な文書データ検索システムのサブ・システム構築を事例に取り上げるが、授業では個人単位でのシステム開発実習とグループ単位でのシステム開発実習を併せて実施していく。開発実習で利用するソフトウェアは、本来、プログラム言語の利用が望ましいが、本授業ではExcelのマクロ、あるいはVBA (Visual Basic for Application) を対象とする。

### 【授業の目標】

電子ファイリング・システムの機能や特徴を習得すると共に、システム開発の実習を通してシステム開発手順を正しく理解する。また、実習ではExcelのマクロやVBAについての利用方法に関しても併せて理解していく。

### 【授業計画】

- 1) システム開発の概要と意義
- 2) システム開発工程手順
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 画像イメージと記録媒体
- 5) ExcelのマクロとVBAの概要
- 6) システム開発実習 (個人別課題)
- 7) システム開発実習 (グループ別課題)
- 8) システム評価

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なシステムを実際に開発する。

### 【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

### 【テキスト】

Excel環境下でのシステム開発への挑戦  
—データベース機能の活用— (西荒井 学 共立出版)

## 情報システム論 III (知識情報資源)

澁川雅俊

### 【授業の概要】

情報技術の急速な発展の下で、人びとの知の展開を支援する図書館を中心とする知識情報資源の新たな形成について議論する。

### 【授業の目標】

電子テキストの出現により図書館の構造と機能にいまどのような変化が起こっているのかを理解し、人びとの日常生活における知の展開を今後どのようにサポートするかを考察する。

### 【授業計画】

- 1) イントロダクトリ－ノート
- 2) デジタルテキストの進展
- 3) ‘電子図書館的機能’の充実・強化
- 4) デジタルアーカイブの方法
- 5) 〈知識情報〉とは何か
- 6) 知識情報形成の資源
- 7) 知の連鎖
- 8) 知識情報テキスト (資料) の機能
- 9) 資料の‘負’の特性
- 10) 資料のロジスティックス
- 11) 知識情報源の構築・整備
- 12) クロージング・ノート

### 【評価方法】

総合評価 (出席・試験)

### 【テキスト】

使用しない。講義シノップス  
(<http://www.sfc.keio.ac.jp/~philobib/philobiblon/>)にpdf形式で掲示する。各自事前に取得すること)

### 【参考文献・資料】

講義シノップスの中で重要文献 (URLを含む) を提示する

## 情報サービス基礎論 I

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業の目標】

情報サービスに関わる様々な機関やメディアの流通のあり方について、図書館との関連性を鑑みながら、理解を深める。

### 【授業計画】

1. 情報サービスの基本理念
2. 情報化社会と情報産業
3. メディア産業と通信
4. 出版産業
5. 書店
6. アーカイブ
7. 法制度
8. 図書館政策
9. 情報化社会と情報倫理・勤労観
10. 情報産業と大学

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

### 【テキスト】

プリント配布。

### 【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）  
図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）

## 情報メディア基礎論 I

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成

[この後は、情報メディア基礎II（後期）に続く]

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報サービス基礎論 II

伊藤真理

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスは、その対象、館種、主題、規模ごとに多様な特徴を持つ。さらに今日では、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。パブリック・サービス、テクニカル・サービス、評価の観点から、館種ごとに概観し、比較・検討する。

### 【授業の目標】

現在の社会での情報のあり方を視野に入れながら、情報の選択、収集、蓄積と提供について、図書館サービスの観点から理解を深める。

### 【授業計画】

1. パブリック・サービス
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
2. テクニカル・サービス
  - A. 選書・収書
  - B. 整理
  - C. 雑誌その他の媒体
3. 評価の観点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. 図書館アメニティ
  - D. コンソーシアム
  - E. その他のサービス

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

### 【テキスト】

適宜プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）  
図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）  
そのほか、適宜授業内で紹介する。

## 情報メディア基礎論 II

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- [情報メディア基礎I（前期）から続く]
- 3 情報メディアの特徴と問題点
    - (4) 会議資料  
学会、会議録
    - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
    - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
    - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
    - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
  - 4 情報メディアの種類と構造
  - 5 情報流通モデルの修正
  - 6 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア論 I (マルチメディア)

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

### 【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深める。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション 授業の目的、方法、授業計画について説明
- (2回) メディアとは何か、情報機器の発展経緯と種類、機能
- (3回) 情報メディアの発展経緯、特性と選択
- (4回) 視聴覚メディアの種類と特性
- (5回) 図形・画像処理とソフトウェア
- (6回) 情報通信とメディア
- (7回) マルチメディアと情報通信技術
- (8回) ネットワーク技術とインターネット
- (9回) インターネットの活用とシミュレーション、情報検索の手法
- (10回) ハイパーテキストの仕組みと活用
- (11回) 学校図書館とIT
- (12回) パワーポイントによるプレゼンテーション
- (13回) パワーポイントによるプレゼンテーション
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

出席回数(20%)、レポート1回(30%)、および定期試験(50%)の割合により評価を行う。

### 【テキスト】

中山伸一. 情報メディアの活用と展開. 青弓社

## 情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

出席回数、レポート、期末テストから総合的に評価する。

### 【テキスト】

専門資料論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ) (日本図書館協会)

## 情報メディア論 III (医学情報メディア)

山崎茂明

### 【授業の概要】

医学の研究、臨床、教育を支えるメディアである学術雑誌、図書、データベース、デジタル情報資源を対象に、それらの特色や役割を、生産・流通・利用のサイクルの中で検討する。

### 【授業の目標】

医学情報専門職として医学情報メディアの特色をより深く学ぶ。

### 【授業計画】

1. 医学情報メディアをめぐる
2. 医学教育・研究・臨床における情報要求
3. 医学情報サービスと医学図書館：この20年の動向
4. Index Medicusの発刊
5. MEDLINE/PubMedへの発展
6. 生命倫理データベースとケネディ記念倫理研究所図書館
7. 国内外の医学データベース
8. 19世紀アメリカ医学ジャーナリズムの形成
9. Lancet誌の創刊とThomas Wakley
10. 総合医学雑誌の役割 (BMJ誌を中心に)
11. 生物医学雑誌の統一投稿規程
12. 医学情報流通にはたす編集者の役割
13. 一般の人々への健康情報の提供
14. 医学情報の普及と信頼性

### 【評価方法】

レポート(2回程度)および出席。

### 【テキスト】

プリントを配布

### 【参考文献・資料】

生命科学論文投稿ガイド(山崎茂明著 中外医学社)  
 医学文献サーチガイド(山崎茂明著 日本医書出版協会)  
 看護研究のための文献検索ガイド(山崎・六本木 日本看護協会)

## 情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. オープンアクセスからみた学術論文
8. 出版倫理と利害の衝突
9. ニュースメディアと学術雑誌
10. レフェリーシステム
11. 一流誌への発表
12. インパクトファクターの批判的吟味
13. 電子メディア(データベース、一次雑誌)の現在

### 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート(授業時間内)

### 【テキスト】

論文投稿のインフォマティクス(山崎茂明著 中外医学社)

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌(Lambert, J.著 日本図書館協会)  
 出版産業の起源と発達(Thompson, J.W.著 出版同人)  
 歴史としての学問(中山茂著 中央公論社)  
 生命科学論文投稿ガイド(山崎茂明著 中外医学社)  
 医学文献サーチガイド 第2版(山崎茂明著 日本医書出版協会)  
 研究評価(根岸正光・山崎茂明著 丸善)

## 情報メディア分析論

菅野育子

### 【授業の概要】

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説する。

具体的には、新聞（新聞記事）、雑誌（雑誌記事）、図書、特許資料、絵画（美術作品）などを取り上げ、その特徴を概観する。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論する。

### 【授業の目標】

情報メディア基礎論の講義で紹介した各種情報メディアの理解を深めること。

### 【授業計画】

- 1 情報メディアの機能
- 2 情報メディア（1）新聞
- 3 新聞記事の分析：新聞記事DBとの比較
- 4 情報メディア（2）雑誌
- 5 雑誌記事の分析：索引語付与と抄録作成
- 6 情報メディア（3）図書
- 7 図書の分析：主題分類と書誌記述
- 8 情報メディア（4）特許資料
- 9 特許資料の分析：技術動向調査
- 10 情報メディア（5）：絵画（美術作品）
- 11 絵画の分析：CDWAとAATシソーラス
- 12 情報メディアの分析から得られる情報

### 【評価方法】

レポートと出席回数で評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 資料組織演習

伊藤真理

### 【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。

情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

### 【テキスト】

授業内で指定する。

### 【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A.2003年）  
「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織論

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録情報サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR 2r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定：標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験による総合評価。

### 【テキスト】

『資料組織論テキスト』（伊藤真理 ダイテック、2008）

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
図書館ネットワーク－書誌ユーティリティの世界－（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A.2003年）

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト



## レファレンスサービス論

千代由利

## 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

## 【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をおして実践する。

## 【授業計画】

1. 授業のガイダンス、レファレンスサービスの概況
2. 図書館における情報サービス
3. レファレンスサービスの歴史と展開
4. 図書館におけるレファレンスサービス
5. 情報源とレファレンスコレクション
6. レファレンス質問とレファレンスプロセス
7. 質問の受付と内容の確認
8. 探索戦略と質問の分析
9. 探索の手順と情報（源）の入手
10. 回答の提供と事後処理
11. レファレンスブックの探索

## 【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

## 【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』（長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4）

## 【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブックス（新版）』（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）  
『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』（長澤雅男著 丸善）

## 情報検索演習 I（情報探索入門）

伊藤真理

## 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。  
なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。  
また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

## 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。  
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

## 【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
  - ・一次資料と二次資料
  - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
  - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
  - ・論理演算
  - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - ・著作権
  - ・引用
  - ・書誌情報の書き方（SIST02）

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする（山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8）

## 情報検索演習 I（情報探索入門）

櫻木貴子

## 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。  
なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。  
また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

## 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。  
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

## 【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
  - ・一次資料と二次資料
  - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
  - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
  - ・論理演算
  - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - ・著作権
  - ・引用
  - ・書誌情報の書き方（SIST02およびISO690、690-2）

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする（山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8）

## 情報検索演習 I（情報探索入門）

楓 森博

## 【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。  
なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。  
また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

## 【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。  
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

## 【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
  - ・一次資料と二次資料
  - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
  - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
  - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
  - ・論理演算
  - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
  - ・著作権
  - ・引用
  - ・書誌情報の書き方（SIST02およびISO690、690-2）

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする（山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8）

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文の特徴  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム  
JDream  
DIALOG  
CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文の特徴  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム  
JDream  
DIALOG  
CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習 III (情報と文献の探索)

菅野育子

### 【授業の概要】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索
  - 2.3 シソーラスを利用した検索
  - 2.4 引用関係を利用した検索
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報検索演習 III (情報と文献の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報利用論 I (情報探索行動論)

岡澤和世

### 【授業の概要】

情報社会に関する史的展開、情報と知識の性質、コミュニケーションについて論じる。焦点は、情報とは何か、利用者の住む情報社会とはどんな社会か、情報と人、文化との相互関係、アクセス権利の倫理面、データ保護、個人のプライバシー、インターネットなど情報技術がもたらす諸問題についてである。これらを情報環境との関係から概説する。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

- 1) 情報社会とは
- 2) 情報社会に至る史的展開
- 3) 情報と知識の性質
- 4) 情報の質と信頼性
- 5) 情報の理解とコミュニケーション
- 6) 情報、知識、文献の管理
- 7) 情報サービスへの応用
- 8) マーケティング/プランニング
- 9) 情報倫理-知的所有権とデータ保護
- 10) 情報社会と人間
- 11) 情報と文化的問題
- 12) 情報と経済的問題
- 13) 情報と政治的問題
- 14) 情報環境
- 15) 情報教育と未来

### 【評価方法】

出席とレポート

### 【テキスト】

マーケティング・プランニング (D.E.Weingrand 岡澤和世訳 敬文堂 1997)  
その他配布資料

## 情報学特殊 III (情報史の探究)

村主朋英

### 【授業の概要】

情報史とは、Norman D. Stevensが約20年前に提案した概念である。彼の提案は、人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館史や情報検索の歴史を拡張・発展させ、コンピュータ史やコミュニケーション史・メディア史を統合するという壮大なものであり、歴史研究だけではなく情報学全体に対する見識を含む点も評価できるが、いまだその実現への道は遠い。そこで本講義では、彼の構想の実現に向けて、情報学IIIおよびIVの歴史像を拡張・発展させ、さらに新たなトピックを加え、情報史の世界の全体像を探る。

### 【授業の目標】

情報史を探究することは、人間と情報とのかかわりを探究することに等しい。そこで、昔話をたどるだけに終わらず、情報やコミュニケーション過程に対する見方を研ぎ澄ますことを常に心がけながら受講してほしい。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション : Stevensの情報史構想
2. トピック群 (予定)
  - ・記号の初源/アレクサンドリアの灯火/『薔薇の名前』と書物
  - ・言語と翻訳/科学の言語 (生物分類と化学記号)
  - ・通信と放送/表象の文化/Memexとインターネット
3. 情報史への道
  - 3.1 情報史の多面性
  - 3.2 総合的な情報史へ向けて : 情報空間モデル

### 【評価方法】

平常点 (小テスト形式の授業内レポートに基づく)

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery著 勁草書房)  
※情報学III/IVで使用しない部分を本講義で使用する。  
また、本講義の前提知識の供給源となる。

### 【参考文献・資料】

歴史のなかのコミュニケーション (新曜社)  
情報の歴史 (NTT出版)  
※その他、授業で適宜紹介していく。

## 情報利用論 II (情報探索行動論)

岡澤和世

### 【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探る利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

- オリエンテーション
1. 情報の伝達と利用
    - 1) 情報の定義
    - 2) 情報の特質
  2. 科学のコミュニケーション
  3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
    - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
    - 2) 見えざる大学
  4. 見えざる大学の調査研究について
  5. 情報利用者調査と用語の説明
  6. User Studyの概説とUser Studyの方法論
  7. 方法の種類
  8. 比較・検討
  9. User Studyの調査例
  10. 行政

### 【評価方法】

小テストで評価。

### 【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉

## 情報学特殊 IV (情報伝達論)

高井次郎

### 【授業の概要】

情報伝達行動として、人間のコミュニケーションのプロセスについて取り上げる。個人内コミュニケーションから国際コミュニケーションまでのさまざまなレベルについて説明するとともに、コミュニケーションの基礎をなしている言語および非言語コミュニケーションのあり方などについて教授する。

### 【授業の目標】

授業目標は、コミュニケーションの基礎的要素と、言語と非言語チャネルの役割の重要性を理解し、コミュニケーション過程における送信者と受信者の関係発展のプロセスについて検討し、円滑なコミュニケーションをはかるための能力の獲得を目指す。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 言語コミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 対人認知
7. 対人コミュニケーション
8. 対人コミュニケーション
9. 集団コミュニケーション
10. 組織コミュニケーション
11. マスコミュニケーション
12. マスコミュニケーション
13. 異文化コミュニケーション
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業において適宜紹介する。

## 図書館経営論

小木曾眞

## 【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

## 【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、事例を紹介しながら理解を深める。  
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション・図書館運営の実際・最近起っている事
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館（「あなたにとっての図書館」レポート提出）  
関係法規、予算、議会の関係等
4. 図書館業務の理論と実際  
「図書館学の五法則」「カウンター業務の重要性」等
5. 図書館の組織  
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員  
「館長論」「専門的職員」等
7. 図書館の計画とマーケティング  
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画  
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成  
「図書館相互協力」「インターネットの利用」等
10. 図書館業務・サービスの評価（身近な事例についてのレポート提出）  
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ  
※講義の中でレポート提出を指示します。2回程

## 【評価方法】

期末テスト実施－記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

## 【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房 2004）  
補完レジュメ（講義の都度配布）

## 【参考文献・資料】

公立図書館の経営[補訂版]（大澤正雄著 日本図書館協会 2005）  
図書館経営論[改訂版]（宮沢厚雄著 勉誠出版 2006）  
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する

080101503\_1000 掲載順:1000

MASTER ★

## 図書館学特殊 I

菅野育子

## 【授業の概要】

国内の「図書館実習」を受講するための前提科目である。  
本学指定の図書館実習館を中心に、国内の図書館の現状と課題について、特に実務的な内容を主として講義する。実習館から学外講師を招いて、討論会形式の授業も含むため、詳細日程は第1回の授業で提示する。

## 【授業の目標】

国内の「図書館実習」に参加するために必要な、図書館業務及び図書館界の動向について理解すること。

## 【授業計画】

1. 図書館の勤務時間と勤務内容
2. 図書館の職階制と司書職制度
3. 公共図書館における情報提供サービス
4. 大学図書館における情報提供サービス
5. 図書館統計の方法と問題点
6. 図書館におけるウェブ・アーカイブとメタデータ

## 【評価方法】

出席回数、レポート、テストによる総合評価

## 【テキスト】

プリント配布

080101503\_1010 掲載順:1010

MCode:080108016\_0290 ★

## 図書館実習

菅野育子 三和義秀

## 【授業の概要】

- 各図書館現場での実習を行う。  
下記から選択し、それぞれ6日間程度の実習を行う。  
(1) 愛知県図書館他、受入実績のある国内の図書館での実習  
(2) 自己開拓(国内)  
(3) 北京図書館実習（北京大学および北京国家図書館）

- \* (1) あるいは (2) を選択する者は、国内実習者対象に開講される『図書館学特殊I』を受講し、単位を修得しなければならない。  
\* (1) には定員枠がある。詳細は『図書館学特殊I』第一回講義にて述べる。  
\* (1) あるいは (2) を選択する者は、(3) も選択することができるが、(1) と (2) の両方を選択することはできない。  
\* (3) を選択する者は、(1) あるいは (2) のどちらかを選択してもよい。

## 【授業の目標】

国内の公共図書館と大学図書館において、実際の業務を経験することから、学内の講義内容の理解を深めること。また、本学文学部提携校である北京大学の図書館などを見学し、海外の図書館事情を知ること。

## 【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

## 【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

## 【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

## 図書館学特殊 III（児童サービス論）

近藤洋子

## 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。  
具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

## 【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。  
サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。  
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

## 【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の類型、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス、窓口業務  
フロアワーク、レファレンス
- (8) 集会行事、展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

## 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

## 【テキスト】

児童サービス論 新訂版（堀川照代編著 日本図書館協会）

## 【参考文献・資料】

児童サービス論（佐藤涼子編 教育史料出版会）  
児童図書館のあゆみ（児童図書館研究会編 教育史料出版会）

## 生涯学習概論

角 紘昭

## 【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

## 【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

## 【授業計画】

- 1 はじめに  
導入としての概観（単元の構成内容）  
受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり  
通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開  
戦後の社会教育  
施設とその展開
- 5 生涯学習の登場  
社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成  
行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開  
①人権教育  
②学社融合  
③スポーツ振興  
④高齢者福祉
- 11 今後の課題  
規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

## 【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

080101503\_1040 掲載順:1040

MCode:080108016\_0340 ●

## 個人コミュニケーション論 I（認知心理学）

岩原昭彦

## 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

## 【授業の目標】

ヒトの認知機能（情報処理形式）の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

## 【授業計画】

1. サプリミナル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

## 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

## 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 知的所有権

辻田芳幸

## 【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。近時、情報技術（IT）の発達によってこのような傾向が顕著である。

そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとしたい。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

## 【授業の目標】

著作権法の基本的知識とその情報社会における役割を具体的に理解できるようにしたい。

## 【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的財産法、著作権法の役割
  - 第2回 著作物（著作権法によって保護されるもの）
  - 第3回 著作者（創作的行為とは）
  - 第4回 著作権の権利～著作者人格権（著作者に与えられる権利）
  - 第5回 著作者の権利～著作権（複製権、公衆送信権、貸与権など）
  - 第6回 著作物の自由利用（私的複製、引用など）
  - 第7回 著作物の自由利用（教育機関における複製など）
  - 第8回 著作物の自由利用（非営利の上演など）
  - 第9～12回 情報社会に特殊な問題（音楽・画像配信問題など）
  - 第13回～ その他の知的財産法制
- \*この他、注目すべき新聞報道があった場合は、随時取り上げる。また学生のリクエストに応じて各種の関連問題を取り扱う。

## 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 【テキスト】

追って指示する

## 【参考文献・資料】

中山信弘『著作権法』（2007年、有斐閣）、斉藤博『著作権法』（2007年、有斐閣）。新書では中山信弘『マルチメディアと著作権』（1996年、岩波新書）、岡本薫『著作権の考え方』（2003年、岩波新書）など。その他については講義中随時紹介する。

080101503\_1050 掲載順:1050

MASTER ●

## 個人コミュニケーション論 II（認知心理学）

岩原昭彦

## 【授業の概要】

人間の脳の中にはさまざまな意識的・無意識的な処理過程が存在している。意識されない刺激情報も私たちの認知や行動に影響を及ぼしている。その事実やその脳内のプロセスを実験結果や脳損傷患者の症例から論じる。

## 【授業の目標】

ヒトの認知機能に関わる脳内機構について理解し、脳損傷患者あるいは脳機能が低下した高齢者などとの接し方を学ぶ。

## 【授業計画】

1. 幻覚
2. 認識と失認
3. 相貌失認
4. 注意機能障害
5. 情動の起源
6. 記憶障害
7. 記憶錯誤
8. 失語症
9. 分割脳と自己
10. ラテラルティナー
11. 意識と無意識

## 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

## 【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ（八田武志著 医歯薬出版株式会社）

## 博物館概論

柴垣勇夫

### 【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

### 【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の発端I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の発端II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめると。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
  - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
  - ・最近の博物館組織

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
 専門職員としての「学芸員」とは何か  
 博物館と美術館の発達とその時代背景  
 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
 博物館の分類と現代性  
 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
 博物館の相互協力と情報の活用  
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
 無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。  
 長谷川銕治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

### 【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

## 博物館学各論 I

柴垣勇夫

### 【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

### 【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論 I

早川正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
 博物館や美術館の展示と陳列構造  
 博物館がとり扱う資料の収集と保存  
 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
 文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
 生涯学習の必要性和博物館の関連事業  
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
 無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。  
 博物館学論考（長谷川銕治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

### 【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

## 博物館学各論 II

柴垣勇夫

## 【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

## 【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

## 【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
  - a 資料の収集
  - b 資料の取扱い
    - ・ 保存箱の種類と取扱い
    - ・ 掛軸の扱いと掛け方
    - ・ 古文書 ・ 和装本の取扱い
    - ・ やきもの ・ 茶碗の取扱い
    - ・ 瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
    - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
  - c 資料の整理・保存
  - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

## 【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

## 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

## 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論 II

赤羽一郎

## 【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

## 【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

## 【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

## 【テキスト】

【新訂博物館学概説】（長谷川銑治・著 戸谷印刷）  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館学各論 II

武藤 真

## 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」=博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

## 【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

## 【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術  
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術  
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術  
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

## 【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

## 【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館実習

柴垣勇夫

## 【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

## 【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

## 【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
  - 1) 展示とは
  - 2) 展示のポイント  
・ 動線 ・ 視線 ・ 照明 ・ 温度 ・ 湿度
  - 3) 展示の施設、設備
  - 4) 展示のプロセス
  - 5) 展示方法の実践例
  - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展览会や施設の見学に出かける（全員）。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

## 【評価方法】

- ・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

## 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

## 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館実習

赤羽一郎

### 【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

### 【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

### 【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銑治・著 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

瀬川貴文

### 【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

### 【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとえられるようにする。
  - (a) 展示とは
  - (b) 展示のプロセス
  - (c) 展示の構成要素
  - (d) 展示と資料保全
  - (e) 着想から実施まで
  - (f) 解説の方法と印刷物
  - (g) 展示とその周辺
  - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。



## 実践日本語表現法 a

外山敦子

### 【授業の概要】

これから大学で学ぶ専門教育の基礎として、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

### 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

### 【授業計画】

1. 導入 (講義の進め方など)
2. 話し言葉と書き言葉 (1) (話し言葉と書き言葉の違い)
3. 話し言葉と書き言葉 (2) (書き言葉としてふさわしい表現)
4. 書き言葉の技能 基礎 (1) (文の骨組みを抜き出す)
5. 書き言葉の技能 基礎 (2) (文の骨組みを整える)
6. 書き言葉の技能 基礎 (3) (呼应関係を確かめる)
7. 書き言葉の技能 基礎 (4) (接続助詞「が」の使い方)
8. 書き言葉の技能 基礎 (5) (句読点の使い方)
9. 書き言葉の技能 基礎 (6) (修飾語と被修飾語)
10. 書き言葉の技能 基礎 (7) (修飾語の語順)
11. 書き言葉の技能 応用 (1) (論の要旨をとらえる)
12. 書き言葉の技能 応用 (2) (文章を要約する)

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題提出、学期末試験などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 実践日本語表現法 b

外山敦子

### 【授業の概要】

実践日本語表現法 a での学習内容に引き続き、日本語における書く・話す・読む・聞くなどの基本的な技能について学習する。

### 【授業の目標】

日本語を有効に活用できる基礎的な知識を身につけること、身につけた知識をもとに実践的な能力を養成することを目標とする。

### 【授業計画】

1. 書き言葉の技能 発展 (1) (レポートの書き方1)
2. 書き言葉の技能 発展 (2) (レポートの書き方2)
3. 書き言葉の技能 発展 (3) (論証の仕方)
4. 話し言葉の技能 基礎 (1) (敬語の基礎)
5. 話し言葉の技能 基礎 (2) (敬語の種類と使い方)
6. 話し言葉の技能 基礎 (3) (間違いやすい敬語表現)
7. 話し言葉の技能 応用 (1) (相手を考えて話す)
8. 話し言葉の技能 応用 (2) (電話で話す)
9. 総合応用 (1) (手紙文とその実例)
10. 総合応用 (2) (メモの作り方)
11. 総合応用 (3) (ビジネス文書とその実例1)
12. 総合応用 (4) (ビジネス文書とその実例2)

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題提出、学期末試験などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

書き込み式 日本語表現法 (名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店)

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を、私たち教職をめざす者は真剣に考える必要がある。そこで、教育の本質と目的を中心に、様々な角度から検討する。教育の本質に関しては教育史上代表的な思想を中心に、教育目的に関しては、古代ギリシャから今日に至るまでの変遷を概観するとともに、日本の現代の教育についてその目的等に関して考察する。

### 【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという視点から、学校とは何か、教育とは何かを考え、理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

### 【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 人間と教育
  - (1) 動物学からみた人間の特殊性
  - (2) 人間の成長と環境
  - (3) 教育の重要性
  - (4) 人間形成の場
- 3 教育の本質
  - (1) 教育の本質
  - (2) 注入主義の教育 (ソフィスト～本質主義)
  - (3) 開発主義の教育 (ソクラテス～進歩主義)
- 4 教育の目的
  - (1) 教育目的とは
  - (2) 古代ギリシャの教育目的
  - (3) 日本の学校教育の目的の歴史の変遷
  - (4) 現在の日本の学校教育の目的
- 5 現代の教育

### 【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 40% 定期試験 50%

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

## 教育心理学

富安玲子

### 【授業の概要】

教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、発達の基礎や障害者への理解を踏まえながら、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場になって考えていくこと

### 【授業計画】

- 1 教育の機能と教育心理学の位置づけ
- 2 発達段階と発達の個人差
- 3 障害者の理解と発達可能性
- 4 学習の成立過程 (1) プログラム学習の原理
- 5 学習の成立過程 (2) 発見学習の原理
- 6 学習の成立過程 (3) 観察学習
- 7 学習における知識の役割
- 8 学習意欲を育てる

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 特別支援教育論

小塩允護

### 【授業の概要】

障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換について、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別的教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を学習する。

### 【授業の目標】

障害のある子どもの教育について、その歴史の変遷を理解するとともに、一人一人の教育的ニーズに応じる特別支援教育の理念とその基本的枠組みを理解する。

### 【授業計画】

- 1 障害のある子どもの教育の歴史-義務制施行前-
- 2 障害のある子どもの教育の歴史-義務制施行後-
- 3 特殊教育から特別支援教育への転換-現状認識と理念-
- 4 特別支援教育に関わる制度
- 5 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項
- 6 特別支援学校の教育の概要
- 7 特別支援学校における教育課程と指導
- 8 自立活動の指導
- 9 特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
- 10 小・中学校等における特別支援教育-校内支援体制の確立-
- 11 小・中学校等における特別支援教育-特別支援学級と通級による指導-
- 12 個別的教育支援計画と個別の指導計画
- 13 特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関のネットワーク
  - (1) 特別支援学校のセンター的役割
  - (2) 特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割
  - (3) 小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割

### 【評価方法】

レポートの成績に、出席状況や授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 総合演習

富安玲子 小塩允護 佐藤成哉 松田秀子 渡辺かよ子 小出隆司 伊藤昭道  
石黒昭吉 大久保義男 浅田まり子 中嶋真弓 佐藤実芳 楠元町子

### 【授業の概要】

「21世紀は不透明な社会」といわれるように、わが国の児童・生徒を取り巻く社会的環境は以前のそれと大きく異なってきた。現在、教育が抱える諸問題を掘り起こし、分析し、学校（教職員）が果たさなければならない役割は何か、ということを生徒自らが探究し、発表することによって、近い将来「総合的な学習の時間」で経験することになる教師力を育成する。なお全専任が各テーマにそって、学生の演習を支援する体制をとる。

### 【授業の目標】

今日の社会問題と教育の関連ならびに教育の意義を実践的に理解する。

### 【授業計画】

第1週～11週：各グループでの個人レポート発表と討議。12週～最終週：全体成果発表会、各グループでの総合討議とレポート提出。各教員のテーマは以下のとおり。

- ジェンダーと教育：富安玲子  
ユニバーサル社会と個性化：小塩允護  
宇宙船地球号の秘密：佐藤成哉  
健康と運動：松田秀子  
生涯学習における学校：渡辺かよ子  
平和と命の尊厳を考える：小出隆司  
福祉—ボランティア活動のあり方：伊藤昭道  
「いじめ」と学級経営：石黒昭吉  
人間教育としての感性教育の役割：大久保義男  
現代社会と音楽：浅田まり子  
情報化社会における読書：中嶋真弓  
社会と子育て：佐藤実芳  
国際化と異文化理解：楠元町子

### 【評価方法】

個人レポートと授業や発表会への参加、総括レポートによる総合評価。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 学校教育体験

富安玲子 小塩允護 佐藤成哉 松田秀子 渡辺かよ子 小出隆司 伊藤昭道  
石黒昭吉 大久保義男 浅田まり子 中嶋真弓 佐藤実芳 楠元町子

### 【授業の概要】

現在の小学校教育や子どもを理解するために、1週間、小学校において子どもたちと生活を共にする。観察実習と子どもとの触れ合い（放課・給食・掃除等）を通じて、教師の仕事と教職の意義を学ぶとともに、教職への志望を確固強化する。小学校教育について基本的な理解を中心とした事前指導を行い、事後指導として学生が体験発表を行うことで、個々の体験を共有させ、教育実習等へと発展させていく。

### 【授業の目標】

- ・小学校教育及び子どもについての理解を深める。
- ・教師の仕事と教職の意義について学ぶ。
- ・教師としての自らの適正を把握する。

### 【授業計画】

- 1 事前指導
  - (1) 学校教育体験の意義と目的
  - (2) 学校教育体験の内容と方法
  - (3) 学校教育体験についての全般的諸注意
- 2 学校教育体験（1週間）
- 3 事後指導
 

学校教育体験の成果報告会及び反省会

### 【評価方法】

事前事後指導に出席し、学校教育体験を行い、「学校教育体験記録簿」を提出することで、合格とする。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

## ポルトガル語Ⅰ

瀧藤千恵美

### 【授業の概要】

近年、この東海地区には多くの日系ブラジル人が在住し、ポルトガル語の需要は、特に教育現場においてもますます高いものとなっている。本授業ではテキストや練習問題を用いて、会話をする上で必要最低限の文法を学び、簡単なコミュニケーションがとれる能力をつけることを目的とする。またポルトガル語の学習を通じてブラジルの文化や社会などの理解を深めることも目標とする。

### 【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学びましょう。また会話の手助けとなるブラジル文化や社会の知識も身に付けていきましょう。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーション
- 第2回 文字と発音
- 第3回 ser動詞、疑問文と否定文
- 第4回 名詞の性数
- 第5回 estar動詞
- 第6回 形容詞、指示詞
- 第7回 ar動詞
- 第8回 所有詞、今までの復習
- 第9回 ir動詞、ter動詞など
- 第10回 前置詞、er動詞、ir動詞
- 第11回 規則動詞の復習
- 第12回 数詞、querer動詞
- 第13回 時間表現
- 第14回 今までの復習
- 第15回 定期試験

### 【評価方法】

定期試験や小テスト、平常点（出席や宿題）の評価により総合判断する。

### 【テキスト】

CDエクスペス ブラジルポルトガル語（黒沢直俊著 白水社）

### 【参考文献・資料】

ポ和辞書 どんなものでもよいが、オススメは現代ポルトガル語辞典（池上岑夫他編 白水社）

## ポルトガル語 II

瀧藤千恵美

## 【授業の概要】

本授業は、「ポルトガル語I」に引き続き、日常会話に必要な基本的文法事項を身に付けていく。十分な練習問題を織り交ぜながら、受講者のレベルに対応して順次ステップアップし、「聞く・話す・読む・書く」という総合的運用力を付けて、基礎的な会話力を強めていくことを目標とする。また受講者の関心に応じて、ブラジルについての知識を広げていきたい。

## 【授業の目標】

ポルトガル語の基礎文法をさらに身につけ、学校教育で使うような単語や用語などを覚えていく。またブラジルの社会や文化に関する知識も増やしていく。

## 【授業計画】

第1回	ポルトガル語 I で学んだ内容の復習
第2回	時間表現
第3回	目的語
第4回	再帰動詞
第5回	現在進行形、poder動詞
第6回	現在形不規則動詞の復習
第7回	完全過去形
第8回	比較級
第9回	不完全過去形
第10回	関係代名詞
第11回	完了形
第12回	命令形
第13回	受動態
第14回	今までの復習
第15回	定期試験

## 【評価方法】

定期試験と小テスト、平常点（出席や宿題、授業態度）などから総合的に判断して評価。

## 【テキスト】

CDエクスペンス ブラジル・ポルトガル語（黒沢直俊著 白水社）

## 【参考文献・資料】

ポ和辞典を必ず用意すること！！

## 性の健康

木全和巳

## 【授業の概要】

小学校では、無邪気に触れ合う低学年から、初経・精通を経験し、異性を意識し始める高学年まで、心と身体がめまぐるしく成長、発達する時期を過ごす。現代社会は、男女が本質的に平等であることと性の健康は権利であることを確認し、子どもたちが、自己肯定感を育みながら、自らがこころからの主人公として成長することを期待している。この講義では、性の健康の理念、子どもの現状、性の発達、具体的な授業実践について学ぶ。

## 【授業の目標】

- ① 現代の日本社会における学齢期の子どもたちの性を中心としたこころからの成長・発達について理解すること
- ② 性の健康及び性の健康の権利という理念とこの理念の実現のための性の学習への権利について理解すること
- ③ こうした性の学習を具体化した教育実践について理解し、授業づくりができるようになること

## 【授業計画】

この講義では、現場の教師たちやスクールカウンセラーにも協力をしていただき、オムニバス方式で行う。また、講義にも、実際の模擬授業を取り入れる。この時には小学生になったつもりで参加してほしい。

- ① ガイダンス 講義の内容と進め方 と テーマ解説
- ② 低学年における性の健康教育の授業 (1) 女の子・男の子のからだ
- ③ 低学年における性の健康教育の授業 (2) うまれるよ
- ④ 学校教育における性の健康教育の位置づけと体系
- ⑤ 中学年における性の健康教育の授業 (1) おとなになりゆくからだところ
- ⑥ 中学年における性の健康教育の授業 (2) おとなになりゆくからだところ
- ⑦ 高学年における性の健康教育の授業 (1) 人を「好き」になるってどんなこと
- ⑧ 現代社会と子どもたち
- ⑨ 高学年における性の健康教育の授業 (2) いろいろな家族・いろいろな生き方
- ⑩ 高学年における性の健康教育の授業 (3) いのちのつながり
- ⑪ 性虐待・性暴力の対応と相談 養護教諭や児童相談所や保健所、医療機関との連携
- ⑫ 障害のある子どもと「性の教育」
- ⑬ 学校教育における性の健康教育の歴史と問題点
- ⑭ まとめ 小学校における性の健康教育実践の課題
- ⑮ 評価 (授業案の発表)

## 【評価方法】

出席 (毎回の授業の感想文) 60%  
期末レポート (指導案の作成と発表) 40%

## 【テキスト】

私製のテキストを第1回目に販売します。1000円の予定です。

## 【参考文献・資料】

人間と性の教育 全6巻 (“人間と性”教育研究協議会編 大月書店2006年)

## 環境教育

坂部孝夫

## 【授業の概要】

新しい学習指導要領の重要な領域のひとつに「総合的な学習の時間」が登場し、そのなかで、重要な取り組みに「環境問題」があげられている。地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少などの地球規模の環境問題のみならず、生活様式の変化に伴うゴミの増加、水質汚染、大気汚染などの都市・生活型公害問題について、行政官の経験を生かして実地調査を含めた研究をする。またビオトープの形成などについても学ばせたい。

## 【授業の目標】

学生諸君が地球環境問題から身近な環境問題まで、広く、かつ正しく理解し、子どもたちにその大切さを簡単な身近にある機材を用いて教える能力を養う。

## 【授業計画】

- 1 地球規模の環境問題から身近な環境問題までをパワーポイントやビデオなどを使い、ビジュアルに紹介します。その上で、将来を背負う子供たちに、この環境問題をどのように教えていくかを学びます。さらに学生諸君が環境を保護し、自然と共生する重要性を認識し、恵み豊かな環境を次世代の人々へ継承していく必要性を学びます。必要に応じ実地調査を授業に取り入れたいと考えています。
- 2 授業内容は大きく分けて以下の4分野と実地調査ですが、極力画像を用いた授業とします。
  - ①環境問題の歴史を学び、環境問題の光と影を確認します。
  - ②環境問題の現状を学びます。(地球温暖化問題、大気、水環境課題、廃棄物リサイクル問題、砂漠化・森林の劣化・酸性雨問題、自然の保護・保全・創造の問題)
  - ③環境問題への取組を学びます。(国の政策、企業の努力、市民活動など)
  - ④環境教育の実践方法、及び課題と今後の展望を学びます。
  - ⑤身近な環境問題について実地調査を行い、環境教育への応用を学びます。

## 【評価方法】

小論文の提出を適宜授業中に実施します。最後に事前に試験問題をお知らせした論文試験を行います(試験当日、ノート、参考書など持ち込み自由とします)。また、出席日数でも評価します。

## 【テキスト】

授業中に必要な資料を配布します。

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介します。

## 幼児教育論

佐藤実芳

## 【授業の概要】

乳幼児期は、人間形成の基礎が培われる大切な時期である。乳幼児を取り巻く環境は、少子化、核家族化、都市化などの影響を受け、近年、乳幼児の教育や保育のあり方が多様化している。小学校に入学してくる子どもたちを理解するために、幼児教育・保育の基本的な考え方に加え、幼保一元化の問題、早期教育、幼稚園と小学校との連携など、その現状と課題について学習する。

## 【授業の目標】

乳幼児についての理解を深めるとともに、幼児教育や保育の現状及びそれが直面している課題等についての知識を広め、児童の理解へと結びつける。

## 【授業計画】

1. 子どもの誕生と教育
  - (1) 子どもの誕生と教育の必要性
  - (2) 遺伝と環境
  - (3) 発達段階
2. 家庭での教育 - その役割と課題 -
3. 幼児教育施設及び保育施設 - その特性と課題 -
  - (1) 幼稚園 (2) 保育所 (3) 認定「子ども園」(4) 認可外施設
4. 幼保一元化
5. 幼稚園と小学校との連携
6. 早期教育
7. 幼児教育・保育の歴史

## 【評価方法】

出席状況 10% 学習態度 40% 課題の提出 50%

## 【テキスト】

資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

## 教育と調査・統計

小川一美

### 【授業の概要】

これからの教師に求められる資質の1つが、児童や教育のあり方についての適切な理解力である。また、信頼される学校づくりのためには、地域や保護者の意見や状況などを把握することも必要になる。様々な情報が飛び交う中、適切にデータを収集し、そして得られたデータを適切に読み解くことは決して容易なことではない。本授業のねらいは、実際にデータ収集などを行いながらこうした力を養うことである。

### 【授業の目標】

情報やデータを適切に読み解く力や収集する力、さらには批判的思考力を身につける。

### 【授業計画】

大きく分けて以下の3つのテーマに沿って授業を行うが、それぞれに複数時間をあてることになる。

1. クリティカルな思考とは  
クリティカルな思考とはどういうものか、人が犯しやすい誤った判断とはどういうものかについて、複数のトピックスに基づき講義を行う。
2. 調査法とは  
データ収集の1つの手法である調査法について学習する。
3. データ収集  
調査法を用いたデータ収集の練習を行う。

### 【評価方法】

受講態度およびレポートなどににより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 人権と教育

小出隆司

### 【授業の概要】

ここでは、子どもの人権と子供たちの発達障害（ライフ・ハザード）について学ぶ。同時に発達障害からの脱却を生活科学習の領域で考えてみる。教師の知性と体験を豊かにすることが子どもたちの人間としての豊かさを培う重要な要素となる。そのために、視野を国の内外に広げて学習し、現場見学、実体験（栽培・飼育・制作）、表現活動（音楽・劇・図工工作・体育）など五感を豊にする実習的学習を条件の許す範囲で多く取り入れていきたい。

### 【授業の目標】

子どもの人権についての基本的な学習と子どもたちの発達障害の現実とそこからの脱却について幼・小の子どもの立場から考察する。子どもについての複眼的思考ができるように実践的な活動を通して学びあう。

### 【授業計画】

- 1 日本国憲法と子どもの権利条約について
  - 2 世界各地の子どもたち人権についてー ちがいを共に生きるとはー  
(国連ユニセフの『世界子ども白書』を読む)
  - 3 子どもたちの遊びや生活の特徴について (日本子どもを守る会『子ども白書』)
  - 4 放課後の子どもたち (学習塾・各種クラブ・学童保育)
  - 5 子どもたちにとって文化とは何か。(子どもたちを取り巻く文化的状況の現状)
  - 6 子ども発達障害(ライフ・ハザード)の現実と脱却を考察
  - 7 子ども権利条約と障害者支援の現実(障害者の声)
  - 8 グループごとにテーマを設定、調査活動をしてまとめ、発表・討論
- \*講義と課題の設定、調査・まとめ・発表・討論を基本にして学習を進める。

### 【評価方法】

授業への参加態度、課題レポートなど提出物、発表内容、学習カードの記述内容などの評価を基に総合的に評定する。

### 【テキスト】

プリント資料を配布。

### 【参考文献・資料】

講義時に著書・論文紹介をする。

## 初等国語

中嶋真弓

### 【授業の概要】

初等国語科の内容に相当する教科として、文学作品や新聞等の文章を取り上げ、それらに関する考察を試みることを通じて、「読むこと」「書くこと」について実践的な力を身につける。また国語科書写への理解を深めるため、日常生活への書写の取り入れにも留意しながら、プレゼンテーションやパネルディスカッションといった多様な方法での自己表現を通して、ものの見方や考え方を鍛えていく学修を行う。

### 【授業の目標】

小学校国語科の目的・内容について学んだり、国語科教育の教材研究や指導法について考察したりすることを通して、国語科指導者としての基礎的な知識や技能を身に付ける。また、小学校書写の指導法について、必要に応じて実技実習を行いながら基礎を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 国語科教育の意義と課題
- 2 物語文教材の教材研究とその指導法
- 3 物語文教材の単元構想と教材開発
- 4 物語文教材における学習プリント・教具の工夫
- 5 「書くこと」の教材における教材研究とその指導法
- 6 「書くこと」の言語活動に向けての取組
- 7 「書くこと」の言語活動(論理的な文章を書こう)の実施
- 8 「話すこと・聞くこと」の教材における教材研究とその指導法
- 9 「話すこと・聞くこと」の言語活動に向けての取組
- 10 「話すこと・聞くこと」の言語活動(パネルディスカッション)の実施
- 11 楽しさを実感させる言語事項の指導
- 12 書写の授業
- 13 6年間を見通した書写指導の在り方

### 【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## 初等社会

楠元町子

### 【授業の概要】

初等社会科の内容に相当する教科として、初等社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培うと共に、各種ディベートの解説と実践を行い、論理的思考力、情報収集選択技術、コミュニケーション能力の向上を目指す。受講者の社会問題への関心の深化とディベート技術の向上に加え、児童生徒の発達段階に即した論題の作成方法、ディベートの進め方の学習を通して、ディベート指導者の育成も図りたい。

### 【授業の目標】

初等社会科の学習内容を理解するとともに、児童生徒の批判的思考力とコミュニケーション能力向上のために、授業の中でディベートの試合が実践できる技術と指導方法を身につける。

### 【授業計画】

- 1 社会科誕生の背景と社会科教育の目標
- 2 社会科授業とディベート
- 3 ディベート概説
- 4 論題の作成方法と紙上ディベート
- 5 ラベリング・ナンバリングの意義と方法
- 6 立論の作成と反駁の準備
- 7 簡易ディベートの実践(三角ディベート)
- 8 審査方法とフローシートの取り方
- 9 ディベート実践①: ディベートの試合
- 10 ディベート実践②: ディベートの試合
- 11 ディベートの課題とパネル・ディベート
- 12 ディベート実践③: パネル・ディベートの試合
- 13 ディベート実践④: パネル・ディベートの試合

### 【評価方法】

出席状況、ディベートの参加状況、レポートを総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。毎時プリントを配付する。

### 【参考文献・資料】

随時必要な参考文献を紹介する。

## 初等算数

石黒昭吉

### 【授業の概要】

算数教材の数学的背景や相互関係を解説し、教材に関する理解を深める。できる限り具体的内容、教材例を取り上げるとともに講義を進め、「数学的なものの見方・考え方」について考察する。また身近に存在する物事・現象に隠されている数学的な考え方に着目しつつ、具体的な問題の提示をその解決の過程を通じて明らかにすることで、教師としての算数・数学的思考力の開発、充実を図る。

### 【授業の目標】

小学校算数の目標、教材に関する理解を深めることで、将来算数教育に携わる際にその有用性、おもしろさについて認識できることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション・日常生活と算数
- 2 学習指導要領の読み方
- 3 小学校算数の学習内容の概観  
算数教育のねらい
  - (1) 「数と計算」領域 1
  - (2) 「数と計算」領域 2
  - (3) 「量と測定」領域 1
  - (4) 「量と測定」領域 2
  - (5) 「図形」領域 1
  - (6) 「図形」領域 2
  - (7) 「数量関係」領域 1
  - (8) 「数量関係」領域 2
- 4 まとめ

### 【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、試験等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省） 指導要領解説・算数編（文部科学省）

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 初等生活

小出隆司

### 【授業の概要】

初等生活科の内容に相当する教科として、小学校の教育内容に生活科が導入された経緯とその背景、構成理論、具体的内容およびその実践内容を講義し、実践体験を通して、生活科の理解を図る。生活科を低学年の子どもたちの成長にどう生かすか、価値ある学習展開をするための実践的視点を学ぶ。

### 【授業の目標】

生活科とは、どのような教科であるかを理解し、子どもの成長・発達にどのように関わることができるかを多角的に考察する。生活科の実践をすすめるための基礎理論を培う。

### 【授業計画】

- 1 生活科の創設までの経緯
- 2 小学校低学年の社会認識・自然認識・生活認識の特徴
- 3 生活科の目標
- 4 生活科の内容
- 5 生活科の内容構成と視点と内容についての分析と提言
- 6 生活科と児童の生活空間である地域の捉え方と視点
- 7 地域の生活地図づくり（人間・自然・商店・公共施設・神社・寺院・史跡など）
- 8 生活科の授業実践事例紹介と検討・教訓と課題
- 9 模倣授業（実践された授業をもとに）
- 10 生活科と表現活動（発表・身体・図工・音楽など）
- 11 生活科と絵本の世界
- 12 生活科と「総合学習の時間」との関連
- 13 生活科の評価と教師の役割
- 14 課題図書感想発表（書名は講義時に明示）

### 【評価方法】

毎時間の学習カード、課題図書（書名は講義時に明示）の感想文、期末レポート、出席状況などを基に総合評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

### 【参考文献・資料】

『小学校学習指導要領』（文部科学省）

## 初等理科

佐藤成哉

### 【授業の概要】

小学校理科に必要な物理・化学・生物・地学各領域における基礎的概念、知識を習得し、自然科学現象理解の深化を図る。また基礎的実験技術・操作の習得を通して、科学の不思議を体験するとともに、科学に楽しみ、科学を人に伝える喜びも体感できる「科楽」の構築をめざす。

### 【授業の目標】

科学の不思議を体験したり、人に伝える経験を通して、理科を魅力的なものにする手法が考案できるようになる。

### 【授業計画】

- 1 小学校学習指導要領（理科）
- 2 教科理科の教育課程－小学校～高等学校の理科を系統的に－
- 3 小学校理科  
物理領域－力学、電磁気学、熱－  
化学領域－実験器具、水溶液、気体－  
生物領域－植物、動物－  
地学領域－地球、気象、天体－
- 4 子どもの学びの姿
- 5 もの作りとおもしろ実験－身近な素材を使った教材作り－

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業、実験等を含む。

### 【評価方法】

出席状況や履修・発表態度、レポート、定期試験等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）  
小・中学校理科教科書及び教師用指導書（大日本図書）  
資料などは適宜配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 初等音楽

浅田まり子

### 【授業の概要】

初等教員に必要な基礎的音楽教養を身につけるために、音楽に関する基礎知識と、音楽の実技能力を養成するためにピアノ演習を中心に学ぶ。また音楽療法について、実践を通じて学ぶ。

### 【授業の目標】

基本的な楽典を活用した唱法・奏法（リコーダー・鍵盤ハーモニカ・ピアノ等の楽器奏法）を体得し、音楽療法から音の活用方法の基本などを習得することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 ・ピアノ奏法
- 2 ・教材ピアノ演習 1
- 3 ・教材ピアノ演習 2
- 4 ・リコーダー・鍵盤ハーモニカ等演習
- 5 ・ソルフェージュ
- 6 ・簡易伴奏法 1
- 7 ・簡易伴奏法 2
- 8 ・楽典 1
- 9 ・楽典 2
- 10 ・音楽療法 1
- 11 ・音楽療法 2
- 12 ・演奏発表会

### 【評価方法】

実技・レポート・出席日数（遅刻も含む）・授業態度

### 【テキスト】

小学校課程のための教科教育法・音楽編 教育芸術社  
歌はともだち 教育芸術社

### 【参考文献・資料】

音楽の技術には個人差があるので、授業中に個人に合わせて指示。

## 初等図画工作

大久保義男

### 【授業の概要】

児童の発達段階に即した指導を行うための造形表現を習得する。小学校の図画工作の教材について理解を深めるため、絵画、デザイン、彫刻、工芸などの基礎的な技能を学ぶ。

### 【授業の目標】

図画工作のさまざまな教材やその指導法を学び、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすための教材の開発法を考える。

### 【授業計画】

- 1 小学校図画工作科の造形表現
  - (1) いろいろな材料を使って表現しよう
  - (2) いろいろな場所を活かして表現しよう
  - (3) 考えたことや思ったことを表現しよう
  - (4) 自分だけの表し方や扱い方を見つけよう
  - (5) 生活を楽しむ作品を作ろう
  - (6) 想像力を働かせて表現しよう
  - (7) 立体で表現しよう
  - (8) 動く造形を作ろう
  - (9) 自分たちの作品を飾って楽しもう
  - (10) 名作を鑑賞しよう
- 2 材料と造形表現
  - (1) 表現技法の開発
  - (2) 表現技法を生かした造形表現

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 初等家庭

渥美正子

### 【授業の概要】

家庭生活は生活主体である家族と衣食住というモノとの関わりで展開している。衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的活動を通して、家庭生活を支えている様々なモノと家族の機能を理解し家庭生活への関心を高めることを目的とする。衣食住に関わる日常生活に必要な基本的知識・技能を修得し、自らが家族の一員として家庭生活の向上に向けて寄与できる態度を育成したい。

### 【授業の目標】

家庭生活の質的な向上を主体的・創造的に追求していくことの重要性を理解すること。

### 【授業計画】

- 1.生活者としての主体形成
- 2.生活の構成要素
- 3.生活環境の変遷
- 4.家族領域の課題
- 5.住生活領域の課題
- 6.衣生活領域の課題
- 7.食生活領域の課題
- 8.消費者問題
- 9.家庭生活と地域
- 10.高齢社会の生活環境
- 11.小学校家庭科に関わる課題
- 12.これからの家庭科教育の展望

### 【評価方法】

試験とレポートで行う。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

## 初等体育

松田秀子

### 【授業の概要】

初等体育科の内容に相当する教科として、体育科における教育観・指導法に関する教育理論を踏まえ、体育の授業を行うための基礎知識と技能を習得する。また子どもにとっての遊びの意義を理解し、子どもが楽しめる運動あそびについて学習すると共に、遊びの内容や効果、問題点について検討し、子どもの運動遊びのあり方について学ぶ。

### 【授業の目標】

小学校体育に関する基礎知識を学習し、運動領域の基本的な実践力を実習を通して身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 小学校体育の目標と内容
- 3 表現リズム遊び
- 4 運動遊び・伝承遊び
- 5 体ほぐしの運動
- 6 陸上運動1
- 7 陸上運動2
- 8 器械運動1
- 9 器械運動2
- 10 ボール運動 (バスケットボール型)
- 11 ボール運動 (サッカー型)
- 12 ボール運動 (ベースボール型)
- 13 保健領域の内容と展開1
- 14 保健領域の内容と展開2
- 15 まとめ

### 【評価方法】

出席状況、技能テストや授業態度、レポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領解説 体育編 (平成11年5月)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に紹介する。

## 体育特殊演習

松田秀子

### 【授業の概要】

この授業は、小学校学習指導要領の体育科における「水泳」の領域に基づいた学習内容について理解を深め、小学校で水泳の指導ができる能力を養うことを目的とする。具体的には「水遊び」「浮く・泳ぐ運動」「水泳」「各泳法の技能の習得」「安全や管理」「着衣泳」「救急法」等について実践し、演習形態で学習する。さらに指導力の向上を図る目的で、学生自身の泳法の技能を習熟させるようにする。

### 【授業の目標】

- 1.小学校体育における水泳の泳法について理解する。
- 2.実習を通して、各泳法の技能の習得を目指すとともに、指導者としての資質の向上をねらいとする。

### 【授業計画】

- 1.実習日時 平成20年9月16日(火) 17日(水) 18日(木) 19日(金) 22日(月) 24日(水) 計6日間 時間 9:30～12:40
- 2.実習場所 愛知淑徳水泳学校(星ヶ丘キャンパス)
- 3.内容
  - 1)オリエンテーション
  - 2)水遊び
  - 3)浮く・泳ぐ運動
  - 4)平泳ぎの技能習得と指導法
  - 5)クロールの技能習得と指導法
  - 6)背泳ぎの技能習得と指導法
  - 7)バタフライの技能習得と指導法
  - 8)水中安全教育(着衣泳)
  - 9)水中安全教育(救急法)
  - 10)まとめ

### 【評価方法】

出席状況や受講態度、技能テスト、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

## 教職入門

大久保義男

### 【授業の概要】

本講義では、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申や、県教委の教員採用選考の指針から学び、教員に求められる資質能力を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

教員の職務と役割について学び、教育への関心や教職に対する情熱や使命感を高めるとともに、教員としての適性を省察する契機とする。

### 【授業計画】

- 1 教員の仕事
  - (1) 学習指導
  - (2) 生徒指導・教育相談
  - (3) 進路指導
  - (4) 学級経営
  - (5) 教科外指導
- 2 教師に求められる資質・能力
- 3 教員の養成と採用
- 4 教員の地位と身分
  - (1) 身分上の義務・制限
  - (2) 教員の待遇と勤務条件
  - (3) 教員の研修
- 5 学校の管理・運営
  - (1) 学校制度
  - (2) 学校運営
  - (3) 校務分掌

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化に伴う学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校制度の典型的比較と外国と日本の学校教育制度の変遷から、学校教育制度の基礎的な事項を理解する。さらに、学校教育制度及び教育行政制度等に関する現在の日本の教育法規を取り上げ、日本の教育制度の仕組みや特徴等について学習する。

### 【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 教育制度の意義
- 2 現代学校教育制度の起源
- 3 学校教育制度の類型
- 4 日本の学校教育制度の変遷
- 5 現在の日本の教育制度と教育行政制度
- 6 教育法規と学校教育
- 7 諸外国の学校教育制度

### 【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

## 発達心理学

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の人間観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿り、自分自身の自己形成過程への関心を深めることによって自己理解を促進することも目指したい。

### 【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身への理解を促進すること。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

学習指導要領の改訂によって、学習内容の厳選がなされると同時に、「生活科」や「総合的な学習の時間」が導入され、「生きる力」を学ぶ新しいカリキュラムの開発が必要になった。この歴史的経過を振り返りつつ、教科中心カリキュラムと経験中心カリキュラムの考え方に関する考察、現行教育課程の諸問題、わが国における新しいカリキュラムの取り組みなどについて学ぶなかで、カリキュラム編成の基礎的能力を育成する。

### 【授業の目標】

激しい社会変化に主体的に対応し、一人ひとりの子どもに「生きる力」を育むための教育課程をどのように編成したらよいかを教育課程編成の歴史から読み解くと同時に、特色ある教育課程の具体的なあり方を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 授業に関する諸注意
- 2 教育課程とは何か（教育課程の領域とは）
- 3 教育課程の意義と変遷
- 4 アメリカに見る教育課程改革の歴史
- 5 学習指導要領の歴史の変遷
- 6 現行の学習指導要領の問題点
  - 「生きる力」と「確かな学力」について
- 7 各教科の指導計画（国語科・社会科・生活科）
  - 国語科：音読・朗読・暗唱に重点をおいた指導計画
  - 社会科：課題探究型の学習とは（小学校3、4年生）
  - 生活科：特に理科教育との関連で
- 8 総合的な学習の時間の意義と課題について
- 9 特別活動の意義と課題について（学校行事と時間割編成の工夫）
- 10 今日の課題
  - (1) 小学校における英語教育の是非
  - (2) メディア・リテラシーの教育
  - (3) 命を大切にする教育実践

### 【評価方法】

各種レポート、試験の成績、出席状況などから総合的に評価する

### 【テキスト】

「講義ノート」及びプリント

## 国語科教育法 I

中嶋真弓

### 【授業の概要】

国語科教師としての資質や能力を高めるために、国語科教育に携わった先人の研究業績や指導法、ものの見方や考え方を考察し、現在の国語科教育の体系を理解していく。その上で、教材研究の在り方や学習活動の設定の仕方、発問の仕方等の指導方法について理解を深めたり、具体的事例や実際の授業ビデオを検証したりしながら、学習指導案を作成していく。

### 【授業の目標】

- 1 学習指導要領や教科書教材の変遷及び国語科教育に携わった先人達の業績について学ぶ。
- 2 学習指導案の作成を通して、論理的・実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1 国語科教育の現状と役割
- 2 『学習指導要領』の変遷 (1)
- 3 『学習指導要領』の変遷 (2)
- 4 教科書教材の変遷 (1)
- 5 教科書教材の変遷 (2)
- 6 国語科教育に携わった先人達の業績
- 7 国語科の授業
- 8 国語科の教材研究と指導法
- 9 学習指導案の作成 (1)
- 10 学習指導案の作成 (2)
- 11 授業観察 (ビデオ等を活用して)
- 12 国語科授業の改善に向けての工夫
- 13 国語科教育の課題

### 【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 国語編 (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## 国語科教育法 II

中嶋真弓

### 【授業の概要】

学習者が主体的に授業に臨むことができる学習の在り方を、多様な観点から考究し、「よい授業」づくりに向けて大切にすべきことを明らかにしていく。その学修をもとに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域1事項の具体的な学習指導案を作成したり、模擬授業をしたりしながら、実際の教育現場で生きる教師の力量を身に付けていく。

### 【授業の目標】

国語科教育の体系を踏まえた上で、3領域1事項の指導の在り方を教科書教材を活用して明らかにする。また、授業に必要な学習材・教具を開発したり、読書力を高めるための学校図書館の活用について考えたりする。

### 【授業計画】

- 1) 国語科の目標と指導内容
- 2) 魅力ある国語科授業にするための工夫
- 3) 「話すこと・聞くこと」の指導
- 4) 「書くこと」の指導
- 5) 「読むこと」の指導
- 6) 読書指導
- 7) 言語事項・書写の指導
- 8) 国語科と他教科との関連
- 9) 主な教科書教材を活用しての教材研究①
- 10) 主な教科書教材を活用しての教材研究②
- 11) 学習指導案作成①・模擬授業
- 12) 学習指導案作成②・模擬授業
- 13) 学習指導の見直しと具体的な手立て

### 【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 国語編 (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## 社会科教育法 I

榎元町子

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、日本人としての自覚を持ち、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目的に、児童の身近な地域の学習を通して、わが国の国土と歴史、政治、近隣諸国との関係に対する理解を深める教育方法を考える。具体的には、地図や統計などの基礎的資料や体験学習の活用方法、板書方法、教材研究、授業の進め方を学び、教科指導に必要な知識と技能を養う。

### 【授業の目標】

小学校社会科の授業を実践するために必要な知識や、さまざまな教材を活用した授業方法、板書方法を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1 小学校社会科の目標と学習内容
- 2 小学校社会科3・4年生の学習内容について概説
- 3 小学校社会科5・6年生の学習内容について概説
- 4 身近な地域とわたしたちの暮らし
- 5 体験学習を取り入れた授業 (模擬授業) と討議
- 6 日本の地形と産業
- 7 地図を活用した授業 (模擬授業) と討議
- 8 日本の歴史と近隣諸国
- 9 史料を用いた授業 (模擬授業) と討議
- 10 日本の経済とグローバリズム
- 11 統計資料を活用した授業 (模擬授業) と討議
- 12 日本の政治と世界平和
- 13 討論を組み入れた授業 (模擬授業) と討議

### 【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験を総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

授業の中で随時紹介する。

## 算数科教育法 I

石黒昭吉

### 【授業の概要】

算数教育の目標・内容・指導方法・評価を中心とした概説を行う。また、教科書分析、学習指導案の作成などの活動を通じて授業実践に向けての基礎的素養・実践力を養う。併せて、小学校算数科における学習指導上の諸問題についてあきらかにする。

さらに、前半での講義を活かして、小学校算数での主に「数と計算」領域について、そこでの題材の見方、考え方について考察し、学習指導案の作成、それについての検討など実習的な内容を扱う。

### 【授業の目標】

小学校算数科の授業を実践するための基礎知識と指導計画の作成、教材作成、指導案の作成、評価という一連の流れについて理解することを目標とする。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション・算数教育の歴史
- 2 算数教育の目標
- 3 算数教育の指導理論
- 4 学習指導案の作成
- 5 数と計算の指導1
- 6 数と計算の指導2
- 7 量と測定の指導
- 8 図形教材の指導
- 9 数量関係の指導
- 10 問題解決と文章題
- 11 学習指導と評価1
- 12 学習指導と評価2
- 13 まとめ

### 【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、試験等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省) 指導要領解説・算数編 (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。



## 算数科教育法 II

石黒昭吉

## 【授業の概要】

小学校学習指導要領総則にある配慮事項の一つに「各学年の指導内容については、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えると共に、教材等の精選を図り、効果的な指導ができるようにすること」とあるが、このことについて小学校での算数における具体化を図る。すなわち、各学年の内容と示している指導事項は指導の順序を示しているものではないので、小学校算数の四領域・内容について、その相互の関連・系統性をあきらかにする。そのことで、そういった順序性も含め、指導内容を具体的に組織、配列できる力を養う。

## 【授業の目標】

教育実習生および新任教師として、算数科の授業をするための基礎能力を身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 算数教育の目標と今日的課
- 2 教材分析・教科書の分析
- 3 「数と計算」における概念と内容の取り扱い
- 4 「数と計算」に関する教材化
- 5 「量と測定」における概念と内容の取り扱い
- 6 「量と測定」に関する教材化
- 7 「図形」における概念と内容の取り扱い
- 8 「図形」に関する教材化
- 9 「数量関係」における概念と内容の取り扱い
- 10 「数量関係」に関する教材化
- 11 授業の組み立て方と学習指導案
- 12 学習指導と評価
- 13 まとめ

## 【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、試験等によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 算数編（文部科学省）

## 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 理科教育法 II

佐藤成哉

## 【授業の概要】

小学校理科の各学年での目標および内容、A・B・C各領域の特性と系統、原理や法則の理解と考え方、単元目標のとらえ方、学習指導案の書き方とその指導について、具体的な理解を深める。また、代表的な学習指導法や指導と評価の一体化など新しい学習評価のあり方についての理解を深め、より実践的な力の育成を図る。

## 【授業の目標】

教育実習を想定し、小学校理科の授業（模擬授業）を構築する上での指導案の作成や教材化など、より実践的な指導力の育成を目標とする。

## 【授業計画】

- 1 小学校学習指導要領－理科－
- 2 「教材」及び「教材研究」の定義
- 3 教材化－構成要素、改善・工夫の視点－
- 4 「教材研究」の内容
- 5 学習指導法
- 6 評価と評定－教育評価の必要性、評価の機能・種類、評価法と留意点－  
具体的な単元をあげて教材化を試み、演習的（模擬授業）に行う。

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業、実験等を含む。

## 【評価方法】

出席状況や履修・発表態度、小テスト、レポート、定期試験等によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）  
小・中学校教科書及び教師用指導書（大日本図書）

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

## 理科教育法 I

佐藤成哉

## 【授業の概要】

小学校における理科教育のあり方を多角的に考察する。理科教育に関わる基礎的事項と理科教育観の歴史の変遷を知り、今日の理科教育観の全体像を把握するとともに、理科教授の目標と実際の授業のつくり方について具体的な理解を深める。

また、模擬授業を取り入れ、学生相互のコミュニケーションを図りながら授業づくりについて検討していく。

## 【授業の目標】

小学校理科の意義や理科カリキュラムの構成について理解するとともに、学習指導計画に準じた授業設計や指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。

## 【授業計画】

- 1 理科教育の意義・目標
- 2 理科教育観の歴史の変遷
- 3 教科理科の教育課程（小学校～高等学校の理科を系統的に）
- 4 理科学習指導計画
- 5 授業設計の手順
- 6 授業形態と指導上の特徴・留意点  
学習指導案－作成の意義とその内容－

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業・実験等を含む。

## 【評価方法】

出席状況や履修・発表態度、小テスト、レポート、定期試験等によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）  
小・中学校教科書及び教師用指導書（大日本図書）

## 【参考文献・資料】

資料等は、授業中に適宜紹介・配布する。

## 生活科教育法 I

小出隆司

## 【授業の概要】

各地の特色ある生活科教育実践校の具体的な諸実践を基に、その実際・理念・方法に学ぶ。機会を見つけて地域の小学校の生活科授業を参観して、現場教師との意見交流をして生活科教育に対する実践的な認識を深める。地域の諸条件をどう生かして生活科の学習を創るか、子どもの目線を視野に入れての地域探訪をする。受講者各自が、テーマをもって講義に参加して、個人又はグループによる模擬授業をして実践的な力量を身に着ける。

## 【授業の目標】

特色ある生活科の実践に学び、大学周辺を舞台に地域素材の教材化を試み、模擬授業をして生活科への認識と技術力を高める。

## 【授業計画】

- 1 生活科の教科書分析と授業づくり
- 2 生活科の年間指導計画づくり
- 3 生活科1・2年生の実践紹介と授業分析・検討
- 4 近隣の小学校の生活科授業の見学（またはビデオで観る）
- 5 見学した（またはビデオで観た）生活科授業を基に授業研究
- 6 グループでテーマを設定し大学の周辺の探検
- 7 大学周辺の探検を地図にまとめ発表会
- 8 グループごとに模擬授業のテーマを設定し授業案づくり
- 9 授業案検討と資料づくり（模擬授業の準備）
- 10 模擬授業と授業研究
- 11 授業の技術（発問、板書、学習環境づくり、評価の仕方など）
- 12 授業の技術（見学・観察のさせ方、発表・表現のさせ方など）
- 13 生活科の授業を創るための子どもの活動・教師の活動とは何か
- 14 課題図書感想・意見発表（書名は講義時に明示）

## 【評価方法】

毎時間の学習カード・課題図書感想文・期末レポート及び出席状況などを基に総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない（プリント配布）

## 【参考文献・資料】

『小学校学習指導要領』（文部科学省）

## 生活科教育法 II

小出隆司

## 【授業の概要】

低学年の子どもの身体機能的な発達、思考と言語認識の発達、情緒・心理的な発達などに関する基礎的な理論学習をする。〈生活科教育法I〉で学習した特色ある生活科実践校の実践例と重ねながら、さらに、一步深めた生活科教育を創造的、実践的に考案する。その上で、個人又はグループで仮想授業を作成して模擬授業をおこない、相互に意見交流をし、生活科教育の実践的な力量をより高める。

## 【授業の目標】

低学年の児童の諸発達に関する基礎的な理論学習をし、子どもについて多角的に認識を深め、生活科授業づくりの実践的な力量を高める。

## 【授業計画】

- 1 子どもの発達と生活科
- 2 『小学校新教育課程の解説』生活（監修文部省内教育課程研究会）中野重人編著（第一法規）から今日までの生活科の歩みをみる  
－ 教育現場の状況と実践・課題 －
- 3 身近な植物栽培と記録（種まき、球根から各自で育てる）とそのポイント
- 4 身近な生き物飼育と記録（金魚、かえる、ミミズ、カタツムリ・・・）そのポイント
- 5 生活科1・2年生の授業の技術
- 6 生活科1・2年生の授業づくりのヒント
- 7 生活科年間指導計画づくりの実際
- 8 テーマを選び各自で仮想授業案づくり
- 9 課題図書感想発表（書名は講義時に明示）
- 10 模擬授業と反省
- 11 3、4の取り組みの報告
- 12 生活科と総合学習（フレネ教育の理論と実際）
- 13 私の創っていききたい生活科（各自の考えを提言）

## 【評価方法】

講義への参加態度、課題・期末レポート、学習カード等で総合的に評定する。

## 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 生活編（文部科学省）

## 【参考文献・資料】

『小学校学習指導要領』&『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省）

## 図画工作科教育法 I

大久保義男

## 【授業の概要】

学習指導要領における図画工作科の目標や指導内容を踏まえながら、児童の発達段階に即した実践的な指導法を身につける。図画工作科教育法Iでは、身近な材料や自然物を使い身体全体の感覚や技能などを働かせることができる指導法や、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすことのできる指導法を開発する。

## 【授業の目標】

評価の方法や指導計画の立て方など、図画工作科の実践的な指導法を学び、図画工作科の意義や内容についての理解を深める。

## 【授業計画】

- 1 小学校における図画工作科の学習内容と指導法
  - (1) 図画工作科の目標と性格
  - (2) 各学年の目標と内容
  - (3) 指導計画の作成と内容の取扱い
  - (4) 図画工作科で身につける学力
  - (5) 図画工作科の教科性
- 2 児童の発達段階に即した指導法
  - (1) 身体全体の感覚や技能を働かせることのできる指導法
  - (2) 豊かな発想や創造的な技能を伸ばすことのできる指導法
- 3 指導と評価
  - (1) 学習指導と評価の一体化
  - (2) 評価の観点と方法
- 4 指導計画の作成
  - (1) 指導計画の考え方
  - (2) シラバスの作成の手順と要点
  - (3) 学習指導案の立て方と要点

## 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省）

## 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 音楽科教育法 I

長谷川滋夫

## 【授業の概要】

小学校1学年～6学年までの教材の中から、唱歌と唱歌の伴奏を中心に、ア・カペラでの合唱、小楽器での簡単な合奏の指導法を学ぶ。また、基本的な音楽理論の演奏への活用法や音楽鑑賞の指導法も学ぶ。

## 【授業の目標】

小学校音楽科の目標・内容・指導計画・指導法・評価等について学習する。さらに、実技実習を通して、表現及び鑑賞の実践的な指導力を身に付ける。

## 【授業計画】

- 1 音楽と教育
- 2 教科の目標
- 3 表現指導法
- 4 鑑賞指導法
- 5 歌唱共通教材の解説
- 6 鑑賞共通教材の解説
- 7 合唱指導法
- 8 合奏指導法
- 9 年間計画の立案
- 10 学習指導案の作成
- 11 学習の評価法
- 12 学習指導案実践

## 【評価方法】

授業への出席状況、実技実習への参加態度、レポート、試験などを基に総合的に評価する。

## 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省） 小学校学習指導要領解説・音楽編（文部科学省）  
小学校課程のための教科教育法 音楽編（教育芸術社）

## 【参考文献・資料】

授業中に関連参考文献を適宜示すとともに、資料プリントを適宜配布する。

## 家庭科教育法 I

仲島千恵

## 【授業の概要】

小学校における家庭科教育の目標を踏まえ、領域ごとの実践的・体験的な活動方法について具体的な方策を探る。また、子どもたちに身につけさせたい知識・技能を確認した上で、どのように実践的態度を育てていけるのか考える。家庭環境により異なる生活経験を持つ子どもたちを指導する上で注意すべきことを考え、どのような教材をどう取り扱うか、実践例をもとに検討する。

## 【授業の目標】

家庭科教育について基本的な理解をさせる。  
小学校教員として必要な資質や態度について考えさせる。

## 【授業計画】

- 1 学習指導要領における教育課程及び家庭科の改善の方向
- 2 学習指導要領における家庭科の目標及び内容
- 3 家庭科の目指すものと題材構成の考え方
- 4 教材の工夫
- 5 年間指導計画作成のポイントと留意点（家庭生活を中心に）
- 6 年間指導計画作成のポイントと留意点（地域との関わりを重視して）
- 7 題材の指導計画作成の考え方と指導計画例
- 8 授業例1 2年間の学習を見通した学習指導
- 9 授業例2 繰り返し体験することにより主体的に技能を身に付けていく製作の学習指導
- 10 授業例3 地域の特性や素材を生かした意見に基づき課題を追求する学習指導
- 11 授業例4 生活の自立を図った学習指導
- 12 授業例5 子どもが課題を選択する学習指導
- 13 授業例6 よりよい消費者への第一歩となる学習指導
- 14 授業例7 学習したことを生かし楽しい生活を作る学習指導

## 【評価方法】

試験とレポート

## 【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）  
小学校学習指導要領解説 家庭科編（文部科学省）  
新しい教育課程と学習活動の実際 家庭  
（橋本都・建守紀子・飯田紀代子編著 東洋館出版）

## 体育科教育法 I

松田秀子

### 【授業の概要】

小学校学習指導要領の趣旨に沿って、運動領域の内容、児童の発育・発達の特徴を踏まえた指導方法等について理解を深め、実技指導の実践方法を学ぶ。具体的には「基本の運動」「ゲーム」「体づくり」「ボール運動」「表現運動」の領域を中心とした内容について、指導案を作成し、模擬授業を実践することにより指導法を習得する。

### 【授業の目標】

1. 小学校体育の目標を理解し、教材や指導方法について学ぶ。
2. 模擬授業を通して、学習指導案の作成や評価について学び、指導力を身につける。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 基本の運動(低学年)の学習とその指導法
3. 基本の運動(中学年)の学習とその指導法
4. 体づくり運動の学習と指導法
5. バスケットボールの学習と指導法
6. ソフトバレーボールの学習と指導法
7. ハンドボールの学習と指導法
8. サッカーの学習と指導法
9. 表現運動の学習と指導法
10. 授業計画の作成と評価
11. まとめ

### 【評価方法】

出席状況や受講態度、レポート、試験などを総合して評価する

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 体育編 (平成11年5月) (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

## 道徳指導法

山田修子

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探究する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業の目標】

道徳教育の基盤や必要性および道徳性の発達理論を理解し、学校教育全体を視野に入れながら「道徳の時間」の適切な指導ができるようにする。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 道徳教育の歴史、変遷
- 3 道徳性の発達理論と児童理解
- 4 道徳性の発達理論と小学校における道徳教育
- 5 小学校における道徳教育の実際
  - (1) 道徳教育の目標
  - (2) 道徳教育の内容
  - (3) 学校の道徳指導年間計画、学級の道徳指導
  - (4) 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
  - (5) 「道徳の時間」の指導の実際、他教科との関連
  - (6) 模擬授業とまとめ

### 【評価方法】

試験、提出物、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 道徳編 (文部科学省)

## 体育科教育法 II

丸山真司

### 【授業の概要】

この授業では、小学校体育の内容領域である「器械運動」及び「陸上運動」の指導法、授業づくり、教材づくりについて、低学年・中学年・高学年のカリキュラムを視野に置きつつ、これまでの優れた体育実践研究の成果として生み出された「典型実践」をモデルにしながら実技を通して学ぶ。同時に、体育授業の分析方法についても併せて学ぶ。

### 【授業の目標】

小学校体育 (器械運動、陸上運動) の指導法、授業づくり、教材づくり、授業研究方法について学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション: 「みんながうまくなる体育」= 「みんなが『わかる・できる』体育」の理論学習と求める体育授業のイメージの形成  
 <器械運動の授業づくりと教材づくり>
- 2 小学校における器械運動の「クロスカリキュラム」と授業づくり・教材のポイント
- 3 マット運動 (1) マット運動の感覚づくり
- 4 マット運動 (2) お話マット
- 5 マット運動 (3) 側転の系統的指導の学習
- 6 跳び箱運動 (4) 台上側転
- 7 跳び箱運動 (5) 台上前転～ネックスプリング  
 <陸上運動の授業づくりと教材づくり>
- 8 小学校における陸上運動のカリキュラムと授業・教材づくりのポイント
- 9 障害走の学習とその指導法
- 10 短距離走の学習とその指導法
- 11 リレーの学習とその指導法
- 12 まとめ

### 【評価方法】

評価は平常点と学期末のレポートによっておこなう。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 体育編 (文部科学省)

## 特別活動指導法

山田修子

### 【授業の概要】

小学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、クラブ活動、委員会活動、児童会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習の目標とする。

### 【授業の目標】

具体的な実践例や変遷に学び、基礎的な知識を身につける。さらに指導計画、指導案の作成、演習を通して指導法を検討し、集団と個の理解を確かなものにする。

### 【授業計画】

- 1 特別活動の変遷、意義と役割
- 2 特別活動の目標、内容
- 3 学級活動と人格形成
- 4 学級活動の内容と指導計画の作成
- 5 クラブ活動、委員会活動と人間関係
- 6 児童会活動の内容と指導の実際
- 7 児童会活動の指導、演習
- 8 学校行事の内容と企画、指導 (1)
- 9 学校行事の内容と企画、指導 (2)
- 10 学校行事実践の紹介と指導案作成
- 11 特別活動における指導の在り方
- 12 事前指導、事後指導の意義と方法、演習
- 13 まとめ

### 【評価方法】

試験、課題提出、出席状況などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)  
小学校学習指導要領解説 特別活動編 (文部科学省)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

## 教育方法

石黒昭吉

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業の目標】

学校教育活動の中核を占める学習活動（授業）について、その原理・方法、教育学的技術、評価等を中心的テーマとした講義・演習により、どのように教材を工夫し、どのような授業をすれば学習者は上手く学べるかについて理解する。

### 【授業計画】

- 人間回復の学力と教師の在り方
  - 中学・高校における学力論と教師論の検討
  - 生徒の思考の発展を目指す授業方法
  - 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
  - 生徒の側に立った学習指導技術
- 情報機器及び教材の活用方法
  - 情報機器の特色とその効果的な利用方法
  - 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
  - メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
- 学習者にとって個を生かす学習集団とは
  - 多様化した生徒への対応の仕方
  - 中学校における個を生かす学習集団
  - 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

積極的な授業参加とレポート、期末に行う試験等によって評価する。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育相談

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心に情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

### 【授業計画】

- 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
- 「自分」は他者との関係の中で育つ
- 教師-生徒の相互影響過程
- 生徒理解
- 学校における教育相談
- 教育相談の進め方
- 相談とカウンセリング
- 適応と不適応
- 問題行動のとらえ方とその対応
- 不登校を考える
- いじめを考える
- 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 生徒・進路指導

山田修子

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

生徒指導・進路指導の在り方の基本を理解し、児童を健全に育てるための視点と指導方法について学ぶ。また、個人の人格を尊重する姿勢や人間観を確かなものにする。

### 【授業計画】

- 生徒指導・進路指導とは
- 児童理解の方法と指導
- 集団の理解と指導の方法
- 生徒指導・進路指導の年間計画と全校指導体制
- 生徒指導・進路指導と教科指導、道徳との関連
- 生徒指導・進路指導と教科外指導
- 生徒指導・進路指導と教育相談
- 児童の問題行動の理解と指導
- 教室の荒れの理解と指導
- 不登校・いじめの理解と指導
- 発達障害（特別支援教育）の理解と生徒指導
- 家庭、地域、関係機関との連携
- まとめ

### 【評価方法】

試験、提出物、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて授業時間に資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間に紹介する。

## 教育フィールドワーク

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

種々の教育ボランティアを通じて教育学の諸理論と実践との関連を学ぶ。事前に教育フィールドワークに関する理論と意義を学び、授業担当者による個々の学生のボランティア活動をモニタリングと、参加学生相互の交流を図りながら、教育と社会への関心を育てる。

### 【授業の目標】

教育学の諸理論を体験的に理解し、体験から生じた問いを学問的に探究する。

### 【授業計画】

4月23日（水）、5月21日（水）、6月18日（水）、7月16日（水）、10月15日（水）、11月19日（水）、12月17日（水）のいずれも昼休みに、ミニ講義と討論。

1月に総括討議（日時場所は別途掲示）。

### 【評価方法】

毎月のミニ・レポートと学年末の総括レポート。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介・配布する。

## 児童保健

高橋昌久

### 【授業の概要】

子どもが心身ともに健康に育っていくために必要な小児医学と臨床心理学の知見を基礎に、教師やまわりの大人に必要な児童保健に関する理論と実践的配慮について学ぶ。これらを通じて、「子どもが子どもらしく生きる権利」の重要性とその実現方途を多面的に習得し、家庭における虐待の早期発見や防止、心身の障害に対して適切に行動できる教師・支援者としての実践力を身につけることをめざす。

### 【授業の目標】

子どものこころと体に起こる様々な問題について、事実・情報の収集から解決すべき問題は何かを考え、その解決策の立案を行うまでの基礎を身につける。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション インシデント・プロセス法について他
- 2 子どものからだに起こること からだの発達
- 3 子どものからだに起こること 感染症など
- 4 子どものからだに起こること 低身長・肥満など
- 5 子どものからだに起こること 摂食障害など
- 6 子どものこころに起こること こころの発達
- 7 子どものこころに起こること こころの理論
- 8 子どものこころに起こること こどものうつ
- 9 学校と距離をおく子
- 10 児童虐待（1）早期発見とその対応
- 11 児童虐待（2）発達障害との関連
- 12 まとめ インシデント・プロセス法を用いた事例検討（1）
- 13 まとめ インシデント・プロセス法を用いた事例検討（2）

### 【評価方法】

積極的な授業参加、授業中のレポート、期末試験の成績を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで、随時紹介する。

## 障害者の心理・生理・病理

小塩允護

### 【授業の概要】

障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方について、知的障害や自閉症、LD・ADHD等の発達障害を中心に学習する。また、それらの障害の発生機序を胎生期、周産期、育成期に分けて概観するとともに、障害に対する医療的対応の在り方や医療機関との連携の在り方、二次的障害が生じるリスクなどについて学習する。

### 【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、特性を理解し、一人一人の持てる力を伸ばし、二次障害を起こさないためにどんな配慮が必要であるかを理解する。

### 【授業計画】

- 1 障害の理解
- 2 障害の医学的理解
- 3 視覚障害の特性と理解
- 4 聴覚障害の特性と理解
- 5 知的障害の特性と理解
- 6 肢体不自由の特性と理解
- 7 病弱・身体虚弱の特性と理解
- 8 言語障害の特性と理解
- 9 情緒障害の特性と理解
- 10 LD（学習障害）の特性と理解
- 11 ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性と理解
- 12 高機能自閉症の特性と理解
- 13 二次障害の予防と医療的なケア

### 【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 視覚障害者の指導

成富清武

### 【授業の概要】

視覚障害者についての理解を深めるために、先ず心理・生理・病理について初歩的な知識を概観した上で、各教科の指導の工夫について考えていく。自立活動を促す具体的な方法を、点字指導を取り入れながら、情報機器の活用も交えた指導法を考え、職業教育と進路指導に繋げていく。

### 【授業の目標】

障害がある幼児児童生徒に対する理解を深めるとともに、その保護者の心情の理解に努め、共生の立場で障害者支援ができる方法や態度を身につける。

### 【授業計画】

最初に障害者全般についての基礎的事柄を理解した上で、視覚障害者の心理、行動特性等に、具体的事例や実技を交えながら触れる。

- 1 障害者と親の心情の理解
- 2 視覚障害者と親の心情の理解
- 3 視覚障害者の行動特性
- 4 歩行指導の実際
- 5 視覚障害者の実態把握の方法と教科指導
- 6 職業教育と進路指導
- 7 交流教育の実際とまとめ

### 【評価方法】

出席数、授業態度、レポート提出等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

視覚障害教育入門Q&A（全国盲学校長会編著ジアース教育新社）  
視力0.06の世界（小林一弘著 ジアース教育新社）  
点字の学習指導の手引き（平成15年度改訂版 文部科学省）  
盲・聾・養護学校学習指導要領（幼稚園は教育要領）（文部科学省）

## 聴覚障害者の指導

梅本美恵子

### 【授業の概要】

聴覚障害者についての理解を深めるために、先ず心理・生理・病理について初歩的な知識を概観した上で、各教科の指導の工夫について考えていく。自立活動を促す具体的な方法を、手話を活用した言語活動を取り入れながら、情報機器の活用も交えた指導法を考え、職業教育と進路指導に繋げていく。

### 【授業の目標】

聴覚に障害のある幼児、児童又は生徒への指導理念や教育課程、指導方法を理解し、特別支援教育の指導の基礎知識を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 きこえと聴覚障害  
耳の機能、難聴の種類と程度
- 2 聴覚障害の言語指導とコミュニケーション  
乳幼児期の教育相談、幼稚園からの指導
- 3 聴覚の障害に応じた教育課程の考え方  
早期教育、各教科での配慮
- 4 聴覚障害者の教育課程の編成  
聾学校、難聴学級、通級による指導
- 5 自立活動の内容と具体的な方法  
聴覚活用（補聴器、人工内耳）  
発音・発語  
コミュニケーションと言語  
キューサイン、指文字、手話
- 6 各教科の指導法の工夫  
小学部段階における体験的な言語概念の形成  
中学部段階における読書習慣の形成  
高等部段階における情報機器等の活用
- 7 職業教育と進路指導の内容  
企業への就職、大学等への進学

### 【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況や受講態度等を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストを使用せず資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 知的障害者の指導

小塩允護

### 【授業の概要】

知的障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方、教科別の指導や領域別の指導、領域・教科を合わせた指導の在り方、授業の実際、具体的な指導法、職業教育と進路指導の実際、自立活動の指導の実際、指導における情報機器等の活用を含む教材・教具の開発・利用等について総合的に学習する。

### 【授業の目標】

知的障害教育の歴史と現状を正しく認識し、知的障害の特性に応じた生活経験主義教育の考え方とその具体的な実践のあり方について理解する。

### 【授業計画】

- 1 知的障害のある子どもの教育の歴史
- 2 知的障害のある子どもの教育の現状
- 3 知的障害に対応した教育課程編成の基本的考え方
- 4 領域・教科を合わせた指導
- 5 教科別、領域別の指導
- 6 自立活動の指導
- 7 総合的な学習の時間
- 8 情報機器等の活用
- 9 自閉症への対応
- 10 特別支援学級における教育
- 11 知的障害のある生徒の社会参加の実態
- 12 知的障害のある生徒の職業教育
- 13 進路指導と進路の学習

### 【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 重複障害者の指導

伊藤昭道

### 【授業の概要】

特別支援学校における最近の重複障害学級在籍率は全体では44%前後である。今後の特別支援学校において、ひとつの指導の領域を形成する。障害が重複しかつ重度化している故に単一障害者に比べて指導の難しさがある。この授業では、重複障害者の概念、実態把握の方法、教育課程の編成、個別の指導計画の作成、評価の方法、具体的な指導の実際等について解説し、基礎的な知識と指導法を身につけさせる。

### 【授業の目標】

重複障害児の指導内容及び指導方法、学校生活の支援について基本的な理解を図る。

### 【授業計画】

- 1 重複障害者の概念
- 2 特別支援学校における重複障害者の実態
- 3 重複障害者の教育課程編成と個別の指導計画の作成
  - (1) 重複障害者教育課程編成上の特例
  - (2) 個別の指導計画の作成
  - (3) 評価のあり方
- 4 重複障害者の指導の実際
  - (1) 知的障害と他の障害との重複障害者
  - (2) 視覚障害、聴覚障害と他の障害との重複障害者
  - (3) 重度・重複障害者の指導
  - (4) 指導法の工夫、教材の開発
  - (5) 実践事例
- 5 重度・重複障害者の学校生活に係わる課題
  - (1) 支援体制
  - (2) 教育環境
  - (3) 健康保持・安全確保
- 6 卒業後の生活
- 7 まとめとテスト

### 【評価方法】

出席状況、授業中の態度、課したレポートの内容、期末試験の成績をもとに総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。授業の中で資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

盲・聾・養護学校学習指導要領（文部省）他。授業の中で紹介する。

## 肢体不自由者の指導

鈴木郁子

### 【授業の概要】

肢体不自由者・病弱者の教育の成立はともに医療が密接に関連しており、整形外科の発展に伴って肢体不自由者に対する教育の重要性が認識されるとともに、療養所から小児科病棟の充実の流れとともに、病気療養者の治療と教育の相互の必要性が説かれるようになった。対象となる児童生徒の病種・病状や障害の程度およびその教育的配慮事項、家庭・医療機関・福祉施設等との連携の在り方について講義する。

### 【授業の目標】

肢体不自由教育および病弱教育の基本を理解し、個々の障害特性や教育的ニーズに応じた指導の在り方について学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 特別支援教育と肢体不自由者・病弱者の教育の歴史
- 2 肢体不自由者の概念とその理解
- 3 病弱者の概念とその理解
- 4 指導の計画とその展開
  - (1) 個別的教育支援計画の作成
  - (2) 授業づくりの基本
  - (3) 自立活動の指導
  - (4) 評価と授業改善
- 5 教育機器の利用と活用
- 6 進路指導と職業教育
- 7 関係諸機関等との連携
- 8 まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に出席状況、授業中の学習態度、レポートを加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

肢体不自由教育の基本とその展開（日本肢体不自由教育研究会監修 慶応義塾大学出版会）

### 【参考文献・資料】

授業のなかで必要に応じて紹介する。

## 言語障害者・情緒障害者の指導

担当者未定

### 【授業の概要】

言語障害（言語発達障害、聴覚障害、構音障害、高次脳機能障害など）と情緒障害（広汎性発達障害、緘黙症、不登校、集団不適応など）の種類とその特徴を学び、障害のしくみを考慮した指導の基本的原理について学習する。また障害の特徴を理解する枠組として、認知言語発達にかかわりのある感覚運動的知能の発達、象徴機能の発達、情緒の発達に関連のある心理社会的成熟について学ぶ。

### 【授業の目標】

詳細は後日揭示にて連絡します。

### 【授業計画】

- 1 子どもの発達障害
- 2 認知の発達
- 3 言語の発達
- 4 情緒の発達
- 5 言語発達障害
- 6 聴覚障害
- 7 構音障害
- 8 高次脳機能障害
- 9 広汎性発達障害
- 10 緘黙症
- 11 不登校
- 12 集団不適応
- 13 障害者の指導の原理
- 14 障害特徴の評価
- 15 家族の援助のあり方

### 【評価方法】

詳細は後日揭示にて連絡します。

## 発達障害者の指導

二宮 昭

### 【授業の概要】

発達障害者の指導・教育においては、「発達」や「障害」ということをどのように捉えたらよいのかということをもまず論じる。その上で、具体的な事例を交えながら、発達障害者の実際の指導のあり方について検討する。とくに、単に子どもを変えるという発想だけではなく、指導や援助のあり方を変える、つまり指導者側が変わることで子どもが変わるという指導法について考察する。

### 【授業の目標】

発達障害児についての理解を深めるとともに、その教育・指導の具体的な手だてを考えるうえで重要となる基本的な態度を身につける。

### 【授業計画】

- 1 発達障害とは
  - (1) 定義と概念
  - (2) 発達障害をめぐる近年の問題
- 2 障害とその改善
  - (1) 福祉は障害者？ - 障害者の受け入れの歴史
  - (2) 障害の重層的構造 - I C I D H から I C F へ
- 3 発達と障害者
  - (1) 発達についての考え方 - ピアジェとヴィゴツキーを中心に
  - (2) 障害者における発達 - ×より○
  - (3) 発達援助の基本的パラダイム - 子どもを変えるからこちらも変わるへ

### 【評価方法】

期末試験の成績による

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する

## 児童英語教育法 I

宇佐美友加

### 【授業の概要】

児童英語教育で使われている様々な教材・教具を取り上げ、児童英語教育を効果的に行うための指導法について学びます。英語のリズムやイントネーションの習得を目的とした歌やチャンツ、文字学習に有効なフォニックス、想像力や読解能力を養う絵本、学習活動を豊かにするゲームやアクティビティなどを紹介し、子どもに英語を教える際に役立つテクニックを体験的に習得します。

### 【授業の目標】

児童英語教育における様々な指導法や基本的なスキルを習得する。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション：児童英語教育 I
- 2 公立小学校や民間の教育機関における英語教育例
- 3 児童英語指導例 (1)
- 4 児童英語指導例 (2)
- 5 児童英語指導例 (3)
- 6 公立小学校のクラス運営における英語
- 7 他教科と英語との連携
- 8 低学年を対象とした英語教育例
- 9 高学年を対象とした英語教育例
- 10 国際理解教育の一環としての英語教育とは (1)
- 11 国際理解教育の一環としての英語教育とは (2)
- 12 模擬授業 (低学年対象)
- 13 模擬授業 (高学年対象)
- 14 ディスカッション
- 15 まとめ

### 【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

### 【テキスト】

未定

## 児童英語

宇佐美友加

### 【授業の概要】

児童英語教育の今に至る経緯を振り返りながら、公立小学校をはじめとする現代の動きについて学び、今後の日本における児童英語教育の新たな方向性を探る。諸外国で行われている児童英語教育や、早期英語教育の意義についてリサーチやプレゼンテーション活動を通じて考察し、「楽しい」だけではなく着実に運用能力につながる効果的な英語教育を追及する。

### 【授業の目標】

児童英語教育の経緯、教材、授業内容、意義、現状等からその課題と可能性を考察する。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション：児童英語教育とは
- 2 児童英語教育の経緯
- 3 児童英語教育の現状
- 4 教材研究 (1)
- 5 教材研究 (2)
- 6 効果的なゲーム例 (1)
- 7 効果的なゲーム例 (2)
- 8 公立小学校の英語教育 (1)
- 9 公立小学校の英語教育 (2)
- 10 指導案作成
- 11 教材作成
- 12 模擬授業
- 13 模擬授業
- 14 模擬授業
- 15 模擬授業の反省とまとめ

### 【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

### 【テキスト】

未定

## 児童英語教育法 II

宇佐美友加

### 【授業の概要】

児童英語教育における重要かつ配慮すべきポイントをまとめ、大人とは異なる子どもの心理について考慮しながらカリキュラムやレッスンの組み立て方について学びます。小学校や民間の児童英語教室等、実際に行われている児童英語教育の実践例を参考にしながら、子どもの年齢や習得度に合わせたカリキュラムデザイン、及び授業運営計画を作成し模擬授業を行います。

### 【授業の目標】

子どもの年齢や英語の習得度に合わせた教案を作成し、授業運営する。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション：児童英語教育 II
- 2 公立小学校や民間の児童英語教育の実情と課題
- 3 英語教育実践例 (公立小学校)
- 4 英語教育実践例 (民間の児童英語教育)
- 5 他国の外国語教育 (1)
- 6 他国の外国語教育 (2)
- 7 児童英語教育の5 W1Hとは (1)
- 8 児童英語教育の5 W1Hとは (2)
- 9 年間カリキュラム作成 (1)
- 10 年間カリキュラム作成 (2)
- 11 指導案作成 (1)
- 12 指導案作成 (2)
- 13 模擬授業 (1)
- 14 模擬授業 (2)
- 15 模擬授業の反省とまとめ

### 【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

### 【テキスト】

未定

## 下記の科目は今年度開講しません。

## 介護実践演習

## 【授業の概要】

障害者の教育に携わる者にとって、障害者を、障害をもつ特別な存在として見るのではなく、一人の人間として認識し、たまたま支援を必要としている存在であると考えるのが基本である。そのためには、知識として理解するだけでなく、実際に福祉施設で、あるいは特別支援学校において日常生活や学校生活を共にして、実践を通して、正しい障害者観を形成する。併せて個人の尊厳の上に立った介護のあり方について考える。

## 専門演習 I b

## 【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

- 富安 玲子：専門演習Iaに引き続き、人間関係における働きかける側の影響のあり方を考え、マイクロカウンセリングの「積極技法」を中心に学んでいく。
- 小塩 允護：専門演習 I a に引き続き、知的障害等発達障害のある人の生涯学習支援について支援方策の在り方を探求する。
- 二宮 昭：各自が最も関心のあるテーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、卒業研究のテーマと研究方法についての見直しをつける。
- 佐藤 成哉：「教育実習」時の研究授業(実習生)や現場教師の研究授業時のビデオや資料等をもとに、小学校理科の授業を構築する上での教材の工夫や改善について演習する。
- 松田 秀子：健康教育や体育科教育に関する基礎的な研究能力を基に、各自が選んだテーマについて調査・研究したものを発表・討議する。
- 渡邊かよ子：教育問題および教育学に関する内外の基本文献を講読しつつ、研究方法論の基礎的理解、ならびに生涯発達支援と教育への問題関心の深化を図る。
- 小出 隆司：地域探訪をして地域マップ(自然、人物、歴史・伝統、産業など)づくりをする。子どもの目線を視野に入れて、地域の諸条件を生かした生活科学習の単元計画案をグループで創る。同時に具体的な素材をもとにして授業案作りをして集団批評する。
- 伊藤 昭道：障害児の支援体制は就学前、学齢期、成人期とそれぞれ異なる行政が担当している。学齢期と中心としその前後の連携のあり方を検討し、一貫した支援体制を探る。
- 石黒 昭吉：専門演習Iaの成果を基に、算数の教科書について、学生それぞれが、各学年から一つずつ単元を取り出し、教科内容的(算数・数学的)観点から分析することで、算数・数学の教材の理解を深める。
- 大久保義男：デザイン表現の基礎としてデザイン用具の使い方や材料の性質を理解するとともに、さまざまな表現技法を学ぶ。また、遠近法などの基礎知識を習得し、それらを表現に応用できるようにする。
- 浅田まり子：声楽や器楽のアンサンブル・指揮法・編曲・即興演奏などで、生きいきと楽しめる音楽の表現力と、コミュニケーション能力をさらに高めることをめざす。
- 中嶋 真弓：現行『小学校学習指導要領』の分析をもとに、実際の教科書教材にその分析を当てはめ、付けたい力・ねらい等を明らかにした学習指導課程の在り方を学修する。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題について、教育的な視点から理解を深めることにより、教育の役割について考察していく。
- 楠元 町子：異文化交流における問題を受講者各自が選び、ディベートすることにより、問題解決やコミュニケーション能力の向上を目指す。

## 専門演習 I a

## 【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

- 富安 玲子：心を開き合う生徒-教師関係を築くために、聴くことの意味を考え、マイクロカウンセリングの「かかわり技法」を中心に基本的なスキルを学んでいく。
- 小塩 允護：来るべき生涯学習社会において、知的障害等発達障害のある人の生涯学習支援をめぐる現状について知り、さまざまな課題について考察する。
- 二宮 昭：論文講読を中心に発達障害児の教育に関する研究の基礎的知識を得るとともに、ボランティア活動を行い、彼らの援助のあり方について体験を通して学ぶ。
- 佐藤 成哉：「学校教育体験」の経験や学校現場教師による研究授業のビデオ等をもとに、小学校理科の指導技能や子どもの学びの姿や教師の指導のあり方などを討議する。
- 松田 秀子：健康教育や体育科教育に関する研究領域を概観することを目的とし、文献紹介や調査方法など研究に必要な基礎的能力を習得する。
- 渡邊かよ子：教育に関連する基礎文献を広く講読・議論することによって各自の教育体験を相対化し、生涯学習社会における学校、教養のあり方を考える。
- 小出 隆司：低学年の子どもの身体的・機能的な発達、思考と言語認識の発達、情緒・心理的な発達に関する基礎的な理論学習をする。学んだことを、特色ある生活科教育実践校の理論と実践に重ねて学習する。生活科を学ぶ価値を発見する。
- 伊藤 昭道：障害者との共生社会の構築に向けて様々な思想が提唱されてきた。共生を目指すいろいろな教育実践を分析し、今後の障害児教育の役割と機能を検討する。
- 石黒 昭吉：数学は文化であるという視点から、将来、算数・数学教育の教材研究を自分で行えるようになるための基礎的知識と基本的技能を修得するため、教材についての講義・演習を行う。
- 大久保義男：絵画表現の基礎として素描を繰り返す、造形のための基礎的な観察力と表現力を習得する。また、石膏デッサンなどにより動勢や量感などの造形要素を理解する。
- 浅田まり子：小学校の教材を主に、楽しく表現する声楽・器楽の演奏の指導法と、鑑賞・音楽理論を活かした、編曲および即興演奏で分析力・判断力・集中力を養成していく。
- 中嶋 真弓：『小学校学習指導』の変遷について究明したり、国語科教育に携わった先人達の研究業績や指導法などについて考察したりする学修を行う。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題について、教育的な視点から理解を深める。
- 楠元 町子：異文化交流の観点から、国際博覧会の成果、歴史的意義について、関連する文献や論文を読み、ディスカッションを行い、多様な情報の中から事実を追求していく目を養う。



## 下記の科目は今年度開講しません。

## 専門演習 II a

## 【授業の概要】

専門演習Iabを基礎に、各担当者の専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心のさらなる深化と学問的探求力の強化、ならびにその教育実践場面での意義について学ぶ。

- 富安 玲子：専門演習Iabで習得したカウンセリングのスキルをロールプレイによって確認し、検討し合うことで実践への適用を目指す。
- 小塩 允護：知的障害等発達障害のある人の自立と社会参加の現状を把握し、キャリア教育という視点から指導内容・方法を考察する。
- 二宮 昭：個人発表と討論を通して、各自の研究テーマの確定と研究方法の具体化を行う。合わせて、発達障害児の教育実践における研究の意義について検討する。
- 佐藤 成哉：地球環境やエネルギー教育などに関する身近な諸問題の中からテーマを設定し、小心理学や総合的な学習の時間で活用できる教材の開発へと深化させる。
- 松田 秀子：専門演習Iabに引き続き、健康教育や体育科教育に関する研究成果を報告し、発表・討議する。
- 渡邊かよ子：生涯発達支援と教育に対する各自の問題関心の深化を図りつつ、自らの研究課題に関連する先行研究の成果を総括し、独自テーマによる探求を開始する。
- 小出 隆司：仮想教案をもって、地域の小学校の生活科授業を参観し、現場教師の実践に学ぶ。意見交流をし、実践的認識を深め、授業づくりと授業分析の基礎的な力量を培う。
- 伊藤 昭道：応答性の乏しい重度重複障害児に働きかけ、その心に揺さぶりをかけ、意識レベルを高め自発的な活動を促す教材・教具を開発する。
- 石黒 昭吉：教材づくりについて、基礎学力の向上・応用力の育成・数学的な考え方の育成などのさまざまな視点からの指導を通じて、児童を惹きつける算数教材の開発を演習という形で実践する。
- 大久保義男：彫塑表現の基礎として、人物を立体で表現し、立体的なものを見方や表現方法を習得する。ここでは、竹べらや塑像台づくりなどの制作から始め、彫塑の成り立ちを総合的に理解する。
- 浅田まり子：模擬授業の指導案・実践を計画し研究し、教材を的確にこなし、その時と場合に応じて効果的な授業の展開ができるように弾力性のある指導力をめざす。
- 中嶋 真弓：教科書教材の学習指導案を作成したりその指導案をもとに模擬授業を実施したりすることを通して、授業に生きる学習指導案が作成できるよう学修を行う。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題から各自がテーマを設定し、教育的な視点から更に理解を深め、教育の役割について考察していく。
- 楠元 町子：国際理解や異文化交流に関して、各自が興味をもつテーマを選び、研究、発表する。その過程で、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

## 卒業研究

## 【授業の概要】

各学生の興味関心に応じ、これまで学んできた教育関連諸分野の専門知識の確実な習得と個々人による体系化を目指し、指導教員による個別指導の下、卒業論文ないしは卒業制作に取り組む。卒業論文ないしは卒業制作のテーマ設定、研究・制作方法の検討、論文執筆ならびに制作各段階において、指導教員による個別継続的指導助言を受けながら、論文や作品の完成をめざす。

## スポーツ指導法

## 【授業の概要】

スポーツがすべての人にとってより健康で充実した生活をおくる上で必要不可欠な活動になっている現在、スポーツ指導者には、対象者の特徴（例：年齢、性別、体力、運動経験など）や個性に応じた指導が強く要請されている。この授業では、スポーツ指導に必要な視点・知識・方法などの基礎的要件の学習に加え、受講生間での指導シミュレーションを実施することによって、対象者の特徴や個性の違いに柔軟に対応できるスポーツ指導をするにはどのようにしたらよいかを考えていく。

## 専門演習 II b

## 【授業の概要】

専門演習IIaに引き続き、各担当者の専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心のさらなる深化と学問的探求力の強化、ならびにその教育実践場面での意義について学ぶ。

- 富安 玲子：教育相談事例の検討を通して相談のあり方について考えるとともに、人間関係へのカウンセリングの応用について検討する。
- 小塩 允護：専門演習II aに引き続き、知的障害等発達障害のある人の自立と社会参加をめざす上でキャリア教育という視点から支援方法を探求する。
- 二宮 昭：討論や個別指導を通して、各自が行った研究結果をどのようにまとめたらよいかを検討する。そして、2年間の専門演習での成果を卒業研究として完成させる。
- 佐藤 成哉：専門演習IIaで開発した新しい教材の実践授業への応用(模擬授業)や改善点についての考察などを通して、理科指導の総合的かつ総括的な理解を図る。
- 松田 秀子：卒業論文作成にむけて、専門演習IIaで興味・関心をもった健康教育や体育科教育に関する研究内容を発展させることを目的とする。
- 渡邊かよ子：専門演習の総仕上げとして、生涯発達支援と教育に関する各自の研究成果を発表し合い、その理論的意義と実践的課題克服の手立てを検討する。
- 小出 隆司：これまで学習した特色ある生活科実践校の実践例を基に、さらに、一步深めた生活科教育の内容と方法を創造的、実践的に考察する。総仕上げとして、グループで生活科学習指導案を作成して模擬授業をし、教師になるための実践力をつけるための仮想実習をする。
- 伊藤 昭道：障害児の日常生活の場としての学校環境について、実地調査を交えて検討し、安全で快適、そして自由に活動できる学校環境のあり方を提案する。
- 石黒 昭吉：専門演習IIaの成果を踏まえて、実際に、現行の教科書に、例えば、学生自身が考えたオリジナルな問題を取り入れたり、各単元の導入段階での児童の興味関心を持たせるトピックスなどの内容で構成されるサブテキスト作りに取り組む。
- 大久保義男：専門演習のまとめとして、多色刷り木版画を学ぶ。版の工程や材料・道具の理解を通じ、版による表現のおもしろさを習得する。また、銅版画などの多様な版方法についても理解を深める。
- 浅田まり子：豊かな感性とゆとりのある人間性、コミュニケーション能力を養成する音楽教育について、各自の教育研究発表をすることを目標とする。
- 中嶋 真弓：授業をビデオでみながら、現場における国語科教育の在り方を理解する。さらに、系統的指導に向けて、年間指導計画や教材開発についても学修する。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題から各自がテーマを設定し、教育的な視点から更に理解を深め、現在求められている教育について考える。
- 楠元 町子：国際理解や異文化交流に関して、各自が興味をもつテーマを選び、研究・発表し卒業論文を作成する。その過程で、研究方法や他者に伝える手法を学んでいく。

## 総合表現

## 【授業の概要】

感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにすることは、人間性を育む上で大切なことである。この授業はオペレッタやミュージカルを通して、学生の総合的な表現力を養うことを目的とする。身体による表現と音楽による表現を軸として（1）オペレッタ・ミュージカルとは何か（2）目的に合ったテーマ選び（3）企画・構成（4）動きづくり等の内容を演習形態で学習し、作品発表を行う。

## 児童福祉論

## 【授業の概要】

「児童福祉論では、子育て支援や、児童虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）・養育者や子ども自身の心身の障害など、さまざまな子どもや家庭の課題への援助を行っている。教育現場では、このような子どもや家庭のニーズに出会うことも多い。このため、現在の子どもや家庭をとりまく課題や、それに対する福祉施策、法律、援助手法などを学び、教育と福祉が支援を共に行うためにはどのような連携手段があるのかについて、事例も交えて学ぶ。

## 下記の科目は今年度開講しません。

## ジェンダーと教育

## 【授業の概要】

ジェンダーの概念について正確に理解し、教育・生育過程で形成される固定的ジェンダー：性別役割分業とはどのようなものかを検討する。また、その社会的影響について考える。さらに「隠れたカリキュラム」として指摘される学校生活のなかの定型的性別役割分担についても事例的に考察する。講義、学生間のグループ討議、視聴覚教材による講座である。

## キャリア発達論

## 【授業の概要】

働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。具体的には、職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、キャリアの生涯発達に関する主題を取り上げて、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活にかかわる身近な問題について考える。

## 教育文化史

## 【授業の概要】

日本を含む東洋ならびに西洋における各時代の教育思想ならびに教育文化史を学ぶ。具体的な子どもたちの生活と社会背景の変遷に着目しつつ、各国・各文化圏における学校や大学等の教育諸制度の確立過程とその思想的背景について比較教育史的に明らかにしていく。これらを通じ、人間形成としての教養の問題の歴史性と国際性、今日の教育文化の特徴に関する知見を養うことをめざす。

## 生涯発達支援論

## 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。このような状況下において、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。本講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

## リーダーシップ論

## 【授業の概要】

リーダーシップ論という科目では組織における人間行動の理解を深めることが目的となる。私たちが組織で働くとき、私たちはどのような場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。マネジメントする側にたつとすれば、どのようにしたら働く側から望む行動を引き出せるのだろうか。講義及びケースディスカッションを行いながらこれらについて理解を深めていく。

## 生涯学習実践論

## 【授業の概要】

生涯学習社会の到来と言われて久しいが、その意味するところはどのようなのだろうか。さらに、人間の一生にとって「学び」はどのような意味があるのだろうか。学習権は基本的人権の一つであるという国際社会の認識に立脚しつつ、人間が人間らしく生きていくための「学び」のあり方について、社会教育、生涯学習に関する実践記録を読みながら考えていく。

## 比較教育論

## 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

## 国際理解教育論

## 【授業の概要】

現代社会において国際理解による異文化や異なる価値への寛容精神の養成は、地球的規模での共生と平和の実現に必要な不可欠のものとなっている。本講義では、日本の近代化の過程における「先進」諸国の文明導入、国際的経済格差の現状と問題、現代日本の国際化の現状と問題、いわゆる帰国子女・海外日本人教育の現状、留学・留学生の支援等から、開発教育と連動した行動的な国際理解教育を学んでいく。

下記の科目は今年度開講しません。

## 社会科教育法 II

### 【授業の概要】

本授業では、社会科教育法Iにおいて学習した事項を踏まえ、小学校の教科書を用いて、児童の発達段階に合わせた効果的な学習方法、インターネットや視覚教材、ゲームを活用した授業方法、現代社会を反映した教材開発を考察し、受講者による学習指導案の作成と模擬授業を行い、具体的実践的な指導法を研究する。

## 図画工作科教育法 II

### 【授業の概要】

図画工作科教育法Iで習得した図画工作の基本的な指導法を積み上げ、より確かな指導力の習得をめざす。図画工作科教育法IIでは、児童画の発達段階や児童画教育の歴史についての理解を深めるとともに、美術作家の生き方や美術教育との関わりを学び、図画工作教育の理念や指導法を理解する。

## カウンセリング

### 【授業の概要】

「教育相談」での学習を更に進めて、カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実践についても学び、教師として児童や保護者との人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

## 教職実践演習

### 【授業の概要】

教職課程の最終段階として、教職課程履修者に、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けさせることを目的とする。演習や事例研究、グループ討論を取り入れ、最新の教育に関する動向等を踏まえつつ、教職の意義や教員の役割等を再認識させ、教員の具体的な職務内容や学校現場の実態等について理解を深めさせ、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の基礎を定着させる。

## 音楽科教育法 II

### 【授業の概要】

音楽科教育法Iをふまえて、小学校1学年～6学年までの教材の中から唱歌、唱歌の伴奏と弾き語り、特に変声期における発声について、発声のしくみとその指導法を学ぶ。また合唱や器楽合奏の指導法と指揮法についても学ぶ。

## 家庭科教育法 II

### 【授業の概要】

「家庭科教育法I」で学んだ内容をもとに、より実践的な家庭科の授業展開について考える。特に実践的・体験的な活動のための教材及び授業計画について、安全面の配慮を踏まえ、検討する。さらに現代社会における家庭生活に関わる問題点を取り上げ、家庭科教育としての視点で考察する。また、「食育」についても小学校家庭科における取り組みを検討する。

## 教育実習 (小)

### 【授業の概要】

小学校において4週間、経験豊かな教員より、学習指導、生徒指導、学級経営等の指導を受けながら、学校生活の実際を理解するとともに、児童との触れ合いの中で、児童に対する理解を深め、新しい時代の教師としての基盤を築く。教育実習の事前指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義等を修得させ、事後指導として教育実習の体験発表を行うことにより、各々の教育実習を更に実りあるものにする。

## 知的障害者の心理・生理・病理

### 【授業の概要】

知的障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方、知的障害の病因となる出生前・周産期・出生後の危険因子、ダウン症候群など知的障害を伴う代表的な症候群、知的障害に伴いやすい二次的障害について学習する。また、知的障害を伴うことが多い自閉症のある子どもについても併せて学習する。

## 下記の科目は今年度開講しません。

## 肢体不自由者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

脳性まひ者を中心に、肢体不自由者について定義や概念、原因や症状、また、認知や行動などの心理的特徴について概説し、その障害特性の理解を深める。そして、肢体不自由者の教育において、どのようなことが問題となるのか、そのような児童生徒とどのようにかかわることが必要となるのか、ということについての基礎的知識を得る。

## 言語障害者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

言語障害者の人格の成長と言語の発達の実態を理解するために、健常な言語の段階やことばの基盤として、発声、構音、聴覚の機構とその仕組み、そして中枢神経系の機構について学ぶ。そして言語障害の発生の仕組みを、言語発達障害、聴覚障害、構音障害、高次脳機能障害について学び、原疾患と言語障害の関わりについて理解を深める。

## 重複障害者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

これからの特別支援教育においては、ひとりひとりのニーズに応じて支援することが強く求められている。このようななかにあって重複障害者の指導を担う教員には、個々の児童生徒の実態をいかに理解するか、そのためには心身両面からの十分な実態把握が必要とされている。生理学、運動生理学、身体の運動訓練、摂食、医療的ケア等についての知識と技能について述べる。

## 障害者検査基礎

## 【授業の概要】

障害のある子どもの教育を充実させる上で必要とされるアセスメントについて、検査法、行動観察法、面接法を中心に概観し、各論として代表的な発達検査法、知能検査法、視覚検査法等の実施法と留意事項、各検査の解釈の仕方、諸検査を活用する場合の実際と総合的な解釈の仕方、検査結果から指導課題を見いだす方法等について学習する。

## 病弱者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

何らかの病気のために長期・短期の入院治療を受けながら教育を受けている病弱者の指導に関わるために、先ず、病弱者の概念と共通の心理について考えた上で、病弱の種類別に生理・病理の面から理解を深めていく。程度に応じた指導の必要性や、障害の種類・程度の多様化が進んでいる現状についても言及し、考えていきたい。

## 情緒障害者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

「情緒障害」の語はもともと行政用語である。一応、自閉症を含む心の問題を抱える子どもを示すものと捉えた上で、その子どもたちの体験世界をどのように理解するか、という点を中心に考えを深める。高機能を含めた自閉症のほか、場面緘黙、不登校、ひきこもり、リストカット症候群、被虐待症候群等々、最近、注目されている心の病理について、多面にわたる理解の目をひらくことが、授業の狙いである。

## 軽度発達障害者の心理・生理・病理

## 【授業の概要】

近年、教育現場で大きな問題の1つになっているのが、落ち着いて教室にいたることができない、他者との関係がうまくとれない、という子どもたちの存在である。そうした子どもたちの多くを占める、高機能自閉症（アスペルガー症候群）、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）などの軽度発達障害について、定義や概念、症状、心理的・行動的特徴について概説し、その障害特性についての理解を深める。

## 知的障害者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

学習指導要領に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方について、特に領域・教科を合わせた指導と自立活動の指導を中心に学習する。指導法に関しては、個別的教育支援計画と個別の指導計画に基づき、計画－実行－評価－改善という系統的指導サイクルを、応用行動分析の視点や指導手続きも含め、具体例を通じて学習する。

## 下記の科目は今年度開講しません。

## 肢体不自由者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

肢体不自由者の教育においては、重度・重複化という流れの中で一人一人の発達に応じたきめ細かな指導が必要となる。その際、重要な問題となる「からだ」と「こころ」の結びつきという面から、肢体不自由者の教育をどのように組み立てて、どのような指導を行うことが重要かということについて、できるだけ多くの実践例に基づきながら、具体的な指導法について検討する。

## 言語障害者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

言語障害者の基本的特性を考慮した教育の原理にもとづき、言語障害者に言語障害の改善のみを指導するのではなく、全人的な成長を目指す形の教育のあり方について学ぶ。内外の各種の指導法を用いた言語障害者の特徴に対応した教育課程の編成の方法を学ぶ。コミュニケーション、自立活動、情報機器の活用などの指導について具体的な方法を学ぶ。

## 重複障害者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

「今後の特別支援教育のありかたについて（最終報告）」が平成15年3月に出され、障害のある子どもたち一人一人のニーズに応じて、乳幼児から学校卒業までの一貫した支援を行うために「個別の教育支援計画」を策定することが提言された。とりわけ重複障害者の教育にあたっては、一人一人の指導目標や指導内容・方法の明確化を図るため「個別の指導計画」の充実が望まれる。個々のニーズの把握、目標作り、指導内容、評価、連携する機関と組織・システムの整備、留意事項等について講義する。

## 教育実習（特）

## 【授業の概要】

教育実習は、大学での学習の成果を実践し、検証する機会である。障害者の実態に触れ、学校生活全般の中で彼らが必要とする支援について考え、実践する。教科指導、特別活動、自立活動の指導、学級経営に参加して、特別支援学校の教員の業務について体験し、理解を深める。さらに、教員と保護者、関係機関との連携の様子を観察し、連携の重要性について理解を深めるとともに、教職の専門職としての自覚と誇りを高める。

## 病弱者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

病弱者の教科指導においては、小学校、中学校、高等学校に準じて行われるものであるが、とくに一人一人の病気の種類や程度の応じた教育内容の精選や指導上の工夫や配慮が必要である。教育課程の実施にあたり、教科・領域の特質および指導上の課題、指導計画の作成、指導上の留意事項、教材・教具の創意・工夫、評価の工夫と改善、医療機関等との連携について講義をする。

## 情緒障害者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

自閉症者は、主としてコミュニケーションの発達にかかわる障害を持ち、認知機能のアンバランスが大きいことが特徴となる。そのため、教育環境の整備と、特異な才能の芽を見つけて開花させるための方策が不可欠となる。また、その他の情緒障害者は、本来的に認知発達に障害のないものを指しており、むしろ心の傷を癒し、葛藤を整理するという援助が中心となる。この授業では、対応のための基盤となる視点を提供する。

## 軽度発達障害者の教育課程及び指導法

## 【授業の概要】

学習障害（LD）や注意欠陥／多動性障害（ADHD）など軽度発達障害者の教育について、その授業の組み立て方や実際の指導・援助の方法について検討する。とくに彼らの問題の基本となると思われる他者とのコミュニケーション（やりとり）をどのように展開させていくかということを中心に、学級集団での指導と個別指導の両面から、より望ましい指導実践のあり方を探っていく。

## ジェンダーと社会

中島美幸

## 【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

## 【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

## 【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第3回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第4回 『青鞥』の女性たちの主張
- 第5回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第6回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第7回 ことばとジェンダー
- 第8回 男性作家のジェンダー
- 第9回 幼い頃に出会った表現——「シンデレラ」
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 映画のなかのジェンダー
- 第12回 <家族像>を描きなおす

## 【評価方法】

学期末レポートを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

## 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

竹信三恵子

## 【授業の概要】

少子化時代に不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

## 【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

## 【授業計画】

- 新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
  2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
  3. 格差社会と少子化のはざままで～不安定雇用と福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
  4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

## 【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

## 【テキスト】

『家事の値段』とは何か(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

## 【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門(田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)  
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

## 女性学・男性学

中島美幸

## 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

## 【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

## 【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンパワメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 近代的性別分業——現在と2055年の日本
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 「働くしかない男」と「働けない女」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 テスト

## 【評価方法】

学期末テストを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

## 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

中村 彰

## 【授業の概要】

1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の間や家庭、地域で、私たち男女がフェアで対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

## 【授業の目標】

男女共同参画社会とは何か? 新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

## 【授業計画】

- 1 ジェンダーと男女共同参画社会
- 2 日常に潜むジェンダー・バイアス
- 3 女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
- 4 ドメスティック・バイオレンス
- 5 セクシャル・ハラスメント
- 6 恋愛・性をめぐるジェンダー
- 7 多様な性を考える一性自認・性指向・インターセックス
- 8 メディア・リテラシー
- 9 教育とジェンダー
- 10 仕事社会がもたらしたもの
- 11 高齢社会とジェンダー
- 12 育児支援とジェンダー
- 13 福祉・医療現場とジェンダー
- 14 ジェンダーからみた障害者問題

## 【評価方法】

レポートにより評価します

## 【テキスト】

中村彰『男性の「生き方」再考 —メンズリブからの提唱』世界思想社 2005  
日本DV防止・情報センター編『デートDVってなに? Q&A』解放出版社 2007

## 比較文化

文 嬉眞

## 【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

## 【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

## 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

## 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

## 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

## 【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

## 【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことが目標とする。

## 【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と雑技
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

## 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）  
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）  
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）

## 比較文化

星山幸子

## 【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、種々の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

## 【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

## 【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

## 【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%  
期末試験 30%  
期末レポート 50%

## 【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 国際交流

松本一子

## 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

## 【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

## 【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
  - ・自治体と国際交流
  - ・地域の国際化と多文化共生
  - ・地球市民教育
  - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
  - ・先進的組織運営のさまざまな事例
  - ・交流から共生へ

以上を骨組みに、受講生が「自分に何ができるか」を考える材料を提供する。

## 【評価方法】

レポート及び平常点（リアクションカードの提出&出席率）で評価する

## 【テキスト】

オリジナル教材

## 【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）  
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

## 手話・点字

堀 正和

## 【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

## 【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

## 【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

## 【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

## 【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

## 生涯学習

山川法子

## 【授業の概要】

身近に繰り返し広げられている“生涯学習”について、まず知り、生涯学習の成り立ちや目的・内容等について、整理する。また、受講者自身の生涯学習について、キャリア・シートを活用しながら、考えていく。

## 【授業の目標】

受講者が、自らの生涯を見据えて、ライフプランを立てる方法を獲得することを目標とする。そのために、人の生涯や学習の内容等に関する基礎知識の解説と、受講者による考察を中心に行う。なお、キャリアシート等を用いた、自己分析や職業選択、ライフプラン作成の作業を行ってもらう。

## 【授業計画】

- 1 生涯とは
- 2 学習と教育
- 3 生涯学習とは
- 4 身近な「学習のできる場」
- 5 家庭・学校・社会
- 6 マイライフ(キャリアシート全4回)
- 7 学ぶ場の保障
- 8 まとめ

## 【評価方法】

レポート2回により評価する。  
(レポート課題のおおまかな説明や提出期日については第1回目の授業にて伝える)

## 【テキスト】

テキストは特に指定しない。プリントを配布することがある。

## 【参考文献・資料】

生涯学習と自己実現(放送大学教育振興会、堀薫夫・三輪建二)  
生涯学習論-現代社会と生涯学習(放送大学教育振興会、岩永雅也)等授業中に随時紹介する。

## 日本の歴史

岩口和正

## 【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

## 【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解する
- (2) 家族や親族をめぐるあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶ
- (3) 家族や親族の歴史と社会制度・政治制度等の歴史との関係を考える
- (4) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟する

## 【授業計画】

- (1) 婚姻と家族・親族の諸形態1 <妻問婚の特徴>
- (2) 婚姻と家族・親族の諸形態2 <婿取婚と嫁取婚の成立>
- (3) 前近代日本社会における離婚法と密婚法の成立と展開
- (4) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (5) 氏・名字・姓の歴史
- (6) 戸と戸籍
- (7) イエとヤケ
- (8) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (9) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (10) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>

## 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。ただし、受講者数の特に少ない場合は平常点による評価となります

## 【テキスト】

使用しません

## 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 東洋の歴史

大森信徳

## 【授業の概要】

東アジア地域に大きな影響を及ぼした中国の歴史・文化について学び、その文化的特質を考察するとともに、自国の文化との比較を通じて、相互間における共通性・異質性が存在するかという点についても議論したい。

## 【授業の目標】

個々の事象を手がかりに、中国の文化的風土、中国人のメンタリティーについて考察し、ステレオタイプに依存した見方から抜け出して、自分なりの見識を培うことを目標とする。

## 【授業計画】

(1) 先史 (2) 殷周 (3) 春秋戦国 (4) 秦漢 (5) 魏晋南北朝 (6) 隋唐 (7) 宋 (8) 遼西夏金元 (9) 明 (10) 清  
毎回一つないしは二つのテーマについて、基本的に上に示したように時代順に講義を進める予定である。文献史料のみならず、遺跡・美術品・出土文物などのモノも数多く扱うため、ビデオやOHCなどの視覚教材を積極的に活用する。

## 【評価方法】

期末試験およびレポートによる課題提出にもとづき総合的に評価する。

## 【テキスト】

毎回プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

教場で提示する。



## 西洋の歴史

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

### 【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

### 【授業計画】

1. はじめに－国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
3. イギリスの国民国家－「イングランド」から「イギリス」へ
4. アメリカ合衆国の国民国家－誰が「アメリカ人」か？
5. フランスの国民国家－国民共同体創出の理念型
6. ドイツの国民国家－統一国家形成までの道のり
7. おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

### 【評価方法】

成績評価は、学期末テストをもとに行う。

### 【テキスト】

とくに定めない。

### 【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム（谷川稔 山川出版社）
- 国民国家を問う（歴史学研究会編 青木書店）
- ヨーロッパ市民の誕生（宮島喬 岩波書店）
- その他講義中に指示する。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

### 【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
  2. 日本芸能演劇史概説
  3. 芸能の発生について
  4. 神楽について
  5. 伎楽・舞楽・散楽について
  6. 田楽について
  7. 猿楽について
  8. 能について
  9. 狂言について
  10. 歌舞伎について
  11. 文楽について
- また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。  
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

### 【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

### 【参考文献・資料】

- 日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
- 演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）

## 日本の文学

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 書道

森美恵子

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

### 【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。  
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

## 書道

小川晃治

## 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

## 【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。  
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

## 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

## 【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

## 【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

## 音楽

松下伸也

## 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

## 【授業の目標】

音楽の情操教育を通して創造性・自己表現力を養い感性を磨く。アンサンブルを体験し他人とのコミュニケーションを図る。

## 【授業計画】

- 第1回 自分の身体の楽器を知る
- 第2回 腹式呼吸と身体の使い方（えっ？赤ちゃんは「ラ」の音で誕生してくるの？）
- 第3回 ヴォーカルトレーニング1（腹式呼吸と身体の使い方2 男の子は腹式呼吸はすぐマスターできるのに女の子はなぜ難しい？）
- 第4回 ヴォーカルトレーニング2（腹式呼吸と身体の使い方3（柔軟）「アイーン体操」）
- 第5回 ヴォーカルトレーニング3（自分の声域を知る）
- 第6回 ヴォーカルトレーニング4（自分の楽器を磨く）
- 第7回 鑑賞1（声楽曲・声楽作品の鑑賞）
- 第8回 鑑賞2（声楽作品以外を中心とした鑑賞）
- 第9回 創作（音の出る仕組みを知る）
- 第10回 演奏法1（音楽の3要素）
- 第11回 演奏法2（コード・和音付け）
- 第12回 実践1（発表会に向けてグループ分け）
- 第13回 実践2
- 第14回 実践3
- 第15回 実技演奏発表会

## 【評価方法】

実技発表を5割、平常点（出席状況・授業態度・達成度・授業内でのレポート）を5割として評価する。

## 【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じ授業内で紹介する。

## 大衆文化

鈴木 互

## 【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

## 【授業の目標】

消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

## 【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
  - 1 : 1 団塊の世代（1965～1975）
  - 1 : 2 新人類（1980年代）
  - 1 : 3 団塊ジュニア（1990年代）
  - 1 : 4 新人類ジュニア（2005～2015）
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
  - 2 : 1 現状認識
  - 2 : 2 『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
  - 2 : 3 人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

## 【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

## 【テキスト】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 映像文化

小倉 史

## 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。

本講義では、特に「ホームドラマ」というジャンルに着目し、日本映画のなかで「家族」がどのように表象されてきたかを考える。比較対照として欧米の映画、アジアの映画、TVドラマなどにも幅広く視野を広げるつもりである。また、関連する映像作品は授業内に鑑賞する機会を設けたい。

## 【授業の目標】

「ホームドラマ」というサブジャンルを通して、映像表現の特質を理解し、映像を意識的に「読む」習慣を身につける。

## 【授業計画】

1. イントロダクション～映画のジャンルを考える～
2. ハリウッド映画に見る「ファミリー・メロドラマ」
3. 「ホームドラマ」の源泉
4. 「ホームドラマ」の誕生
5. 1950年代～黄金期の日本映画に見る家族の変容・解体
6. 「ホームドラマ」の様式と映像表現
7. 1980年代～「ネオ・ホームドラマ」の出現
8. TVドラマに見る「ホームドラマ」の変遷
9. 欧米・アジアの映画における家族の表象
10. 終わりに～近年の映画・TVドラマを批評する～

## 【評価方法】

学期末にレポートを課す。出席状況と毎回授業後に提出してもらったミニレポートの内容も加味する。

## 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

『映画ジャンル論』（加藤幹郎著、平凡社）  
『（家族）イメージの誕生 日本映画にみる〈ホームドラマ〉の形成』（坂本佳鶴恵著、新曜社）

## 数学の世界

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

### 【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

### 【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 生き物の世界

江崎敏之

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業の目標】

地球上の生物の持つ共通性と特殊性を学ぶ。生命の単位である細胞という概念を知り、細胞の外部から内部への情報伝達のしくみ、細胞の発生や分化のしくみ、生殖と遺伝のしくみなどをとりあげ、生命の基本を理解する。

### 【授業計画】

- |          |  |
|----------|--|
| 第1回      | 1. 生物の多様性と一様性<br>1) 生物の系統<br>2) 生体を構成する物質                      |
| 第2回～4回   | 2. 生物体のつくりとはたらき<br>1) 細胞の構造<br>2) 酵素<br>3) 光合成と呼吸              |
| 第5回～10回  | 3. 生命の連続性<br>1) 生殖と減数分裂<br>2) 発生と分化                            |
| 第11回～13回 | 3) 遺伝<br>(1) 遺伝の法則<br>(2) 遺伝子と染色体<br>(3) 遺伝情報の複製<br>(4) 遺伝子の発現 |

### 【評価方法】

出席状況とテストによる。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

### 【授業計画】

- |         |   |
|---------|---|
| 第1回     | 1. 生物界の分類<br>2. 生物の進化   |
| 第2～6回   | 3. 植物と人の関わり<br>1) 農耕の始まり<br>2) 世界の農耕文化<br>3) 日本農耕文化の起源と発展   |
| 第7～8回   | 4. 人が手を加えた植物―作物<br>1) 作物とは？<br>2) 世界の作物の起源  |
| 第9回     | 5. 作物改良の原理と方法<br>1) 作物改良の原理<br>(1) メンデルの法則―遺伝学<br>(2) 遺伝の物質的基礎  |
| 第10回    | 2) 作物の改良方法  |
| 第11～12回 | 6. バイオテクノロジー<br>1) バイオテクノロジーとは？<br>2) 作物の改良とバイオテクノロジー<br>(1) 細胞・組織培養<br>(2) 遺伝子操作<br>(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？<br>(1) 倫理<br>(2) 安全性 |

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。  
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

## 生命の科学

林 博司

### 【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

### 【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

### 【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子进行操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】

指定しない

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

## 生命の科学

小野佳成

### 【授業の概要】

ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説する。

### 【授業の目標】

ヒトの生命維持機構(消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、運動器、感覚器、神経系等)が効率的に上手く働き、生命維持が行われているかを理解する。

### 【授業計画】

1. ヒトはなぜ食べるのか? (1) 消化管: 消化と吸収
2. ヒトはなぜ食べるのか? (2) 消化器: 肝臓と膵臓
3. ヒトは冬にも活動できるのか? (1) 循環器: 心臓
4. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 循環器: 血管
5. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 血液系: 赤血球、白血球、凝固系
4. ヒトは陸上で生活できるのか? (1) 腎臓と排尿
5. ヒトは陸上で生活できるのか? (2) 肺呼吸
6. ヒトは陸上で生活できるのか? (3) 運動器: 骨、筋肉系
7. ヒトは細菌、ウイルス等の微生物からどのようにして身体を守っているのか? 免疫(感染防御)
8. ヒトはどのように殖えるのか? 生殖、受精、妊娠
9. ヒトはどのようにして外界との変化をとらえるのか? 視覚 聴覚、嗅覚等
10. ヒトはどのように行動するのか? (1) 神経中枢からの調節
11. ヒトはどのように行動するのか? (2) 本能行動
12. ヒトはどのように行動するのか? (3) 高次機能

### 【評価方法】

講義ごと的小テストによって評価する。学期末試験は施行しない。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

なし

## 食品の科学

杉浦信彦

### 【授業の概要】

ヒトの生命の源泉は食物に在り、幸福の源泉は健康に在るといわれています。生涯を通して健やかで安らかな暮らしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を、食品と栄養の視点から学びます。

### 【授業の目標】

1. 食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2. 食品の表示を知り、正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3. 過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4. 食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 食と健康を考える “食の5条件とは”
3. 食品の表示
4. 健康補助食品・サプリメント
5. 現代人に不足する成分元素 1)カルシウム
6. “ ” 2)鉄
7. 過剰栄養とメタボリックシンドローム
8. 食生活の安全 1)食品添加物
9. “ ” 2)天然着色料と合成着色料
10. “ ” 3)合成保存料の功罪
11. “ ” 4)合成甘味料の恐怖
12. “ ” 5)残留農薬とポストハーベスト
13. 飲料水の化学的安全性を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

### 【評価方法】

出席回数、授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

### 【テキスト】

使用せず、適時プリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

適時紹介します。

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

### 【参考文献・資料】

講義の際 紹介

## 生活の化学

永井慎一

### 【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

### 【授業の目標】

身じかな物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき構造式を眺めながら理解を深める。

### 【授業計画】

- 生命の科学1-2(有機化合物の構造式、受容体、酵素のX線構造など)  
身じかな現象の科学1-3(青いバラ、紅葉、タンパク質と変性、ジスルフィド結合、ふとん干し、にぎり寿司、味、ヘモグロビンエーワンシー値とパンのキツネ色、エビカニの色、瞬間接着剤など)  
ホルモンとフェロモン(チャパネゴキブリの性フェロモンなど)  
薬と作用の化学(モルフィネから最強の鎮痛パッチの開発とペニシリンから最新の抗生物質への誘導)  
毒の化学(体内で究極の発がん物質に変化するタバコの成分などの毒)  
ヒット商品の化学1-3(最近発売された数々の生活関連商品の化学的なしくみ)などを、最先端の研究成果を紹介しながらイラストで解説、有機化学の楽しさを学ぶ。

### 【評価方法】

期末に提示する問題の回答を、1問につき原稿用紙400字で期限内に提出させ、解答と出席した授業の実時間数で成績評価する。

### 【テキスト】

毎回配布する教材(A3両面)で講義。

### 【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

## 環境の保護

田部一史

### 【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

### 【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

### 【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：細胞を狂わせる物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

### 【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

### 【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることである。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

### 【授業計画】

- 第1回 憲法総論
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 国民主権
- 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
- 第6回 基本的人権
- 第7回 教育を受ける権利
- 第8回 国会
- 第9回 内閣
- 第10回 裁判所
- 第11回 地方自治
- 第12回 国法の諸形式
- 第13回 国家と国家統治の基本
- 第14回 日本国憲法と法の支配
- 第15回 政府の手續に関わる諸権利

### 【評価方法】

主として中間試験及び期末試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義I (改訂新版) (初谷良彦著 成文堂)

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 入門政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。ノートを取る技術と能力を身につける。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは？
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 「都市国家」のデモクラシー
  - b 市民社会と大衆社会
  - c 立法国家と行政国家
  - d 大衆社会の病理
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
  - b 選挙、官僚、議会、政治家
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 政党政治と市民参加

### 【評価方法】

試験(教科書と自筆ノートの持込可)と出席状況による。

### 【テキスト】

市民政治再考(高島通敏 岩波ブックレット)

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 入門政治学

李 相睦

### 【授業の概要】

本講義は、政治学を勉強する人々に、政治学に関する基本概念の意味を的確に把握させると共に、更にその諸概念間の関係を正確に理解させる点に、その目的がある。本講義の関心は、現代の政治が現実如何なる問題に直面しているのか、又それを理解する上で、今日の政治学が、何を示唆しているのか、との点を理解する所にある。その際、その分析に当たっては、概ね現代の政治や社会に見られる様々な事象を説明の素材として用いることとする。

### 【授業の目標】

1. 国内・国際政治
  - a 国家とは？
  - b 政治とは？
  - c 国民国家、ナショナリズム、国際社会、国際貢献
2. 政治の機構
3. 地方自治
4. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
  - d 議会制デモクラシーと市民
5. 社会福祉
  - a 高齢者社会
  - b 児童福祉
6. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 内政と外交
  - b 国際社会
  - c 日本政治

### 【授業計画】

政治に関心を持たせ、その基礎的な理解を追究する。  
試験（持ち込み全て可）と出席状況による。

### 【評価方法】

試験70% レポート20% 出席10%

### 【テキスト】

阿部 齊『政治学入門』（岩波書店）

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。  
授業は、ディベート方式、教科書は必ず読んで来ること。

## 入門経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

### 【授業計画】

1. 経済学とその体系  
経済学とは、マクロの経済とミクロの経済、市場のメカニズム
2. マクロ経済のとらえ方  
GDP統計のしくみ、三面等価、有効需要と乗数のメカニズム
3. 日本の経済と景気  
日本経済の成長、日本の景気変動、バブルとバブル崩壊後の経済
4. 個人のくらしと経済  
個人の消費行動の理論、消費と貯蓄、貯蓄と金融資産の選択
5. 企業の経済活動  
企業の生産活動の理論、消費者余剰と生産者余剰、独占の弊害
6. 政府の経済活動  
財政のしくみと役割、日本の財政事情と財政改革、地方の財政
7. 金融のしくみと経済  
貨幣と金融機関の役割、中央銀行と金融政策、金融ビッグバン
8. 日本と世界の経済  
経済のグローバル化、国際収支のしくみ、外国為替相場の変動と影響

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（資料配布）。

### 【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学（辻正次・八田英二著、有斐閣）
- (2) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著、日本実業出版社）

## 入門法律学

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

### 【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 入門法律学

高橋秀治

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようなものになっているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

### 【授業の目標】

それぞれの法律や、その基礎にある考え方を学び、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみることに。

### 【授業計画】

授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考えもらい、その解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のものを考えています。

1. 法律を学ぶということ
2. 憲法はなぜ一番大切な法律なのか
3. 民法と毎日の生活
4. 会社法と起業のための基礎知識
5. 民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
6. 罪と罰と刑法
7. 犯人逮捕で一件落着とはならない刑事訴訟法
8. バイト・OL・サラリーマンと労働法
9. 国際法から見た日本
10. 意外と身近な行政法
11. いろいろな国や地域の法律
12. 法律の歴史をひもといてみる
13. 常識を使って少年犯罪の問題を考え直す

### 【評価方法】

学期末の筆記試験を基本にして評価します。

### 【テキスト】

授業でプリントを配布します。その他に、小型の『六法』を購入してください。（詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法（有斐閣）、コンパクト六法（岩波書店）、新六法（三省堂）などがあり、価格は1700円～1800円程度です。）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介したり、配布します。

## 入門社会学

高木眞理子

### 【授業の概要】

社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総合的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

### 【授業の目標】

身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようにしましょう。

### 【授業計画】

世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学』という本をテキストとして使うが、授業ではテキストの内容だけでなく、いろいろな事象に興味をもってもらいたいと思っている。

1. はじめに—社会学について
2. 社会とは—私たちと彼ら
3. 行為とは—4類型
4. 集団とは—コミュニティ
5. 家族とは—少子化や介護の問題へ
6. 逸脱とは—少年非行
7. コミュニケーションとは—携帯電話？メール？
8. 社会心理とは—群集心理など
9. ジェンダーとは—あらためて見直すジェンダー

以上のようなテーマについて、授業時間1～2回を使ってクラスで学んでいきたい。授業回数や進行速度の関係で、割愛する部分が出てくる可能性があることをあらかじめ了解しておいていただきたい。

### 【評価方法】

毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。自分なりのノートをつくり、毎回のトピックに対する自分の考えをまとめるなどの形で、授業に積極的に参加することが求められる。  
評価＝出席(25%) pop quiz(25%) レポートまたは試験(50%)

### 【テキスト】

奥井智之著『社会学』東京大学出版会

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する

## 入門社会学

堀田裕子

### 【授業の概要】

社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総合的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

### 【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもう破っていただけたらと思います。

### 【授業計画】

- 1) イントロダクション—社会学とは
- 2) 社会化と自我—人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為—地位と役割の社会的意義
- 4) 行為—行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織—集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体—人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配—支配する側/される側
- 8) 見えない権力—権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー—女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族—変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理—自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育—学校は何を教える所か
- 13) 情報化—ハイパースペースの中の間
- 14) 医療—病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ—社会調査と社会をみる眼

### 【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。(受講者数によっては若干の変更もあり得ますので、詳細については講義にて説明します。)

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

## 入門心理学

青柳眞紀子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 入門心理学

加藤智宏

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- c. 学習と記憶
- d. 忘却と変容
- e. 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- f. 防衛機制
- g. フロイトとユングの精神構造モデル
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人と集団
- k. 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

## 入門心理学

梅林 薫

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

心理学とは人の行動や心的過程を科学的に研究する学問分野である。人はどのように外界を認知し、どのように記憶し、あるいはいかにして学習するのか。またその心、行動を司る脳機能とはどのようなものか。本講義では心理学全般の基本的知識の習得を目指す。

### 【授業計画】

1. 心理学の定義、心理学の研究領域
2. 知覚：錯視
3. 知覚と注意：知覚の情報処理モデル、選択的注意
4. 記憶：記憶の貯蔵庫モデル、長期記憶の種類
5. 記憶：作業記憶
6. 学習：レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ
7. 情動：情動モデル
8. パーソナリティ：類型論、特性論、パーソナリティ検査
9. 脳と行動：脳機能の概略

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定

### 【評価方法】

試験の成績、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 入門心理学

加藤公子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業の目標】

心理学の各領域における基本的な考え方を理解する。

### 【授業計画】

1. 心理学とは
2. 知覚
3. 注意の働き
4. 記憶
5. 問題解決
6. 学習
7. 感情
8. パーソナリティ
9. 脳の機能

### 【評価方法】

試験の成績から評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業時に適宜資料を配布する。

## 入門文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化とは何か?
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 宗教と信仰
5. 独特の民族文化
6. 民族と国家

### 【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】

指定せず。

### 【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 国際情勢

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

近年、日本とアジアの国際関係は、経済関係だけにとどまらず、地域の安全保障体制を構築するうえでも重要性を増している。講義では、アジアにおける国際関係について、具体的な事象に触れながら説明し、アジアと日本の関係について考察することにした。

### 【授業の目標】

アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

### 【授業計画】

1. アジアを学ぶために
2. アジアの国家形成－植民地からの独立
3. アジアの革命－中国の革命と改革
4. アジアの冷戦－朝鮮半島の分断国家
5. アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
6. アジアにおける日本の戦争－戦前のアジア政策
7. アジアに対する日本の外交－戦後の国際協力

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受検しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業において、関連文献を紹介する。



## 現代のマナー

近藤乃美子

## 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

## 【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

## 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. 「 」 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

## 【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

## 【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

## 文章表現法

青木 健

## 【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

## 【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

## 【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)  
 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)  
 第3回～12回  
 例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、修辞法など具体的に講義。  
 この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

## 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

## 【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

## 現代のマナー

嘉悦祐子

## 【授業の概要】

コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。身近な実例をとりあげて講義する。

## 【授業の目標】

自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

## 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
  - (1) 挨拶
  - (2) 表情
  - (3) 態度
  - (4) 身だしなみ
  - (5) 言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問と来客対応
7. 報告、連絡、相談
8. 文書
9. 冠婚葬祭
10. テーブルマナー

## 【評価方法】

出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

必要により授業中に指示する。

## 話し方作法

三久保角男

## 【授業の概要】

音声表現。  
 (1)日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 (2)読む・話すことの実践と応用 (3)ことばの用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

## 【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的にことばで伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

## 【授業計画】

1. 話しことば概論  
ことばの機能 話しことばの特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)  
音声器官 呼吸法 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)  
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話しことばの表現技法  
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む  
読みの基本 朗読
6. 話しをする  
パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話しことばの用法  
ことば事情 ことばの変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

## 【評価方法】

筆記試験を行う。随時の提出物も評価に加味する。

## 【テキスト】

毎回、レジュメ・資料等を配布する。

## キャリアの形成

樋口貴子

### 【授業の概要】

キャリア形成とは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。そのためには、自分を理解し、職業と社会経済動向の理解も深め、さらにキャリアの選択を可能にする心構えが必要になってきます。人が働くことを意識するのは、学生生活から職業生活へ移行する「節目」のときです。これから迎える職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、働くことを中心としたキャリア形成をぜひ描いておきましょう。それに必要な考え方や方策を実践的に学習します。

### 【授業の目標】

社会変革の激しい時代を自らの手で切り拓きながら、たくましく且つたおやかに生き抜くために、まずは今、学生生活を通じて何を感じ、どう行動すればよいのかを、自らのキャリアデザイン（人生設計）を描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において、プロ人材として求められる能力・スキル・心構えなど、ケーススタディを交えて学びます。

### 【授業計画】

- ・ 21世紀に求められる人材像
- ・ 社会経済の動向とキャリア形成の必要性
- ・ キャリア形成のプロセスと各ステップのあり方
- ・ キャリア発達理論と自己理解関連ワーク
- ・ キャリア選択理論と自己理解関連ワーク
- ・ 職業興味と職業適性診断
- ・ 仕事理解と職業研究ワーク
- ・ 意思決定理論と職業選択関連ワーク
- ・ 社会的学習理論とキャリアモデル関連ワーク
- ・ プロフェッショナル意識とキャリアマネジメント
- ・ ビジネス基礎能力診断とキャリアコンピテンシー
- ・ キャリアゴールと課題設定（なりたい自分のデザイン）

### 【評価方法】

筆記試験と出席状況

### 【テキスト】

キャリアの形成（樋口貴子著）

### 【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

## 現代社会と倫理

大野波矢登

### 【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

### 【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解すること。  
現在の社会問題について倫理的な視点から思考する能力を身につけること。

### 【授業計画】

授業では以下のようなトピックスを取り上げていく。必要に応じてビデオ等の資料を使用する。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理における絶対的価値と道徳的相対主義
3. 帰結主義と非帰結主義
4. 功利主義
5. 功利主義批判
6. 義務論とカント倫理学
7. 人格性の原理
8. 自由と道徳
9. 正義論
10. 倫理理論の応用（道徳的意思決定の方法）
  11. 生命倫理学の問題（生命操作と人間改造はどこまで許されるか）
  12. 環境倫理学の問題（水俣病事件における問題とはなにか）
  13. 情報倫理学の問題（知や情報はだれのものか）
  14. ビジネス倫理学の問題（「倫理は儲かる」という考え方は倫理的か）
15. まとめ

### 【評価方法】

授業中に実施する小レポート（5回実施予定）50%、期末レポート50%

### 【テキスト】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

### 【参考文献・資料】

社会哲学を学ぶ人のために（加茂直樹編 世界思想社）

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。  
必要に応じて参考資料を配付する。

## ライフサイクルと健康

土田 洋

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

### 【授業計画】

1. 現代の健康問題
2. 身体の構造と機能
3. 心と健康
4. 栄養と健康
5. 運動と健康
6. 運動による傷害
7. 生活習慣と健康
8. 学生生活と健康①
9. 学生生活と健康②
10. 社会と健康
11. 科学技術と健康①
12. 科学技術と健康②
13. 健康に関する社会の仕組み

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

## メンタルヘルス

太田龍朗

## 【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

## 【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

## 【授業計画】

概論：第1回	心の病とその歴史
第2回	いろいろな病と症状のとりえ方
第3回	ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：第4回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第5回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第6回	うつ病と現代社会を考える
第7回	ストレスとその反応：神経症と心身症
第8回	やまらない、止まらない：薬物依存
第9回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第10回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
第11回	老人と高齢者の病：器質性障害(認知症など)
総論：第12回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第13回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第14回	期末試験

## 【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

## 【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）  
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

## 健康とくすり

永井慎一

## 【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

## 【授業の目標】

病気は、酵素の働きで過剰に生成する生理活性物質が受容体に結合することで発症し、くすりの大部分は、酵素と受容体の働きを阻害することで効くことを学ぶ。

## 【授業計画】

第1回	全講義の要旨〔病気とくすりのまとめ〕を配布したのち、最新の医薬品事情や薬事行政などを解説
第2～3回	くすりの基礎知識として、生体内運命、新しいくすりのかたち、受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせなど2回にわたって解説
第4回	くすりの正しい知識を、イラスト入りの質問形式で学ぶ
第5回	要処方だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、女性のくすりと検査器具、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説
第6回	頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
第7回	花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
第8回	生活習慣病の早期発見に不可欠な血液検査値のみかたと心疾患
第9～12回	生活習慣病である高血圧、がん、糖尿病と、近年若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因と治療薬

## 【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で答えさせ、解答と出席した実授業時間数で成績評価する。

## 【テキスト】

教材（A3両面）を毎回配布して講義する。

## 【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する

## メンタルヘルス

長谷川純子

## 【授業の概要】

この授業では心理学および医学的な観点から多角的に心の成長や健康について講義する。現代ストレス社会の中で、自分らしく健やかな生活を過ごすために必要なセルフコントロールの実際や心の健康に関わる事例なども紹介する予定である。

## 【授業の目標】

心の健康管理に必要な大学生教養レベルの知識習得を目指す。

## 【授業計画】

1. 心の構造
2. 心と脳の発達
3. ストレスと心の健康
4. 心の病

## 【評価方法】

単位認定試験の結果を重視するが、出席日数や授業マナーも評価に加味される場合がある。

## 【テキスト】

なし。プリント配布。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

## スポーツと文化

松田秀子

## 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

## 【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

## 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには教育が関係する
8. スポーツには政治が関係する
9. スポーツには科学が関係する
10. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11. スポーツには民族性が反映される
12. スポーツには商業主義がつきまとう
13. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
14. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

## 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## スポーツと文化

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. 導入、授業の全体について
2. スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
- 3～4. スポーツの魅力
- 5～6. スポーツとメディア
- 7～8. スポーツと商業主義
- 9～10. スポーツと政治・経済
- 11～12. スポーツと教育
- 13～14. スポーツと倫理
15. まとめ

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## 入門ボランティア

小島祥美

### 【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。

本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする予定です。

### 【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動に参加することの意義を考える
3. 基本的な用語とキーワードを学ぶ
- 4～8. 地域で活躍するボランティア活動から学ぶ
  - ・社会教育・まちづくりの推進を図る活動
  - ・情報化社会・経済発展を図る活動
  - ・保健・医療または福祉の増進を図る活動
  - ・環境保全・地域安全を図る活動
  - ・人権の擁護・平和を推進を図る活動
- 9～11. 企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外活動を予定しています
  - ※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外活動を予定しています
12. 行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13. ボランティア団体の抱える課題とは？
14. 地域にあるボランティア・市民活動推進機関とは？
15. 総括

### 【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語辞典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

## 入門ボランティア

橋本吉広

### 【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けてみます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいか、ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。

### 【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているかなどを考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

### 【授業計画】

- 1-2 生死と関わるボランティア- ボランティアの責任 / 国境なき医師団の活動
- 3-4 住まうこととボランティア- 宅老所の実践 / ホームレスの自立支援
- 5-6 自然災害と向き合うボランティア- 災害救援活動 / 災害復興・まちづくり
- 7 ボランティアの現代（中間まとめ）
- 8-9 自然環境と向き合うボランティア- 霞ヶ浦での自然再生 / 風力発電への取り組み
- 10 ボランティアと企業との協働
- 11 ボランティアとNPO・市民事業～ボランティアとして働く
- 12-13 ボランティア活動のマネジメント 資金調達の世界/ボランティア組織のガバナンス
- 14 さあボランティアの世界へ
- 15 試験

### 【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます(25%程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します(75%程度)。

### 【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

### 【参考文献・資料】

『平成16年版国民生活白書』(内閣府)  
『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編 世界思想社)

## 性差と健康管理

後藤節子

### 【授業の概要】

私たちは、女性と男性は精神・身体機能が異なる特徴を持つことを漠然と認識しています。特に、女性には月経周期があり、思春期から年齢を重ねた老年期までに特徴的な変化が見られます。これらを性差の観点から学びます。

### 【授業の目標】

女性と男性のライフ・ステージにおける特徴を理解し、特に、女性における正しい健康管理方法を理解するとともに、生涯の健康管理方法を身につける。

### 【授業計画】

- |    |      |                          |
|----|------|--------------------------|
| 概論 | 第1回  | 性の決定はどのようになされるか          |
|    | 第2回  | 女性ホルモンと男性ホルモン            |
|    | 第3回  | 女性に多い病気、男性に多い病気          |
|    | 第4回  | 中高年における女性の健康管理と男性の健康管理   |
| 各論 | 第5回  | 女性の月経周期と女性ホルモンの役割        |
|    | 第6回  | 月経の異常（月経痛、無排卵月経、無月経など）   |
|    | 第7回  | 20～30代の女性の疾患（子宮内膜症、子宮筋腫） |
|    | 第8回  | 30代以降の女性の疾患（子宮がん、乳がん）    |
|    | 第9回  | 性感染症（エイズ感染症と免疫機能の低下）     |
|    | 第10回 | 性感染症（クラミジア感染、トリコモナス感染）   |
|    | 第11回 | 周産期（妊娠の成立、不妊症、避妊）        |
|    | 第12回 | 周産期（妊娠による母体の変化と分娩）       |
|    | 第13回 | 周産期（分娩後の母体の回復と育児）        |
|    | 第14回 | 試験                       |

### 【評価方法】

期末試験とレポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

新版 テキスト母性看護Ⅰ（後藤節子他編、名古屋大学出版会）  
ジェンダーを科学する（松本伊瑛子・金井篤子編、ナカニシヤ出版）  
性差医学入門（監修 貴邑富久子、翻訳編集代表 荒木葉子、株式会社じほう）

## 健康と医学

小野佳成

### 【授業の概要】

いろいろ健康問題が注目を浴び、「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」「エイズウイルス」「診療ガイドライン」「リハビリテーション」「後期高齢者」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道されています。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説します。

### 【授業の目標】

マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を理解する。

### 【授業計画】

1. メタボリックシンドローム
2. エイズウイルス
3. 診療ガイドライン
4. 脳梗塞とリハビリテーション
5. 後期高齢者と認知症
6. ノロウイルス：下痢集団発生
7. 女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構

※適時追加する予定です。

### 【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。期末テストは行いません。

### 【テキスト】

ありません。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配付します。

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

## 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

## 【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

山田久美子 SUTHONS, Philip 他

## 【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

## 【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

## 【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

## 【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

小沢 茂 BROWNING, Jeremy S. 他

## 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

## 【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

## 【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

小沢 茂 DYCUS, David C. 他

## 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

## 【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

## 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

SUTHONS, Philip 他

## 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

## 【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

## 【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

## 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

## 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

## 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

## 【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

## 【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

## 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

## 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

小沢 茂 MCGOLDRICK, Gemma 他

## 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

## 【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

## 【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

## 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

## 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II E

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II F

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。



## Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。ネイティブスピーカーの教員が担当し、本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

本科目の履修資格は以下の通り：

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目（4単位）以上を履修済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な意欲があること。
- 3) 全日程に出席できること。

なお、本科目はCAP制の対象にならない。

## 【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

## 【授業計画】

前期 2008年9月上旬に実施予定。

後期 2009年2月上旬に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会（前期：6月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：6月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。定員を超えた場合は抽選となる。

## 【評価方法】

全日程の活動が総合的に評価される。

## 【テキスト】

授業担当者により異なる。資料のコピーは配布される。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業担当者から指示がある。

## 上級英語セミナー 2008 A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008A」は受講できない。）

## 【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

## 【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

## Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

## 【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

## 【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

## 【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

## 【Assessment】

Assessment will be based on

- 50% Homework and Chat preparation
- 50% Participation

## 【Textbooks】

No text

## 【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

## 上級英語セミナー 2008 B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

## 【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

## 上級英語セミナー 2008 C

横山綾子 DAVIES, Alun

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008C」は受講できない。）

## 【授業の目標】

横山  
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies  
Aims:  
To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

## 【授業計画】

横山  
第1回 通訳一般概論 Sight translation  
第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）  
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies  
Course Plan:  
This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

横山：The Student Times その他  
Davies: No text is required.

## 上級英語セミナー 2008 D

横山綾子 DAVIES, Alun

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

横山  
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies  
Aims:  
To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

## 【授業計画】

横山  
第1回 通訳一般概論 Sight translation  
第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）  
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies  
Course Plan:  
This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

横山：The Student Times その他  
Davies: No text is required.

## 上級英語セミナー 2008 E

難波豊子 CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008E」は受講できない。）

## 【授業の目標】

Bev Curran  
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子  
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

## 【授業計画】

Bev Curran  
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子  
・スラッシュ・リーディングによる情報処理  
・分かりやすい日本語の検討  
・短い時間で、英文のメッセージを把握  
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

## 【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

## 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## 上級英語セミナー 2008 F

難波豊子 CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

Bev Curran  
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子  
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

## 【授業計画】

Bev Curran  
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子  
・スラッシュ・リーディングによる情報処理  
・分かりやすい日本語の検討  
・短い時間で、英文のメッセージを把握  
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

## 【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

## 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村優一

### 【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

### 【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）  
尺八  
琴  
からくり  
華道  
歌舞伎  
能・狂言

などの分野のゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

なお、狂言、歌舞伎などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

### 【評価方法】

レポート 80% （各授業のレポート等）  
出席 20%

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

講義時に配布

## Multiculturalism in Aichi

ブイ チトルン

### 【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

### 【授業の目標】

- \* 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- \* 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- \* 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- \* 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- \* 在住外国人支援事業を理解すること
- \* 授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

### 【授業計画】

1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Consultation and Advisory Services for Foreign Residents
4. Helping Foreign Residents through Voluntary Activities
5. JICA's Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee's Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

プリント資料など配布。

## Central Japan

福本明子 若山真幸 太田晶子 MCGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

### 【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

### 【授業計画】

ゲストスピーカーは、  
Hilton Nagoya  
中部電力株式会社  
ブラザー工業株式会社  
ファイザー株式会社  
Harman/Becker Automotive Systems - Japan  
アイ ティ クリエイト  
日経メディアマーケティング株式会社  
太陽化学株式会社  
生化学工業株式会社  
豊田通商株式会社

などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

### 【評価方法】

出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

## PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・ コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・ アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・ 他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

- 以下の項目を学習する。
- ・ Introduction to PowerPoint
  - ・ Creating a basic slide show
  - ・ Formatting
  - ・ Editing text
  - ・ Using images
  - ・ Adding animation
  - ・ Adding sounds
  - ・ Advanced PowerPoint

### 【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

### 【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## PowerPoint Presentations

ARNOLD, Brent C.

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・ Introduction to PowerPoint
- ・ Creating a basic slide show
- ・ Formatting
- ・ Editing text
- ・ Using images
- ・ Adding animation
- ・ Adding sounds
- ・ Advanced PowerPoint

### 【評価方法】

・ Participation, class work & Attendance 25%  
 ・ 4 Presentations make up the other 75%  
 (Presentation 1 - 10%; Presentation 2 - 15%; Presentation 3 - 20%; Presentation 4 - 30%)

### 【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Booklet Publishing

HARRIS, Richard S.

### 【Course description】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills, which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

### 【Course objectives】

- By the end of the course students will be able to:
- ・ Produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
  - ・ Understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
  - ・ Utilize English language resources
  - ・ Write short, simple English sentences to present research findings

### 【Course schedule】

- ・ Participation and attendance
- ・ Completion of assigned projects
- ・ Presentation of assigned projects

### 【Assessment】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.

## Presentations on the Web

ARNOLD, Brent C.

### 【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストーリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるように、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

### 【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

### 【Course schedule】

Introduction  
 ASMAP linked company research  
 Making a web poster using Microsoft Word  
 Making an radio style commercial using GarageBand  
 Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie  
 Posting to a web page using iWeb.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.

1. Data collection (10%)
2. Poster (20%)
3. Radio CM (25%)
4. TV CM (30%)
5. Attendance (15%)

### 【Textbooks】

None

## 英語コミュニケーション基礎

太田直子 山田久美子 小沢 茂

### 【授業の概要】

英語力の向上の為にはまず基礎が大切である。基礎をもう一度確認することで大学レベルの英語の授業をさらに効果的に活用できると考える。授業は、そのためのステップとして、もう一度、英語基礎を一からやり直します。

### 【授業の目標】

文法を復習すること、そして基本的な例文を暗記することで英語の基礎を再確認する。次回のTOEICスコア350を目指す。

### 【授業計画】

授業計画  
 1) 授業オリエンテーション  
 2) 品詞  
 3) 5 文型  
 4) 時制 <現在形・過去形>  
 5) 進行形・未来形  
 6) 完了形  
 7) 助動詞  
 8) 受動態  
 9) 不定詞  
 10) 動名詞  
 11) 関係詞  
 12) 比較級・最上級  
 13) 仮定法  
 14) まとめ  
 15) まとめ  
 但し、授業の進行状況により内容を変更する場合がある。

この授業は、英語サポートプログラムである「基礎からのやり直し英語」と同時に履修することができる。同時に履修することにより、さらに英語の基礎力が付くと考える。「基礎からのやり直し英語」についての詳細は、授業中に説明をする。また、「基礎からのやり直し英語」のパンフレット（9号棟に設置）が用意されている。

### 【評価方法】

出席と小テスト

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

講義の際に説明する

## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 湯海鵬  
吳凌非

## 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・文法面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

## 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
15. まとめ

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

## 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

## 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

## 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって学習する。

- |      |             |
|------|-------------|
| 第一課  | 発音 (1)      |
| 第二課  | 発音 (2)      |
| 第三課  | 発音 (3)      |
| 第四課  | 発音 (4)      |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”   |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文  |
| 第八課  | 動詞述語文       |
| 第九課  | “有”・年月日     |
| 第十課  | 場所・時間・数量    |
| 第十一課 | 前置詞(介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞        |

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 李昱 曹志偉 周素芬 嚴萍 陳惠貞 中塚亮

## 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・音声面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

## 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

## 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に、日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 曹志偉 中塚亮

## 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語会話 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

## 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」  
結果や程度表現「V+“得”」
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬 張勤 嚴萍

## 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

## 【授業計画】

本文の状況設定や表現は、旅行記・家族のこと・趣味など、学習者が興味を持てるような身近な題材を取り上げた。

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个夢。進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春假の計画。未完了の表現、許諾の表現

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK基礎コース A \*聴解中心

大森信徳 河井昭乃 王麗英 杜英起

## 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力・聴解力を身につける。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

## 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
  2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
  3. “小时”や“钟头”の使い方など
  4. “方位词表”について
  5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
  6. “该”や“应该”の使い方など
  7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
  8. 比較表現について
  9. “是字句”について
  10. “愿意”や“想”の使い方など
  11. “趋向补语”について
  12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
- 授業の予習としてホームページを利用することができる。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK基礎A 改訂版 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 2

曹志偉 周素芬 杜英起 楊衛平 李昱

## 【授業の概要】

身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は旅先での中国語による買い物や換金など、基本的な会話が可能になる。なおHSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の定着をはかるためには〈中国語読解2〉と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ会話能力のさらなる向上を目指す。日常の様々なシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

## 【授業計画】

本文の状況設定や表現は、学習者が中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- |      |             |
|------|-------------|
| 第一課  | 部屋を借りる      |
| 第二課  | 換金する        |
| 第三課  | 道を尋ねる       |
| 第四課  | バスに乗る       |
| 第五課  | 電話をかける      |
| 第六課  | タクシーに乗る     |
| 第七課  | 自由市場で買い物をする |
| 第八課  | デパートで買い物をする |
| 第九課  | レストランで注文する  |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する   |
| 第十一課 | 診察を受ける      |
| 第十二課 | スピーチの仕方     |

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK基礎コース B \*読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 嚴萍 中塚亮

## 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。設定する目標、講義内容とカリキュラム上の位置づけは〈HSK基礎コースA〉に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を持つ学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉とは異なる教材を使用し、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものとする。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

## 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
  2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
  3. “了”；形容詞述語文など
  4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
  5. 数量補語；“头”と“面”など
  6. “有字句”；構造助詞“地”など
  7. 量詞の重ね型；“把”構文など
  8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
  9. “都”と“一共”；程度補語など
  10. “被”構文；“在・正・正在”など
  11. 方向補語；“多么”など
  12. 複合方向補語；“是～还是～”など
- 授業の予習としてホームページを利用することができる。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK基礎B 改訂版 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 3

河井昭乃 李 昱

## 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

## 【授業計画】

1. 应该感谢谁。
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事。
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会。
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语。
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节。
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 骑自行车的张师傅。
12. 数量補語。可能補語。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK初等コースA \*聴解中心

大森信徳 河井昭乃 巖 萍

## 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的な能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

## 【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 3

大森信徳 曹 志偉 周 素芬

## 【授業の概要】

第二外国語として一年ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

## 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
  2. 私達の中国語の先生
  3. 朝食を食べる
  4. タクシーに乗る
  5. 宿舍のおばさん
  6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK初等コースB \*読解中心

河井昭乃 曹 志偉 巖 萍 中塚 亮

## 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的な能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

## 【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 4

河井昭乃

## 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

## 【授業計画】

1. 自行车上的宝宝座儿。
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披。
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩。
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场。
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事。
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語読解3・4(中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK中等上級コースA \*聴解中心

河井昭乃 巖 萍

## 【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した学生を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

## 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等上級コースA(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 4

曹 志偉 大森信徳

## 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

## 【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
  2. 旅行に行く
  3. 体を鍛える
  4. ついてない一日
  5. ダイエット
  6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語会話3・4(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK中等上級コースB \*読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

## 【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>に準ずる。HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等上級コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

## 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

## 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等上級コースB(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。



## 中国語作文 1

曹志偉 嚴萍

## 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## 【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

## 【授業計画】

学習のベースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

## 【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK中等高級コース 1 A \*聴解中心

大森信徳

## 【授業の概要】

中国語を二年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の6級または7級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

## 【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK6級合格に要求される2500～3500前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしていく。

## 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

## 【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK中等高級コース 1 B \*読解中心

曹志偉

## 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

## 【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

## 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門 1

大森信徳 曹志偉

## 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

## 【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を生身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

## 【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語作文2

曹志偉 嚴萍

## 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

## 【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

## 【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

## 【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

## 【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## HSK中等高級コース2A \*聴解中心

大森信徳

## 【授業の概要】

中国語を一年半以上学習した履修者を対象とするHSK受験対策の授業である。履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

## 【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK7級合格に要求される3500～4000前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしてゆく。

## 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK中等高級コース2B \*読解中心

曹志偉

## 【授業の概要】

設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

## 【授業の目標】

HSK（中国語水平考）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

## 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門2

大森信徳 曹志偉

## 【授業の概要】

一年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

## 【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

## 【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

## 【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

## 【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 韓国・朝鮮語入門

金賢珍 キム ソヨン

### 【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に習得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。

### 【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけて、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

### 【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

第1講～第4講	ハングルの読み書き1、まとめ 1) 基本母音字 (10個)、挨拶1 2) 基本子音字1・2 (平音9個・激音5個)、挨拶2 3) 合成子音字 (激音5個)、名詞1
第5講～第8講	ハングルの読み書き2、まとめ 1) 合成母音字1・2 (11個)、名詞2 2) 終声子音字1・2 (7種)、名詞3
第9講～第10講	発音ルールとトレーニング、動詞1 外国語のハングル表記、まとめ
第11講～第12講	助詞1、上称形1、尊敬形1、まとめ
第13講～第14講	連結語尾1、助詞2、上称形2、尊敬形2、変則活用1
第15講	試験対策
第16講	中間試験
第17講～第18講	数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、敬語、変則活用2
第19講～第20講	未来時制・過去時制、変則活用3、慣用表現1、連結語尾3
第21講～第23講	数詞と助数詞2、連結語尾4、助詞3、変則活用4
第24講～第25講	用言の名詞形、現在時制2、不可能形、曖昧形、変則活用5、連結語尾5
第26講～第27講	助詞4、変則活用6、連結語尾6、回想の表現、慣用表現2
第28講～第29講	試験対策
第30講	単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解1

金賢珍 キム ソヨン 金元榮

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第1講	授業概要の説明、入門講座の復習
第2講	サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第3講	明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第4講	郵便局に行く。用言の連体形
第5講	喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第6講	韓国料理屋で。変則2、前置きの表現、逆接の表現、助数詞
第7講	道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第8講	総合復習および中間試験
第9講	地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第10講	タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第11講	約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12講	天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
第13講	電話をかける、紹介・案内の表現、曖昧さの表現
第14講	ショッピングをする、許諾・承認の表現
第15講	単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話1

金賢珍 金美淑 李芝賢

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第1講	授業概要の説明、こんにちは
第2講	韓国は初めてですか
第3講	ここが寮です
第4講	授業は3月2日からです
第5講	MTって何ですか
第6講	どこで売っていますか
第7講	韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第8講	スタンドランプを見せてください
第9講	一杯飲みましょう
第10講	大学生活はどうですか
第11講	よく聞けば勉強になります
第12講	誕生日パーティをしましょう
第13講	会話を楽しむ
第14講	試験対策
第15講	単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策1

キム ソヨン 金芝恵 白明学

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけて、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

### 【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおとして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第1講	授業ガイド、発音と表記
第2講	終結語尾 (叙述形・命令形)
第3講	数え方・否定形
第4講	各種助詞1
第5講	連体形
第6講	敬語の表現
第7講	変則用言
第8講	模擬試験
第9講	各種助詞2
第10講	挨拶・語句
第11講	活用表現1
第12講	活用表現2
第13講	読解
第14講	模擬試験
第15講	単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験などの各種テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

### 【テキスト】

ハングル能力検定試験4級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 2

金元榮 姜信和

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1講 会話文「初出勤」の読解および派生動詞（受動動詞・謙譲動詞）、引用形
- 第2講 会話文「順杯」の読解および並行動作と逆接の語尾、変則1、～以来
- 第3講 説明文「携帯電話時代」、「情報化時代」の読解
- 第4講 会話文「会食」の読解および補助動詞、引用文縮約形1
- 第5講 会話文「業務報告」の読解および推測や意向を問う文法、命令形
- 第6講 説明文「PCバン」、「コシアン」の読解
- 第7講 整理と発展：会話文「北韓山で」の読解および漢字音の理解、十分と禁止を示す文法、音変化1、大学入試センター試験から1
- 第8講 会話文「再会（1）」の読解および婉曲・感嘆・非難の語尾、進展の語尾
- 第9講 会話文「再会（2）」の読解および下称（疑問・命令・勧誘）、意思表明の語尾
- 第10講 説明文「韓国人が好きな動物“犬”」、「日韓の文化情報誌」の読解
- 第11講 会話文「日本の取材（1）」の読解および変則2、目的を示す活用形、義務の表現
- 第12講 会話文「日本の取材（2）」の読解および終結語尾、間接疑問形、説明文「日韓交流の増加」、「指紋捺捺撤廃訴訟」の読解
- 第13講 整理と発展：会話文「同僚紹介」の読解および漢字音の理解、指示詞の理解、文を受ける連体形、大学入試センター試験から2
- 第14講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話 2

キム ソヨン 金美淑 李芝賢

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1講 会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2講 週末には何をしましたか
- 第3講 今晚またお電話いたします
- 第4講 趣味は料理とか旅行です
- 第5講 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6講 韓国料理ができますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 何をしようと思っていますか
- 第9講 どこにいらっしゃいますか
- 第10講 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11講 さる水曜日からです
- 第12講 このバックいくらだった
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

### 【テキスト】

始めよう韓国語会話（曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策 2

キム ソヨン 金芝恵 白明学

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

### 【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 各種縮約形
- 第3講 受け身・使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞、する副詞
- 第5講 名詞作り、形容詞作り、数え方
- 第6講 各種助詞、不規則用言
- 第7講 終結語尾・接続助詞
- 第8講 模擬試験
- 第9講 語句・活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

### 【テキスト】

ハングル能力検定試験3級合格をめざして（李昌烈 白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 3

金賢珍 姜信和

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1講 会話文「日本語案内放送」の読解および変則1、感嘆形、
- 第2講 会話文「日韓間の親近感」の読解および引用形、引用文連体形、回想連体形
- 第3講 説明文「日韓相互好感度増加」、「東アジアの若者たちの文化共有」の読解
- 第4講 会話文「板門店」の読解および理由、比況、譲歩を示す文法
- 第5講 会話文「韓国映画」の読解および変則2、推量を示す文法
- 第6講 説明文「サッカー・ワールドカップ日韓共催」、「韓国人の日本語学習者」の読解
- 第7講 整理と発展：会話文「海底トンネルへの期待」及び漢字音の理解
- 第8講 会話文「PCバン」の読解および変則3、前置き、接続の語尾、連用形につづく動詞
- 第9講 会話文「東大門市場」の読解および引用形につづく動詞、形式名詞例示・列挙・多量・程度を示す動詞
- 第10講 説明文「電車の女性専用車両」、「姓に関する問題」の読解
- 第11講 会話文「コリアンタウン」の読解および省略形、疑問詞の不定用法
- 第12講 会話文「あかすり」の読解および動詞の名詞形、連体形、変則4
- 第13講 説明文「外国人労働者のための韓国語教室」、「水不足」の読解
- 第14講 整理と発展：会話文「祝杯」の読解および漢字音の理解、音変化
- 第15講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話3

金賢珍 キム ソヨン 李芝賢

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハンゲルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハンゲル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

- 第1講 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第2講 時間はいつがいいですか
- 第3講 自動引き落としのほうがいいと思います
- 第4講 曇りといっていました
- 第5講 春と思ったらレンギョと山つつじですね
- 第6講 本当に美味しいですね
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 民俗博物館に行ってきました
- 第9講 庭園文化について知りたいです
- 第10講 どちらが速いですか
- 第11講 使えますとも!
- 第12講 矢のように早いですね
- 第13講 下宿先を変えようかと思っています
- 第14講 会話を楽しむ
- 第15講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策3

金賢珍 キム ソヨン

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

### 【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 漢字音の比較
- 第3講 受け身、使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞・する副詞
- 第5講 各種副詞、各種助詞
- 第6講 名詞作り、形容詞作り、動詞作り、名詞節作り
- 第7講 語句
- 第8講 模擬試験
- 第9講 活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

### 【テキスト】

ハンゲル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

## 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

## 【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

## 【授業計画】

授業は現在(および未来)のことがらに関する表現練習を行います。学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

## 【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

## 【テキスト】

プリント配布。

## 初めての外国語3 (ロシア語)

水野晶子

## 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理などロシア文化もたくさん紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

## 【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話が出来るようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

## 【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めていきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他では中々学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かとずっと出会えること請け合いです！授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. 曜日の表現
10. いろいろな行為をロシア語にしてみよう
11. ～がほしい/～がしたい
12. 映画鑑賞
13. 気持ちをロシア語で伝えよう
14. 総復習
15. 試験

## 【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

## 【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

## 初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

## 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

## 【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

## 【授業計画】

- 1)挨拶-自己紹介-20までの数
- 2)名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3)職業についてたずねる -60までの数
- 4)何かを示す-持っているものについて話す-
- 5)好きなものを言う-100までの数-小テスト
- 6)年齢についてたずねる-疑問文と否定文の作り方
- 7)1000までの数-買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8)趣味について話す-小テスト
- 9)時間の使い方-時間割について話す
- 10)一週間の過ごし方
- 11)ある場所について説明する-小テスト
- 12)家族について話す
- 13)まとめ-映画観察
- 14)まとめ-映画観察
- 15)試験

## 【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

## 【テキスト】

プリント

## 初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

## 【授業の概要】

「初めての外国語4(スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

## 【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、学習ゲームや練習問題を通して、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

## 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

## 【評価方法】

レポート+授業への貢献度+出席(詳細は授業にて説明する)

## 【テキスト】

「未定」

## 初めての外国語5（イタリア語）

柴田有香

## 【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野において魅力で溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に創造性に富んだイタリア人には、興味と親しみが高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。簡単に実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

## 【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

## 【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、パルやレストランでの注文の仕方。「何語を話しますか?」「私はおなかですいています」「サッカーが好きです」などの表現方法。実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞（現在）などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

## 【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

## 【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら（改訂版） 遠藤礼子著（白水社）

## 初めての外国語6（ポルトガル語）

瀧藤千恵美

## 【授業の概要】

「初めての外国語6（ポルトガル語）」は、ポルトガル語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

## 【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。（詳細は授業にて説明します）

## 【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. あいさつ
- 第3回. 男性名詞と女性名詞
- 第4回. 数字、複数
- 第5回. SER動詞
- 第6回. 「これは何ですか?」
- 第7回. 形容詞、所有詞、指示詞
- 第8回. TER動詞
- 第9回. IR動詞
- 第10回. 規則動詞（ar動詞）
- 第11回. 規則動詞（er動詞、ir動詞）
- 第12回. 時間表現
- 第13回. ESTAR動詞
- 第14回. 今までの復習
- 第15回. 定期試験

の予定。また授業中にブラジルの文化や社会に関するDVDなども鑑賞予定。

## 【評価方法】

定期試験と平常点（出席や宿題）の評価により総合判断します。

## 【テキスト】

プリントを配布

## 【参考文献・資料】

各自でブラジル・ポルトガル語の参考書を見ると良い。  
おススメは「ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語」香川正子著 白水社

## コンピュータ入門 I (Word・PowerPoint)

西荒井学 小林久恵 外部講師

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトウェアに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習を通して学習していく。このため、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。

### 【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法について、基礎知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

### 【授業計画】

1. Webメールの基本操作
  2. メールマナーとセキュリティ
  3. Windows：フォルダとファイルの管理
  4. Windows：記憶媒体、圧縮ファイルの利用
  5. Word：文字の入力と編集
  6. Word：文字の装飾と配置
  7. Word：印刷、図形の作成
  8. Word：表の作成
  9. Word：その他の機能
  10. PowerPoint：プレゼンテーションの概要、基本操作
  11. PowerPoint：図表の活用
  12. PowerPoint：プレゼンテーションと資料作成
  13. プレゼンテーション課題制作
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。

なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

### 【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

コンピュータ入門I 2008年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編共立出版)

## ネットワークリテラシ入門

三和義秀 小林久恵 原伸之 森友紀

### 【授業の概要】

ネットワークに関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、ホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

### 【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

### 【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
  2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
  3. LANの種類と仕組み
  4. サーバの種類と仕組み
  5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
  6. ネットワークの実践、基本コマンド
  7. セキュリティと情報倫理
  8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
  9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
  10. フレームとテーブルの作成
  11. XMLの仕組み
  12. XML文書とスタイルシートの作成
  13. ホームページ課題制作
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」を併せて履修することが望ましい。後期の「ユーザ部門管理者コース」「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

### 【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 第2版(共立出版)

## コンピュータ入門 II (Excelと統計処理)

西荒井学 三和義秀 小林久恵 外部講師

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ソフトウェアの技能の習得にとどまらず、加工したデータから特性や規則性を導き出す技法を学習していく。コンピュータ入門Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータのしくみおよびデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理
  2. ハードウェアのしくみとソフトウェアの役割
  3. 情報の表現(2進数、16進数)
  4. 情報ツールとマナー
  5. Excel：データ入力と編集
  6. Excel：数式と関数
  7. Excel：相対参照と絶対参照
  8. Excel：グラフの作成1
  9. Excel：グラフの作成2、印刷
  10. Excel統計：度数分布とヒストグラム
  11. Excel統計：代表値と散布度
  12. Excel統計：基準値と偏差値
  13. Excel統計：クロス集計の作成
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。

なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

### 【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

コンピュータ入門II 2008年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編共立出版)

## コンピュータ入門 III (Word/Excel応用・Access)

上原 衛 諸上茂光 小林久恵 宇佐美貴史 奥村文徳

### 【授業の概要】

コンピュータ入門I、コンピュータ入門IIの学習内容を踏まえ、Windowsの高度操作、Wordによる文書作成の高度操作、Excelによる表計算処理の高度操作を学習する。さらに、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原則や仕組み、特徴についての基本的な知識と技法を習得する。

### 【授業の目標】

Wordによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びExcelによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

### 【授業計画】

1. 情報技術と情報倫理
  2. Windowsの応用操作(デスクトップ、ファイルの高度操作)
  3. Wordによるビジネス文書の作成1(長文レポートの作成)
  4. Wordによるビジネス文書の作成2(脚注、索引、目次の作成)
  5. Wordによるビジネス文書の作成3(グラフ、図表目次の作成)
  6. Excelによるビジネス情報処理
  7. Excelデータの加工・集計
  8. Excelデータベースの集計
  9. Excelデータの検索・抽出
  10. Accessの基本操作(データベースの設計)
  11. Accessの基本操作(テーブルの設計)
  12. Access総合演習(データベースの操作)
  13. Access総合演習(データ集計)
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

なお、この授業では「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況(割合:50%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:20%)によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

情報リテラシーの応用(伊東俊彦他著 近代科学社)



## プログラミング入門

西荒井学 三和義秀 小林久恵 奥村文徳 原 伸之 末次新市

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラム言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

### 【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

### 【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
  2. プログラミング言語の概要
  3. プログラミングの基礎、手順
  4. アルゴリズムとフローチャート
  5. 変数とデータ型
  6. 順次構造
  7. 関数の利用
  8. 選択構造 (If, Select Case文)
  9. 繰り返し構造 (For~Next文)
  10. 繰り返し構造 (Do While~Loop, Do Until~Loop文)
  11. 一次元配列
  12. 二次元配列
  13. 文字列処理
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。  
なお、「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

### 【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

080105511\_0070 掲載順:0070

MASTER ★

## ユーザ部門管理者コース (初級システムアドミニストレータ試験対策)

末次新市 金澤小夜子 森 友紀 勝野祐子 戸谷英司

### 【授業の概要】

「初級システムアドミニストレータ試験」の合格を目標とする教育科目である。利用者の立場から、担当する業務の情報化を推進するための知識と能力を習得する。コンピュータの活用法、ヒューマンインターフェース設計やシステム運用の技能、パソコンとネットワークの基礎知識、表計算ソフトやデータベースソフトの活用能力について学ぶ。

### 【授業の目標】

情報分野における国家資格である初級システムアドミニストレータの資格取得を目指す。

### 【授業計画】

1. コンピュータの仕組み
  2. ハードウェアとその特徴
  3. ソフトウェア (OSと表計算)
  4. ソフトウェア (データベースとSQL)
  5. ネットワーク
  6. 情報セキュリティと稼働率
  7. 会社のしくみと仕事
  8. 商業簿記と業務知識
  9. データの分析手法と品質管理
  10. システム開発の手順と手法
  11. システムの運用と管理
  12. 計算問題対策
  13. 午後問題試験対策
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業では、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」「ネットワークリテラシ入門」で習得した知識が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

初級シスアド合格教本 (技術評論社)

## コンピュータグラフィックス入門

石丸 緑 末次新市

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。このため、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

### 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級の資格取得を目指す。

### 【授業計画】

1. Webデザインの基礎 (Webデザインとは、インターネットの基礎)
  2. Webデザインの基礎 (Webサイトの種類、制作フロー)
  3. 技術の基礎 (デジタルとは、ソフトウェア)
  4. 技術の基礎 (入出力装置、インターネットの基礎)
  5. 表現の基礎 (観察と表現、形と色、デジタル画像制作の基礎)
  6. 表現の基礎 (画像制作の基礎、グラフィックの基礎)
  7. 表現の基礎 (画像制作の基礎、文字、レイアウト、情報の視覚化)
  8. 画像制作
  9. Webデザイン (Webサイトのしくみ、コンセプト、Web制作における情報)
  10. Webデザイン (Webサイトの設計、素材の制作)
  11. Webデザイン (Webサイトの構築、Webサイト制作の基礎)
  12. Webデザイン (テストと修正、評価とメンテナンス、Webサイトの運用)
  13. Webサイト制作
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

「CGクリエイティングコースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

### 【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

入門Webデザイン (CG-ARTS協会)

### 【参考文献・資料】

WWWからはじめる情報デザイン HYPER MEDIA DESIGN 2  
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

080105511\_0080 掲載順:0080

MASTER ★

## システム管理者コース I (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

### 【授業の概要】

「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、将来高度な技術者を目指す者としての知識と能力を習得する。情報技術全般の基本的な知識、基礎的なプログラム設計書作成能力、プログラミングのための論理的思考能力、プログラムのテスト手法などについて学ぶ。

### 【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者の資格取得を目指す。

### 【授業計画】

1. 情報の基礎理論 (データの表現・基数変換・負の整数)
2. 情報の基礎理論 (浮動小数点・精度と誤差・シフト・論理演算)
3. ハードウェア (動作原理・命令とアドレス指定・プロセッサ性能)
4. ハードウェア (高速化技術・記憶素子・補助記憶装置・インタフェース)
5. ソフトウェア (OS・ジョブ管理・タスク管理・マルチプログラミング)
6. ソフトウェア (実記憶管理・仮想記憶・プログラム言語)
7. ファイルとデータベース (ファイル編成・データベースの正規化)
8. ファイルとデータベース (DBMS・SQL)
9. 通信ネットワーク (通信サービス・誤り制御・伝送制御)
10. 通信ネットワーク (プロトコル・LAN・アクセス制御方式・インターネット)
11. システム開発 (開発手法・外部設計・内部設計・プログラム設計)
12. システム開発 (テスト技法・オブジェクト指向・信頼性設計)
13. セキュリティ、情報化と経営
14. データ構造とアルゴリズム (配列・木・リスト・状態遷移・擬似言語)
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

### 【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

基本情報技術者合格教本 (技術評論社)

## CGクリエイティングコース I (CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策)

末次新市

## 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

## 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

## 【授業計画】

1. Webデザインへのアプローチ (Webサイト制作の流れ)
  2. コンセプトメイキング (Webサイトの種類とコンセプト)
  3. コンセプトメイキング (Web2.0、情報メディアについて)
  4. 情報の構造 (情報の収集・分類、組織化、Webサイト構造)
  5. ページデザイン (レイアウト、タイポグラフィ)
  6. ページデザイン (グラフィックス、カラーコーディネート)
  7. ナビゲーション (ユーザインターフェース、ナビゲーションデザインの手法)
  8. 動きと音の効果 (動きの技法と表現、音の演出)
  9. Webサイトを実現する技術 (技術の基礎、Webサイト上の機能)
  10. Webサイトを実現する技術 (Web制作の言語、バックエンドで活用する技術)
  11. Webサイトのテストと運用 (Webサイトのテスト、Web解析)
  12. Webサイトのテストと運用 (Webサイトの運用とリニューアル)
  13. 知的財産権、過去出題問題の検証と分析
  14. まとめ
  15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

## 【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

## 【テキスト】

Webデザイン コンセプトメイキングから運用まで 改訂版 (CG-ARTS協会)

## 【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザインWebページのための情報のデザイン  
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

080105511\_0110 掲載順 :0110

MASTER ★

## CGクリエイティングコース II (CGクリエイター検定Webデザイン部門1級試験対策)

末次新市

## 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

## 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

## 【授業計画】

1. 一次試験対策 過去出題問題 (記述式) の検証と分析
  2. 一次試験対策 過去出題問題 (記述式) の検証と分析
  3. 一次試験対策 過去出題問題 (論述式) の検証と分析
  4. 二次試験対策 過去出題問題の検証と分析
  5. 二次試験対策 Web制作 (企画書の作成)
  6. 二次試験対策 Web制作 (企画書の作成)
  7. 二次試験対策 Web制作 (Webサイト仕様書の作成)
  8. 二次試験対策 Web制作 (Webサイト仕様書の作成)
  9. 二次試験対策 Web制作 (Webサイトの作成)
  10. 二次試験対策 Web制作 (Webサイトの作成)
  11. まとめ
  12. 試験
- ※11回目のまとめと12回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。

## 【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

## 【テキスト】

Webデザイン (CG-ARTS協会)

## 【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザインWebページのための情報のデザイン  
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

## システム管理者コース II (ソフトウェア開発技術者試験対策)

中野雅晴

## 【授業の概要】

「ソフトウェア開発技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。ソフトウェア開発技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

## 【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者の資格取得を目指す。

## 【授業計画】

1. コンピュータ科学上級(情報の基礎理論)
2. コンピュータシステム上級  
(ハードウェア、基本ソフトウェア、システム構成)
3. システム開発と運用  
(プログラム言語、システム開発手法とプロセスモデル)
4. ネットワーク技術
5. セキュリティと標準化
6. ソフトウェア工学
7. データベース技術 (関係データベースの基礎)
8. データベース技術 (SQLとデータベース設計)
9. アルゴリズム
10. システム構成技術 (システム設計、テスト技法)
11. 過去出題問題の検証と分析
12. 確認試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

## 【評価方法】

出席状況、課題提出によって総合評価を行う。

## 【テキスト】

授業前に掲示で指示する。

## 【参考文献・資料】

- ・ソフトウェア開発技術者パーフェクターニング過去問題集 (加藤昭他著 技術評論社)
- ・ソフトウェア開発技術者完全教本 (日高哲郎著 日本経済新聞出版社)
- ・「基本情報」かららくらく受かるソフトウェア開発技術者合格教本 (日高哲郎著 日本経済新聞出版社)

080105511\_0120 掲載順 :0120

MASTER ★

## 情報数学入門

親松和浩 福井 稔

## 【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数学の基礎を学ぶ。

## 【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

## 【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換
13. まとめ
14. 試験

## 【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

## 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

# 人工知能入門

高橋信明 吉川大弘

## 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

## 【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

## 【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望
14. 試験

## 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

## 【テキスト】

人工知能概論 第2版（荒屋真二著 共立出版）

## スポーツ科学

門間 博 境田雅章 寺田邦昭 土田 洋  
松田秀子 丸山治美 村本名史

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	村本	テニス・バスケットボール
	3限	村本	テニス・バスケットボール
火曜日	2限	村本	テニス・バスケットボール
	3限	松田	バドミントン・ニューススポーツ
	4限	松田	バドミントン・ニューススポーツ
水曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	1限	土田	卓球・バドミントン
	2限	門間	バドミントン・卓球
	2限	土田	卓球・バドミントン
	3限	門間	バドミントン・卓球
	3限	村本	卓球・バドミントン
	4限	門間	バドミントン・卓球
木曜日	1限	寺田	卓球・バドミントン
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	3限	境田	テニス・フットサル
	4限	境田	テニス・フットサル
金曜日	1限	門間	卓球・バドミントン
	2限	門間	テニス・フットサル
	2限	村本	バレーボール・バスケットボール
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

### 【評価方法】

- 出席=70点
- 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ科学

境田雅章

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

- 〔テニス〕(木曜3限・4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットとボールに慣れる ゲーム
  3. ボールをコントロールする ゲーム
  4. サービスを練習する ゲーム
  5. ルールとマナーを身につける ゲーム
  - 6～7. ゲーム・スキルテスト
- 〔フットサル〕(木曜3限・4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
  2. ボールに慣れる ゲーム (スモール・ビッグ)
  3. 基本的な個人技能の確認 ゲーム (スモール・ビッグ)
  4. チームでの基本的な練習 ゲーム (スモール・ビッグ)
  5. ルールとマナーを身につける ゲーム (スモール・ビッグ)
  - 6～7. スキルテスト ゲーム (スモール・ビッグ)

### 【評価方法】

- 出席=70点
- 実技・参加の態度・種目理解等=30点

## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(水曜1限前半・水曜2限前半・水曜3限前半・水曜4限前半・金曜1限後半)
- 1～2. ラケットとシャトルをコントロールする
  3. ルールとマナーを身につける
  - 4～6. ミニゲーム
- 〔卓球〕(水曜1限後半・水曜2限後半・水曜3限後半・水曜4限後半・金曜1限前半)
1. ラケットのグリップと打法
  2. フォアハンド・バックハンド
  3. サービスとレシーブ
  - 4～6. ゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔テニス〕(金曜2限前半)
- 1～2. ラケットとボールに慣れる
  3. ルールとマナーを身につける
  - 4～6. ミニゲーム
- 〔フットサル〕(金曜2限後半)
1. 個人技能の確認
  - 2～3. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
  - 4～6. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)
- 〔バレーボール〕(金曜3限前半・金曜4限前半)
1. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
  2. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
  3. トス・アタック・ブロック
  - 4～6. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- 〔バスケットボール〕(金曜3限後半・金曜4限後半)
1. ボールに慣れる
  - 2～3. 個人・チームでの基本的な練習
  4. ルールとマナーを身につける
  - 5～6. ゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】

出席=70点 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

- 〔卓球〕(木曜1限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットのグリップと打法
  3. フォアハンド・バックハンド  
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
  4. サービスとレシーブ
  - 5～7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)
- オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1. ガイダンス
  - 2～4. 主にアウトドア種目(フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー)等を用いての動き作り
  - 5～8. 主にインドア種目(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)等を用いての動き作り
- 〔バドミントン〕(木曜1限後半・木曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
  2. ラケットとシャトルに慣れる
  3. シャトルをコントロールする
  4. ルールとマナーを身につける
  - 5～8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)

### 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ科学

土田 洋

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(水曜1限前半・水曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ルールとマナーを身につける
3. ラケットとボールに慣れる
4. ボールコントロール
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕(水曜1限後半・水曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ルールとマナーを身につける
3. ラケットとシャトルに慣れる
4. シャトルコントロール
- 5～7. ゲーム

### 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解等=30点

## スポーツ科学

松田 秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限前半・火曜4限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～7. ミニゲーム

〔ニュースポーツ〕(火曜3限後半・火曜4限後半)

1. ガイダンス
  - 2～8. ユニホッケー  
ベタソックス  
ソフトバレーボール  
ミニテニス  
ファミリーバドミントン
- 上記のニュースポーツを実践する。

### 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ科学

丸山 治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特徴・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの3点を目標に行う。

〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビクスダンス パフォーマンス  
動きづくり練習 発表・相互評価

### 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ科学

村本 名史

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
- ・第2週目の授業は、トレーニングガイダンスと体力測定を行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(月曜2限前半・月曜3限前半・火曜2限前半)

1. ストローク・ボレー・スマッシュ・サービスの練習
2. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
3. シングルスゲーム、技能テスト
- 4～7. ダブルスゲーム

〔バスケットボール〕(月曜2限後半・月曜3限後半・火曜2限後半・金曜2限後半)

- 1～2. ドリブル・パス・シュートの練習、少人数での攻防
3. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
4. チームでの基本的な練習、学科テスト
- 5～7. ゲーム、技能テスト

〔卓球〕(水曜3限前半)

1. ストローク・サービス・レシーブの練習
2. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
3. シングルスゲーム、技能テスト
- 4～7. ダブルスゲーム

〔バドミントン〕(水曜3限後半)

1. ストローク・クリアー・サービスの練習
2. スマッシュ・ドロップ・ドライブの練習
3. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム

### 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## 健康と運動

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 村本名史

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	村本	バスケットボール
	4限	村本	バスケットボール
火曜日	2限	村本	バレーボール
	3限	松田	バドミントン
	4限	松田	バドミントン
水曜日	1限	土田	フットサル
	2限	門間	バドミントン
	2限	土田	フットサル
	3限	門間	バドミントン
木曜日	3限	村本	テニス
	4限	門間	バドミントン
	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
金曜日	3限	境田	サッカー
	3限	境田	サッカー
	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	バドミントン
	2限	村本	卓球
	3限	門間	テニス
	3限	村本	卓球
	4限	門間	テニス

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## 健康と運動

門間 博

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(月曜1限、月曜2限、金曜3限、金曜4限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる (グリップ、スタンス)
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)

9~15. ダブルスゲーム、スキルテスト

〔バドミントン〕(水曜2限・水曜3限・水曜4限・金曜1限・金曜2限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験 (シングルゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## 健康と運動

境田雅章

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔サッカー〕(木曜3限・4限)
1. ガイダンス、競技の概略
  2. パス&トラップ ゲーム (スモール・ビッグ)
  3. ヘディング ゲーム (スモール・ビッグ)
  4. ドリブル&シュート ゲーム (スモール・ビッグ)
  5. ボールを奪われない技術 ゲーム (スモール・ビッグ)
  6. 競り合いの技術 ゲーム (スモール・ビッグ)
  7. パス&サポート ゲーム (スモール・ビッグ)
  8. 実技テスト ゲーム (スモール・ビッグ)
  9. 切り替え (ボールを奪われたら奪い返す) ゲーム (スモール・ビッグ)
  10. ゴールを奪う(シュートの意識) ゲーム (スモール・ビッグ)
  11. シュートのためのコントロール ゲーム (スモール・ビッグ)
  12. 突破からのシュート ゲーム (スモール・ビッグ)
  13. チーム戦術 (システム) ゲーム (スモール・ビッグ)
  14. チーム戦術 (カウンター) ゲーム (スモール・ビッグ)
  15. ゲーム&ゲーム

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解等=30点

## 健康と運動

土田 洋

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔フットサル〕

1. ガイダンス
2. フットサル用のボールに慣れる 試しのゲーム
3. 基礎技術①の練習 (パス、トラップ)
4. 基礎技術②の練習 (ドリブル、シュート)
5. チーム編成Ⅰ フォーメーションの決定
6. パスワークから戦術の考案
7. プレリーグ戦①
8. プレリーグ戦②
9. チーム編成Ⅱ フォーメーション 戦術の確認
10. リーグ戦① 戦術の考案
11. リーグ戦② 各チームの評価
12. リーグ戦③ チーム課題の認識
13. リーグ戦④ チーム課題克服への取り組み
14. リーグ戦⑤ チーム課題克服の評価
15. リーグ戦⑥ 総合評価

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解等=30点

## 健康と運動

寺田邦昭

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・ニューススポーツについて、2～6週までのうち雨天の場合には7～14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
  - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(木曜1限)
1. ガイダンス
  2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
  3. ラケットワーク
  4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
  5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
  6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
  7. ゲームの進め方、ルール説明
  8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
  - 9～15. ダブルスゲーム
- 〔ニューススポーツ〕(木曜2限)
1. ガイダンス
  - 2～3. フライングディスク
  - 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
  - 7～10. インディアカ、ミニテニス
  - 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
  15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## 健康と運動

村本名史

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
  - ・第2週目の授業は、トレーニングガイダンスと体力測定を行う。
  - ・天候によって種目を変更する場合がある。
  - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バスケットボール〕(月曜3限、月曜4限)
- 1～3. ドリブル・パス・シュートの練習、少人数での攻防
  4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
  6. チームでの基本的な練習、学科テスト
  - 7～13. ゲーム、技能テスト
- 〔バレーボール〕(火曜2限)
- 1～3. パス・スパイク・ブロック・サービスの練習
  4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
  5. トス・コンビネーションの練習、学科テスト
  - 6～13. ゲーム、技能テスト
- 〔テニス〕(水曜3限)
- 1～3. ストローク・ボレー・スマッシュ・サービスの練習
  4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
  5. シングルスゲーム、学科テスト
  - 6～13. ダブルスゲーム、技能テスト
- 〔卓球〕(金曜2限、金曜3限)
- 1～3. ストローク・サービス・レシーブの練習
  4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
  5. シングルスゲーム、学科テスト
  - 6～13. ダブルスゲーム、技能テスト

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## 健康と運動

松田秀子

## 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

## 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

## 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
  - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(火曜3限・火曜4限)
1. ガイダンス
  2. 記録への挑戦(打ち続けよう)
  3. 歴史的ゲームの追体験
  4. 用具の特徴(貴重な水鳥の羽根)
  5. フォーム作り(格好良いフォームで打とう)
  6. 攻撃的なショット(初速はどれくらい?)
  7. 守備的なショット
  8. 基本の戦術
  9. ダブルスのフォーメーション
  10. 世界のバドミントンプレーヤーを観よう(VTR)
  11. ゲームの特徴(心拍数、運動強度はどれくらい?)
  12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
  13. ハーフコート・ミニゲーム
  14. ダブルスゲーム
  15. スキルテスト

## 【評価方法】

出席=70点  
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

## スポーツ特殊講座(ボウリング)

松田秀子

## 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業計画】

- 〔ボウリング〕
1. 実習日時 平成20年9月3日(水)・4日(木)・5日(金)  
8日(月)・9日(火)・10日(水)  
計6日間 9:30～12:40
  2. 説明会 日時 平成20年7月2日(水)12:30～13:15  
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室  
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。  
参加できない場合は事前に長久手キャンパス  
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。  
説明会の欠席者は受講を認めません。
  3. 場所 星ヶ丘ボウル
  4. 実習費 6,000円  
(平成19年度のものでありますので変更する場合があります)
  5. 定員 60名
  6. 内容
    - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
    - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
    - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
    - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
    - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり  
ストライクアングルの実践練習
    - 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

## 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## 【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会、2004。

## スポーツ特殊講座（スケート）

鶴原香代子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

### 【授業計画】

1. 実習日時 平成20年9月3日（水）・4日（木）・5日（金）  
8日（月）・9日（火）・10日（水）計6日間  
時間：9：30～12：40
2. 説明会 日時：平成20年7月8日（火）16：45～17：35  
場所：長久手キャンパス体育館3階 体育講義室  
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。  
・説明会の欠席者は受講を認めません。  
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター（大須）
4. 実習費 7,200円 ※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走  
2日目 自然滑走、正しい押し出し  
3日目 フォアスケーティング・カーブ滑走  
4日目 ストップ、バックスケーティングの基本  
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン  
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

### 【評価方法】

出席状況（70%）と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度（30%）により総合評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケーティングの基礎」アイオーエム,1995.



## 教職入門

後口伊志樹

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

### 【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
  - (1) 第一の教育改革
  - (2) 第二の教育改革
  - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
  - (1) いつの時代にも求められる資質能力
  - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
  - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
  - (2) 採用段階
  - (3) 現職研修段階
    - ・ 法的根拠
    - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 教育問題をテーマにディベート又はグループ討論

### 【評価方法】

期末試験、コメント・カード、出席率を総合して評価する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

### 【授業計画】

- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 第1時限   | 教師になるためには（教職課程ガイダンス）        |
| 第2時限   | 教師に求められる資質・能力<br>・戦前、戦後の教師像 |
| 第3時限   | いま教師には何が求められているか            |
| 第4時限   | 教員養成の歴史                     |
| 第5時限   | 学校をとりまくくみ（教育行政のあり方）         |
| 第6時限   | 教育基本法を読む                    |
| 第7時限   | 学習指導要領とは（その歴史と現行教育課程の問題点）   |
| 第8・9時限 | 「学校」をとりまく諸問題<br>・教師の生活      |
| 第10時限  | 学習指導とは<br>・生徒のためのよりよい勉強法    |
| 第11時限  | 先生になるために最低限、読んでほしい本         |
| 第12時限  | 論作文（レポート）の書き方について           |
| 第13時限  | 教育に関する現代的諸問題                |
| 最終回    | 試験                          |

### 【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

小栗『講義ノート』

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教職入門

大久保義男

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

教員の職務と役割について学び、教育への関心や教職に対する情熱や使命感を高めるとともに、教員としての適性を省察する契機とする。

### 【授業計画】

- 1 教員の仕事
  - (1) 学習指導
  - (2) 生徒指導・教育相談
  - (3) 進路指導
  - (4) 学級経営
  - (5) 教科外指導
- 2 教師に求められる資質・能力
- 3 教員の養成と採用
- 4 教員の地位と身分
  - (1) 身分上の義務・制限
  - (2) 教員の待遇と勤務条件
  - (3) 教員の研修
- 5 学校の管理・運営
  - (1) 学校制度
  - (2) 学校運営
  - (3) 校務分掌

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教師論

大久保義男

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

### 【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学校・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見る我が国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
  - (1) 青少年の心理と生徒理解
  - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
  - (3) 人権教育・同和問題
  - (4) 障害児教育
  - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
  - (6) 生涯学習・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
  - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
  - (2) 教員評価と学校組織の活性化
  - (3) 危機管理・説明責任

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

・教育を受けるという立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。

・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
  - 動物学からみた人間の特殊性
  - 人間の成長と環境
  - 教育の重要性
  - 人間形成の場
3. 教育の本質
  - 注入主義（ソフィスト～本質主義）
  - 開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
  - 教育目的とは
  - 教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

### 【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 40% 定期試験 50%

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生はまずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

### 【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 教育原理

五島敦子

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

学校教育はこれまでどのようにつくられ、これからどのように変化していくのか。本講義は、教育原理の基礎知識を学ぶとともに、現代的な教育課題にひとりひとりが迫るための問いかけを盛り込み、「学ぶ側」でなく「教える側」として学校教育をとらえる視点を養うことをねらいとする。

### 【授業計画】

1. 教育への問い
2. 教育をめぐる二つの考え方
3. 主要な教育思想
4. 戦後新教育とその修正
5. 高度経済成長と受験戦争
6. 落ちこぼれと校内暴力
7. 新しい学力観
8. いじめ・不登校の問題
9. 「普通の子」の事件・学級崩壊
10. すずむ教育改革とその課題
  11. 生きる力と確かな学力
  12. 教育の本質を考える

### 【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

教育改革のゆくえ—格差社会か共生社会か（藤田英典 岩波書店）

### 【参考文献・資料】

窓ぎわのトットちゃん（黒柳徹子 講談社）  
義務教育を問いなおす（藤田英典 ちくま新書）

## 教育心理学 I

富安玲子

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えと共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

### 【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

### 【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学 I

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

### 【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

### 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害の意味と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学 II

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めていきたい。

### 【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身の理解を促進すること。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学 I

中野靖彦

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

### 【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

### 【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる
9. 学級集団の理解と指導
10. 教育の評価
11. 教師と生徒

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

鈴木郁子

### 【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

### 【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

### 【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
  - 特別支援学校に在籍する障害児について
  - 一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業中の学習態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度の変遷
5. 教育法規と学校教育
6. 教育行政制度
7. 諸外国の教育制度

### 【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育制度

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

教育行政学（河野和清 ミネルヴァ書房）

### 【参考文献・資料】

解説教育六法（解説教育六法編集委員会編 三省堂）

## 教育制度

五島敦子

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業の目標】

学校教育制度の課題について、諸外国の教育改革を比較考察しながら理解するとともに、教育基本法を中心に教育法規と教育行政の基礎知識を学ぶ。グループ・ワークを通じて教育制度に関する関心を深め、意見をまとめて発表する力を養うことをねらいとする。

### 【授業計画】

1. 教育制度の概観
2. 学校教育制度の類型
3. 教育段階とその課題
4. 諸外国の教育制度
5. 欧米諸国の教育改革
6. アジア諸国の教育改革
7. 教育法規の基礎知識
8. 日本国憲法・教育基本法・学校教育法
9. 教育行政の基礎知識
10. 教員の服務と義務
11. グループ研究発表

### 【評価方法】

定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価

### 【テキスト】

指定しない。講義中に資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで（二宮 皓 学事出版）  
確かな学力と豊かな学力—各国教育改革の実態と学力モデル（原田信之、ミネルヴァ書房）

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

### 【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

### 【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていく。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育課程

後口伊志樹

## 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

## 【授業の目標】

教育課程の変遷を学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の育成を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても検討する。

## 【授業計画】

- 1 教育課程とは
  - (1) 教育課程研究の重要性
  - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
  - (1) 戦前の教育課程
  - (2) 戦後の教育課程
    - ア 学習指導要領第一次改訂
    - イ 学習指導要領第二次改訂
    - ウ 学習指導要領第三次改訂
    - エ 学習指導要領第四次改訂
    - オ 学習指導要領第五次改訂
    - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
  - (1) 伝達講習(ブロック、県、各学校)
  - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編(小・中・高)
- 5 現行教育課程の事例検討(小・中・高)
- 6 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 7 教育課程にかかる今日的諸問題をテーマにグループ討論

## 【評価方法】

期末試験、コメント・カード、出席率を総合して評価する。

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教育課程

小栗正彦

## 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

## 【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

## 【授業計画】

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 第1時限                          | 講義に関する諸注意   |
| 第2時限                          | 「教育課程」とは何か  |
| 第3時限                          | 世界の教育課程改革の歴史(20世紀以前)  |
| 第4・5時限                        | 世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降)  |
| 第6時限                          | わが国における教育課程改革の歴史(戦前)  |
| 第7時限                          | わが国における教育課程改革の歴史(戦後)  |
| 第8・9時限                        | 現行の学習指導要領の成立と問題点  |
| 第10・11時限                      | 教育課程(カリキュラム)を編成するにあたって <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム編成の基本問題</li> <li>・カリキュラム編成の実際</li> </ul> |
| 第12時限                         | 新しいカリキュラムの試み <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における「英語」の授業について</li> </ul>                            |
| 第13時限                         | 諸外国における学校制度と教育課程  |
| ※この間、小テストならびに教育をテーマにしたビデオを見る。 |   |
| ※最終回・・・試験                     |   |

## 【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

小栗「講義ノート」

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 国語科教育法 I

佐々木亜紀子

## 【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかに関心をかき立てるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

## 【授業の目標】

学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

## 【授業計画】

- 1 講 導入
  - 国語科教育の概観
  - 新・学習指導要領における国語科教育の目標
- 2 講 学習指導案の作成方法
- 3～5 講 中学校「論説文」の学習指導
  - (教材研究・指導案・授業・評価などの方法)
- 6～8 講 高等学校「短歌」の学習指導(同上)
- 9～11 講 中学校古典導入教材の学習指導(同上)
- 12～14 講 高等学校古文導入教材の学習指導(同上)
- 15 講 単位認定試験

## 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

## 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編  
中学校学習指導要領解説 国語編

## 国語科教育法 II

佐々木亜紀子

## 【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

## 【授業の目標】

中学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

## 【授業計画】

- 1 講 導入 新・学習指導要領における中学校の国語科教育
- 2・3 講 「説明文」「俳句」教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
- 4～7 講 「評論」「ルポルタージュ」「随想」教材の学習指導  
(模擬授業と授業方法の研究)
- 8～10 講 「小説」教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
- 11～13 講 「漢詩」教材の学習指導(同上)
- 14 講 「言語活動例」を用いた学習指導(同上)
- 15 講 単位認定試験

## 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

## 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

## 国語科教育法 III

佐々木亜紀子

### 【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

### 【授業の目標】

高等学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

### 【授業計画】

- 1 講 導入  
新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
- 2～3 講 『国語総合』『小説』の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
- 4～7 講 『国語総合』古文教材の学習指導  
(模擬授業と授業方法の研究)
- 8～11 講 『古典』漢文教材の学習指導  
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
- 12～14 講 『国語表現』の学習指導  
(同上)
- 15 講 単位認定試験

### 【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究 (大田勝司他編 双文社出版)

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

## 英語科教育法 I

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 技能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史 (日本)
9. 教授法の歴史 (外国)
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 指導過程の構成と授業評価
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

英語は楽しく使うもの (松本青也 朝日出版社)

### 【参考文献・資料】

自作教材資料

## 英語科教育法 II

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義と効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

### 【授業の目標】

中学校入門期の英語教育の指導者を養成することを目標としている。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校入門期の英語教育・アジア諸国の英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

### 【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度  
課題レポート

### 【テキスト】

中学校学習指導要領 外国語 (英語) (文部科学省)  
小学校英語活動実践の手引き (文部科学省 開隆堂出版)  
小学校英語と中学校英語を結ぶ (松川禮子編 高陵社書店)  
Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)  
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)  
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

### 【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

## 英語科教育法 III

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)  
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)  
Sunshine 1・2・3 (松本青也他 開隆堂出版)  
中学校学習指導要領 外国語 (英語) (文部科学省)  
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

## 英語科教育法 IV

山森孝彦

## 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

## 【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれくらいの文法事項、語彙、英語力を身につけているかをある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）
- 第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義
- 第6～13回 模擬授業実習
  - ・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）
  - ・発表者と記録・計時係以外の学生は生徒役となる。
  - ・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
- 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

## 【評価方法】

成績は、模擬授業（教案、模擬授業、集計と反省）、授業参加度（出席率、課題や授業中の取り組みなど）、期末レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

英語Iの教科書（出版社未定）

## 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

## 情報科教育法 II

石黒昭吉

## 【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Iにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

## 【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。教育実習生および新任教師として、教科「情報」の授業をするための基礎的能力を身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 オリエンテーション、専門教科「情報」とは何か
- 2 専門教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
- 3 普通教科「情報」の授業の展開
  - (1)「情報A」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
  - (2)「情報B」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
  - (3)「情報C」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
- 4 専門教科「情報」の科目「課題研究」の教材収集・開発

## 【評価方法】

出席状況、提出された学習計画、指導案等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）  
（前期と同じテキストです。）

## 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 情報科教育法 I

石黒昭吉

## 【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

## 【授業の目標】

高等学校での普通教科「情報」の目標・学習内容・指導方法の概要を理解し、情報科教員として必要となるミニマムエッセンシャルズとしての知識・技能を身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 オリエンテーション、情報科教育の史的展開と意義について概観する
- 2 高度情報化社会における情報倫理、セキュリティ等について
- 3 コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能について
- 4 普通教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
  - (1)「情報 A」の目標・学習内容・指導方法について
  - (2)「情報 B」の目標・学習内容・指導方法について
  - (3)「情報 C」の目標・学習内容・指導方法について

## 【評価方法】

出席状況、提出された報告書等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）

## 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 道徳指導法

伊藤昭道

## 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

## 【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

## 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
  - ・道徳と倫理
  - ・道徳教育思想の展開
- 2 生徒を生かす道徳教育
- 3 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 4 学校における道徳教育の実践
  - ・道徳教育の目標
  - ・道徳教育の内容
  - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
  - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
- 5 道徳教育の歴史
  - ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
  - ・戦後の道徳教育の展開
- 6 まとめとテスト

## 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

## 【テキスト】

講義資料を配布。

## 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省 平成10年）  
史料 道徳教育を考える（浪本勝年他編 北樹出版 他）

## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。  
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。  
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する

### 【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。普段の授業の参加状況を参考にします。

### 【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

### 【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）  
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）  
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）  
<学級>の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）  
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社） 他

## 生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。  
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。  
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

### 【授業計画】

- |          |  |
|----------|--|
| 第1時限     | 講義の進め方と評価などについての注意                             |
| 第2時限     | 「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか                        |
| 第3時限     | 生徒指導の意義と課題                                     |
| 第4時限     | 生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展                            |
| 第5時限     | 発達心理（青年期の心理）                                   |
| 第6時限     | 生徒理解の方法と技術                                     |
| 第7時限     | いまの中学・高校生が育ってきた時代背景                            |
| 第8時限     | いま学校でおこっていることども                                |
| 第9時限     | 生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）<br>・学校事故（授業・クラブ活動での事故） |
| 第10時限    | 進路指導について                                       |
| 第11時限    | ゲーム機や携帯電話と子どもたち                                |
| 第12時限    | 懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり）                   |
| 第13・14時限 | 学校に関する事柄を特集したビデオを見る。                           |
| 最終回      | 試験   |

### 【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

小栗『講義ノート』

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教育方法

前田勝洋

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
  - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
  - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
  - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
  - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
  - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
  - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
  - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
  - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
  - (2) 中学校における個を生かす学習集団
  - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 生徒指導（進路指導を含む）

内藤春彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。  
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。  
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

学校が抱えている今日的課題の認識とその対応策の学習・実践を行い、それをもって21世紀社会を担う青少年の健全育成に携わることが出来る人間観のある教員の養成を図りたい。

### 【授業計画】

- 1 学校が抱えている今日的課題とその対応策
  - (1) 学校教育の現状と望ましい学校づくり
  - (2) さまざまな不応対に対する生徒指導の在り方
- 2 生徒指導の在り方
  - (1) 生徒指導の考え方と指導体制
  - (2) 生徒指導の法律問題
  - (3) 生徒の問題行動
  - (4) 非行少年の補導と処遇
  - (5) 青少年の健全育成と生徒指導関係機関
  - (6) 進路指導－1・進路指導－2
- 3 人間観の追求
  - (1) サムエル・ウルマンの「青春とは」
  - (2) 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
- 4 カウンセリングマインドへの理解
- 5 発達障害への理解
- 6 生きる力を養うソーシャルスキルトレーニングの実践

### 【評価方法】

メッセージ交換カード期末考査及び出席状況等の総合的評価。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に、紹介または配布する。



## 生徒指導（進路指導を含む）

八谷芳樹

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。  
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。  
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業の目標】

生徒指導や進路指導に関する基本的な理論を学び、現代の学校の生徒指導上の諸問題への具体的、実践的対応を検討する。グループによる討論を試みる。

### 【授業計画】

第1時限	ガイダンス・アイスブレイキング・問題発生時の対応
第2時限	生徒指導とは（講義）
第3時限	生徒指導とは（グループ発表）
第4時限	校則と法令
第5時限	問題行動（反社会的行動）
第6時限	問題行動（非社会的行動）
第7時限	いじめ問題
第8時限	懲戒・体罰
第9時限	部活動を通じた生徒指導
第10時限	遺愛集（島 秋人）の世界
第11時限	子どもの発達のみちすじ
第12時限	学級経営を通じた生徒指導
第13時限	進路指導（進路指導とキャリア教育）
第14時限	進路指導（社会で求められる力）
最終回	試験

### 【評価方法】

授業への参加の度合い、課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の初回に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

### 【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

中野靖彦

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

### 【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、人との関わり、コミュニケーションの仕方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

参考書として、中野著「鏡は先に笑わない」風媒社 を考えている。

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

### 【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

### 【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳  
富安玲子 渡辺かよ子

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の8テーマに別れて演習を行う。

- (1) ボランティア活動の在り方ー福祉との関連について (伊藤昭道)
- (2) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題 (後口伊志樹)
- (3) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (4) 人間と自然環境 (佐藤成哉)
- (5) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

### 【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する (プレゼンテーション能力) スキルを学ぶ。

### 【授業計画】

※印は後期日程 (於 星が丘)

1. 全体、各テーマ別 8月8日 ※1月28日
  - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
  - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
  - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月17日  
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 8月29日 ※2月20日
  - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
4. 各テーマ別 9月5日 ※2月27日
  - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月10日 ※3月4日
  - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
  - (2) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
  - ・前年度実習の様子
  - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
  - ・教育実習の領域
  - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
  - ・実習記録の意義と方法
4. 授業研究
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
  - ・模擬授業の実施
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
  - ・障害者・高齢者の理解
  - ・社会福祉施設等の種類と役割
  - ・特別支援教育諸学校教育の理解
  - ・障害児 (者) 介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめとテスト

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。  
介護体験事前指導 『フィリア』 (全国特殊学校校長会編著 ジアース教育新社)

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

宮部幸雄

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より実際の専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

教育実習を成功させよう 2008年版 (小松喬生・次山信男編 一ツ橋書店)

## 教育実習 I

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として  
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として  
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。  
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言を得て、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として  
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価 (生徒指導、学習指導、実習態度) に基づいて評価する。

### 【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習 II

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
  - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
  - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
  - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
  - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
  - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

## 国際理解教育論

植村広美

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
  - (1) 近代化への萌芽
  - (2) 海外視察と帰国後の動向
  - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
  - (1) 学校教育における国際理解教育
  - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

### 【評価方法】

レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 生涯学習概論

角 紘昭

### 【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

### 【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 はじめに
  - 導入としての概観（単元の構成内容）
  - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
  - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
  - 戦後の社会教育
  - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
  - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
  - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
  - ① 人権教育
  - ② 学社融合
  - ③ スポーツ振興
  - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
  - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

### 【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

### 【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということ。
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 学習指導と学校図書館

枝元益祐

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

### 【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論）
2. 司書教諭の専門性と学習支援
3. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
4. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
5. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
6. 学校図書館における情報サービスと学習指導
7. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

## 学校図書館メディアの構成

枝元益祐

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業の目標】

1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し収集選択する上での諸問題を考察する。
3. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

### 【授業計画】

1. 学校教育における学校図書館メディアの効果（総論）
2. 学校教育に寄与するメディア群の特性の把握
  - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
3. 教育の情報化に寄与する学校図書館活動
  - (1) 学校教育における情報メディアと学校図書館メディアとの関連
  - (2) 教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア
  - (3) 教科教育および調べ学習・総合学習に有益な学校図書館メディア構成
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化
  - (3) 子ども（児童・生徒）への資料提供

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）  
学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

### 【授業計画】

1. 読書のよこごび
  - (1) 読書との出会いとよこごび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期における読書との出会い
  - (3) 読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
  - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報収集のための「読書」と思索のための読書
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

## 情報メディアの活用

枝元益祐

### 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

### 【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

### 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
  - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応
4. メディアの捉え方の諸相

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

## 博物館概論

柴垣勇夫

### 【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

### 【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の出発I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の出発II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめると。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
  - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
  - ・最近の博物館組織

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著、柴垣勇夫補訂）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
 専門職員としての「学芸員」とは何か  
 博物館と美術館の発達とその時代背景  
 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
 博物館の分類と現代性  
 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
 博物館の相互協力と情報の活用  
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
 無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。  
 長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

### 【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

## 博物館学各論 I

柴垣勇夫

### 【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

### 【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著、柴垣勇夫補訂）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論 I

早川正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
 博物館や美術館の展示と陳列構造  
 博物館がとり扱う資料の収集と保存  
 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
 文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
 生涯学習の必要性と博物館の関連事業  
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
 無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。  
 博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

### 【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

## 博物館学各論 II

柴垣勇夫

## 【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

## 【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

## 【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
  - a 資料の収集
  - b 資料の取扱い
    - ・ 保存箱の種類と取扱い
    - ・ 掛軸の扱いと掛け方
    - ・ 古文書 ・和装本の取扱い
    - ・ やきもの ・茶碗の取扱い
    - ・ 瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
    - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
  - c 資料の整理・保存
  - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

## 【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

## 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著 柴垣勇夫補訂）

## 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論 II

武藤 真

## 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」=博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

## 【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

## 【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術  
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術  
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術  
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

## 【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

## 【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館学各論 II

赤羽一郎

## 【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

## 【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

## 【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

## 【テキスト】

【新訂博物館学概説】（長谷川銕治・著 戸谷印刷）  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

柴垣勇夫

## 【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

## 【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

## 【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
  - 1) 展示とは
  - 2) 展示のポイント  
・ 動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
  - 3) 展示の施設、設備
  - 4) 展示のプロセス
  - 5) 展示方法の実践例
  - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展览会や施設の見学に出かける（全員）。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

## 【評価方法】

- ・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

## 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著 柴垣勇夫補訂）

## 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館実習

赤羽一郎

### 【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

### 【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

### 【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

### 【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銇治・著 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 生涯学習概論

角 紘昭

### 【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

### 【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 はじめに
  - 導入としての概観（単元の構成内容）
  - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
  - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
  - 戦後の社会教育
  - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
  - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
  - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
  - ①人権教育
  - ②学社融合
  - ③スポーツ振興
  - ④高齢者福祉
- 11 今後の課題
  - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

### 【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 博物館実習

瀬川貴文

### 【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

### 【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
  - (a) 展示とは
  - (b) 展示のプロセス
  - (c) 展示の構成要素
  - (d) 展示と資料保全
  - (e) 着想から実施まで
  - (f) 解説の方法と印刷物
  - (g) 展示とその周辺
  - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
  - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
  - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
  - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
  - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

## 視聴覚教育メディア論

藤井 信

### 【授業の概要】

情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から、情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

### 【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割と、情報の送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

### 【授業計画】

- 1 視聴覚教育の目標
  - 1-1 視聴覚教育の意義
  - 1-2 視聴覚教育の機能
  - 1-3 視聴覚教育の役割と特性
- 2 宗教における視聴覚の役割
  - 2-1 宗教における荘厳
  - 2-2 宗教における音声
  - 2-3 宗教における絵画・彫刻
- 3 情報の活用とリテラシー
  - 3-1 情報とメディア
  - 3-2 情報の記録と保存
  - 3-3 情報活用能力の育成
  - 3-4 プレゼンテーションの意義と機能
  - 3-5 情報モラルとセキュリティー
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
  - 4-1 展示の機能と効果
  - 4-2 学芸員の職務・役割
  - 4-3 視聴覚資料の鑑賞

### 【評価方法】

毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

### 【テキスト】

メディア・リテラシー（佐藤卓己著、岩波新書）、その他 プリントを配布

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する



## 教育学概論

植村広美

## 【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていく。その際、より理解が深まるよう具体的な事例を題材として取り上げていく。

## 【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

## 【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
  - (1) 外国
  - (2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

## 【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 美術史

高橋秀治

## 【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

## 【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようにすることを目標とする。

## 【授業計画】

- |      |                |       |            |
|------|----------------|-------|------------|
| 1～4  | 印象派からシュルレアリスムへ | 5～8   | 激動の時代と美術   |
|      | ・産業革命と芸術       |       | ・第一次世界大戦   |
|      | ・写真と絵画         |       | ・反芸術       |
|      | ・時間表現          |       | ・第二次世界大戦   |
|      | ・心理学           |       | ・工業社会      |
| 9～12 | アメリカ美術の時代      | 13～15 | ニューメディアと美術 |
|      | ・巨大絵画          |       | ・ニューメディア   |
|      | ・アメリカン・ドリーム    |       | ・身体表現      |
|      | ・文明の廃棄物        |       |            |
|      | ・エコロジー         |       |            |

## 【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

## 【テキスト】

とくになし

## 【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

## 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

## 【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

## 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

## 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

## 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

## 【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

## 考古学

赤羽一郎

## 【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを顕在化・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、つまり「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、「戸籍」が内包されている。近年は自然科学分野と共に、この「時計」と「戸籍」を解明するための作業が活発に行われている。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、文化人類学、民俗学、さらには文献史学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、つまり「学際」の途を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからでもある。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物といった考古資料を活用する際に、欠くことのできない視点であると考えたい。

## 【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

## 【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
  - 2 日本考古学の発展
  - 3 ア 原始
  - 4 イ 古代・中世
  - 5 ウ 近世以降
  - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

## 【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

## 【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

## 【参考文献・資料】

特になし。

# 文化史

秋元悦子

## 【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（DVD・OHC・地図ソフトなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

## 【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解釈することができるようになることを目標としている。

## 【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 中国と日本の自然地理を知る  
標高・気温・降水量の分析から
3. 中国人の地域概念  
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
4. 『禹貢』時代の考古学  
夏殷周三代の歴史とその遺跡
5. ユーラシア大陸の歴史と中国  
四大文明から近代まで
6. 気候変動と歴史  
王朝交代と気候変動の関係
9. まとめ

## 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。

期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

## 【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

## 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）

長安の都市計画（妹尾達彦著 講談社選書メチエ）

また、授業中に各種文献を紹介する。

## 生涯学習概論

角 紘昭

## 【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

## 【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

## 【授業計画】

- 1 はじめに  
導入としての概観（単元の構成内容）  
受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり  
通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開  
戦後の社会教育  
施設とその展開
- 5 生涯学習の登場  
社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成  
行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
  - ① 人権教育
  - ② 学社融合
  - ③ スポーツ振興
  - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題  
規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

## 【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを加味する。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 図書館情報学概論 I

村主朋英

## 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

## 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

## 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
情報概念の歴史/定義の多様性と現象の多面性  
構造的な理解：認知とこころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

## 【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

## 【参考文献・資料】

図書館・情報学概論 第2版（勁草書房）  
情報学の理論と実際（勁草書房）  
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）  
※その他、授業で紹介する。

## 図書館情報学概論 I

櫻木貴子

## 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

## 【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

## 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。  
注：「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3800円税別定価）および配布資料

## 図書館情報学概論 II

村主朋英

## 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

## 【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引き続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

## 【授業計画】

1. 情報の流過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 社会における情報流通と図書館・情報サービス  
図書館の館種ごとの特質/情報システムとしての図書館  
/図書館ネットワーク/競合する情報サービス
3. 図書館員と情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

## 【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

注1)「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

## 【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

## 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）  
図書館ハンドブック 第6版（日本図書館協会）

## 図書館情報学概論 II

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

### 【授業計画】

1. 情報の流過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3800円税別定価）および配布資料

## 図書館経営論

雨森弘行

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】

図書館に対する社会の要請や期待に対して、図書館がどのように応えるべきか、また応え得るのかについて、図書館の存在意義についての基本的な考え方を身につけるとともに、図書館の組織機構・管理運営・計画策定等、経営の全般に亘って、実際例を参考にしながら理解を深める。

### 【授業計画】

1. 開講に当たって（受講の動機、目的、目標の確認）
2. 図書館経営の意義
3. 自治体行政と図書館
4. 図書館業務の理論と実際
5. 図書館の組織
6. 図書館の職員
7. 図書館の計画とマーケティング
8. 図書館の施設整備計画
9. 図書館ネットワークの形成
10. 図書館業務・サービスの評価
11. まとめ

### 【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

### 【テキスト】

改訂「図書館経営論」（最新刊）（高山正也他編著 樹村房）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 図書館経営論

小木曾眞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、実例を紹介しながら理解を深める。  
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション・図書館運営の実際・最近起っている事
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館（「あなたにとっての図書館」レポート提出）  
関係法規、予算、議会の関係等
4. 図書館業務の理論と実際  
「図書館学の五法則」「カウンター業務の重要性」等
5. 図書館の組織  
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員  
「館長論」「専門的職員」等
7. 図書館の計画とマーケティング  
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画  
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成  
「図書館相互協力」「インターネットの利用」等
10. 図書館業務・サービスの評価（身近な実例についてのレポート提出）  
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ  
※講義の中でレポート提出を指示します。2回程

### 【評価方法】

期末テスト実施－記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

### 【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房 2004）  
補完レジメ（講義の都度配布）

### 【参考文献・資料】

公立図書館の経営[補訂版]（大澤正雄著 日本図書館協会 2005）  
図書館経営論[改訂版]（宮沢厚雄著 勉誠出版 2006）  
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する

## 情報サービス基礎論 I

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業の目標】

情報サービスに関わる様々な機関やメディアの流通のあり方について、図書館との関連性を鑑みながら、理解を深める。

### 【授業計画】

1. 情報サービスの基本理念
2. 情報化社会と情報産業
3. メディア産業と通信
4. 出版産業
5. 書店
6. アーカイブ
7. 法制度
8. 図書館政策
9. 情報化社会と情報倫理・勤労観
10. 情報産業と大学

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

### 【テキスト】

プリント配布。

### 【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）  
図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）

## 情報サービス基礎論 I

廣田慈子

### 【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論I」では、社会の多様化と情報の多様化と歴代化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

### 【授業の目標】

情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、現代の社会環境、特に情報化・電子化が進む社会環境の中で、図書館に求められ、図書館が提供すべき情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

### 【授業計画】

1. 現代の情報化社会と図書館の役割
2. ICT（情報通信）環境と図書館環境
3. 図書館における情報サービスの意義
4. 図書館種別の情報サービスの概要
5. 現代の図書館情報サービスの目標と先進事例
6. 現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心にを行います。

適宜、小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくことが望ましい。

### 【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

### 【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論 II

廣田慈子

### 【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。  
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に込めるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義を理解した上で、伝統的な情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について自らの理解を深める。

### 【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」（基礎論Iの復習）
2. 情報サービスの歴史と展開
  - ・図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
  - ・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
  - ・資料組織化／蔵書構築／等
5. 図書館サービスの変化
  - ・情報通信技術（ICT）環境の変化に対応した新・情報サービス
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
  - ・法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
7. 求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心にを行います。

適宜、小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

### 【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

### 【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論 II

伊藤真理

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスは、その対象、館種、主題、規模ごとに多様な特徴を持つ。さらに今日では、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。パブリック・サービス、テクニカル・サービス、評価の観点から、館種ごとに概観し、比較・検討する。

### 【授業の目標】

現在の社会での情報のあり方を視野に入れながら、情報の選択、収集、蓄積と提供について、図書館サービスの視点から理解を深める。

### 【授業計画】

1. パブリック・サービス
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
2. テクニカル・サービス
  - A. 選書・収書
  - B. 整理
  - C. 雑誌その他の媒体
3. 評価の視点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. 図書館アメニティ
  - D. コンソーシアム
  - E. その他のサービス

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

### 【テキスト】

適宜プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）  
図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）  
そのほか、適宜授業内で紹介する。

## レファレンスサービス論

千代由利

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をとって実践する。

### 【授業計画】

1. 授業のガイダンス、レファレンスサービスの概況
2. 図書館における情報サービス
3. レファレンスサービスの歴史と展開
4. 図書館におけるレファレンスサービス
5. 情報源とレファレンスコレクション
6. レファレンス質問とレファレンスプロセス
7. 質問の受付と内容の確認
8. 探索戦略と質問の分析
9. 探索の手順と情報（源）の入手
10. 回答の提供と事後処理
11. レファレンスブックの探索

### 【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

### 【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』（長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4）

### 【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブックス（新版）』（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）  
『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』（長澤雅男著 丸善）

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文の特徴  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム  
JDream  
DIALOG  
CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習 II (学術情報の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。  
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文の特徴  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム  
JDream  
DIALOG  
CSA
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習 III (情報と文献の探索)

菅野育子

### 【授業の概要】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。  
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索
  - 2.3 シソーラスを利用した検索
  - 2.4 引用関係を利用した検索
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報検索演習 III (情報と文献の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。  
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
  - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21)
  - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア基礎論 I

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成

[この後は、情報メディア基礎II（後期）に続く]

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア基礎論 II

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- [情報メディア基礎I（前期）から続く]
- 3 情報メディアの特徴と問題点
    - (4) 会議資料  
学会、会議録
    - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
    - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
    - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
    - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
  - 4 情報メディアの種類と構造
  - 5 情報流通モデルの修正
  - 6 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

## 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

## 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

## 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

## 【評価方法】

出席回数、レポート、期末テストから総合的に評価する。

## 【テキスト】

専門資料論 [JLA図書館情報学テキストシリーズ] (日本図書館協会)

## 情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

藤野寛之

## 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

## 【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

## 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - (1) 美術・音楽
  - (2) 言語・文学
  - (3) 歴史
  - (4) ビジネス (経済、経営、企業情報等)
  - (5) 法律
  - (6) 図書館情報学
  - (7) その他
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

## 【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験などを総合して評価する。

## 【テキスト】

専門資料論 [JLA図書館情報学テキストシリーズ8] (三浦逸雄、野末俊比古 共編著 日本図書館協会)。  
その他、適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

## 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. オアサーシップからみた学術論文
8. 出版倫理と利害の衝突
9. ニュースメディアと学術雑誌
10. レフェリーシステム
11. 一流誌への発表
12. インパクトファクターの批判的吟味
13. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

## 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

## 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

## 【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

## 【テキスト】

論文投稿のインフォーマティクス (山崎茂明著 中外医学社)

## 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J.著 日本図書館協会)  
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W.著 出版同人)  
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)  
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)  
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)  
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

## 情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

櫻木貴子

## 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オアサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

## 【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

## 【授業計画】

講義を中心に行う。参考文献等はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

## 【評価方法】

平常点、レポートで評価する

## 【テキスト】

使用せず (配付資料)。

## 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J.著 日本図書館協会)  
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W.著 出版同人)  
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)  
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)  
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)  
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)



## 資料組織論

伊藤真理

## 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

## 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録情報サービスについて批判的に考察することができること。目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

## 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR 2r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験による総合評価。

## 【テキスト】

『資料組織論テキスト』（伊藤真理 ダイテック、2008）

## 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
 文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
 図書館ネットワーク－書誌ユーティリティの世界－（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織論

櫻木貴子

## 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

## 【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

## 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録（1）AACR 2r, NCR
- 第7回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
- 第8回 記述目録（3）各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録（1）概要
- 第11回 主題目録（2）分類法
- 第12回 主題目録（3）主要分類法
- 第13回 主題目録（4）主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

## 【評価方法】

平常点、レポート、試験

## 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

## 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編 日本図書館協会、2002）  
 文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著 勁草書房、1998）  
 図書館ネットワーク－書誌ユーティリティの世界－（宮澤彰 丸善、2002）

## 資料組織演習

伊藤真理

## 【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

## 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

## 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

## 【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

## 【テキスト】

授業内で指定する。

## 【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A.,2003年）  
 「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織演習

櫻木貴子

## 【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。学内LAN講習を必ず受講のこと。

## 【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

## 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイントの選定
  - 典拠コントロール
- ・主題目録法
  - 分類：日本十進分類法
  - 主題件名標目表：基本件名標目表

## 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

## 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版（北克一著 M.B.A.,2003年）

## 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

## 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

## 【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。

サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

## 【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の種類、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス、窓口業務  
フロアワーク、レファレンス
- (8) 集会行事、展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

## 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

## 【テキスト】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)

## 【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)

児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

## 情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

## 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。[図書館情報学ハンドブック]第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

## 【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

## 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

## 【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

## 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B. C. ヴィッカーリー著

[村主朋英訳] 勁草書房)。

その他、適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

図書館分類=書誌分類の歴史 第一巻 (エヴゲーニー・シャムーリン著

[藤野幸雄訳] 金沢文圃閣)。

その他の文献は授業中に指示する。

## 情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

## 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。[図書館情報学ハンドブック]第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

## 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取る。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

## 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

## 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

## 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery著 税別定価3,800円)

図書館情報学用語辞典 (丸善)

## 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版 (丸善)

## 情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

## 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。[図書館情報学ハンドブック]第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

## 【授業の目標】

(情報学IIIと同様です。情報学IIIの該当項目を参照してください)

## 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代(1) 学術情報流通システムの成立
2. 〃 (2) 知の環境化(百科事典、国立図書館、公共図書館)
3. 書誌、ドキュメンテーション、情報検索

## 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

## 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery著 勁草書房)

図書館情報学用語辞典 (丸善)

## 【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版 (丸善)

## 情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。「図書館情報学ハンドブック」第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書を紹介する。

### 【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 近代の動向
2. 図書館の世紀
  - (1) アメリカ
  - (2) イギリス
  - (3) その他
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. わが国の図書館、情報流通のあゆみ
7. 各国の図書館、情報流通の比較
8. 各国の図書館・情報政策の変遷

### 【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B.C. ヴィッカーズ著 [村主朋英訳] 勁草書房)。

その他、適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

図書館を育てた人々 イギリス篇 (藤野幸雄、藤野寛之著 日本図書館協会)。  
図書館設立のための助言 (ガブリエル・ノーデ著 [藤野寛之訳] 金沢文圃閣)。  
その他の文献については授業中に指示する。

## 個人コミュニケーション論 I (認知心理学)

岩原昭彦

### 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

### 【授業の目標】

ヒトの認知機能(情報処理形式)の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

### 【授業計画】

1. サプリミナル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 情報メディア論 I (マルチメディア)

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れている。

### 【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深める。

### 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション 授業の目的、方法、授業計画について説明
- (2回) メディアとは何か、情報機器の発展経緯と種類、機能
- (3回) 情報メディアの発展経緯、特性と選択
- (4回) 視聴覚メディアの種類と特性
- (5回) 図形・画像処理とソフトウェア
- (6回) 情報通信とメディア
- (7回) マルチメディアと情報通信技術
- (8回) ネットワーク技術とインターネット
- (9回) インターネットの活用とシミュレーション、情報検索の手法
- (10回) ハイパーテキストの仕組みと活用
- (11回) 学校図書館とIT
- (12回) パワーポイントによるプレゼンテーション
- (13回) パワーポイントによるプレゼンテーション
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

### 【評価方法】

出席回数(20%)、レポート1回(30%)、および定期試験(50%)の割合により評価を行う。

### 【テキスト】

中山伸一、情報メディアの活用と展開、青弓社

## 情報メディア論 I (マルチメディア)

楓 森博

### 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

### 【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

### 【評価方法】

(1) 出席状況(2) 定期試験(またはレポート)  
以上の結果により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

**初級簿記（3級程度） \*基礎総合**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定3級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**中級簿記（2級程度）B \*工業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**中級簿記（2級程度）A \*商業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**中級簿記（2級程度）C \*実践**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）A \*商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

## 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

## 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

## 【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

## 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

## 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）C \*原価計算

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

## 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

## 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

## 【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意意思決定I、設備投資の意思決定
- 第11回 構造的意意思決定II
- 第12回 構造的意意思決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

## 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

## 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）B \*会計学

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

## 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

## 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

## 【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

## 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

## 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）D \*工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

## 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

## 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

## 【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業層
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

## 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

## 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）E \*実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 初級簿記演習

浅野敬志

### 【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

### 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

### 【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。

### 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習A \*商業簿記

浅野敬志

### 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。

### 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習B \*工業簿記

三浦克人

### 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。

### 【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

## 英語海外セミナー I (米国)

太田浩司

## 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者はホームステイし、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約20名。面接にて選考を行う。

2007年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

午前 少数制英会話クラスと総合英語の授業  
午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

## 【授業の目標】

- \* 英語表現能力を高めること。
- \* アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- \* ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- \* 海外生活を通して、自立性を養成すること。

## 【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、最初と最後の一週間を除き本学教職員は滞在しない。)

## 【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

## 【テキスト】

現地にて用意される。

## 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

## 【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

## 【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

## 【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

## 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

## 【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

## 米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

## 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

## 【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

## 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

## 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

## 【テキスト】

米国側提出の英文資料

## 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## 英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

## 【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England.

The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

## 【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

## 【Course schedule】

The programme is scheduled to include:  
Lessons: - English for work/General English/British Culture  
Internship - At least 48 hours of work-experience  
Trips / activities (often including other International Students)  
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents), luncheon(with Internship Supervisors)

## 【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

## 中国語海外セミナー I (中国)

馮富榮

## 【授業の概要】

この講義では、言語実践を通して、言葉を知り、相手を理解し、さらに自ら発信して、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間程度の中国語研修を行う。
  - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
  - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
  - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
  - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
  - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

## 【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

## 【授業計画】

後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは国際交流センターの掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

## 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

## 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

## コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの企画を行い、後期のIBの運営へ繋げていきます。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
  - 1) 地域活動とは?
  - 2) 地域活動の意義とその役割
  - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
  - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII  
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
4. ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

## 韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

金賢珍

## 【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれな街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間:夏期休暇の8月中の3～4週間

内容:

1. 韓国語研修
  - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
  - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
  - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
  - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
  - a. 芝居鑑賞
  - b. 板門店の訪問
  - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
  - a. 毎週1回程度の頻度
  - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
  - c. テーマ、「韓国と日本の大学生生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

## 【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

## 【授業計画】

- 4～5月:ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月:数回の事前研修
- 8月:現地研修
- 9～11月:事後研修および報告書のまとめ

## 【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

## 【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中その他は特になし

## コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

コミュニティ・サービスラーニングIBでは、IAでの企画を受けて、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
  - 1) 地域活動とは?
  - 2) 地域活動の意義とその役割
  - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
  - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII  
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

参考文献:ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)



## コミュニティ・サービスマーケティング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

## 【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動 (事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

## 【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

## コミュニティ・サービスマーケティング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

## 【授業の概要】

・さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できずいます。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。

・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよくお互いを理解するために、写真や文章、声などを用いてそれぞれの思いを伝えるお手伝いをしようと思います。具体的には、外国人(主に、ブラジル、フィリピン)の中高校生たちとみなさんが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やことばを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することにより多くの人びとに視聴してもらい現場実践型プログラムです。

・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かしてほしいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、資料アーカイビングなど)

・本年度はこの実習の一年目にあたります。失敗もあるかもしれませんが、すべては参加者の皆さんにやる気次第です。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんぜひ集まってほしいと思っています。

## 【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習、研究のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

## 【授業計画】

- プレセミナー
  - プレ1日目 4月22日6限 (場所等、詳細はCCCにて掲示)
  - 授業内容詳細の提示、サービスマーケティング準備
  - プレ2日目 7月9日6限 (場所等、詳細はCCCにて掲示)
- 事前調査発表
- 8月集中講義日程 (18日～22日)
  - 1日目 アイスブレイキング グループ分け
  - メディア技術研修 (長久手キャンパス)
  - 2日目 参加学生作品制作
  - 3日目 現地ワークショップ1日目
  - 4日目 現地ワークショップ2日目
  - 5日目 地域メディア研修 振り返り
  - (6,7日目)有志にて地域住民とのワークショップ

## 【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

- ・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中宏 (著)
- ・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部 (編集)
- ・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会 (2008年出版予定)
- ・「メディア・プラクティス」せりか書房

## 【参考文献・資料】

適宜指定する

## 地域活動総合演習 IA

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

## 【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

## 【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 地域活動総合演習 IIA

小島祥美

## 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

## 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

## 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象とした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

## 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

## 【参考文献・資料】

- 新在日外国人 (田中宏著、岩波新書)
- 日本の中の外国人学校 (月刊「イオ」編集部編、明石書店)

## 地域活動総合演習 IIB

小島祥美

### 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

### 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

### 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

### 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

## インターンシップ概論

上原 衛 小林三太郎

### 【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づけられる。

### 【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

### 【授業計画】

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジスマナー講座
7. キャリアプランの作成
7. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 障がい者支援ボランティア入門

谷口明広 石黒文字

### 【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出し、これをめざすことを目的とする。

### 【授業の目標】

- (1) 障害学生支援について関心をもち、障害のある人たちのニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人たちへの支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行できる。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

### 【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
  - (1) 肢体障害者の理解
  - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護とノートテイク）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 視覚障害者の理解
  - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 聴覚障害者の理解
  - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動
  - (1) 愛知淑徳大学における支援のシステム
  - (2) ボランティア活動の実際
7. 共に生きる社会を目指して

### 【評価方法】

1. 出席を評価の中心とする。
2. 時々、小テストを実施して、理解度を確認していく
3. ボランティアの体験レポート
4. 最終レポートの提出

### 【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

## インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

### 【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

### 【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

### 【授業計画】

- 夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。
1. ガイダンス
  2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
  3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
  4. 報告レポートの作成と提出

### 【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。